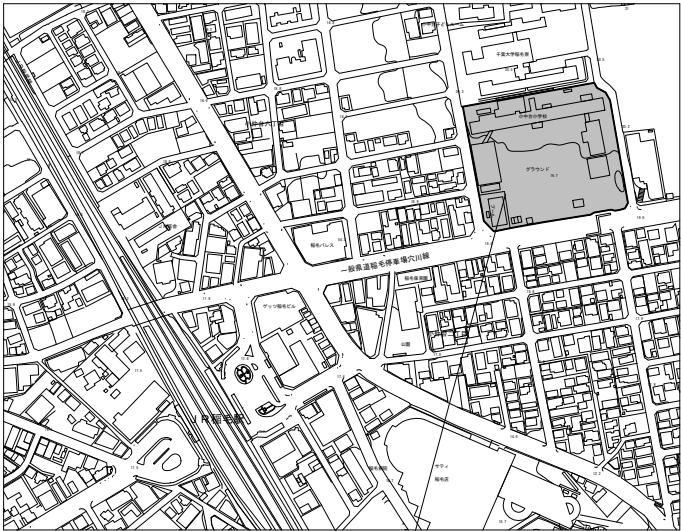


# 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

番号	名 称	番号	名 称	番号	名 称
A－００	図面リスト	A－２９	小荷物専用昇降機扉改造図	E－００	図面リスト
A－０１	配置図・案内図	A－３０	仮設計画図－１（参考図）	E－０１	案内図・配置図 構内配電線路図
A－０２	敷地求積図	A－３１	仮設計画図－２（参考図）	E－０２	系統図
A－０３	１階求積図			E－０３	電気室内ケーブル結線図 電灯分電盤結線図
A－０４	２階求積図	S－０１	構造設計標準仕様	E－０４	動力設備 弱電設備 自動火災報知設備 １階平面図
A－０５	３・Ｒ階求積図	S－０２	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	E－０５	動力設備 弱電設備 ２、３階平面図
A－０６	仕上表	S－０３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	E－０６	自動火災報知設備 ２、３階平面図
A－０７	１階平面図	S－０４	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）	E－０７	電灯設備 １階平面図
A－０８	２階平面図	S－０５	鉄骨構造標準図（１）	E－０８	電灯設備 ２、３階平面図
A－０９	３階平面図	S－０６	鉄骨構造標準図（２）	E－０９	シャワー室・湯沸室 平面図
A－１０	Ｒ階平面図	S－０７	ベースパック柱脚工法設計・施工標準図	E－１０	給水ポンプ室詳細図（更新）
A－１１	立面図・Ｙ－Ｙ’断面図	S－08-1	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準（参考図）	E－１１	給水ポンプ室詳細図（撤去）
A－１２	矩計図（Ｘ－Ｘ’断面）	S－08-2	スーパーＥデッキ合成スラブ設計・施工標準（参考図）	E－１２	給水ポンプ室詳細図（仮設）
A－１３	平面詳細図	S－08-3	アイ.テックＳデッキ合成スラブ設計・施工標準（参考図）		
A－１４	展開図・天井伏図	S－０９	伏 図	EV－０１	昇降機設備図（１）
A－１５	シャワー室改造詳細図－１	S－１０	軸組図	EV－０２	昇降機設備図（２）参考図
A－１６	シャワー室改造詳細図－２	S－１１	ＲＣ部材リスト	EV－０３	昇降機設備図（３）参考図
A－１７	雑詳細図	S－１２	鉄骨部材リスト	EV－０４	昇降機設備図（４）参考図
A－１８	既存建具キープラン－１	S－１３	雑詳細図	EV－０５	昇降機設備図（５）参考図
A－１９	既存建具キープラン－２	S－１４	架構詳細図	EV－０６	昇降機設備図（６）参考図
A－２０	既存建具キープラン－３	S－１５	地盤断面図	EV－０７	昇降機設備図（７）参考図
A－２１	既存建具キープラン－４	S－16-1	スクリューパイルEAZET設計施工標準（参考図）		
A－２２	改修建具表	S－16-2	アルファフォースパイルⅡ工法設計施工標準１（参考図）		
A－２３	既存建具表－１	S－16-3	アルファフォースパイルⅡ工法設計施工標準２（参考図）		
A－２４	既存建具表－２	S－16-4	e-pile next工法設計施工標準（参考図）		
A－２５	既存建具表－３				
A－２６	既存建具表－４				
A－２７	既存建具表－５				
A－２８	既存建具表－６				

番号	用途	構造	階数	高さ(m)	床面積(㎡)	建築面積(㎡)
①	校舎	R C造	3階	図示	6092.86	2474.87
②	屋内運動場	S造	2階	10.24	847.72	808.51
③	プール付風屋	S造	平屋	3.9	86.30	86.30
④	電気室	S造	平屋	2.8	36.30	36.30
⑤	体育倉庫	S造	平屋	3.2	48.60	48.60
⑥	ポンプ室	S造	平屋	2.7	9.00	9.00
⑦	防災備蓄倉庫	S造	平屋	2.18	7.83	7.83
⑧	倉庫	S造	平屋	2.4	3.30	3.30
⑨	倉庫	S造	平屋	2.05	3.30	3.30
⑩	防災備蓄倉庫	S造	平屋	2.0	2.89	2.89
⑪	倉庫	S造	平屋	2.2	5.64	5.64
⑫	ポンプ室	S造	平屋	2.7	10.50	10.50
⑬	倉庫	S造	平屋	2.0	2.51	2.51
⑭	倉庫	S造	平屋	2.1	4.37	4.37
⑮	倉庫	S造	平屋	2.0	2.43	2.43
⑯	倉庫	S造	平屋	2.1	1.42	1.42
⑰	倉庫	S造	平屋	2.1	3.52	3.52
⑱	倉庫	S造	平屋	2.1	3.52	3.52
⑲	シャワー室	S造	平屋	3.21	4.96	4.96
⑳	渡り廊下	S造	平屋	4.55	—	26.70
既存 計					7176.97	3546.47
増築 計					49.95	16.65
合 計					7226.92	3563.12

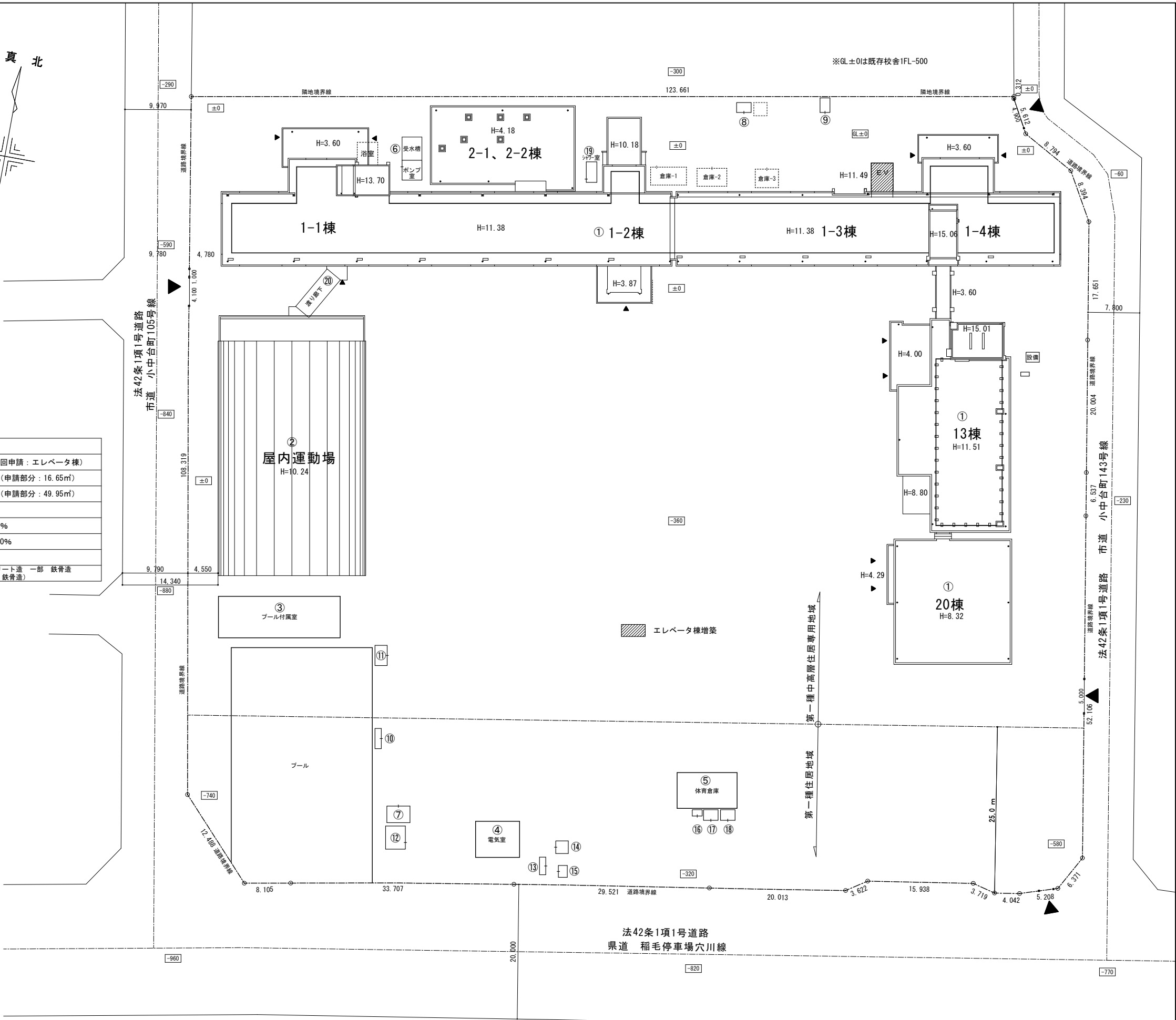
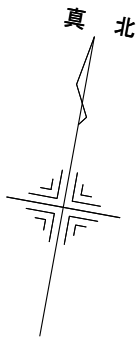
■敷地概要		■計画建物概要	
敷地の場所	千葉市稲毛区小中台町830-9	建物用途	小学校（今回申請：エレベータ棟）
用途地域及び区域の指定	市街化区域	建築面積	3563.12㎡（申請部分：16.65㎡）
	第一種中高層住居専用地域 容積率200％／建蔽率60％	延べ面積	7226.92㎡（申請部分：49.95㎡）
	第一種住居地域 容積率200％／建蔽率60％	容積対象延べ面積	7187.64㎡
	第一種高度地区(20m)	建蔽率	22.5％＜60％
	防火指定なし、法22条区域、地区計画なし	容積率	45.3％＜200％
敷地面積	全体：15901.58㎡	最高高さ	11.49m
用途別敷地面積	第一種中高層住居専用地域：12648.49㎡	構造	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造（申請部分：鉄骨造）
	第一種住居地域：3253.09㎡		
■工事概要			
・エレベータ棟増築工事 ・法適合工事 ・昇降機設備工事 ・その他工事			



所在地：千葉市稲毛区小中台町830-9

位置図 1/3500

配置図



千葉市都市局建築部営繕課

工事名称

千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日

令和 7 年 1 0 月 日

特記事項

変更年月日

特記事項

変更年月日

特記事項

図面番号

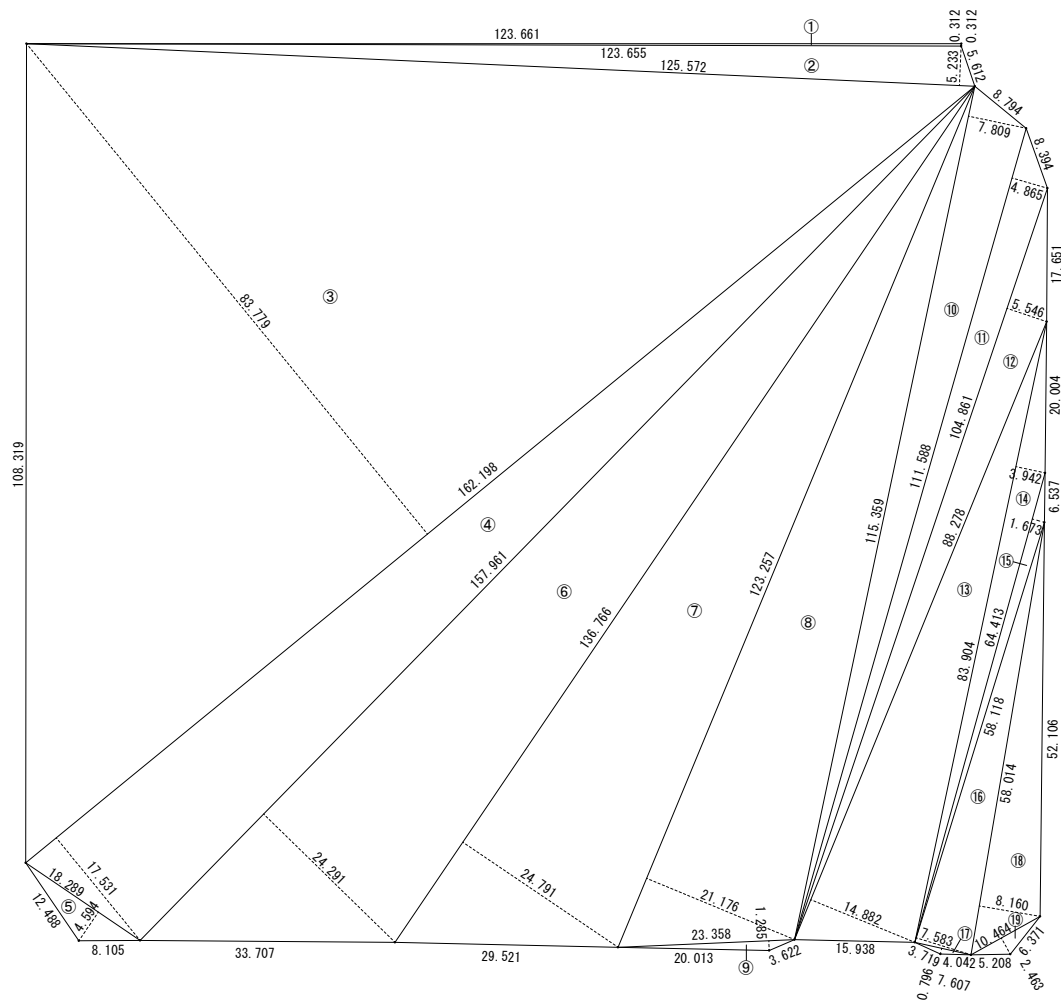
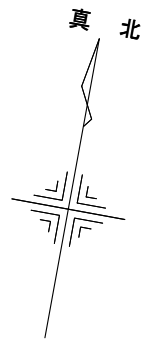
配置図・案内図

縮尺

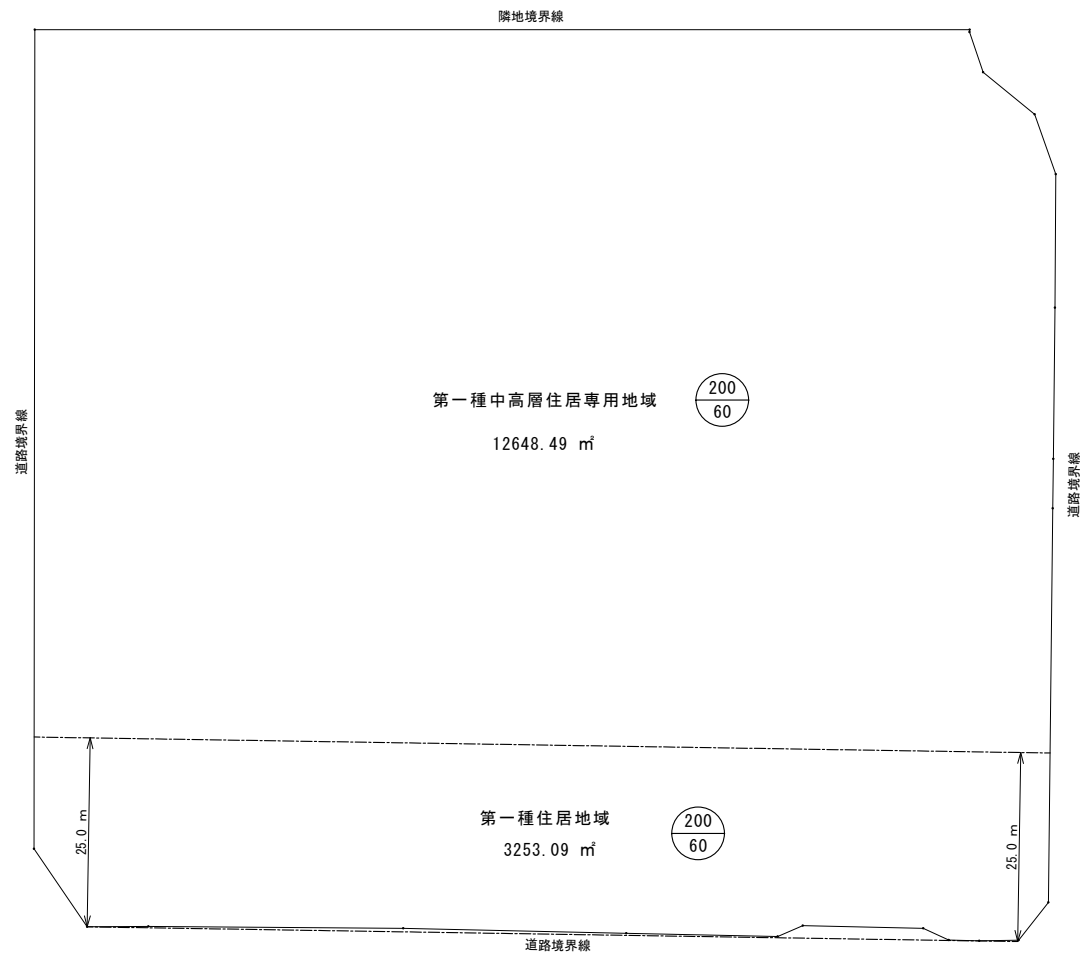
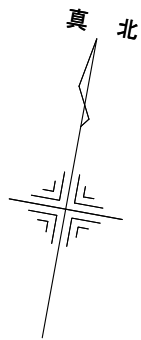
A 1 1:300  
A 3 1:600

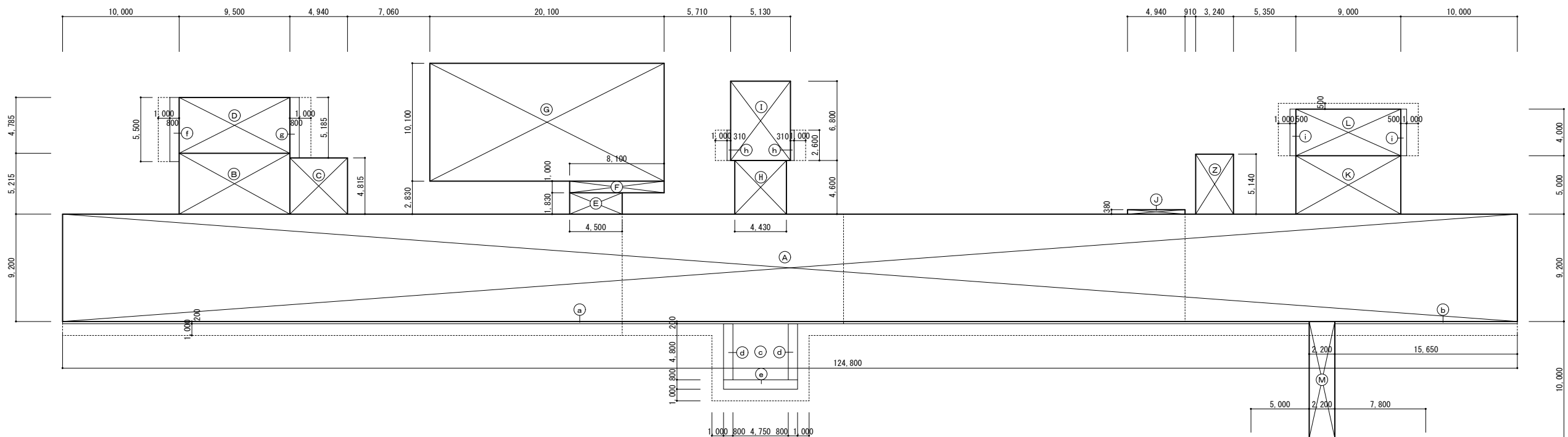
図面番号

A - 0 1



番号	底 辺	高 さ	倍 面 積
①	123.661	0.312	38.582232
②	125.572	5.233	657.118276
③	162.198	83.779	13588.786242
④	162.198	17.531	2843.493138
⑤	18.289	4.594	84.019666
⑥	157.961	24.291	3837.030651
⑦	136.766	24.791	3390.565906
⑧	123.257	21.176	2610.090232
⑨	23.358	1.285	30.015030
⑩	115.359	7.809	900.838431
⑪	111.588	4.865	542.875620
⑫	104.861	5.546	581.559106
⑬	88.278	14.882	1313.753196
⑭	83.904	3.942	330.749568
⑮	64.413	1.673	107.762949
⑯	58.118	7.583	440.708794
⑰	7.607	0.796	6.055172
⑱	58.014	8.160	473.394240
⑲	10.464	2.463	25.772832
合 計			31803.171281
合 計 面 積			15901.585640
地 籍			15901.58 m <sup>2</sup>



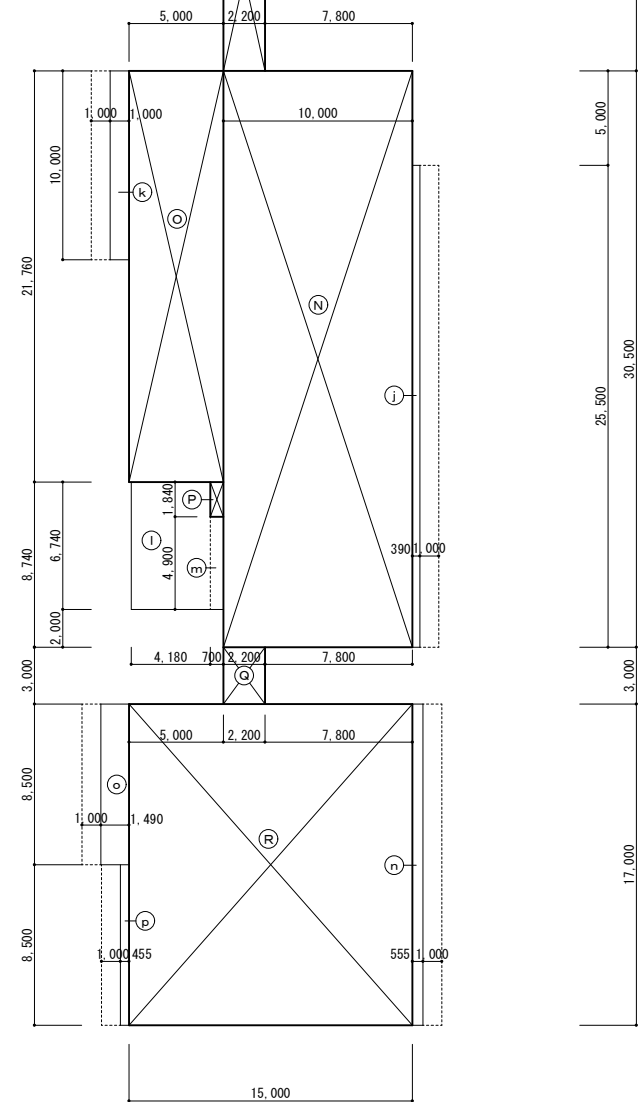


既存 1 階床面積		
Ⓐ	124.8×9.2	1148.1600
Ⓑ	9.5×5.215	49.5425
Ⓒ	4.94×4.815	23.7861
Ⓓ	9.5×4.785	45.4575
Ⓔ	4.5×1.82	8.2350
Ⓕ	8.1×1.0	8.1000
Ⓖ	20.1×10.1	203.0100
Ⓗ	4.43×4.6	20.3780
Ⓘ	5.13×6.8	34.8840
Ⓙ	4.94×0.38	1.8772
Ⓚ	9.0×5.0	45.0000
Ⓛ	9.0×4.0	36.0000
Ⓜ	2.2×10.0	22.0000
Ⓝ	10.0×30.5	305.0000
Ⓞ	5.0×21.76	108.8000
Ⓟ	0.7×1.84	1.2880
Ⓠ	2.2×3.0	6.6000
Ⓡ	15.0×17.0	255.0000
計		2,323.1183

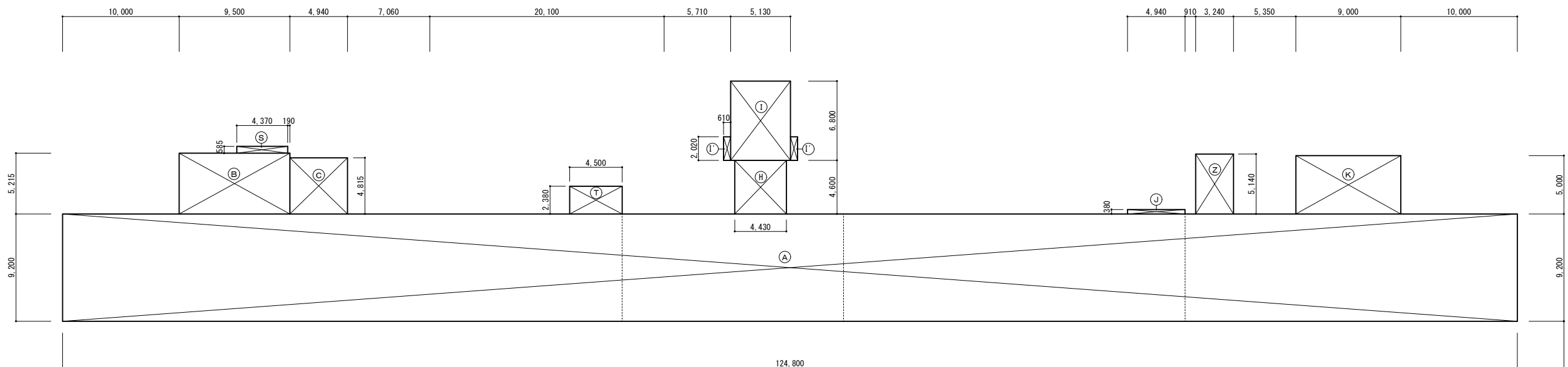
既存建築面積追加部分		
ⓐ	106.95×0.2	21.3900
ⓑ	15.65×0.2	3.1300
ⓒ	4.75×4.8	22.8000
ⓓ	0.8×4.8×2	7.6800
ⓔ	6.35×0.8	5.0800
ⓕ	0.8×5.5	4.4000
ⓖ	0.8×5.185	4.1480
ⓗ	0.31×2.6×2	1.6120
Ⓢ	0.5×4.0×2	4.0000
Ⓣ	0.39×25.5	9.9450
Ⓤ	1.0×10.0	10.0000
Ⓤ	4.18×6.74	28.1732
Ⓨ	0.7×4.9	3.4300
Ⓩ	0.555×17.0	9.4350
ⓑ	1.49×8.5	12.6650
ⓓ	0.455×8.5	3.8675
計		151.7557

増築 1 階床面積・建築面積		
Ⓣ	3.24×5.14	16.6536

面積表 (㎡)			
	既 存	増 築	合 計
R 階	99.37		99.37
3 階	1704.39	16.65	1721.04
2 階	1965.99	16.65	1982.64
1 階	2323.11	16.65	2339.76
合計床面積	6092.86	49.95	6142.81
建築面積	2474.87	16.65	2491.52

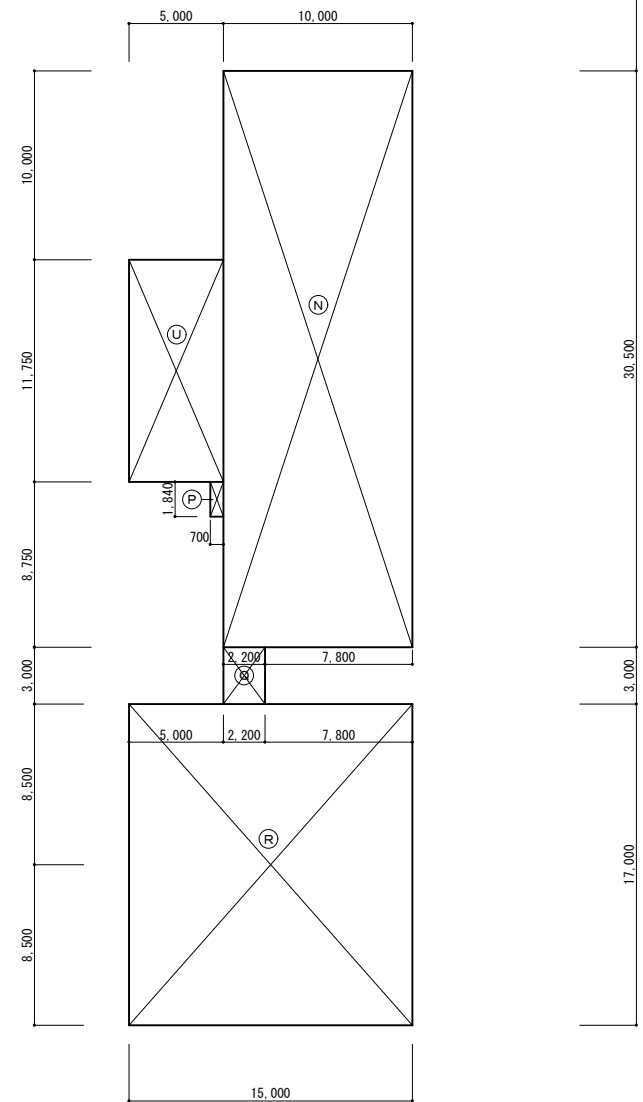


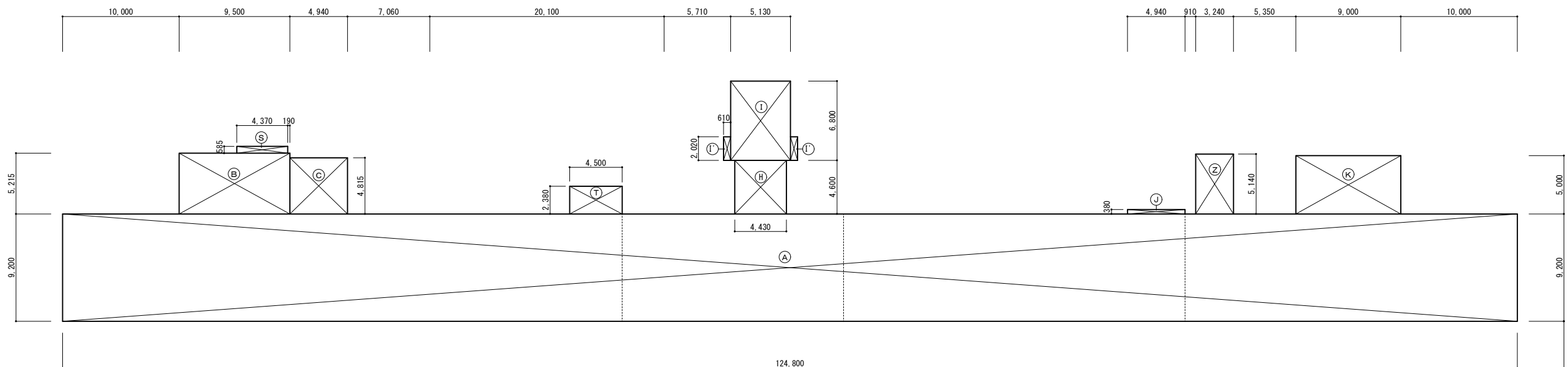




既存 2 階床面積		
Ⓐ	124.8×9.2	1148.1600
Ⓑ	9.5×5.215	49.5425
Ⓒ	4.94×4.815	23.7861
Ⓓ	4.43×4.6	20.3780
Ⓔ	5.13×6.8	34.8840
Ⓕ	0.61×2.02×2	2.4644
Ⓖ	4.94×0.38	1.8772
Ⓚ	9.0×5.0	45.0000
Ⓝ	10.0×30.5	305.0000
Ⓟ	0.7×1.84	1.2880
Ⓢ	2.2×3.0	6.6000
Ⓡ	15.0×17.0	255.0000
Ⓢ	4.37×0.585	2.5565
Ⓣ	4.5×2.38	10.7100
Ⓤ	5.0×11.75	58.7500
計		1965.9967

増築 2 階床面積		
Ⓩ	3.24×5.14	16.6536

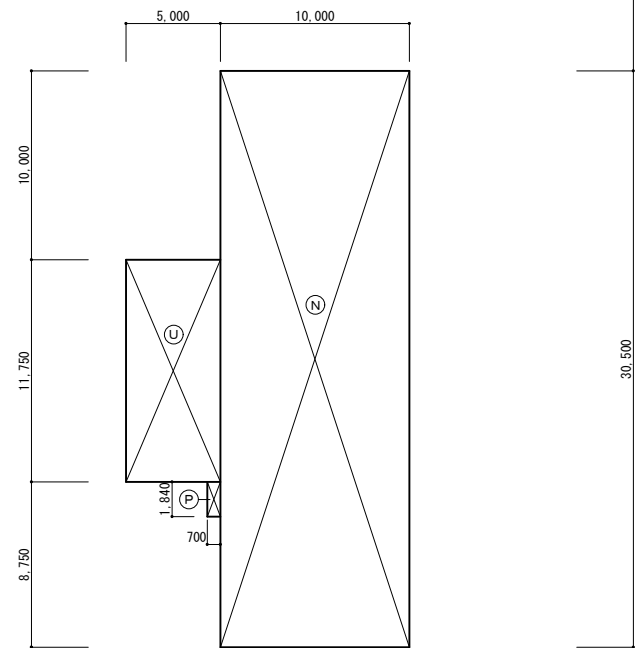




既存 3 階床面積		
Ⓐ	124.8×9.2	1148.1600
Ⓑ	9.5×5.215	49.5425
Ⓒ	4.94×4.815	23.7861
Ⓗ	4.43×4.6	20.3780
Ⓘ	5.13×6.8	34.8840
Ⓝ	0.61×2.02×2	2.4644
Ⓣ	4.94×0.38	1.8772
Ⓚ	9.0×5.0	45.0000
Ⓝ	10.0×30.5	305.0000
Ⓟ	0.7×1.84	1.2880
Ⓢ	4.37×0.585	2.5565
Ⓣ	4.5×2.38	10.7100
Ⓤ	5.0×11.75	58.7500
	計	1704.3967

既存 R 階床面積		
Ⓥ	7.01×4.435	31.0894
Ⓦ	4.18×7.15	29.8870
Ⓧ	7.57×5.0	37.8500
Ⓨ	0.55×1.0	0.5500
	計	99.3764

増築 3 階床面積		
Ⓩ	3.24×5.14	16.6536



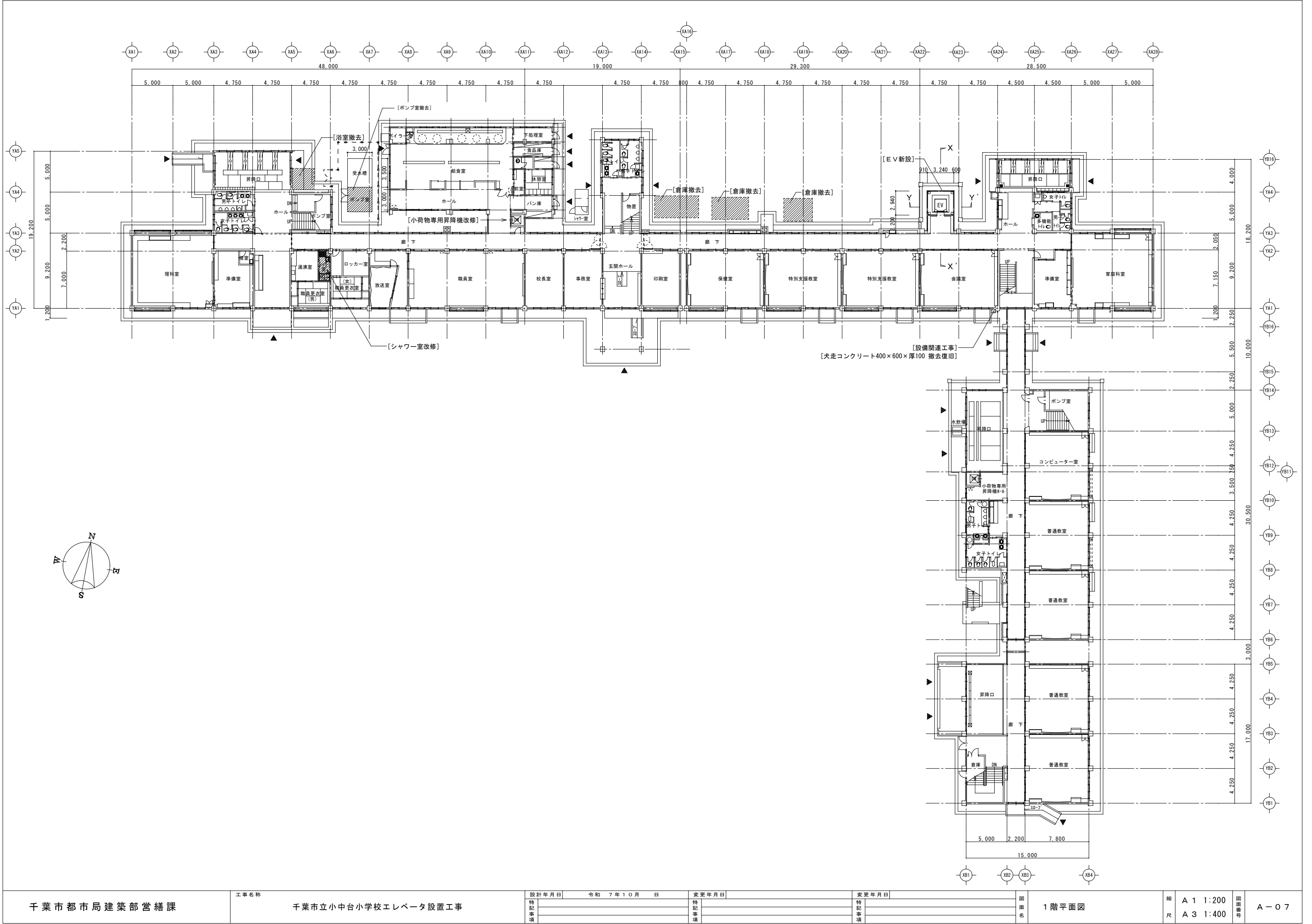
R 階求積図



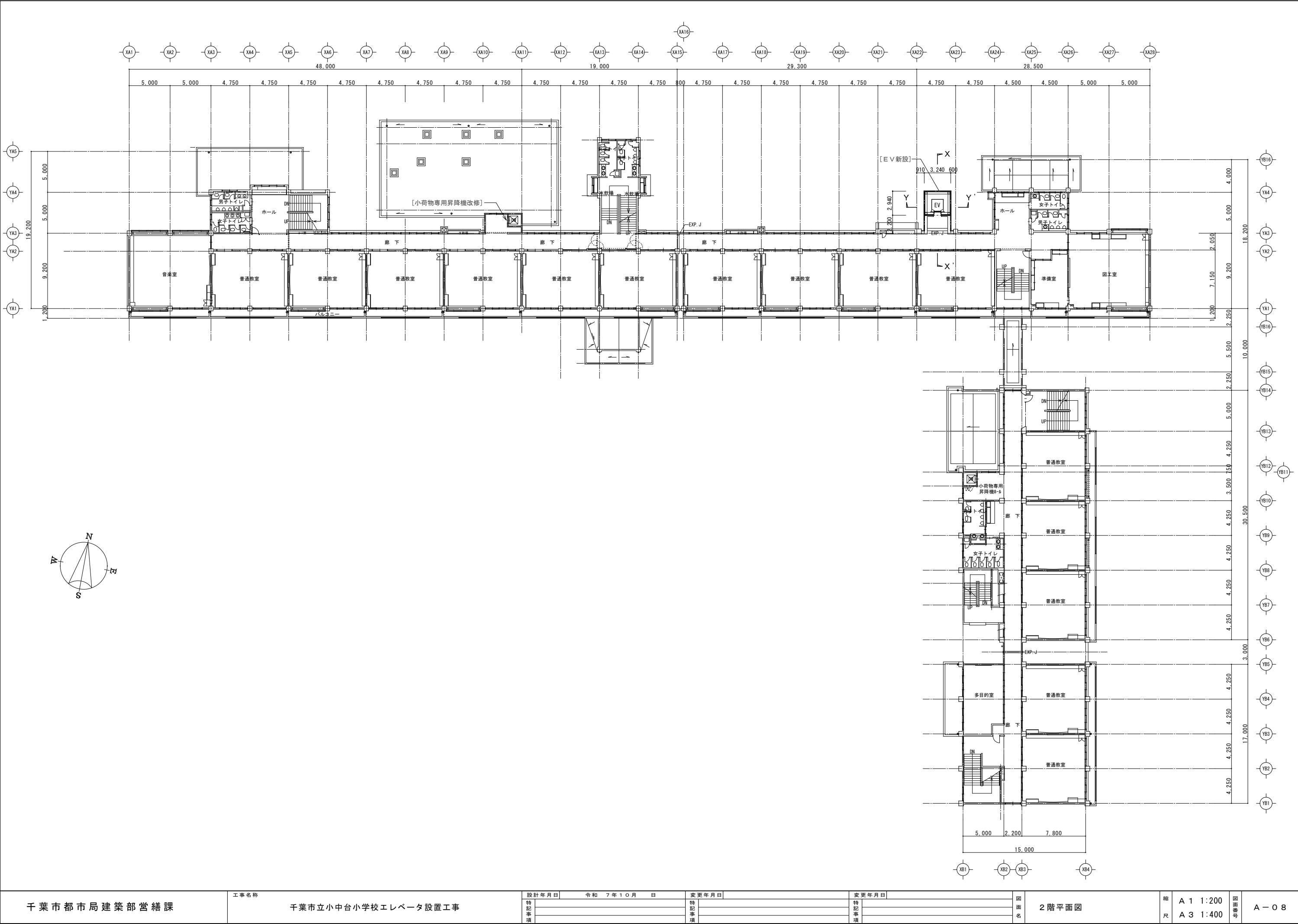
■外部仕上表					■特記事項																										
外 壁	既存	防水形外装薄塗材E モルタル下地 〔一部撤去〕	エキスパンション ジョイントカバー	改修	外壁ー外壁：アルミW200（1時間耐火） 外壁ーパラペット：ステンレスW200（1時間耐火） 床ー床：ステンレスW200（1時間耐火） 内壁ー内壁：アルミW200 天井ー天井：アルミW200	<div>・コンクリート撤去部分周囲はコンクリートカッター入とする</div> <div>・モルタル撤去部分周囲はモルタルカッター入とする</div> <div>・天井張替部分既存LGS天井下地は撤去とする</div> <div>・BGは石膏ボード、BG-Sはシーリング石膏ボード GB-Fは強化石膏ボードを示す</div> <div>・工事中安全計画等を所轄消防署等と協議の上必要書類等を提出する</div> <div>・建具及び造作材を撤去する箇所は周囲100mm程度の既存仕上材の補修を含む</div> <div>・改修 モルタルEP-Gとはモルタル塗りの上EP-G塗装</div> <div>・改修 EP-G塗替えとはモルタル補修の上EP-G塗装</div> <div>・改修で使用するコンクリートは普通コンクリートFC=24とする</div> <div>・仕上材料（塗料・接着剤等含む）はすべてF☆☆☆☆（規制対象外品）とする</div> <div>・耐火リスト</div> <table><tr><th>箇 所</th><th>材 料</th><th>耐火時間</th><th>認定番号他</th></tr><tr><td>外壁</td><td>ALC版 t100</td><td>1時間</td><td>例示（告1399）</td></tr><tr><td>屋根</td><td>ALC版 t100</td><td>0.5時間</td><td>例示（告1399）</td></tr><tr><td>床</td><td>合成スラブ</td><td>1時間</td><td>FP060FL-9101 FP060FL-9102 FP060FL-9139</td></tr><tr><td>柱 ALC合成</td><td>ロックウール吹付 t25</td><td>1時間</td><td>FP060CN-9458</td></tr><tr><td>梁 ALC合成</td><td>ロックウール吹付 t25</td><td>1時間</td><td>FP060BM-9406</td></tr></table>	箇 所	材 料	耐火時間	認定番号他	外壁	ALC版 t100	1時間	例示（告1399）	屋根	ALC版 t100	0.5時間	例示（告1399）	床	合成スラブ	1時間	FP060FL-9101 FP060FL-9102 FP060FL-9139	柱 ALC合成	ロックウール吹付 t25	1時間	FP060CN-9458	梁 ALC合成	ロックウール吹付 t25	1時間	FP060BM-9406	<div>○法適合工事</div> <div>・既存アルミ製建具改造（非常用代替進入口 建令126の2）</div> <div>・既存建具ガラス交換（強化ガラスー網入ガラス）</div> <div>・小荷物専用昇降機扉改修（遮炎遮煙性能他現行法適合）</div> <div>・既存プレハブ倉庫基礎固定改修（⑧、⑨、⑬棟）</div> <div>・既存木造倉庫他撤去</div>
	箇 所	材 料					耐火時間	認定番号他																							
外壁	ALC版 t100	1時間	例示（告1399）																												
屋根	ALC版 t100	0.5時間	例示（告1399）																												
床	合成スラブ	1時間	FP060FL-9101 FP060FL-9102 FP060FL-9139																												
柱 ALC合成	ロックウール吹付 t25	1時間	FP060CN-9458																												
梁 ALC合成	ロックウール吹付 t25	1時間	FP060BM-9406																												
改修	ALC版 t100横張（一部縦張） 防水形外装薄塗材E																														
外巾木	既存	防水形外装薄塗材E モルタル下地 〔一部撤去〕	U字溝	既存	U字溝240 〔一部撤去〕																										
	改修	モルタル金ゴテ					改修	U字溝240グレーチング蓋付 雨水拵360コンクリート蓋付																							
屋 根	既存																														
	改修	塩ビシート防水（接着工法）遮熱塗料塗 下地モルタル ALC版 t100																													
パラペット 笠 木	既存																														
	改修	アルミ笠木 塩ビシート防水（接着工法） 下地モルタル ALC版 t100																													
堅 樋	既存																														
	改修	カラーVPPφ100 ステンレス受金物																													
ルーフトレーン	既存																														
	改修	鋳鉄製φ100 オーバーフローパイプ：カラーVPPφ50																													
犬 走	既存	モルタル金ゴテ 〔一部撤去〕																													
	改修	コンクリート金ゴテ																													

■内部仕上表

	室 名		床		巾木	腰 壁		壁		天 井			天井高	備 考
				下 地			下 地		下 地		廻 縁	下 地		
廊 下 1 F ～ 3 F	既存	ビニル床シート t 2 〔一部撤去〕	モルタル t 30	モルタル金ゴテ V P	壁に同じ	壁に同じ	モルタル金ゴテ V P	R C	化粧 G B t 9 〔一部撤去〕	塩ビ	木製 〔一部撤去〕	2,800		
	改修	ビニル床シート t 2	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	一部化粧 G B t 9.5	塩ビ	一部 L G S	2,800		
E V ホール 1 F ～ 3 F	既存	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2,750		
	改修	ビニル床シート t 2	モルタル t 30	ビニル巾木 H100	壁に同じ	壁に同じ	G B t 9.5 + ケイカル板 t 6 E P - G	L G S 65	化粧 G B t 9.5	塩ビ	L G S	2,750	エキスパンションジョイント	
E V シャフト 1 F ～ 3 F	既存	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
	改修	ビット内：防水モルタル金ゴテ t 30	R C	－	－	－	A L C 版表し 鉄骨耐火被覆：ロックウール吹付 t 25 ( 1 時間耐火 )		A L C 版表し 鉄骨耐火被覆	－	－	－		
湯沸室	既存	ビニル床シート t 2 〔撤去〕	モルタル t 30	木製 O P H100	壁に同じ	壁に同じ	ケイカル板 t 6 目透張 E P	木製	化粧 G B t 9	塩ビ	L G S	2,700	アルミパーティション 〔撤去〕	
	改修	ビニル床シート t 2	既存のまま	ビニル巾木 H100	壁に同じ	壁に同じ	G B t 9.5 + ケイカル板 t 6 E P - G	L G S 65	化粧 G B t 9.5	塩ビ	L G S	2,700	L G S 間仕切壁 〔新設〕、木製建具 〔新設〕	
脱衣室 ( シャワー室 )	既存													
	改修	ビニル床シート t 2 耐水合板 t 12 下地 ユニットフロアー H200		ビニル巾木 H100	壁に同じ 一部化粧ケイカル板 t 6 + 耐水合板 t 12	壁に同じ	G B t 9.5 + ケイカル板 t 6 E P - G 一部ケイカル板 t 6 E P - G	L G S 65	化粧 G B t 9.5	塩ビ	L G S	2,400	面台 t 7 ストーム、洗濯機 t 7、洗面化粧台、シャワーユニット 0812	



千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	変更年月日	図 面 名 1 階平面図	縮 尺 A 1 1:200 A 3 1:400	図 面 番 号 A - 0 7
		特記事項	特記事項	特記事項			



千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

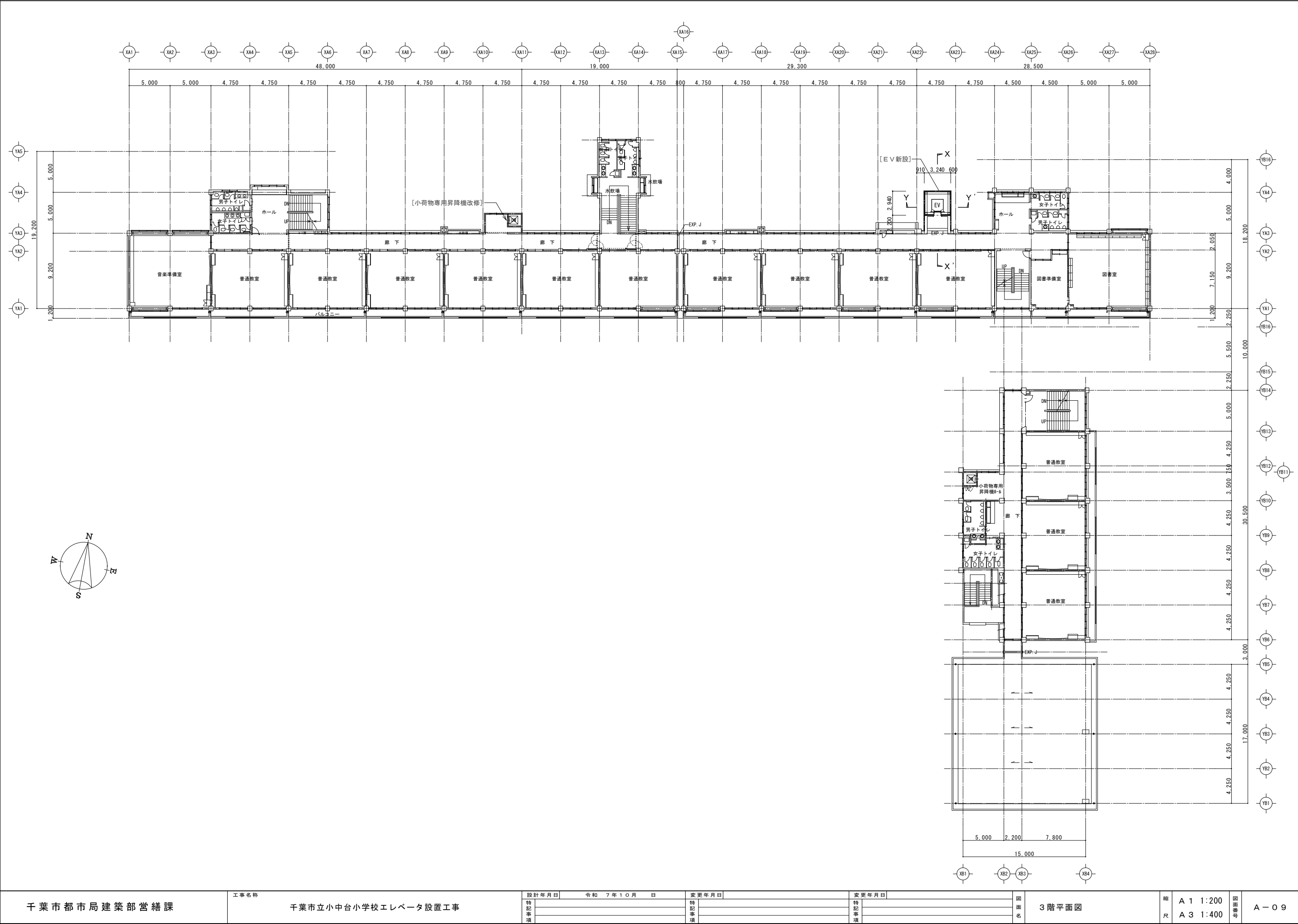
設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	
特記事項		特記事項	

設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	
特記事項		特記事項	

図面名  
2 階平面図

縮尺  
A 1 1:200  
A 3 1:400

図面番号  
A - 0 8



千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	
特記事項		特記事項	

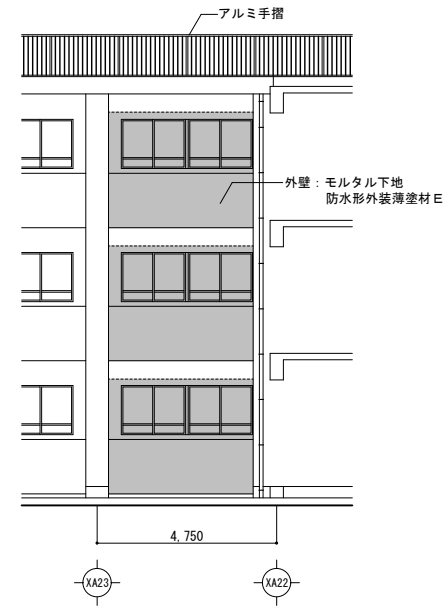
設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	
特記事項		特記事項	

図面名  
3 階平面図

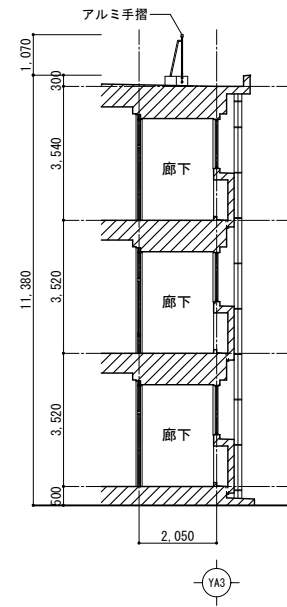
縮尺  
A 1 1:200  
A 3 1:400

図面番号  
A - 0 9





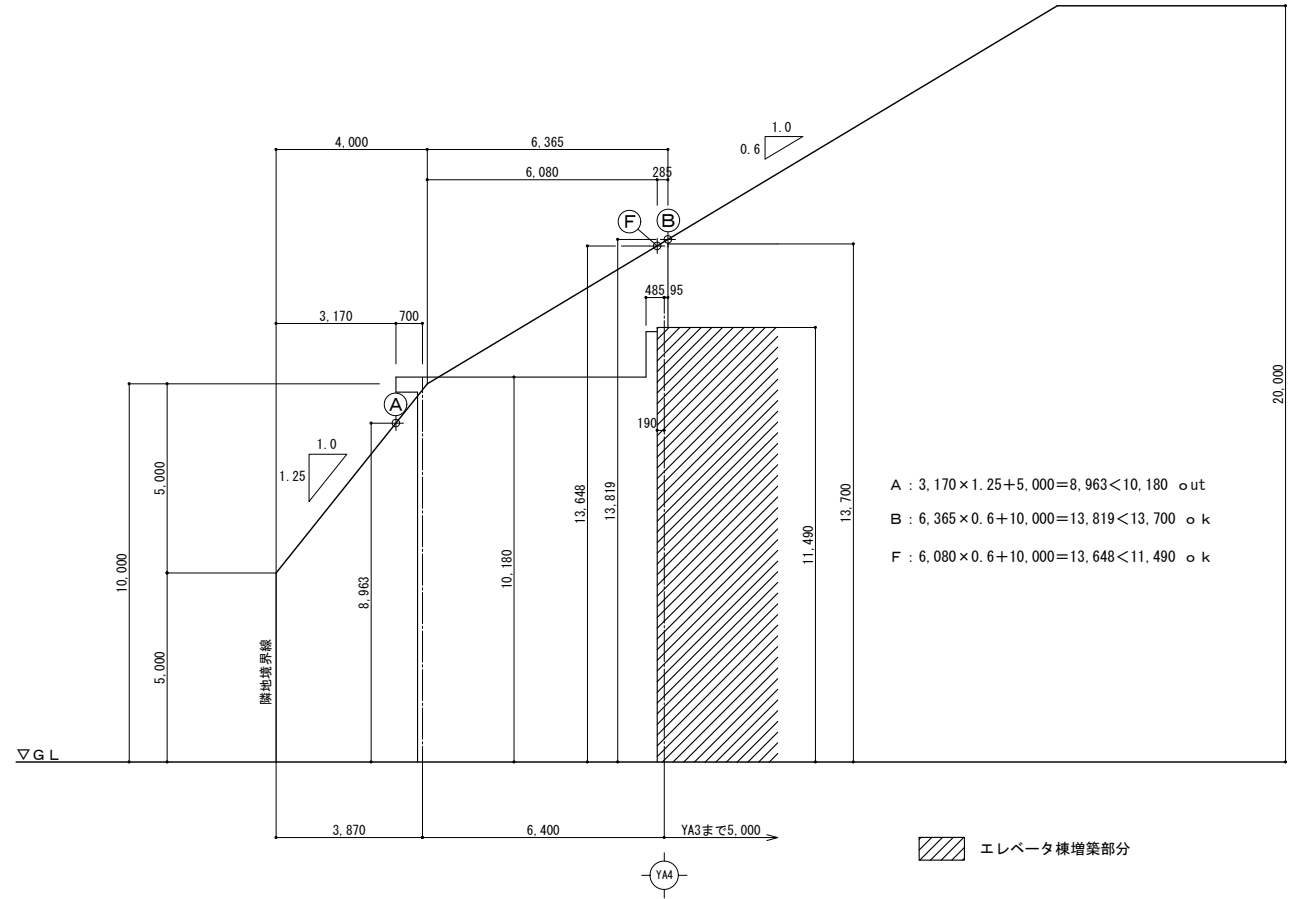
北側立面図



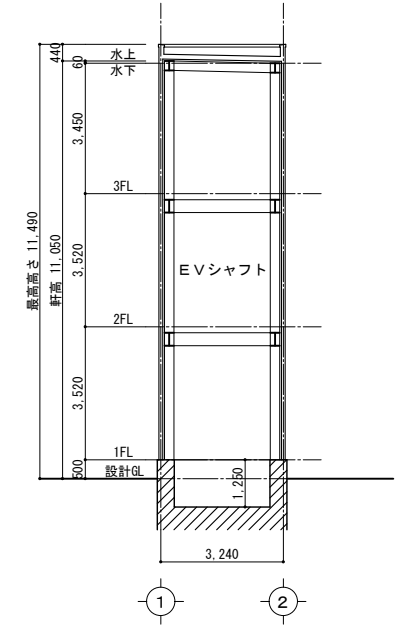
断面図

撤去箇所を示す

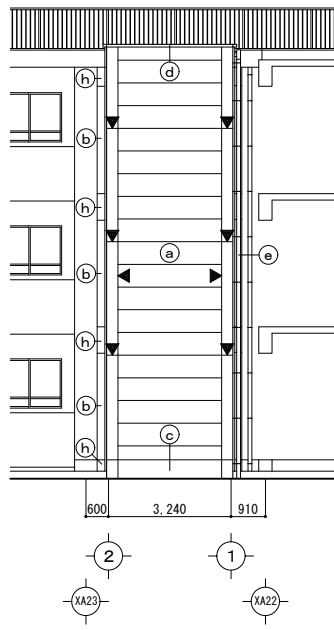
[既存]



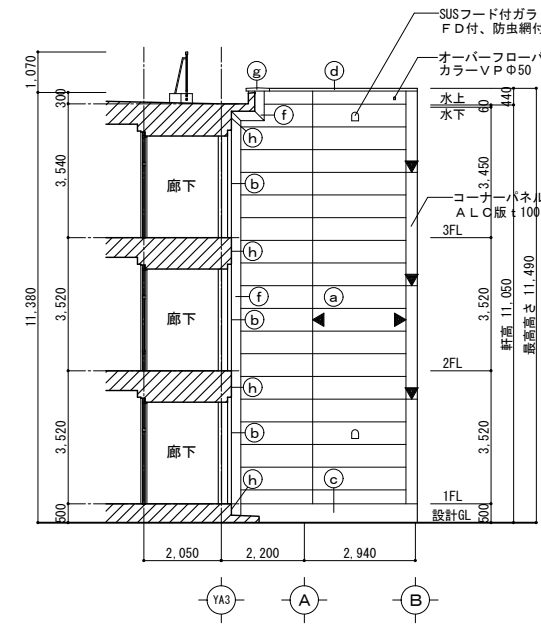
第一種高度地区（20m）の検討



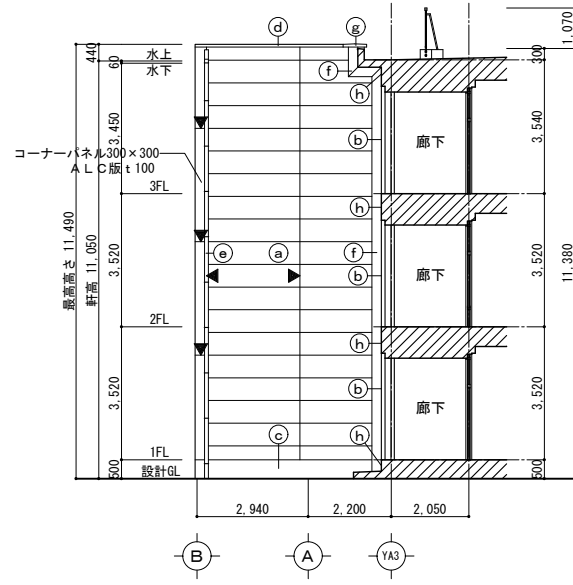
Y-Y'断面図



北側立面図



東側立面図・断面図



西側立面図・断面図

①	A L C 版 t100 横張 防水形外装薄塗材 E
②	A L C 版 t100 縦張 防水形外装薄塗材 E
③	モルタル金ゴテ
④	アルミ笠木
⑤	縦樋：カラーV P Φ100 ステンレス受金物
⑥	EXP. Jかん：アルミ W200（耐火帯 t12.5）
⑦	EXP. Jかん：ステンレス W200（耐火帯 t12.5）
⑧	既存下地調整 防水形外装薄塗材 E

▼ 耐火目地設置位置を示す。

[改修]

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日  
令和 7 年 1 0 月 日  
設計者：(有)オーディー建築研究所  
一級建築士事務所 千葉県知事登録 第 1-2302-4761 号  
一級建築士 大臣登録 第 160925 号 尾高 照雄

変更年月日  
特記事項

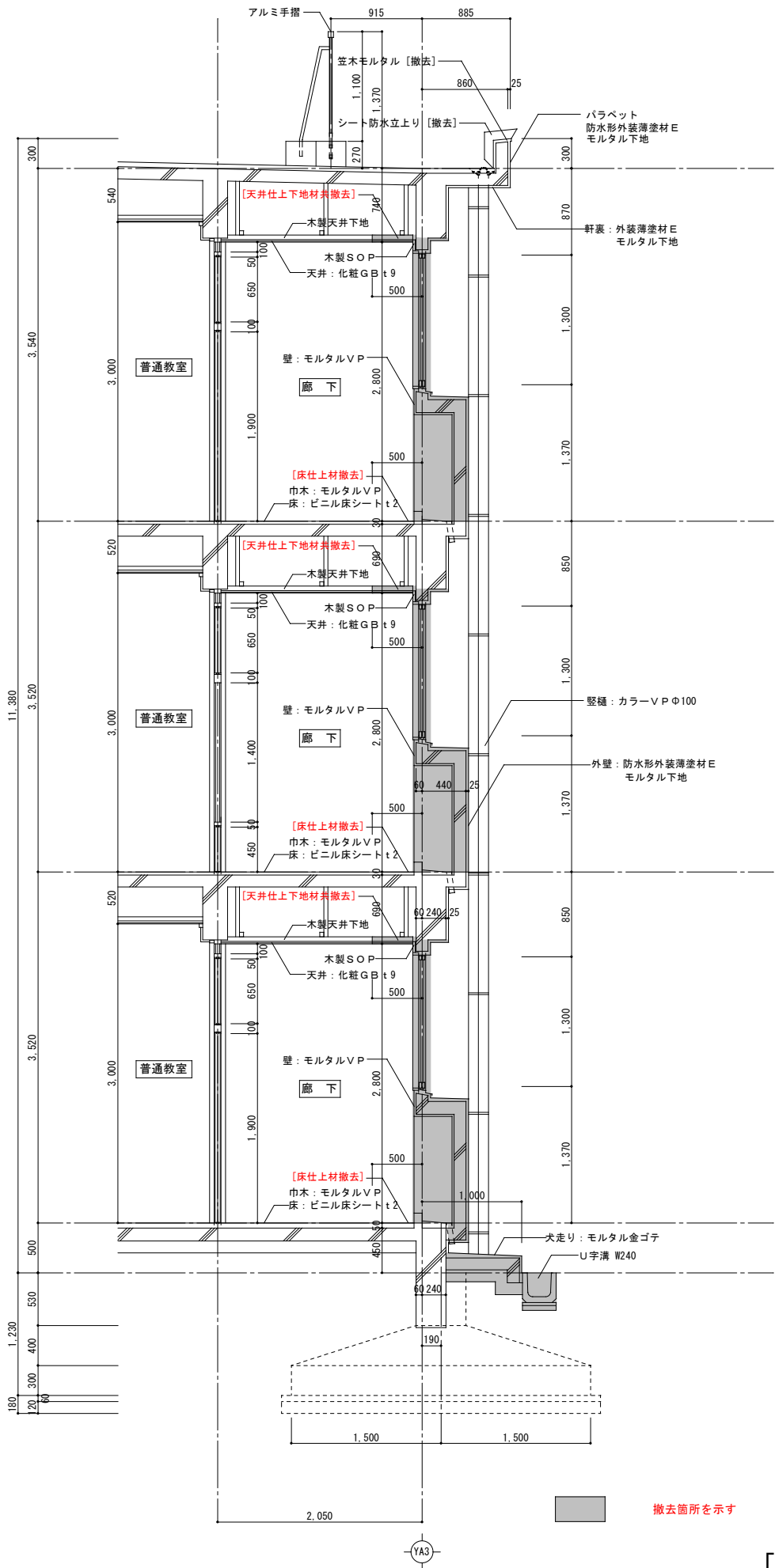
変更年月日  
特記事項

図面名  
立面図・Y-Y'断面図

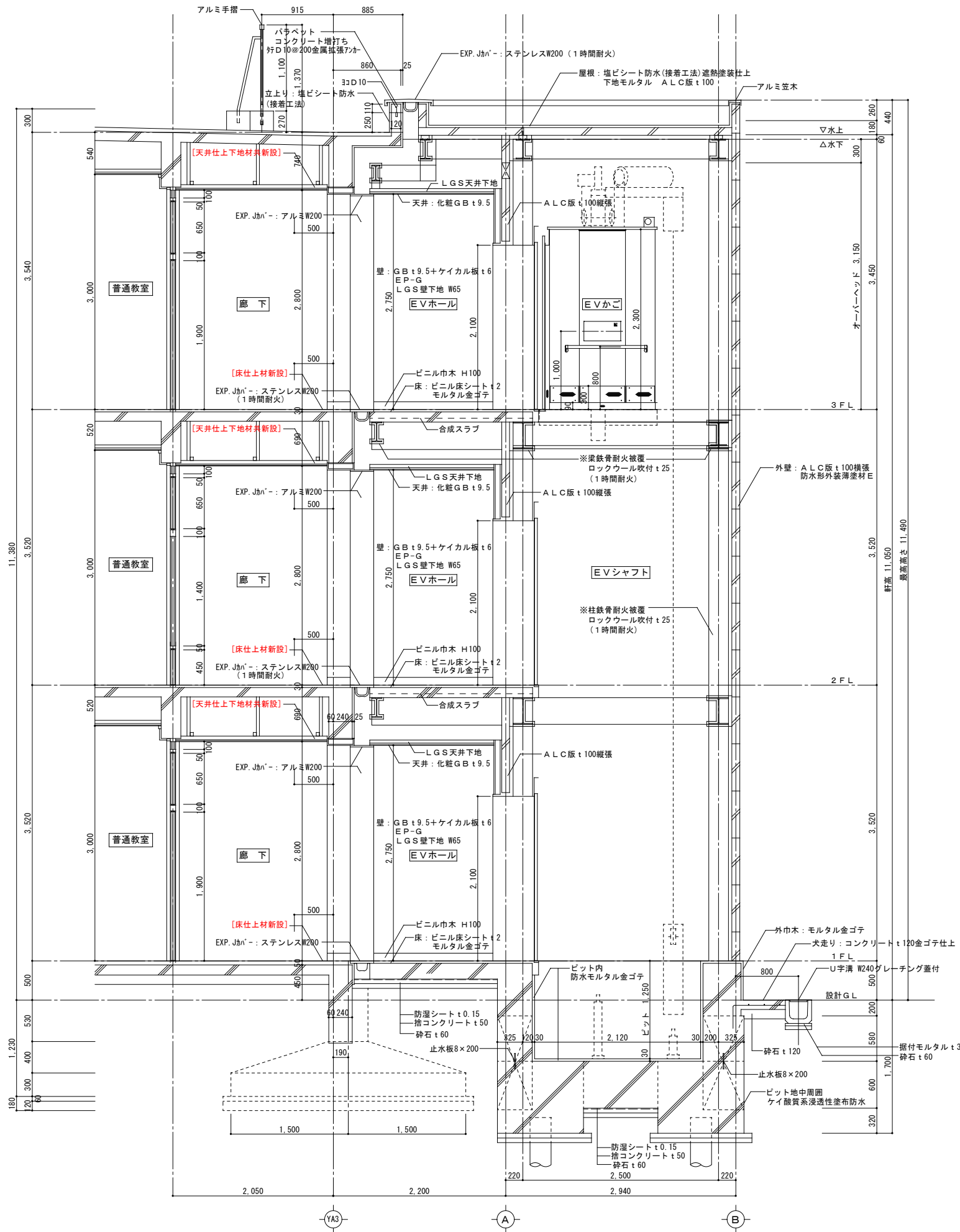
縮尺  
A 1 1:100  
A 3 1:200

図面番号  
A-11





[既存]

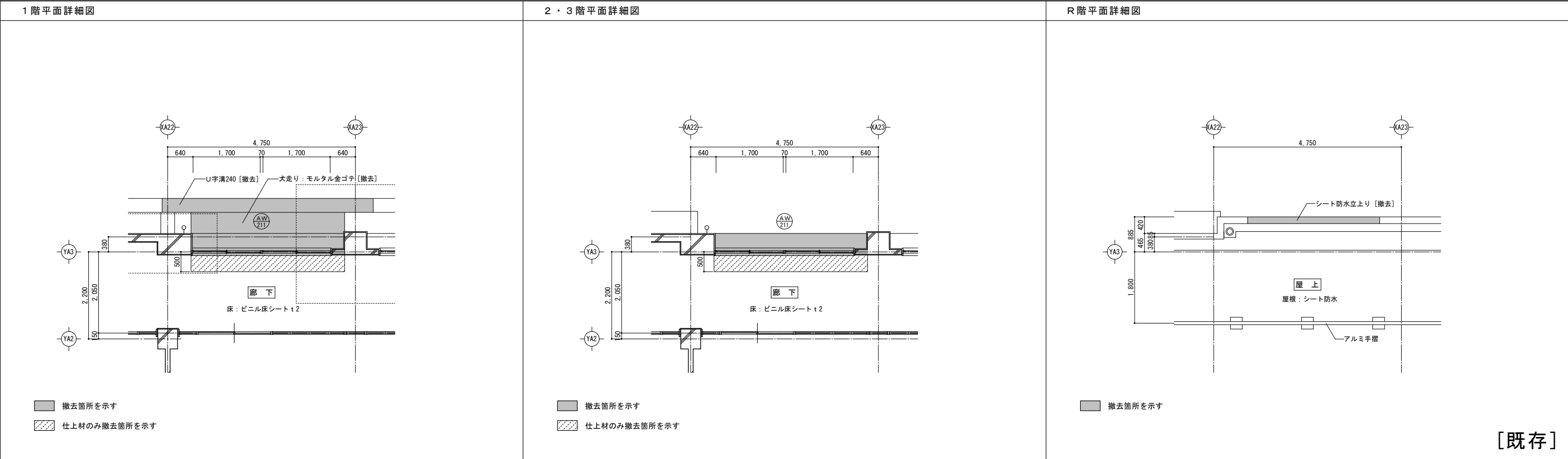


[改修]

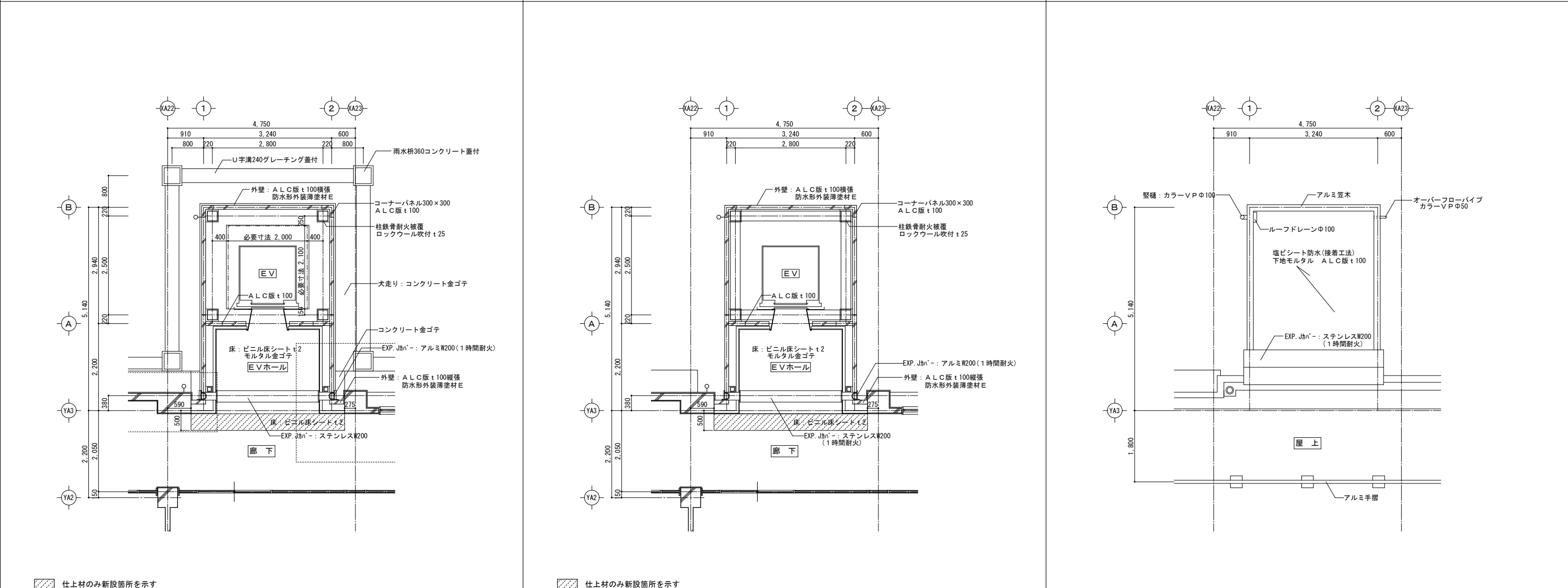
千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日		図面名	矩計図 (X-X'断面)	縮尺	A 1 1:30 A 3 1:60	図面番号	A - 1 2
特記事項		特記事項							

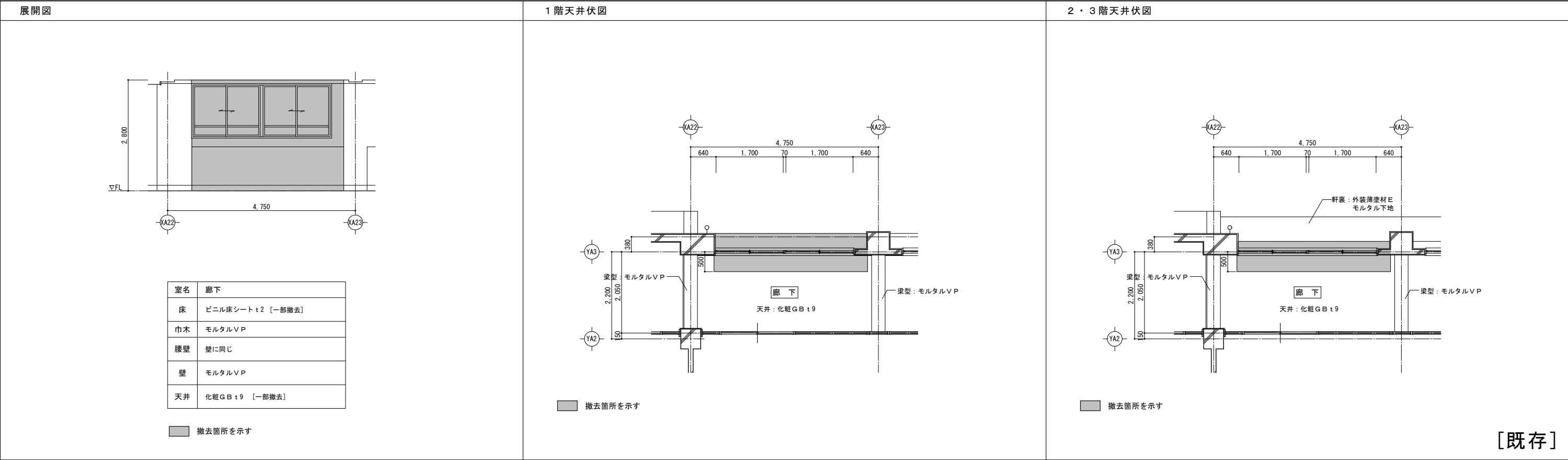


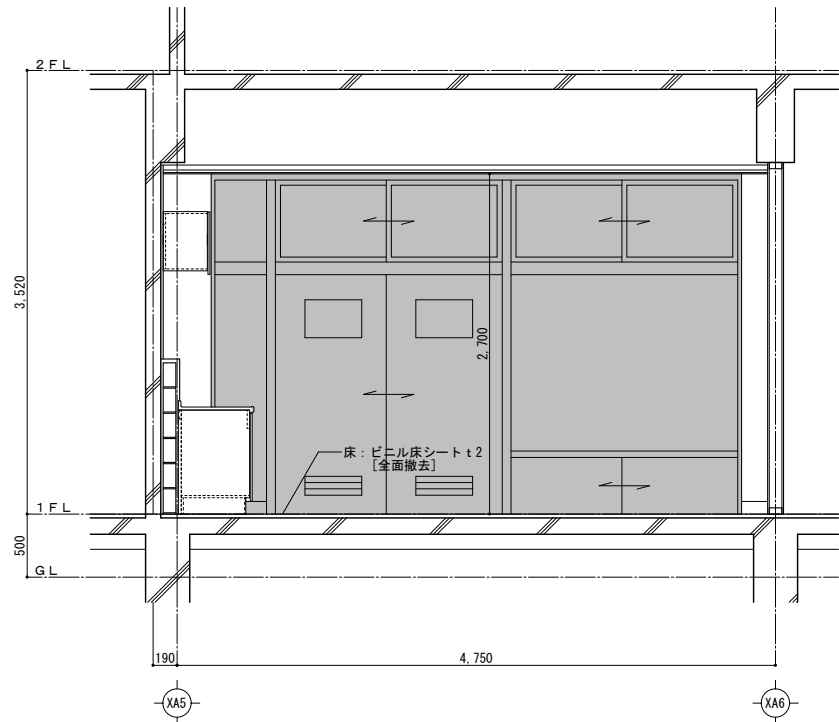
[既存]



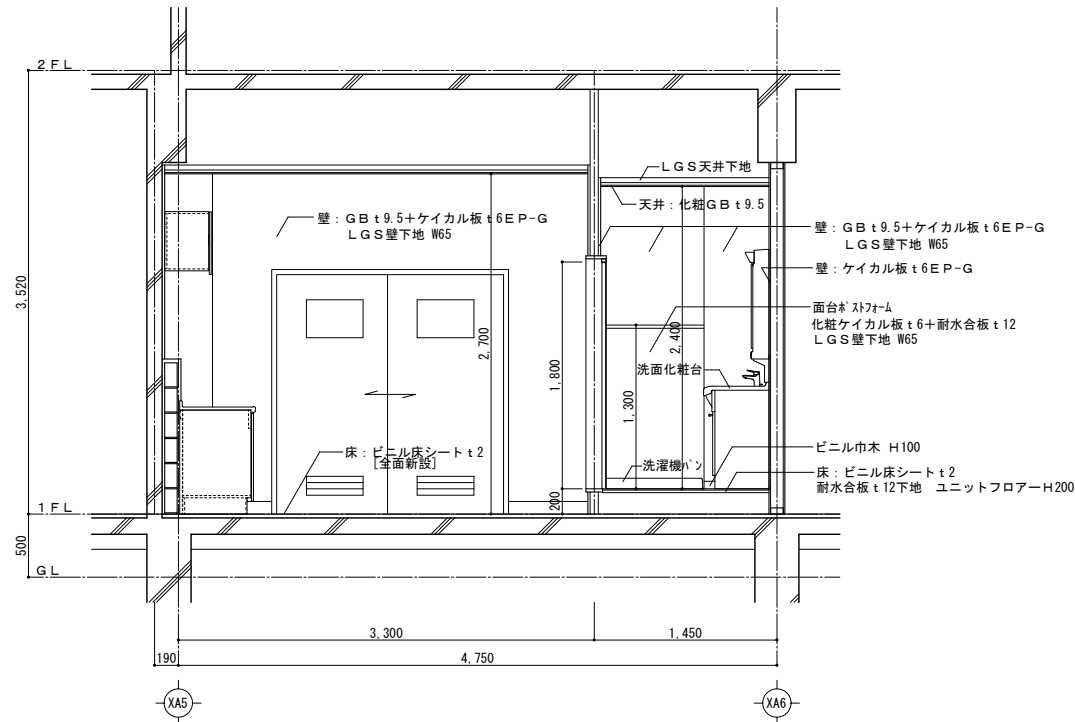
[改修]

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日		図面名	平面詳細図	縮尺 A 1 1:50 A 3 1:100	図面番号 A - 1 3
		特記事項	設計者：(有)オーディー建築研究所 一級建築士事務所 千葉県知事登録 第 1-2302-4761 号 一級建築士 大臣登録 第 160925 号 尾高 照雄	特記事項					



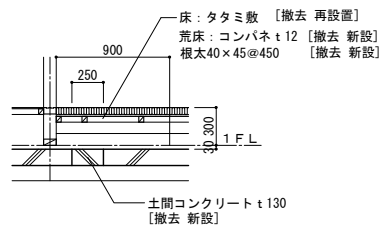
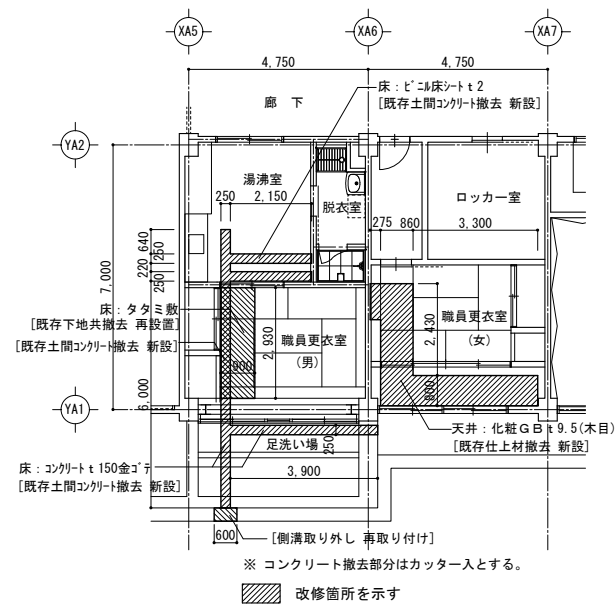


湯沸室断面詳細図 1:30

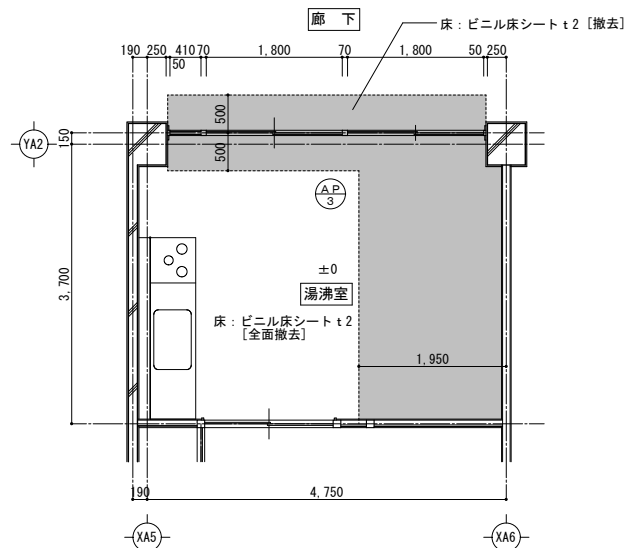


湯沸室断面詳細図 1:30

設備関連改修図 1:100

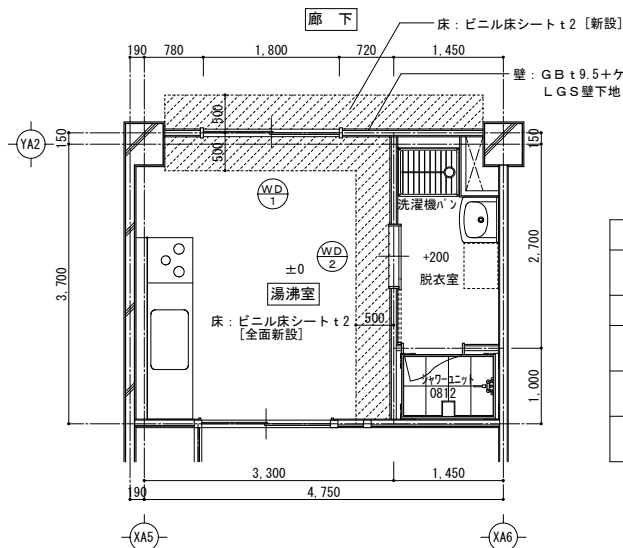


職員更衣室床詳細図 1:30



湯沸室平面詳細図 1:50

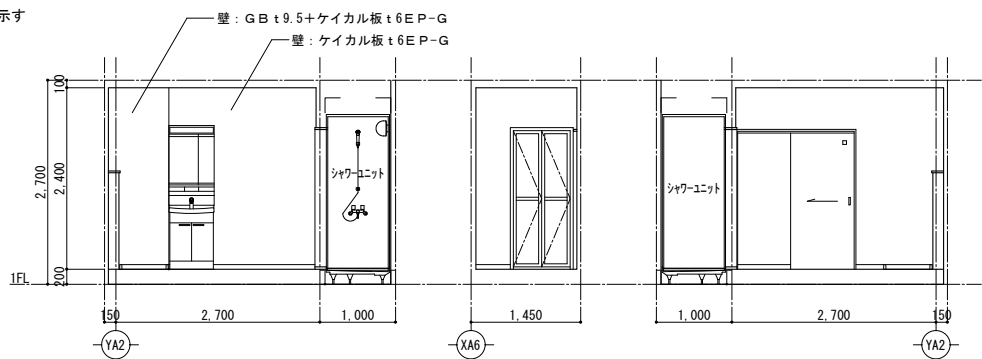
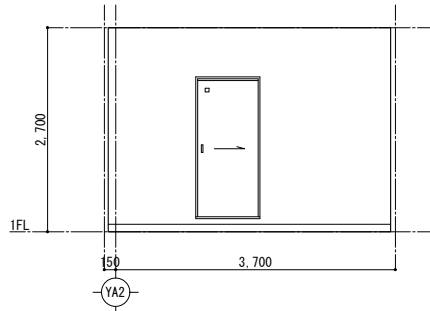
室名	湯沸室
床	ビニル床シート t2 [全面撤去]
巾木	木製 OP H100
腰壁	壁に同じ
壁	ケイカル板 t6目透張 EP
天井	化粧 GB t9



湯沸室平面詳細図 1:50

室名	脱衣室
床	ビニル床シート t2 耐水合板 t12下地 ユニットフロアー H200
巾木	ビニル巾木 H100
腰壁	壁に同じ
壁	GB t9.5+ケイカル板 t6EP-G 一部ケイカル板 t6EP-G
天井	化粧 GB t9.5

室名	湯沸室
床	ビニル床シート t2 [全面新設]
巾木	ビニル巾木 H100
腰壁	壁に同じ
壁	GB t9.5+ケイカル板 t6EP-G
天井	化粧 GB t9.5



[既存]

[改修]

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称

千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日

令和 7 年 1 0 月 日

特記事項

変更年月日

特記事項

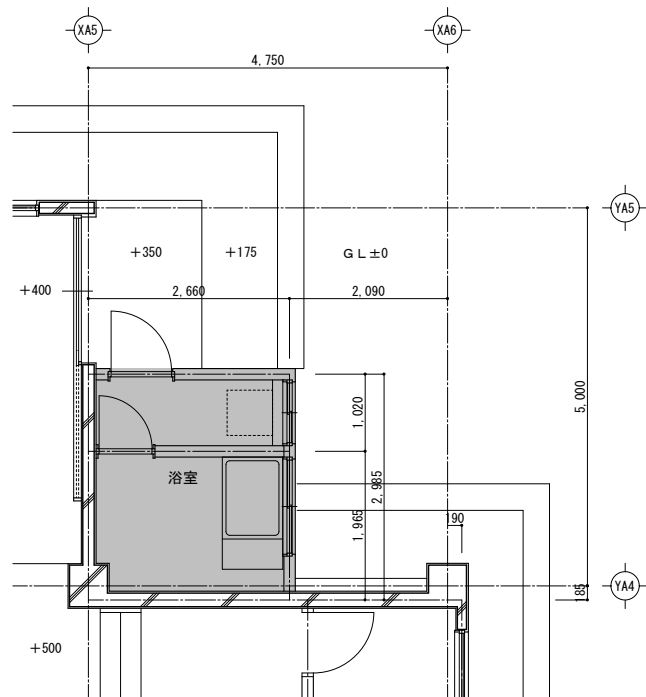
変更年月日

特記事項

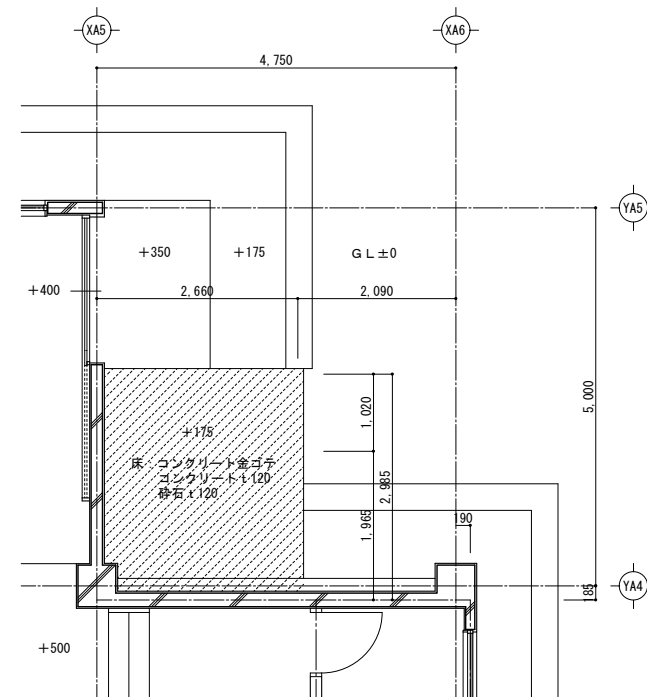
シャワー室改造詳細図 - 1

縮尺 A 1 1:50  
A 3 1:100

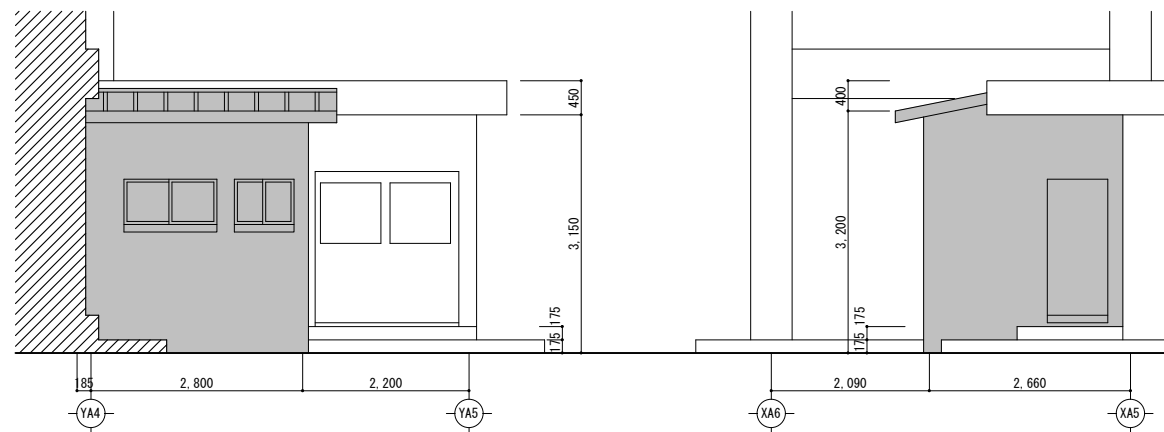
図面番号 A - 1 5



平面図

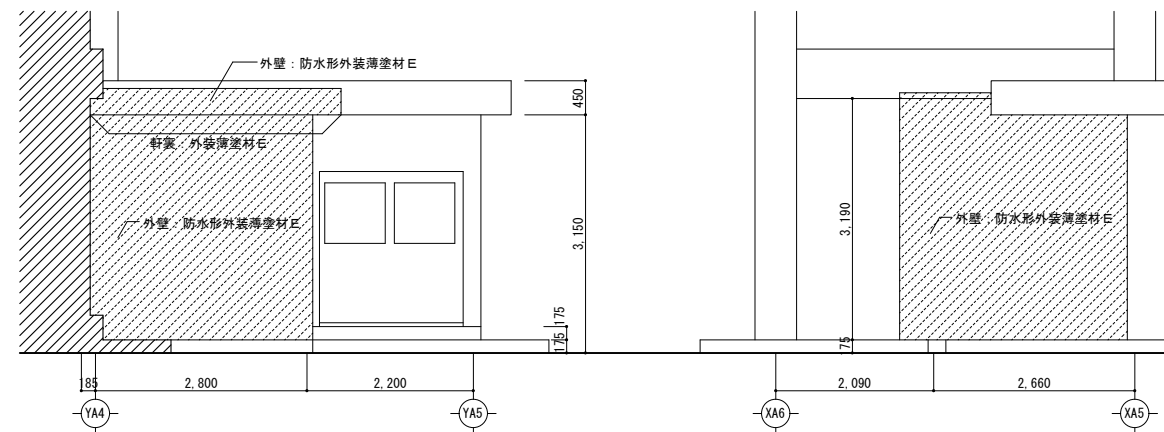


平面図



立面図

撤去箇所を示す



立面図

改修箇所を示す

[既存]

[改修]

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日  
令和 7 年 1 0 月 日  
特記事項

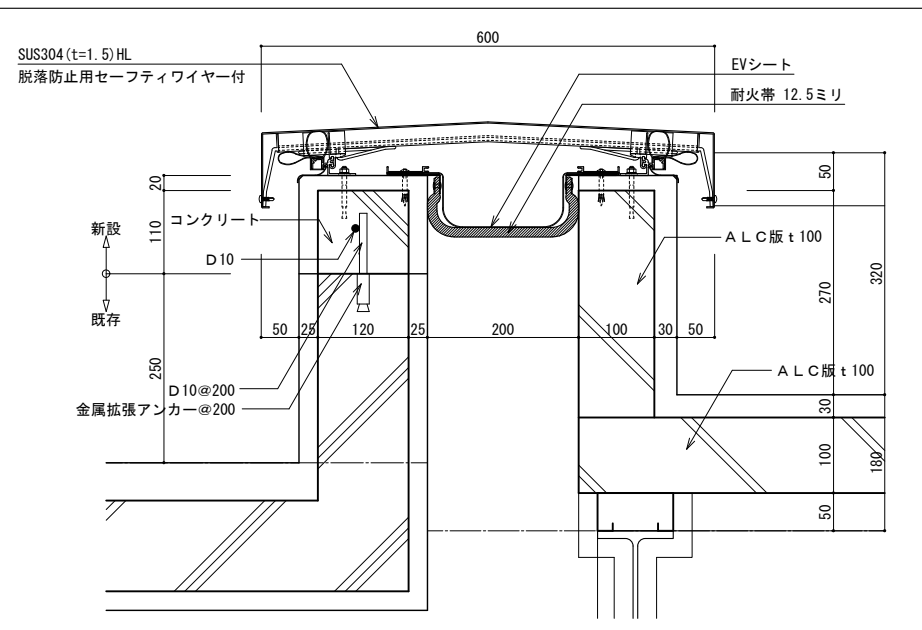
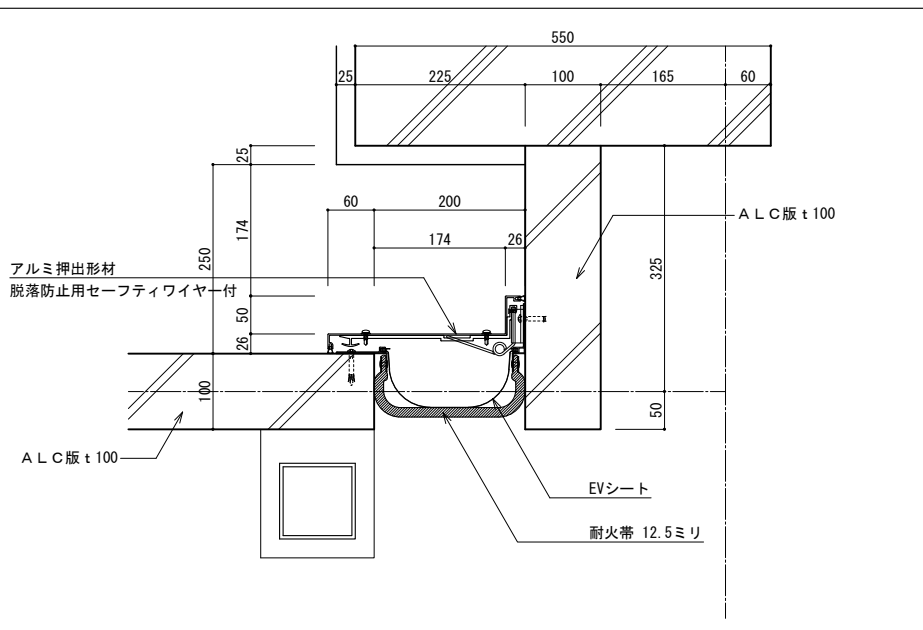
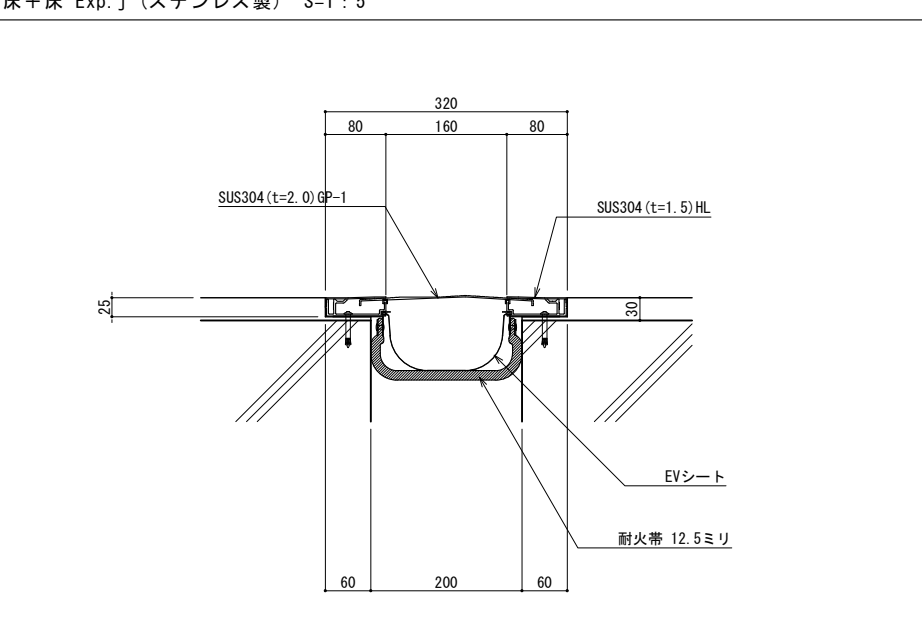
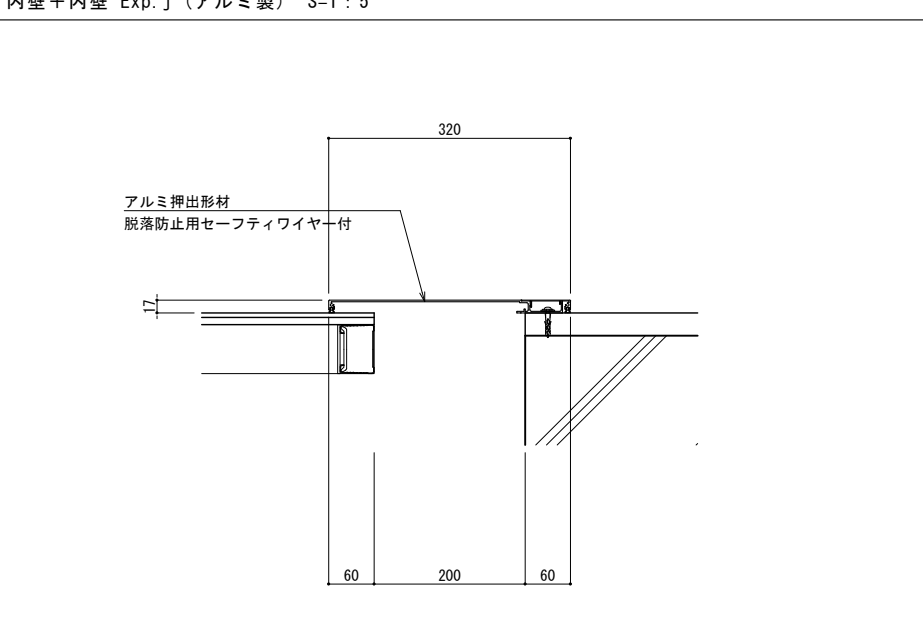
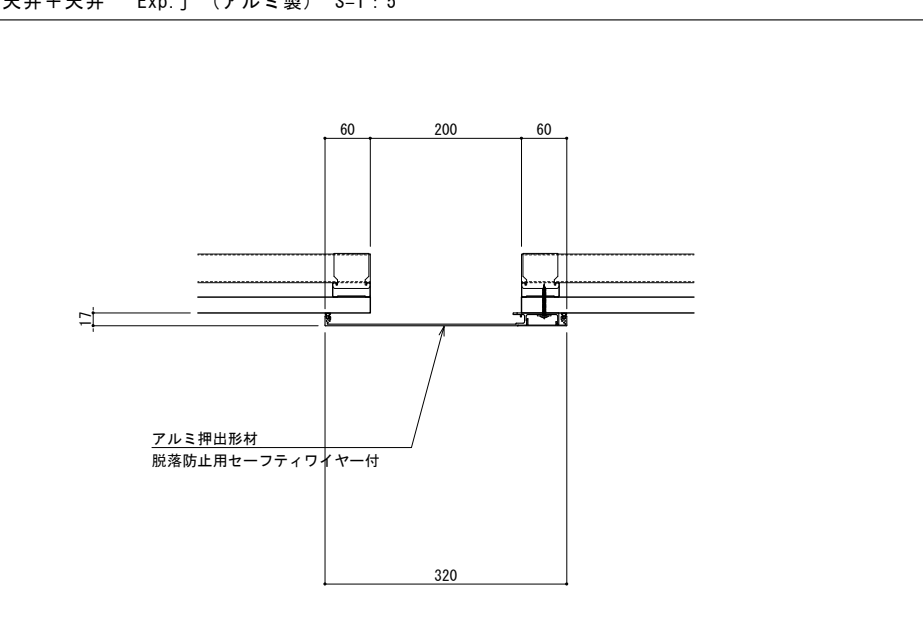
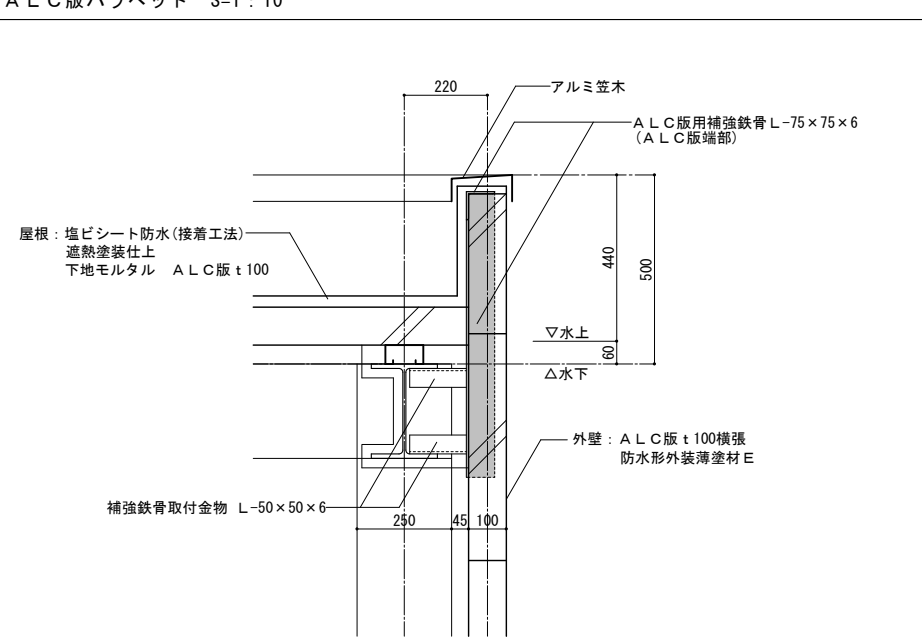
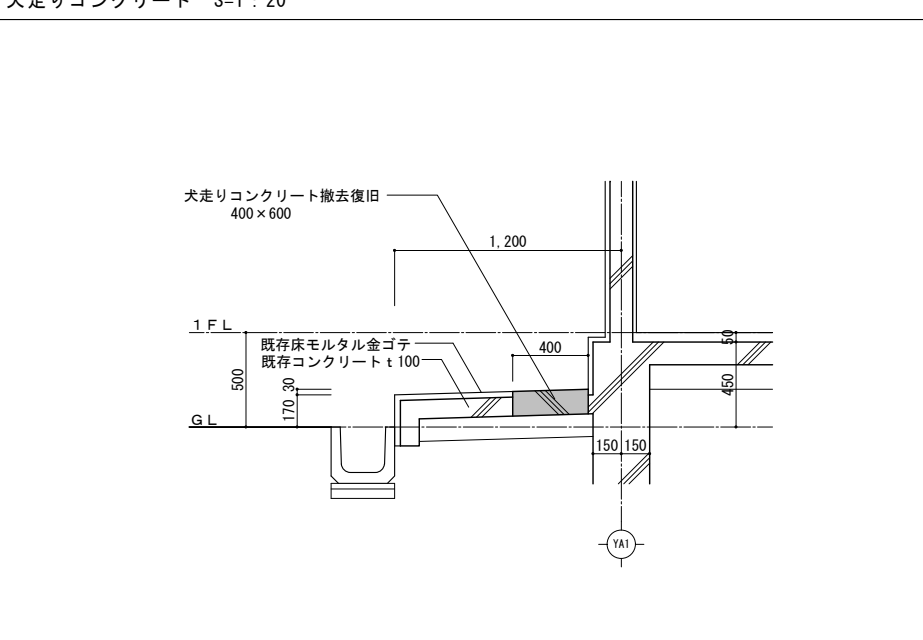
変更年月日  
特記事項

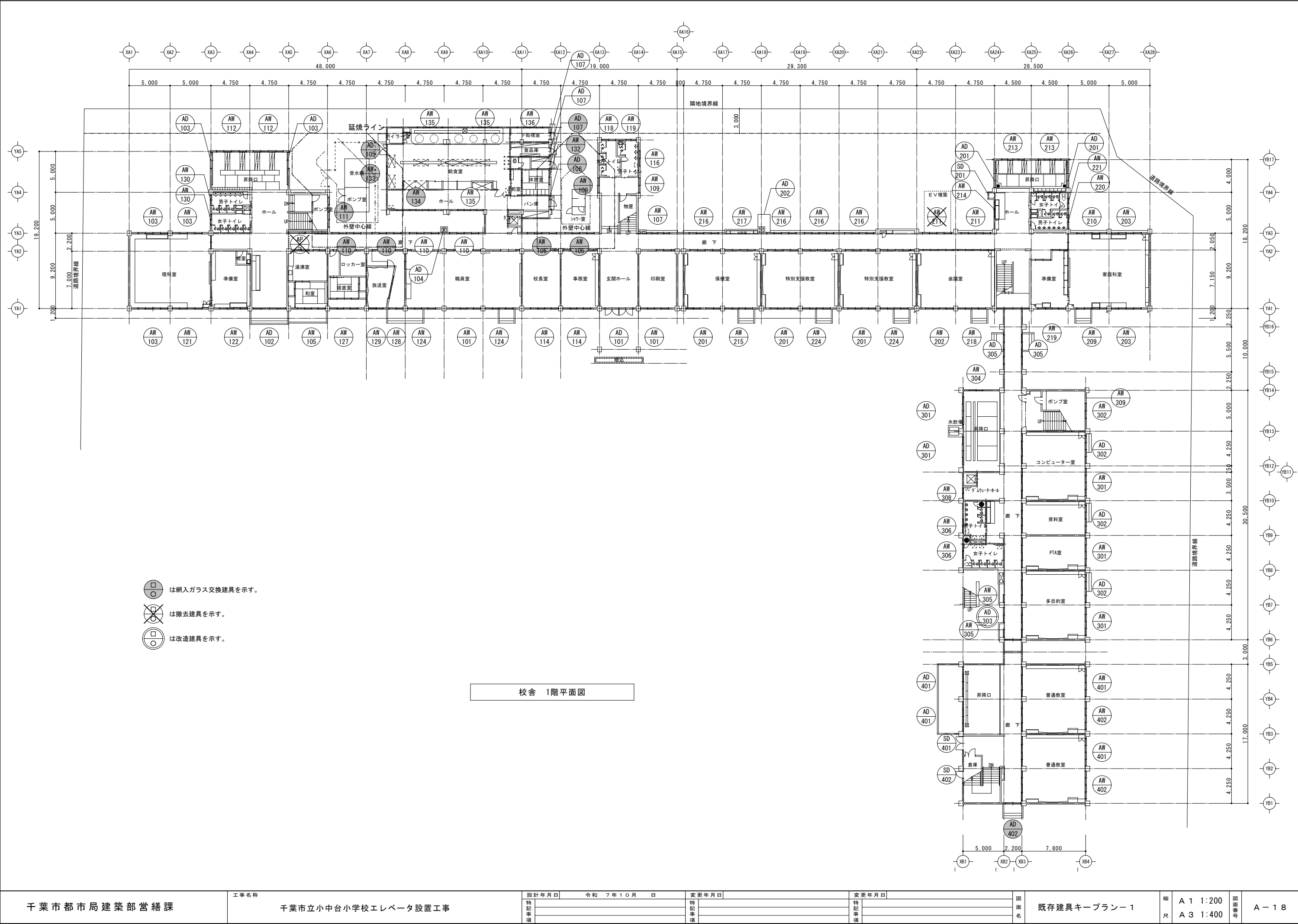
変更年月日  
特記事項

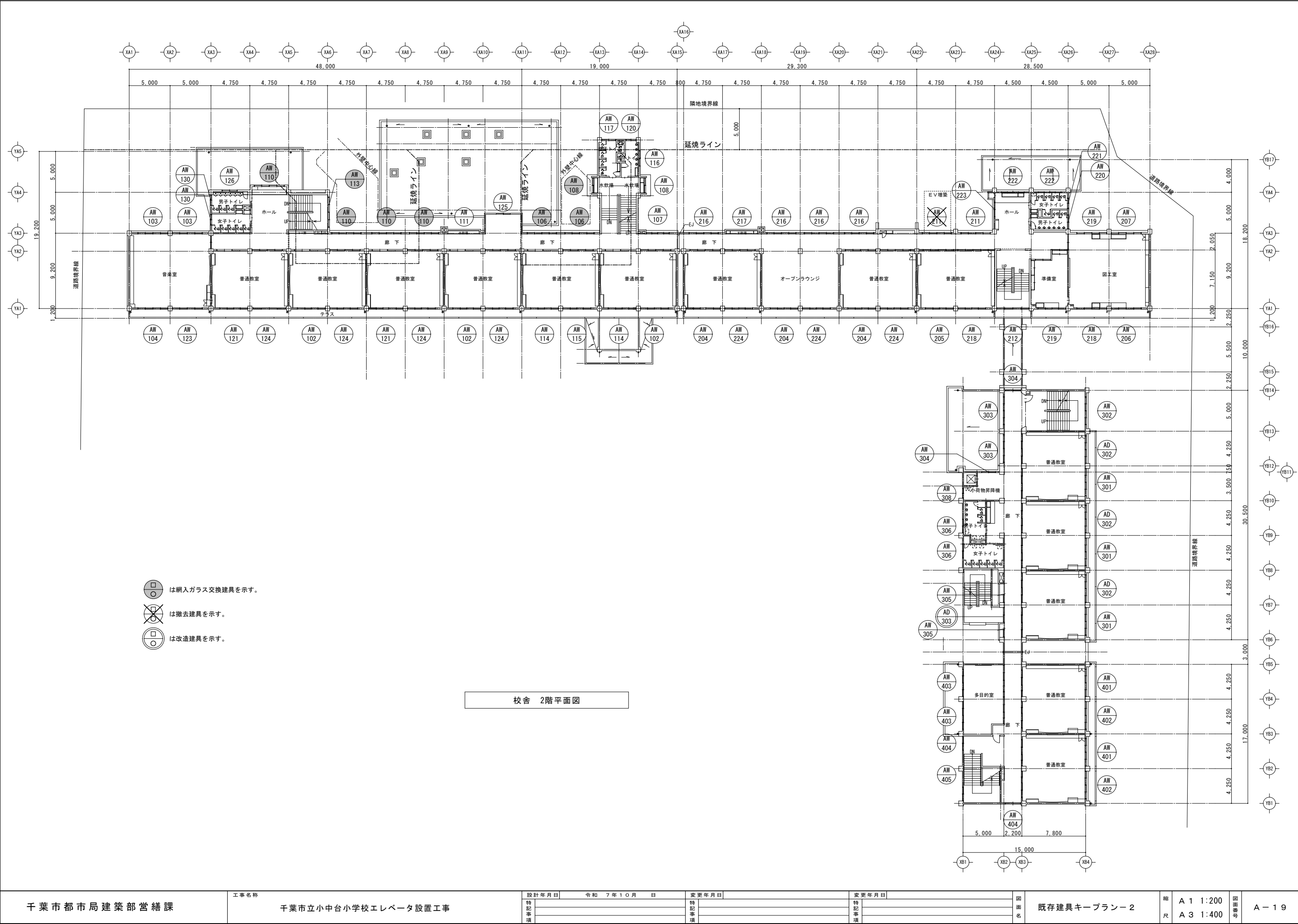
図面名  
シャワー室改造詳細図-2

縮尺  
A 1 1:50  
A 3 1:100

図面番号  
A-16

パラペット Exp. j（ステンレス製） S=1：5		外壁コーナー Exp. j（アルミ製） S=1：5		特記事項											
				※Exp. j耐火帯は「遮炎性能」の性能基準適合品とする。（日本エキスパンションジョイント工業会基準適合書提出とする。）											
床+床 Exp. j（ステンレス製） S=1：5		内壁+内壁 Exp. j（アルミ製） S=1：5		天井+天井 Exp. j（アルミ製） S=1：5											
															
A L C 版パラペット S=1：10		犬走りコンクリート S=1：20													
															
千葉市都市局建築部営繕課		工事名称 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事		設計年月日 令和 7 年 1 0 月 日		変更年月日		特記事項		図面名 雑詳細図		縮尺 A 1 図示 A 3 図示 / 2		図面番号 A - 1 7	





千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

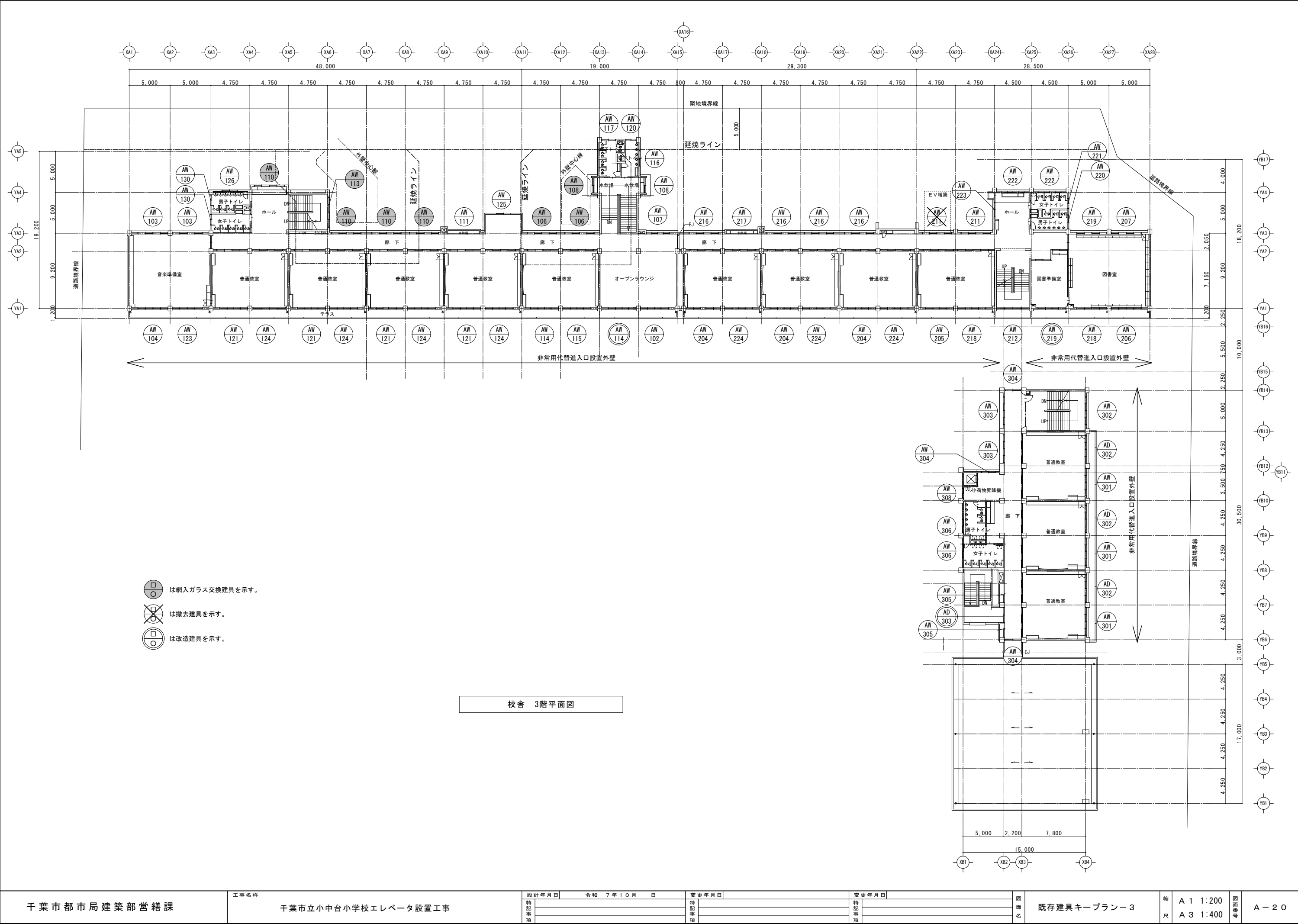
設計年月日  
令和 7 年 1 0 月 日  
特記事項

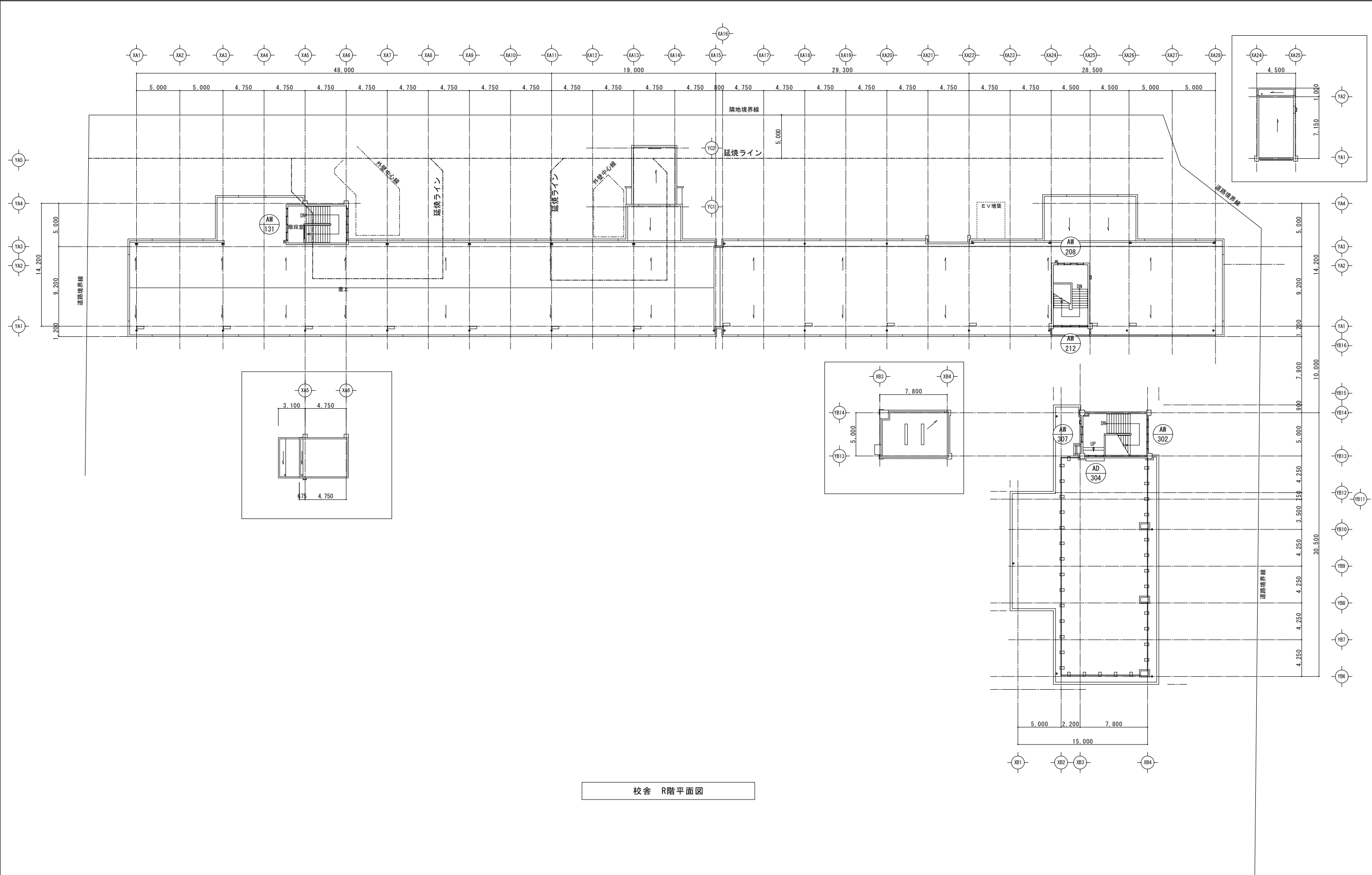
変更年月日  
特記事項

図面名  
既存建具キープラン 2




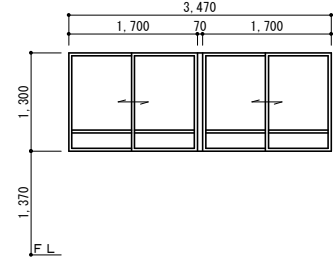
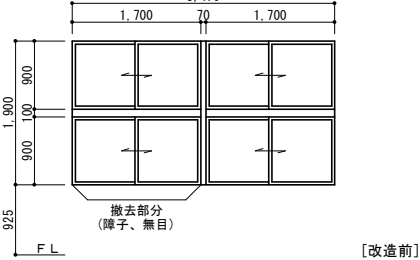
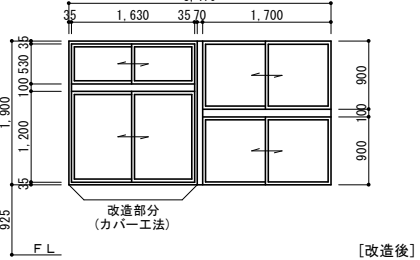
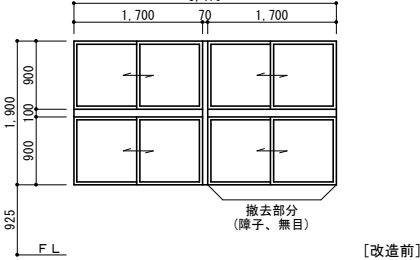
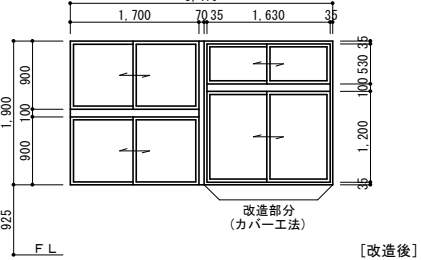



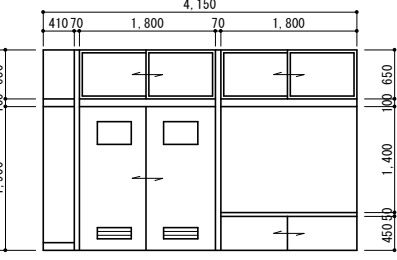
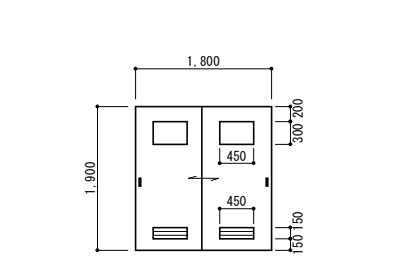
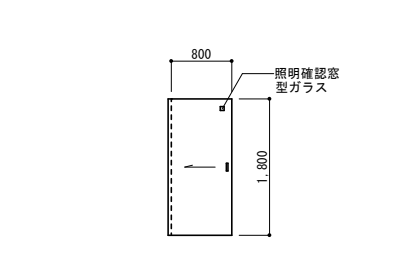


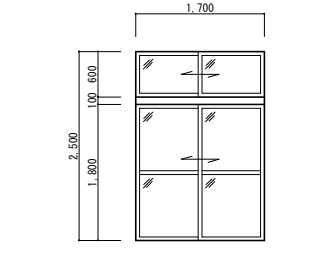
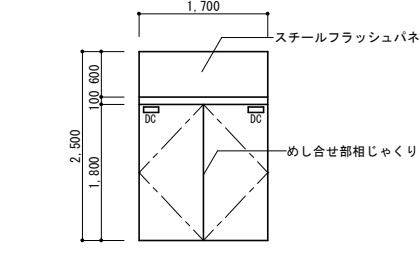
縮尺  
A 1 1:200  
A 3 1:400







校舎 R階平面図

記号・数量	 撤去3ヶ所	 改造(カバー工法)1ヶ所	 改造(カバー工法)1ヶ所		
形状					
場所	1～3F廊下	普通教室	普通教室	図書準備室	図書準備室
形式	引違窓	引違窓	引違窓	引違窓	引違窓
見込	70	70	70	70	70
材質・仕上	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
硝子	強化ガラスt4 (透明)	強化ガラスt4 (透明)	強化ガラスt4 (透明)	強化ガラスt4 (透明)	強化ガラスt4 (透明)
金物			クレセント		クレセント
備考					
記号・数量	 撤去1ヶ所	 新設1ヶ所	 新設1ヶ所		
形状					
場所	1F湯沸室	1F湯沸室	1F湯沸室		
形式	アルミバーティション	引違戸 額付	片引戸 ハンガー式		
見込	70	屏見込36	屏見込36		
材質・仕上	アルミ	木製ボリ合板フラッシュ	木製ボリ合板フラッシュ アルミエッジ		
硝子	強化ガラスt4 (透明)	強化ガラスt4 (透明)			
金物		引手、リッパ錠、7&#246;ミ&#246;リ、スリッパ錠	引手、表示錠、D C、7&#246;ミ&#246;リ、戸当り		
備考					
記号・数量	 撤去3ヶ所	 新設3ヶ所			
形状					
場所	1～3F：廊下(外階段前)	1～3F：廊下(外階段前)			
形式	引違窓付き戸	ランマ嵌め殺パネル付き両開きドア			
見込	70	枠見込100、屏・ランマパネル見込40			
材質・仕上	アルミ	屏・ランマパネル：スチール t0.5両面フラッシュD P塗装			
硝子	強化ガラスt4.0				
金物		握手、スリッパ錠、リッパ錠(付ク&#246;ン付)、D C、順位調整器、フ&#246;ス落			
備考		特定防火設備常時閉鎖式(告示1369号) 遮煙性能			
記号・数量					
形状					
場所					
形式					
見込					
材質・仕上					
硝子					
金物					
備考					

符号・数量	<div><div>101</div>アルミ製3連2段引違窓＋すべり出し窓</div>	2	<div><div>102</div>アルミ製3連2段引違窓＋すべり出し窓</div>	4	<div><div>103</div>アルミ製3連2段引違窓＋すべり出し窓</div>	7	<div><div>104</div>アルミ製3連2段引違窓＋すべり出し窓</div>	2	<div><div>105</div>アルミ製3連2段引違窓＋すべり出し窓</div>	1	<div><div>106</div>アルミ製2連引違窓</div> <div>[網入ガラス交換t6.8（透明）6か所]</div>	6
姿 図												
場 所	1F：職員室、印刷室		2・3F：普通教室 3F：オープンラウンジ		1F：理科室 2F：音楽室 3F：音楽準備室		2F：音楽室 3F：音楽準備室		1F：和室		1～2F：廊下	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上	無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		強化ガラスt4.0（透明）	
硝 子	強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ガラスt4.0	
金 物	アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div><div>107</div>アルミ製2連引違窓</div>	3	<div><div>108</div>アルミ製引違窓</div> <div>[網入ガラス交換t6.8（透明）2か所]</div>	6	<div><div>109</div>アルミ製引違戸</div> <div>[網入ガラス交換t6.8（透明）1か所]</div>	2	<div><div>110</div>アルミ製2連引違窓</div> <div>[網入ガラス交換t6.8（透明）10か所]</div>	12	<div><div>111</div>アルミ製2連引違窓</div> <div>[網入ガラス交換t6.8（透明）1か所]</div>	3	<div><div>112</div>アルミ製2連引違窓</div>	2
姿 図												
場 所	1～3F：廊下		2～3F：水餃場		1F：廊下(トイレ前)		1F：廊下 2～3F：廊下、ホール		1F：ポンプ室 2～3F：廊下		1F：昇降口	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上												
硝 子	強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		網入りガラス、強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div><div>113</div>アルミ製2連引違窓</div> <div>[網入ガラス交換t6.8（透明）2か所]</div>	2	<div><div>114</div>アルミ製2連2段引違窓</div>	6	<div><div>115</div>アルミ製2連2段引違戸付き窓</div>	2	<div><div>116</div>アルミ製引違窓</div>	3	<div><div>117</div>アルミ製引違窓</div>	2	<div><div>118</div>アルミ製引違窓</div>	1
姿 図												
場 所	2～3F：階段室		1F：校長室、事務室 2～3F：普通教室、オープンラウンジ		2～3F：普通教室		1～3F：男子トイレ		2～3F：女子トイレ		1F：女子トイレ	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上												
硝 子	強化ガラスt4.0		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		網入りｶﾞﾗｽt6.8 強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		網入りガラスt6.8		網入りガラスt6.8		網入りガラスt6.8	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div><div>119</div>アルミ製引違窓</div>	1	<div><div>120</div>アルミ製引違窓</div>	2	<div><div>121</div>アルミ製2連2段引違窓</div>	7	<div><div>122</div>アルミ製2連2段引違窓</div>	1	<div><div>123</div>アルミ製2連2段引違戸付き窓</div>	2	<div><div>124</div>アルミ製2連2段引違戸付き窓</div>	10
姿 図												
場 所	1F：男子トイレ		2～3F：男子トイレ		1F：理科室 2～3F：普通教室		1F：理科準備室		2F：音楽室、3F：音楽準備室		1F：職員室 2～3F：普通教室	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上												
硝 子	網入りガラスt6.8		網入りガラスt6.8		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		網入りｶﾞﾗｽt6.8 強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		網入りｶﾞﾗｽt6.8 強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考												

千葉市都市局建築部営繕課

千葉市小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日

令和 7 年 1 0 月 日

特記事項

変更年月日

特記事項

変更年月日

特記事項

図面名

既存建具表－1

縮尺

A 1 1:50  
A 3 1:100

図面番号

A－23

符号・数量	<div>AL125</div> アルミ製2連引違窓	2	<div>AL126</div> アルミ製引違窓	2	<div>AL127</div> アルミ製2連引違窓	1	<div>AL128</div> アルミ製2段引違戸付き窓	1	<div>AL129</div> アルミ製引違窓	1	<div>AL130</div> アルミ製引違窓	6
姿 図												
場 所	2～3F：廊下		2～3F：男子トイレ		1F：宿直室		1F：放送室		1F：放送室		1～3F：男子トイレ、女子トイレ	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上												
硝 子	強化ｶﾞﾗｽt4.0		強化ｶﾞﾗｽt4.0		強化ｶﾞﾗｽt4.0		網入りｶﾞﾗｽt6.8、強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0		強化ｶﾞﾗｽt4.0	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div>AL131</div> アルミ製2連引違戸付き窓	1	<div>AL132</div> アルミ製引違窓	1	<div>AL133</div> アルミ製2段引違窓	1	<div>AL134</div> アルミ製3連2段引違窓	1	<div>AL135</div> アルミ製2連2段引違窓	3		
姿 図												
場 所	RF：階段室		1F：休憩室		1F：給食室		1F：給食室		1F：給食室			
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70			
材質・仕上												
硝 子	網入りｶﾞﾗｽt6.8、強化ｶﾞﾗｽ（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（型板）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（型板・透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（型板・透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0南面（型板・透明） 網入りｶﾞﾗｽt6.8北面（型板・透明）			
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式			
備 考												
符号・数量	<div>AL136</div> アルミ製2連引違窓	1					<div>AD101</div> アルミ製ランマ付引分け戸	1	<div>AD102</div> アルミ製ランマ付両引き戸	1	<div>AD103</div> アルミ製フラッシュ引き込み戸	2
姿 図												
場 所	1F：下処理室						1F：玄関		1F：昇降口（南側）		1F：昇降口	
見 込	枠 70						枠 100		枠 100		枠 100	
材質・仕上							アルマイト仕上げ		アルマイト仕上げ		アルマイト仕上げ	
硝 子	網入りｶﾞﾗｽt6.8（透明）						膜：網入りｶﾞﾗｽ(型)t6.8、網入りｶﾞﾗｽ(透明)t6.8、ﾗﾝﾏ：強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）		網入りｶﾞﾗｽt6.8	
金 物	附属金物一式						附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div>AD104</div> アルミ製フラッシュ片開き戸	1	<div>AD105</div> アルミ製親子開き戸	1	<div>AD106</div> アルミ製親子開き戸	1	<div>AD107</div> アルミ製片開き戸	3			<div>AL138</div> アルミ製引違窓	1
姿 図												
場 所	1F：ダストシュート		1F：給食室		1F：パン庫		1F：雑品庫、食品庫、下処理室				1F：事務室	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70				枠 70	
材質・仕上	アルマイト仕上げ											
硝 子			強化ｶﾞﾗｽt4.0（型）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（型）		強化ｶﾞﾗｽt4.0（型）				網入りｶﾞﾗｽt6.8（透明）	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式				附属金物一式	
備 考												

千葉市都市局建築部営繕課		千葉市小中台小学校エレベータ設置工事		設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日		変更年月日		図面番号	既存建具表－2	縮尺	A 1 1:50 A 3 1:100	図面番号	A－2 4
特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項							

符号・数量	<div>図 201</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	3	<div>図 202</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	1	<div>図 203</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	2	<div>図 204</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	6	<div>図 205</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	2	<div>図 206</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	2
窓 図												
場 所	1F：保健室、特別支援教室		1F：会議室		1F：家庭科室		2F：普通教室、オープンラウンジ 3F：普通教室		2～3F：普通教室		2F：図工室 3F：図書室	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上	無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜	
硝 子	強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）	
金 物	アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div>図 207</div> アルミ製3連2段引連窓＋すべり出し窓	2	<div>図 208</div> アルミ製引連戸＋FIX	1	<div>図 209</div> アルミ製2連2段引連戸付き窓	1	<div>図 210</div> アルミ製2連2段引連窓	1	<div>図 211</div> アルミ製2連引連窓	6	<div>図 212</div> アルミ製2連引連窓	3
窓 図												
場 所	2F：図工室 3F：図書室		Rf：階段室		1F：家庭科室		1F：家庭科室		1～3F：廊下		2～Rf：階段室	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上	無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜		無着色陽極酸化複合被膜	
硝 子	強化ガラスt4.0（透明）		網入りガラスt6.8		網入りガラス t 6.8、強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0		網入り型板ガラスt6.8	
金 物	アルミパネルt3.0、附属金物一式		アルミパネルt3.0、附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div>図 213</div> アルミ製2連引連窓	2	<div>図 214</div> アルミ製引連窓	1	<div>図 215</div> アルミ製2連2段引連戸付き窓	1	<div>図 216</div> アルミ製2連引連窓	1.2	<div>図 217</div> アルミ製2連引連窓	3	<div>図 218</div> アルミ製2連2段引連戸付き窓	5
窓 図												
場 所	1F：昇降口		1F：ホール		1F：保健室		1～3F：廊下		1～3F：廊下		1F：会議室 2F：普通教室、図工室 3F：普通教室、図書室	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上												
硝 子	強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		網入りガラス t 6.8、強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		網入りガラス t 6.8、強化ガラスt4.0（透明）	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		1階、戸車交換・レール調整共		附属金物一式		附属金物一式		1階、戸車交換・レール調整共	
備 考												
符号・数量	<div>図 219</div> アルミ製2連2段引連窓	5	<div>図 220</div> アルミ製引連窓	3	<div>図 221</div> アルミ製引連窓	3	<div>図 222</div> アルミ製2連引連窓	4	<div>図 223</div> アルミ製引連窓	2	<div>図 224</div> アルミ製2連2段引連戸付き窓	8
窓 図												
場 所	1F：家庭科準備室 2F：図工室、図工準備室 3F：図書室、図書準備室		1～3F：男子トイレ		1～3F：女子トイレ		2～3F：ホール、女子トイレ		2～3F：ホール		1F：特別支援教室 2F：普通教室、オープンラウンジ 3F：普通教室	
見 込	枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70		枠 70	
材質・仕上												
硝 子	強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（透明）		強化ガラスt4.0（型板）		強化ガラスt4.0（型板）		網入りガラス t 6.8、強化ガラスt4.0（透明）	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		1階、戸車交換・レール調整共	
備 考	シーリング：四方枠（N=15）、水切下端（N=20）打替		シーリング：四方枠（N=15）、水切下端（N=20）打替		シーリング：四方枠（N=15）、水切下端（N=20）打替		シーリング：四方枠（N=15）、水切下端（N=20）打替		シーリング：四方枠（N=15）、水切下端（N=20）打替		シーリング：四方枠（N=15）、水切下端（N=20）打替	

符号・数量	AD201アルミ製フラッシュ引き込み戸			2	AD202アルミ製フラッシュ片開き戸			1	SD201鋼製フラッシュ片開き戸（スチールカバー閉鎖済み）			1	SD202鋼製フラッシュ片開き戸			3											
姿 図																											
場 所	1F：昇降口				1F：ダストシュート(西)				1F：ダストシュート(東)				1・2・3F：階段室														
見 込	枠 70				枠 70																						
材質・仕上					アルマイト仕上げ																						
硝 子	網入りガラス6.8																										
金 物	附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式														
備 考													特定防火設備（遮煙性能）														
符号・数量	SD101	スチール製防火戸（常時開放煙感知器連動）	A：1	B：1	C：1	SD102	スチール製防火戸（常時開放煙感知器連動）	1	SD103	スチール製防火戸（常時開放煙感知器連動）	1	SD104	スチール製防火戸（常時開放煙感知器連動）	1													
姿 図																											
場 所	1・2・3F：廊下				1F：廊下				2F：廊下				3F：廊下														
見 込																											
材質・仕上																											
硝 子																											
金 物	附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式														
備 考	特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）														
符号・数量	SS101	スチール製電動シャッターくぐり戸付き		1	SS102	スチール製電動シャッターくぐり戸付き		2	SS103	スチール製電動シャッターくぐり戸付き		1	SS104	スチール製電動シャッター		1											
姿 図																											
場 所	1F：廊下				2・3F：廊下				3F：廊下				3F：廊下														
見 込																											
材質・仕上	防火防煙シャッター＋スチール扉、パネルSOP				防火防煙シャッター＋スチール扉、パネルSOP				防火防煙シャッター＋スチール扉、パネルSOP				防火防煙シャッター＋スチールパネルSOP														
硝 子																											
金 物	附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式														
備 考	特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）														
符号・数量	SS201	スチール製電動シャッター		1	SS202	スチール製電動シャッター		2	SS203	スチール製電動シャッター		1															
姿 図																											
場 所	1F：廊下				2・3F：廊下				1F：階段室																		
見 込																											
材質・仕上	防火防煙シャッター																										
硝 子																											
金 物	附属金物一式				附属金物一式				附属金物一式																		
備 考	特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）				特定防火設備（遮煙性能）																		
千葉市都市局建築部営繕課				千葉市小中台小学校エレベータ設置工事				設計年月日		令和 7 年 1 0 月 日		変更年月日				図面名		既存建具表－4		縮尺		A 1 1:50 A 3 1:100		図面番号		A－2 6	

符号・数量	<div>AL</div> <div>301</div> アルミ製2連2段引違窓	9	<div>AL</div> <div>302</div> アルミ製2連引違窓	3	<div>AL</div> <div>303</div> アルミ製2連引違窓	4	<div>AL</div> <div>304</div> アルミ製引違窓	6	<div>AL</div> <div>305</div> アルミ製引違窓	6	<div>AL</div> <div>306</div> アルミ製ガラリ付き引違窓	6
姿 図												
場 所	1F：コンピュータ室、PTA室、多目的室 2～3F：普通教室		1～3F：階段室		2～3F：廊下		1F：昇降口 2～3F：廊下、小荷物EVホール		1～3F：廊下		1～3F：男子便所、女子便所	
見 込	枠 70		枠 60		枠 50		枠 60		枠 60		枠 60	
材質・仕上												
硝 子	強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		網入ガラスt6.8（透明）		強化ガラスt4.0	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備 考									防火設備			
符号・数量	<div>AL</div> <div>307</div> アルミ製引違窓	1	<div>AL</div> <div>308</div> アルミ製引違窓	3	<div>AL</div> <div>309</div> アルミ製ガラリ付き引違窓	1			<div>AD</div> <div>301</div> アルミ製ランマ付引分け戸	2	<div>AD</div> <div>302</div> アルミ製2連2段引違戸付き窓	9
姿 図												
場 所	RF：階段室		1～3F：小荷物EVホール		1F：ポンプ室				1F：昇降口		1F：コンピュータ室、資料室、多目的室 2～3F：普通教室	
見 込	枠 60		枠 60		枠 60				枠 100		枠 70	
材質・仕上									アルマイト仕上げ			
硝 子	強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0				強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0	
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式				附属金物一式		附属金物一式	
備 考												
符号・数量	<div>AD</div> <div>303</div> アルミ製2段引違窓付き戸	3	<div>AD</div> <div>304</div> アルミ製引違戸 + FIX	1	<div>AD</div> <div>305</div> アルミ製2連引違窓付き戸	2			<div>SS</div> <div>301</div> スチール製電動シャッターくぐり戸付き	3		
姿 図												
場 所	1～3F：廊下(外階段前)		RF：階段室		1F：渡り廊下				1・2・3F：廊下			
見 込	枠 70		枠 70		枠 70							
材質・仕上									防火防煙シャッター+スチール扉、パネルSOP			
硝 子	強化ガラスt4（透明）		強化ガラスt4.0		強化ガラスt4.0				附属金物一式			
金 物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式				特定防火設備（遮煙性能）			
備 考												
符号・数量												
姿 図												
場 所												
見 込												
材質・仕上												
硝 子												
金 物												
備 考												

千葉市都市局建築部営繕課		千葉市小中台小学校エレベータ設置工事		設計年月日		変更年月日		変更年月日		図面番号	既存建具表－5		縮尺	A 1 1:50 A 3 1:100	図面番号	A－2 7	
特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項	



符号・数量		<div><div>AL401</div>アルミ製2連2段引違窓付き戸</div>	4	<div><div>AL402</div>アルミ製2連2段引違窓付き戸</div>		4	<div><div>AL403</div>アルミ製2連引違窓</div>		2	<div><div>AL404</div>アルミ製引違窓</div>		2	<div><div>AL405</div>アルミ製引違窓</div>			
姿 図																
	1～2F：普通教室			1～2F：普通教室			2F：多目的室			2F：廊下、階段室			2F：階段室			
	枠 70			枠 70			枠 70			枠 70			枠 70			
	材質・仕上			材質・仕上			材質・仕上			材質・仕上			材質・仕上			
	硝子 強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）			硝子 強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）			硝子 強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）			硝子 網入りガラスt6.8(階段室)、新設：強化ｶﾞﾗｽ（透明）			硝子 網入りガラスt6.8(階段室)			
金 物		附属金物一式			附属金物一式			附属金物一式			附属金物一式			附属金物一式		
備 考																
符号・数量		<div><div>AD401</div>アルミ製ランマ付引分け戸</div>	2				<div><div>AD402</div>アルミ製引違戸</div> [強化ガラス交換t4（透明） 1か所]		1	<div><div>SD401</div>鋼製両開き戸</div>		1	<div><div>SD402</div>鋼製片開きフラッシュ戸</div>		1	
姿 図																
	1F：昇降口						1F：廊下			1F：階段室			1F：倉庫			
	枠 100						枠 70			枠 100			枠 100			
	材質・仕上															
	硝子 網入りガラスt6.8、強化ｶﾞﾗｽt4.0（透明）						硝子 網入り型板ガラスt6.8、フロートガラスt3.0			硝子 網入り型板ガラスt6.8						
金 物		附属金物一式						附属金物一式			附属金物一式			附属金物一式		
備 考																
符号・数量		<div><div>SS401</div>スチール製電動シャッター</div>	1				<div><div>SD403</div>鋼製片開きフラッシュ戸</div>		1							
姿 図																
	1・2F：廊下						1F：倉庫									
	見 込															
	材質・仕上 防火防煙シャッター															
	硝子															
金 物		附属金物一式						附属金物一式								
備 考		特定防火設備（遮煙性能）						特定防火設備（遮煙性能）								
符号・数量																
姿 図																
場 所																
見 込																
材質・仕上																
硝子																
金 物																
備 考																

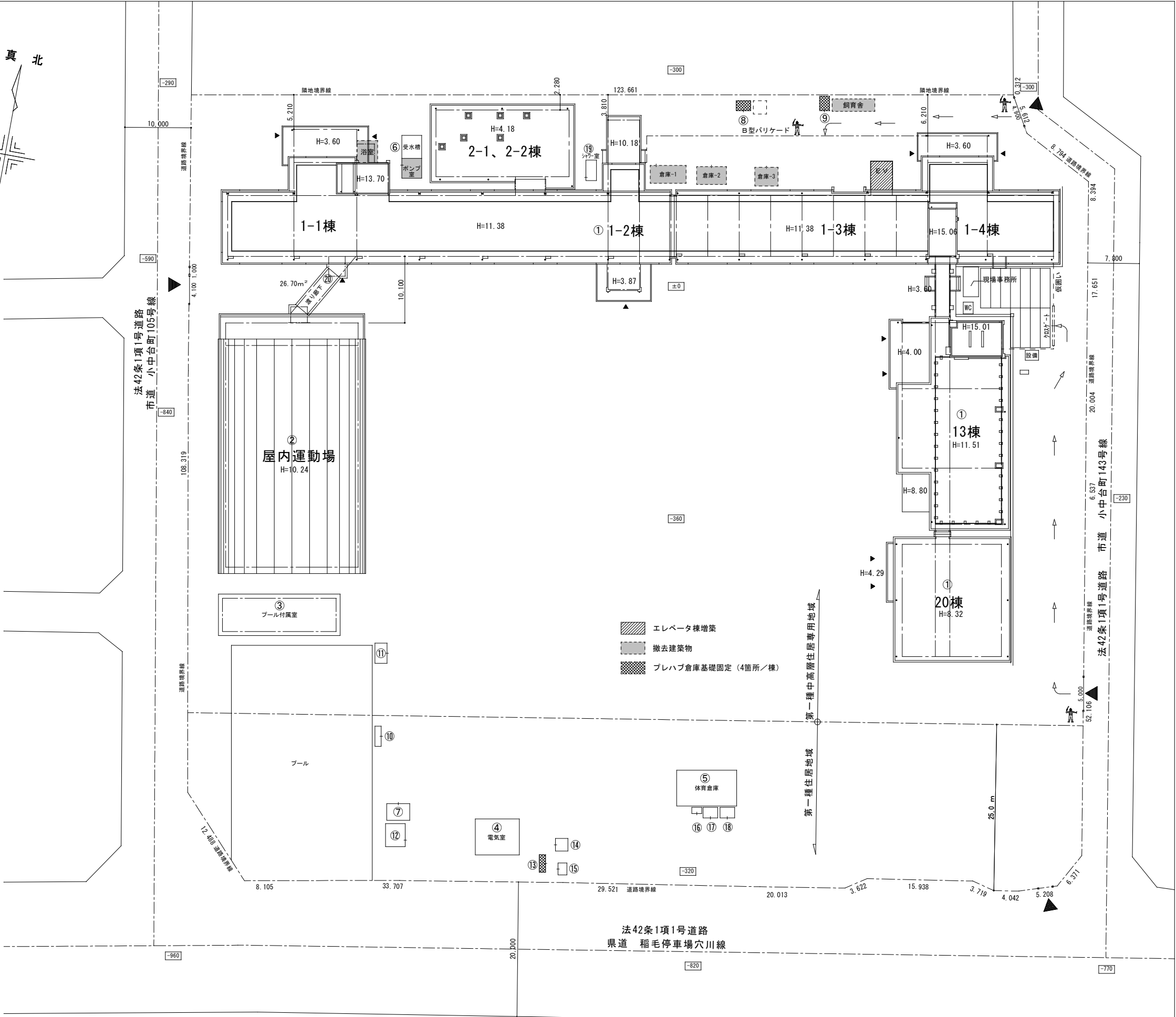
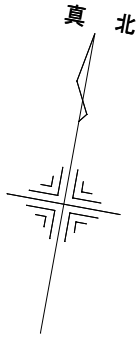
千葉市都市局建築部営繕課		千葉市小中台小学校エレベータ設置工事		設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日		変更年月日		図面名	既存建具表－6	縮尺	A 1 1:50 A 3 1:100	図面番号	A－28
特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項							



仮設計画(参考)

- ・必要に応じて交通誘導員を配置すること。(配置は参考とする)
- ・学校関係者(児童・職員)及び近隣住民等への安全管理を徹底すること。  
登下校時の搬出入には特に注意すること。
- ・作業員通路の床壁等は養生を行うこと。
- ・仮設計画は参考とする。
- ・仮設計画は工事前に学校及び監督員と協議の上決定すること。

仮設計画凡例		
	B型バリケード	48.0m
	仮囲い：成形鋼板 H2,000	16.0m
	クロスゲート H1,800 W6,000	1ヶ所
	交通誘導員B	10人工
	工事用進入経路	
	敷鉄板 1500×6000×22	11枚



配置図

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日  
令和 7 年 1 0 月 日  
特記事項

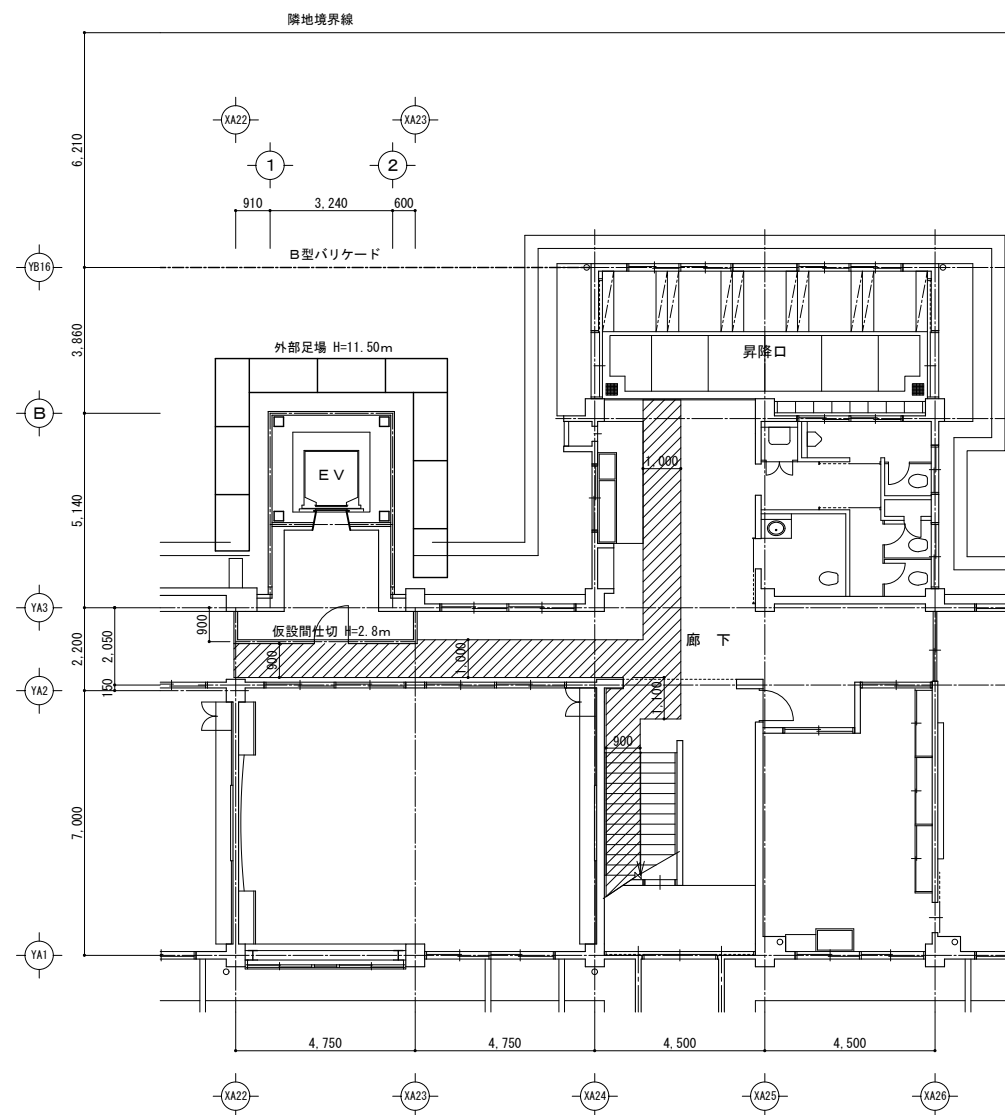
変更年月日  
特記事項

変更年月日  
特記事項

図面名  
仮設計画図－１（参考図）

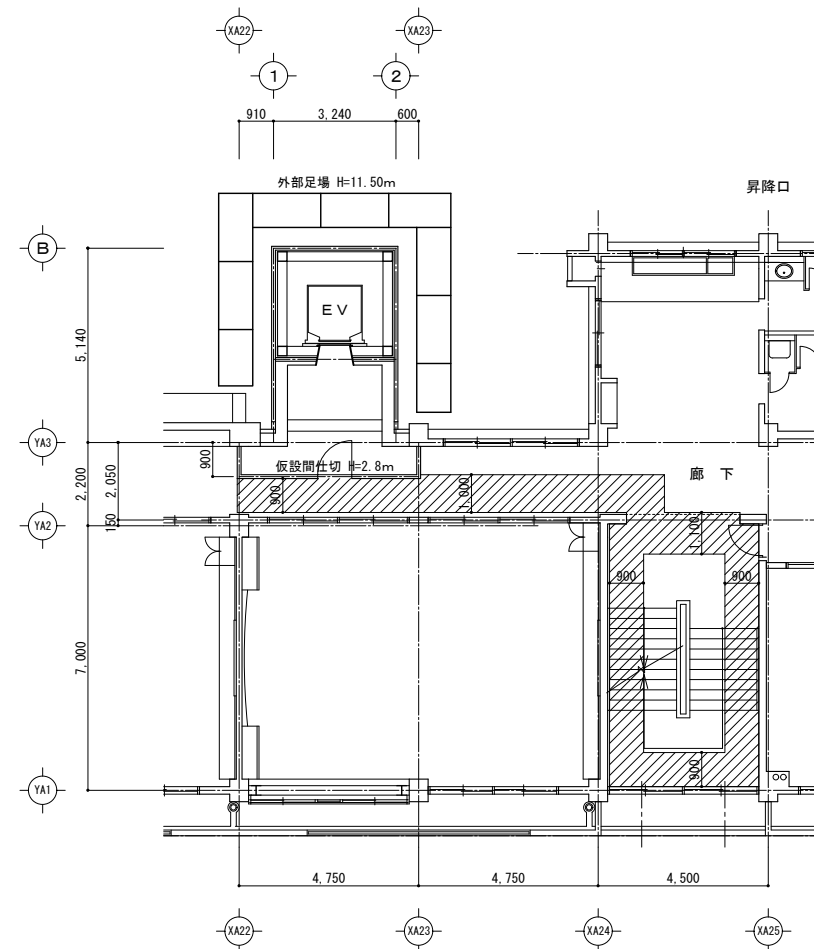
縮尺  
A 1 1:300  
A 3 1:600

図面番号  
A－30



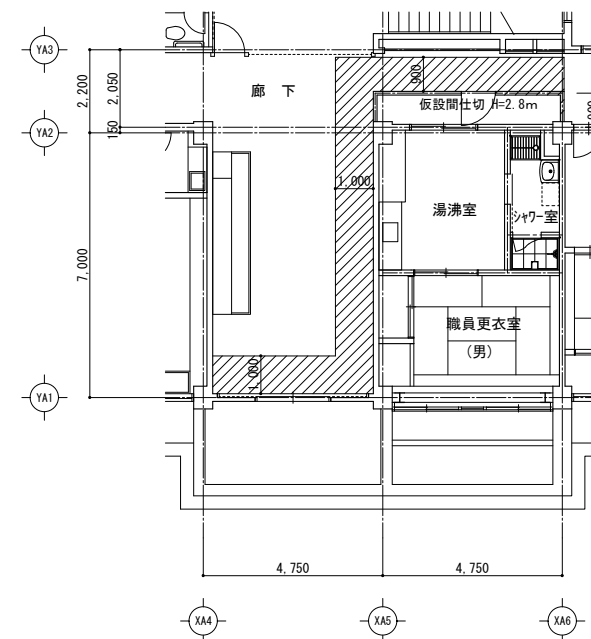
1階エレベータ棟増築部分

床シート養生



2・3階エレベータ棟増築部分

床シート養生



シャワー室改造部分

床シート養生



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

## 1. 一般事項

( 1 ) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

( 2 ) 記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値(径) D…部材の成、又は鉄筋内法直径

@…間隔 r…半径 ℓ…中心線 ℓ<sub>0</sub>…部材間の内法距離 h<sub>0</sub>…部材間の内法高さ

ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S. HOOP…補強帯筋

## 2. 鉄筋加工

( 1 ) 鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
	135°		D19～D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	6d以上
			D29～D41	6d以上

[注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。

(2) スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

(3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

(4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

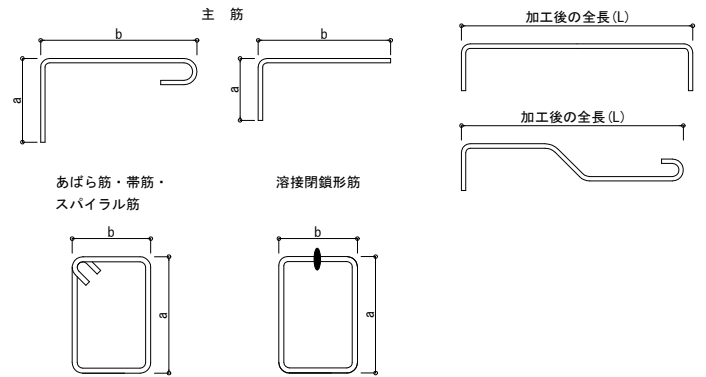
(5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

(6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

( 2 ) 加工寸法の許容差

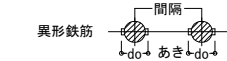
項 目		符 号	許 容 差
各加工寸法 <sup>(1)</sup>	主 筋	D25以下	a, b
		D29以上D41以下	a, b
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5
加工後の全長		L	±20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



( 3 ) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

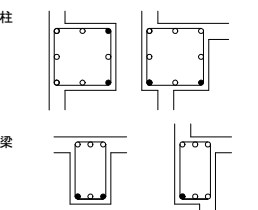


( 4 ) 鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
- 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
- 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所

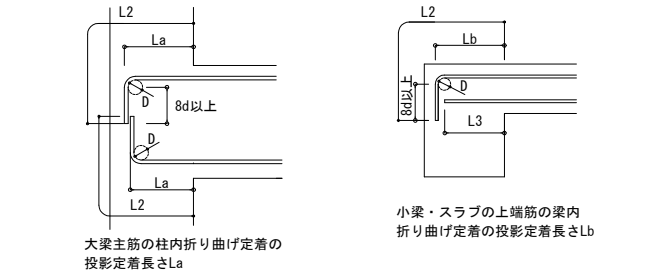
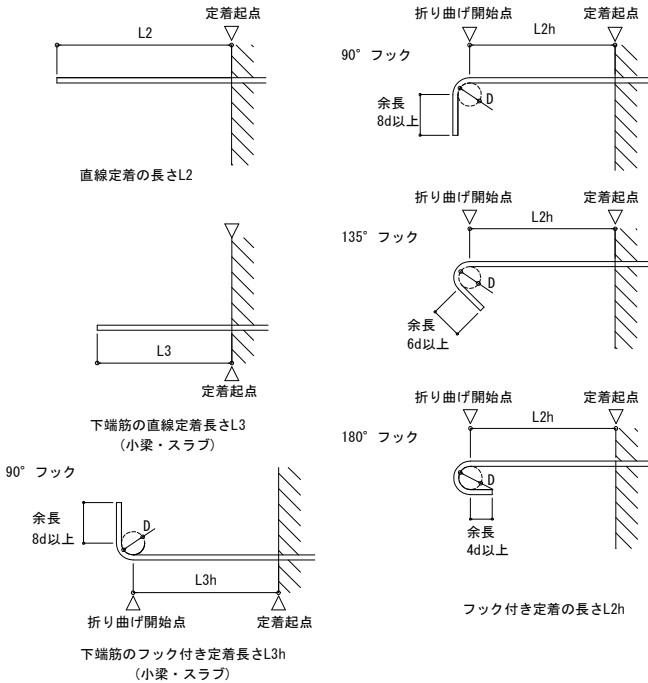
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



( 5 ) 定着長さ (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

鉄筋種別	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	定 着 の 長 さ						
		一 般				小梁下端筋		スラブ下端筋
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	L <sub>a</sub> <sup>(1)</sup> (3/4・D以上)	L <sub>b</sub>	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)	L3 (フックなし)
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d かつ 150以上
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	－	－	－	－
	30～36	40d	30d	25d	－			
	39～45	40d	30d	20d	－			
	48～60	35d	25d	20d	－			

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さはL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
- (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
- (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さはL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さはL<sub>a</sub>以上とし、余長を8d以上とする。尚、L<sub>a</sub>の値は原則として柱せいりの3/4倍以上とする。
- (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



( 6 ) 継手

■重ね継手 (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
	24～27	55d	40d
SD490	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

[注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

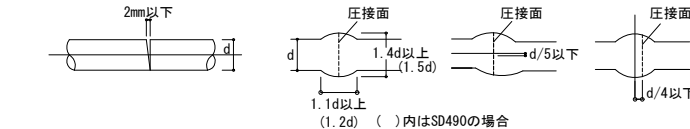
(2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

(3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

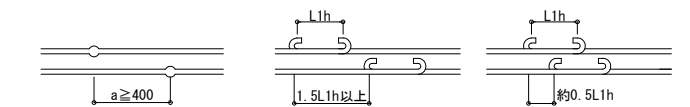
■継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



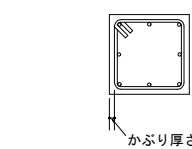
・圧接継手



- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

( 7 ) かぶり厚さ(単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



部 位		設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	30	20
	床スラブ	40 <sup>(1)</sup>	30 (20)
	耐力壁	40	30
	柱	50 <sup>(2)</sup>	40 <sup>(1)(30)</sup>
土に接する部分	耐力壁	50	40
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	40
	基礎・擁壁	70	60

[注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、構造設計者の承認を受けて30mmとすることができる。

(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、構造設計者の承認を受けて40mmとすることができる。

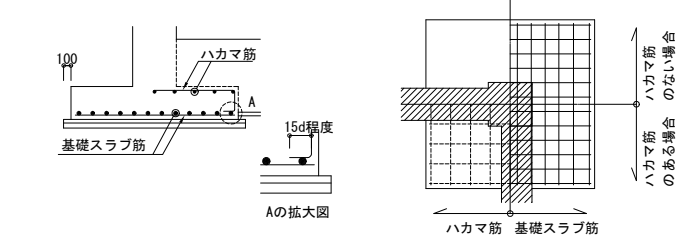
(3) ( ) 内は仕上げがある場合。

## 3. 杭・基礎

(配筋については地震力等の水平力を考慮して別途検討すること)

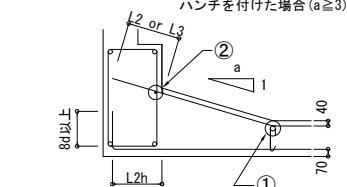
( 1 ) 直接基礎

①独立基礎



( 1 ) 直接基礎 (続)

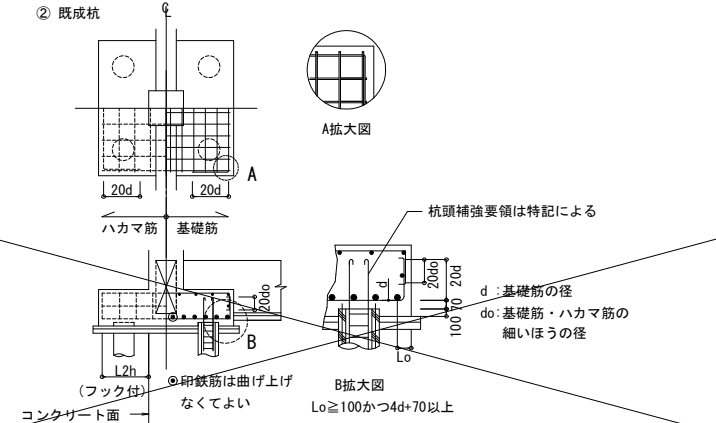
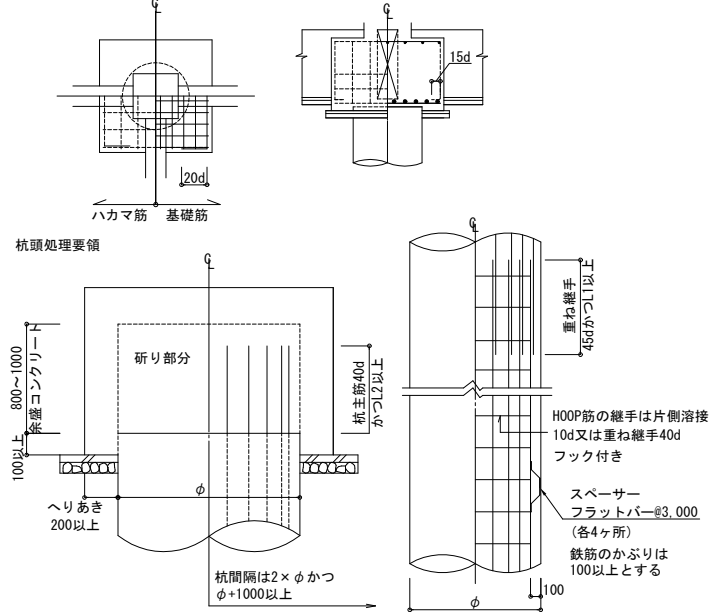
②ベタ基礎



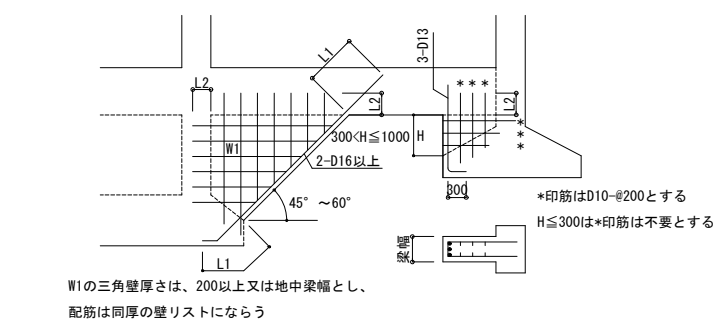
- 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう但し上筋と下筋を読みかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40を70とする

( 2 ) 杭基礎

①場所打ち杭



( 3 ) 基礎接合部の補強

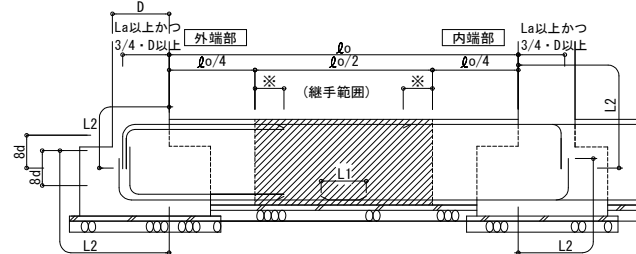


# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

## 4. 地中梁

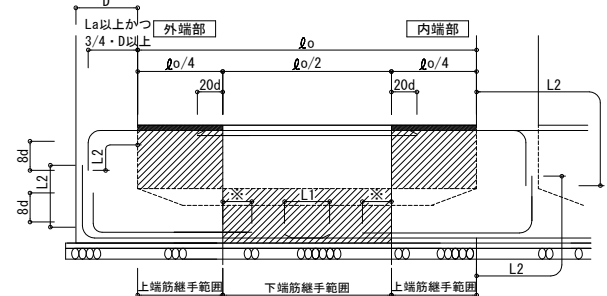
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)

(長期荷重が支配的な場合の継手は6. (2)大梁継手位置とする。)



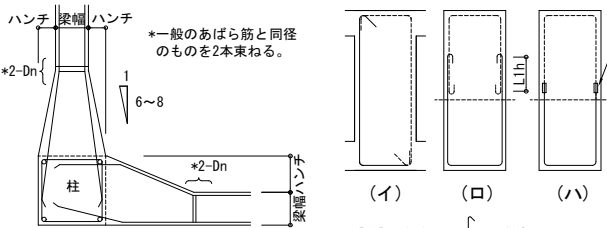
※主筋のカットオフ長さは  $l_o/4 + 15d$  を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

### (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



※主筋のカットオフ長さは  $l_o/4 + 15d$  を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

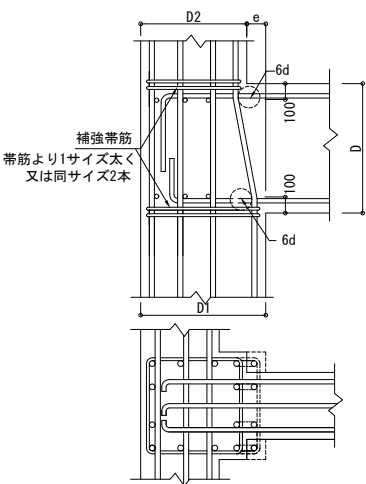
### (3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図



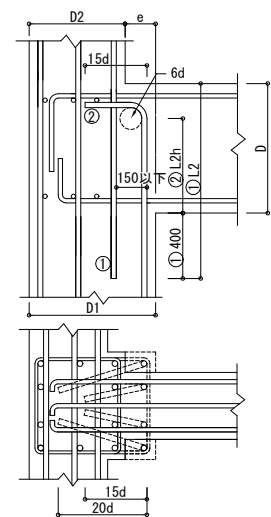
※一般のあばら筋と同径のものを2本束ねる。  
※一般のあばら筋と同径のものを2本束ねる。  
[注] (イ)で、 $\square$  を使用してよいが、 $\square$  は使用してはいけない。  
(ロ)では、あばら筋の継手は180° フック付きとする。

## (6) 絞り

(a)  $e \leq D/6$  かつ 150

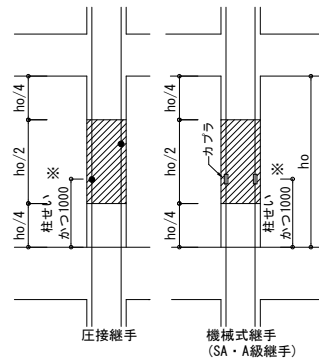


(b)  $D/6 < e \leq 150$



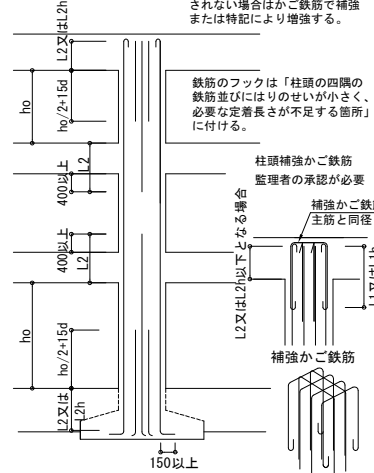
## 5. 柱

### (1) 柱主筋の継手位置

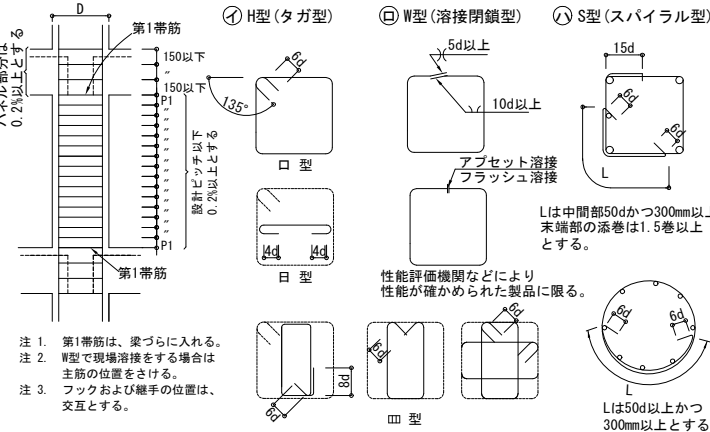


※柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

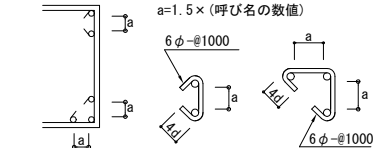
### (2) 柱主筋の定着



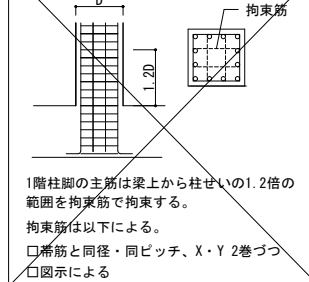
### (3) 帯筋



### (4) 寄せ筋の保持

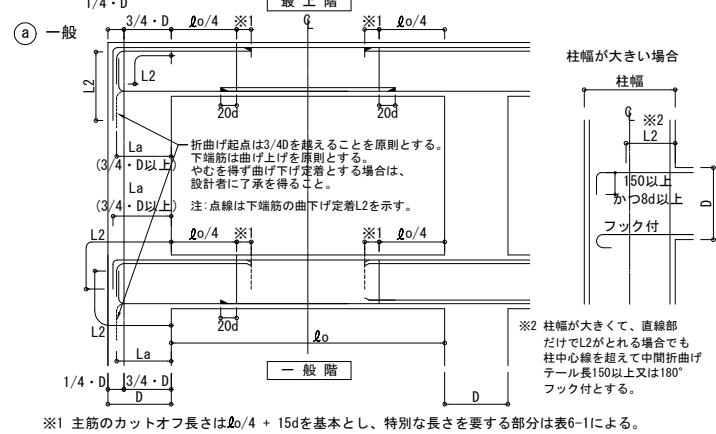


### (5) 柱脚部の補強

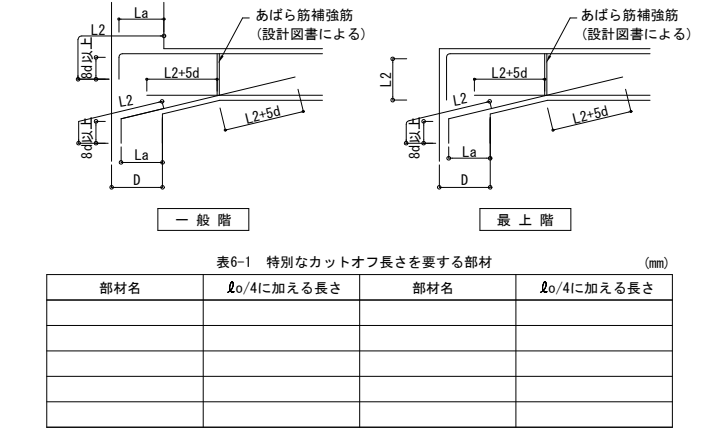


## 6. 大梁

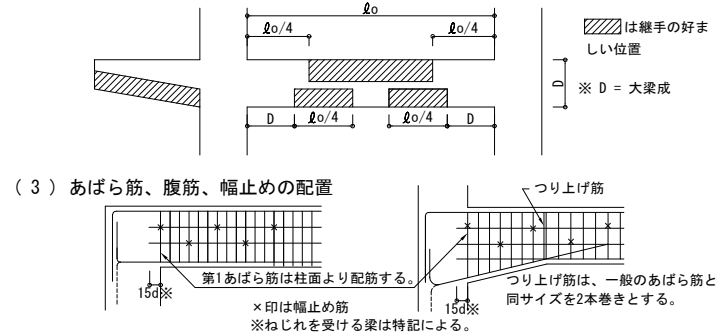
### (1) 定着



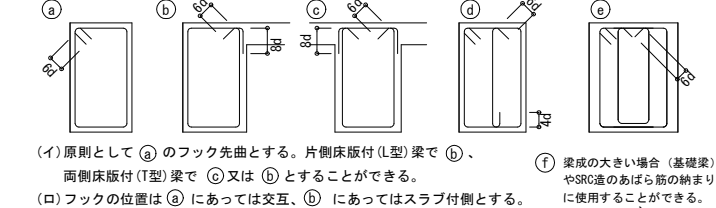
### (2) 大梁主筋の継手



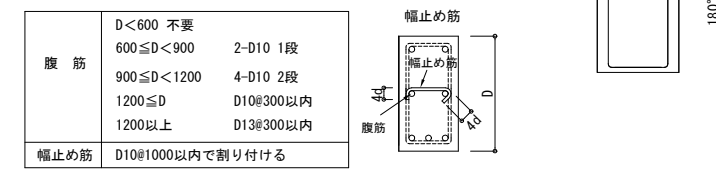
### (3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



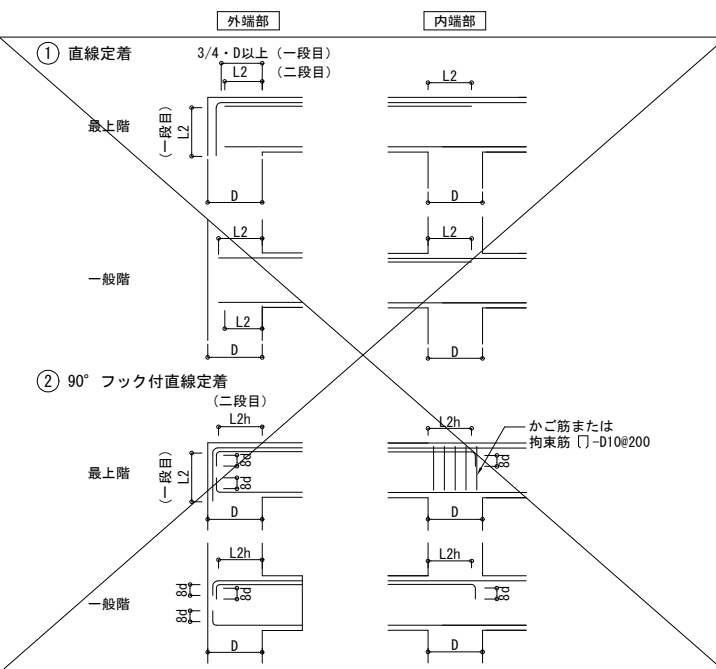
### (4) あばら筋の型



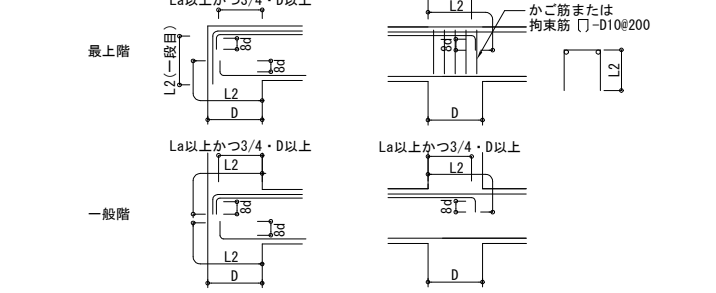
### (5) 幅止め筋の本数、加工



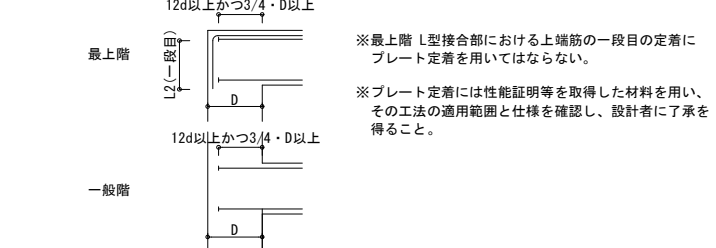
## (6) 梁主筋の定着



### (3) 折曲げ定着



### (4) プレート定着

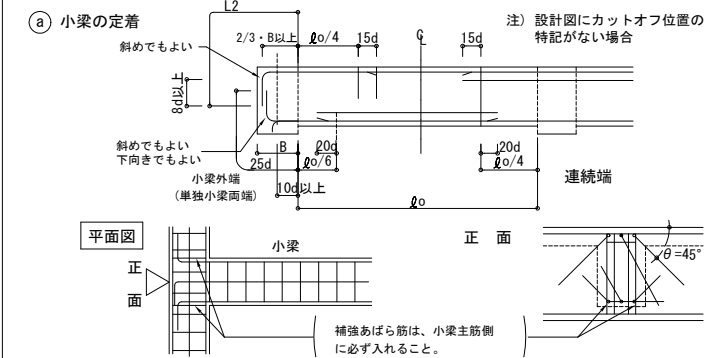


# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

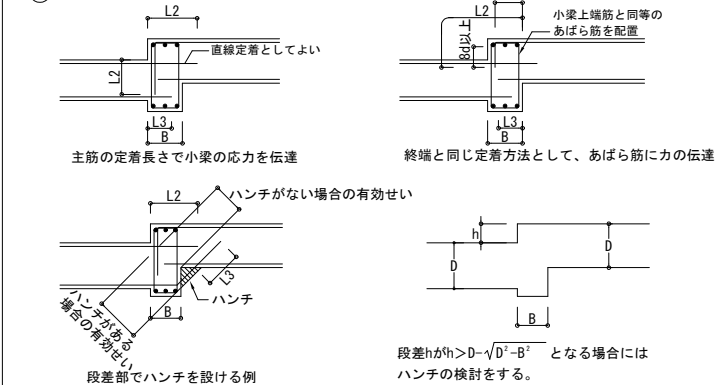
## 7. 小梁、片持梁

### (1) 定着

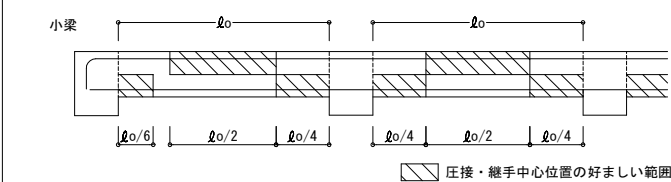
#### ① 小梁の定着



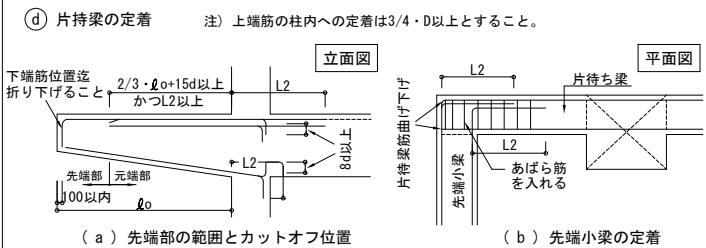
#### ② 段差小梁の配筋 (連続端の場合)



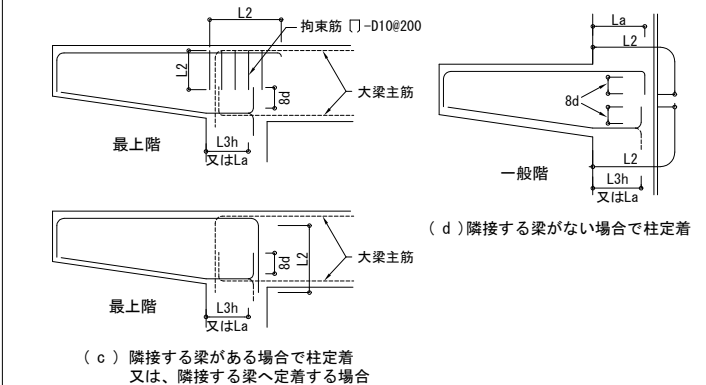
#### ③ 小梁筋の継手位置



#### ④ 片持梁の定着

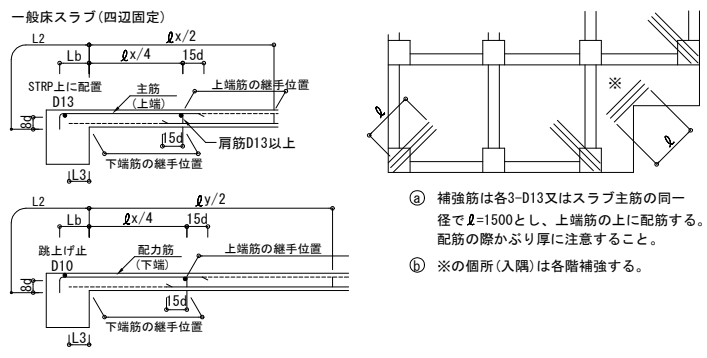


#### ⑤ 片持梁の定着

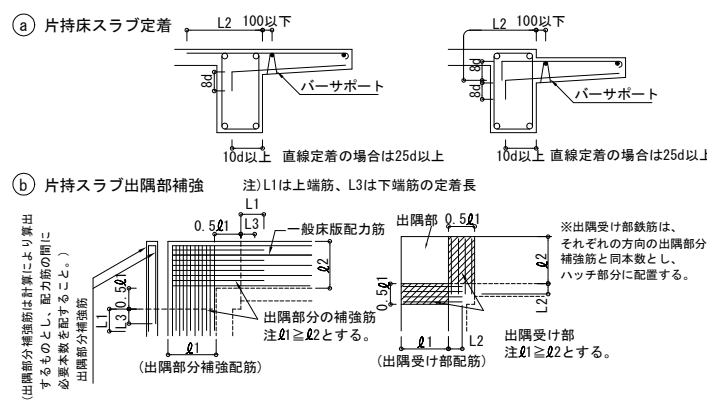


## 8. 床版

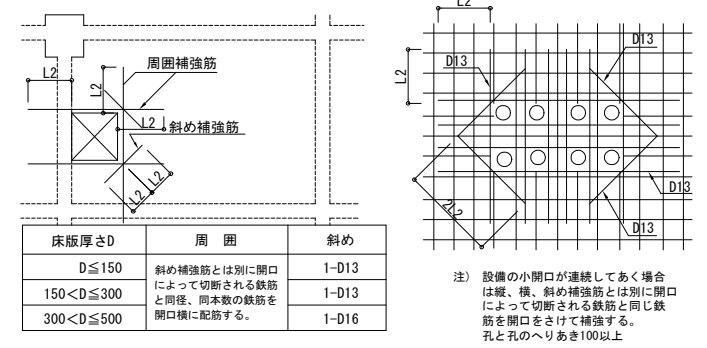
### (1) 定着および継手



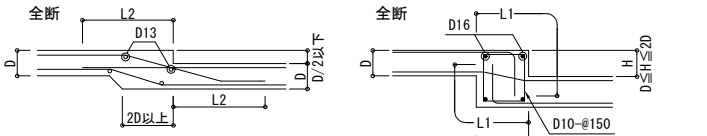
### (3) 片持床スラブ定着及び出隅部補強



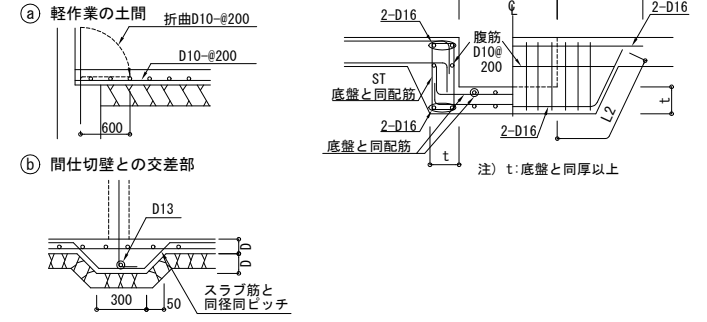
### (4) 床版開口部の補強 (開口の径600以下程度の場合)



### (5) 床版段差

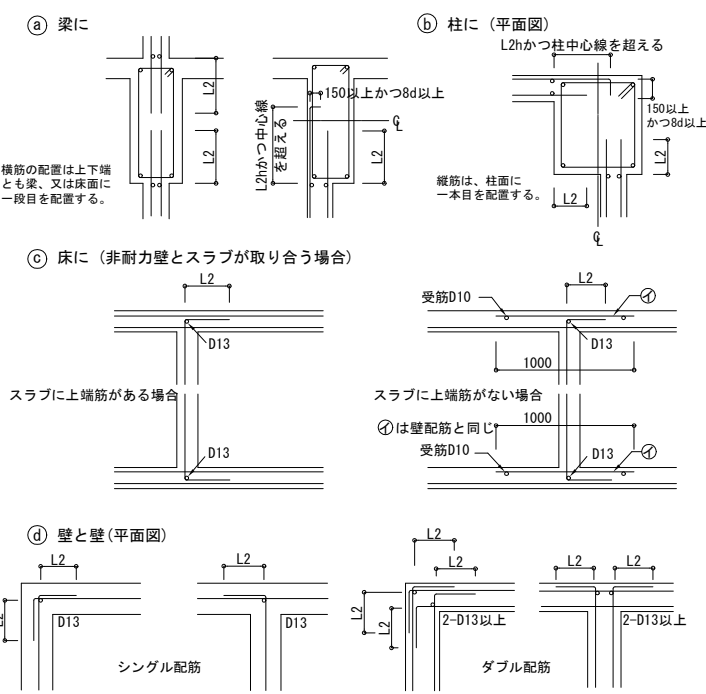


### (6) 土間コンクリート

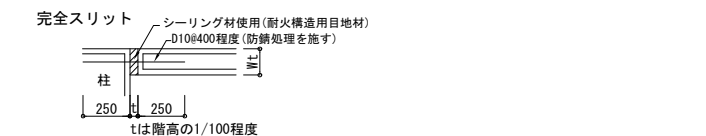


## 9. 壁

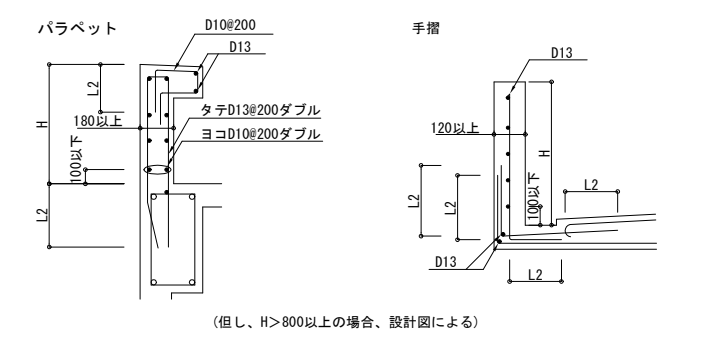
### (1) 定着



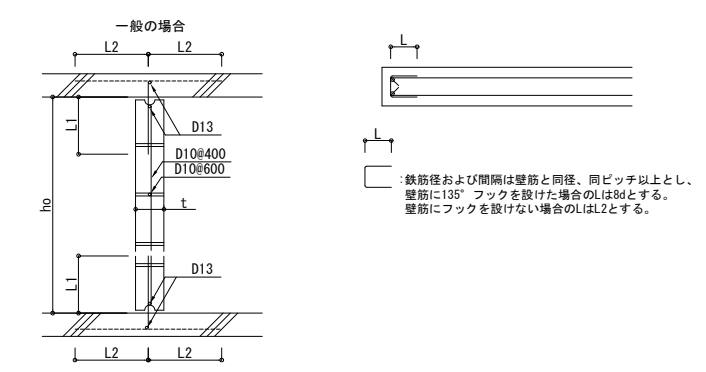
### (2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)



### (3) 手摺、パラベット

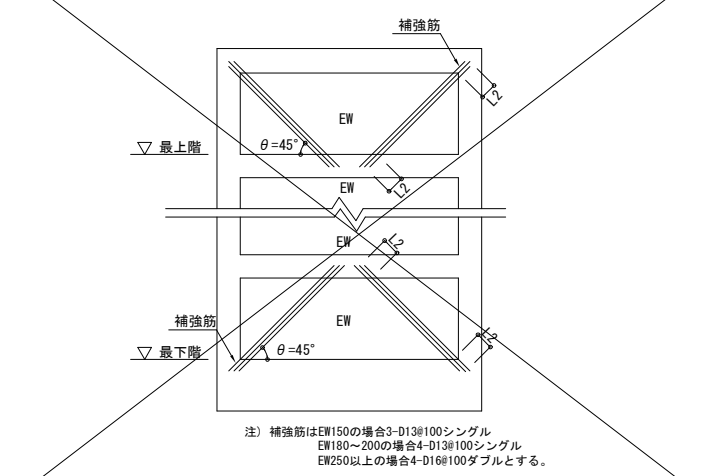


### (4) コンクリートブロック塀壁



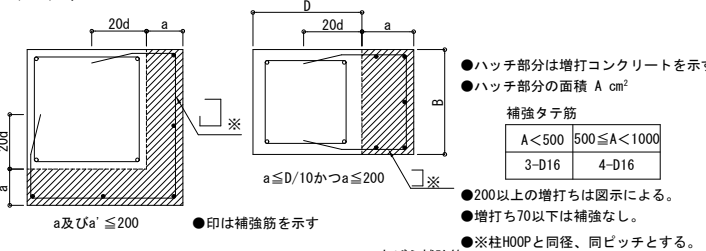
注)  $h \leq 25t$  かつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く  
注)  $h$ はコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、 $200 \leq h \leq 400$   
注) 継手部は必ずモルタルを充填すること

### (6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋

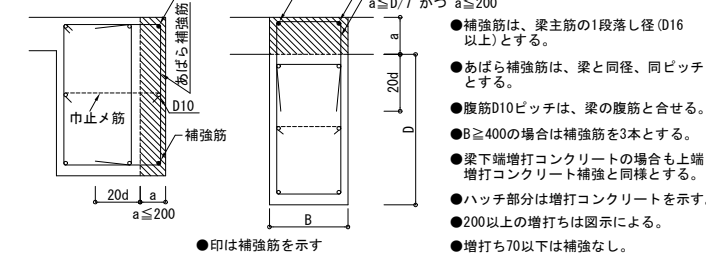


## 10. 柱、梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)

### (1) 柱

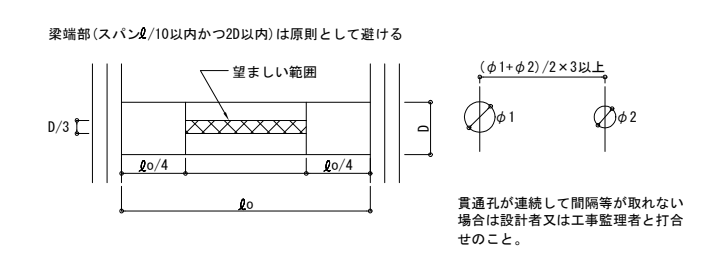


### (2) 梁

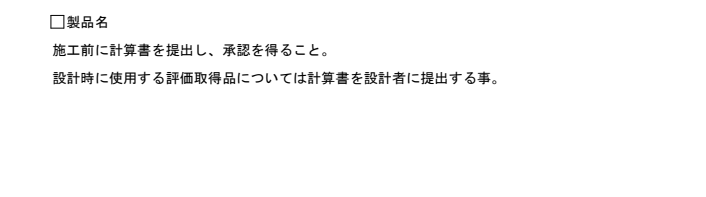


## 11. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認し、設計者に承認を得ること)

### (1) 設置可能範囲



### (2) 既製品 (指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと)





# 鉄骨構造標準図(1)

## 1. 一般事項

### (1) 材料及び検査

- (a) 新構造設計特記仕様その1による。  
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。  
但し、ベースプレートの厚さは除く。  
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の検査結果を添付する。

### (2) 工作一般

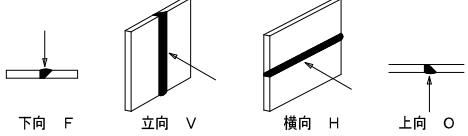
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る  
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による  
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

### (3) 高力ボルト接合

- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない  
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。  
但し、ショットブラスト、グライットブラストによる処理で表面荒さが、 $50\mu\text{m Rz}$ 以上である場合は、さびの発生は要しない。  
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

### (4) 溶接接合

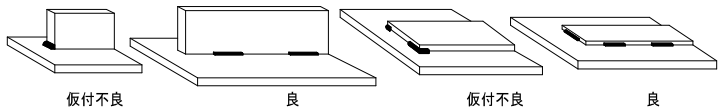
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。  
(b) 溶接技能者  
溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする。  
(c) 溶接機器  
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機  
(ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計  
(ハ) セルフシールドアーク溶接機 (ヘ) 溶接棒乾燥機  
(d) 溶接方法  
被覆アーク溶接(アーク手溶接、MC、MP) ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、GC、GP)  
セルフシールドアーク溶接(半自動溶接、NGC) アークエアーガウジング(AAG)  
(e) 溶接姿勢



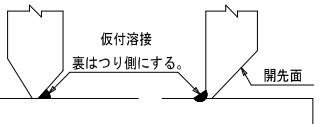
- (f) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。

#### (イ) 仮付位置

組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



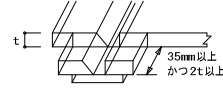
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



#### (g) 溶接施工

##### (イ) エンドタブ

- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同間先形状のエンドタブを取り付ける。
- エンドタブの材質は、母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
- エンドタブの長さは、MC: 35mm以上  
NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
- プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。

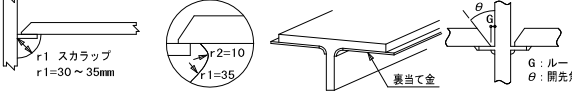


##### (ロ) 裏当て金

- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。

- 但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。  
(ハ) スカラップ半径は  $r1=30\sim35\text{mm}$  と  $r2=10\text{mm}$  のダブルールとする。但し梁成が  $D=150\text{mm}$  未満の場合のスカラップは  $r1=20\text{mm}$  とする。

##### (ニ) ノンスカラップ工法



##### (ホ) 裏はつり

- 標準図の溶接においてAAGと記載してある部分は全て、アークエアーガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。

- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う。

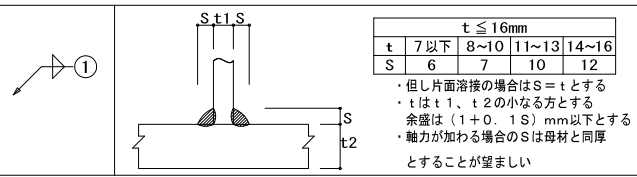
### (5) 塗装

- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

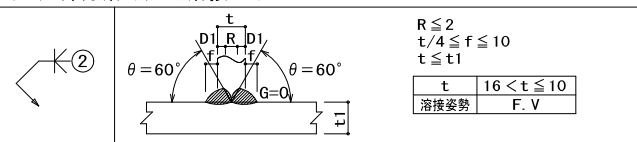
## 2. 溶接標準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位 mm)

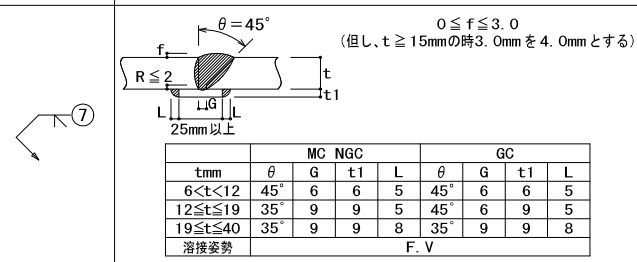
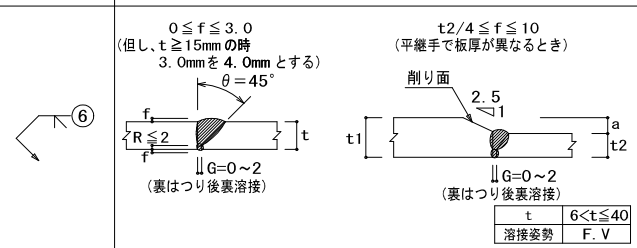
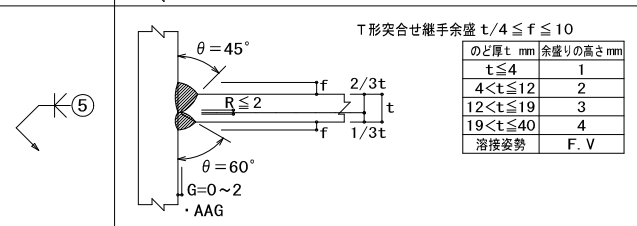
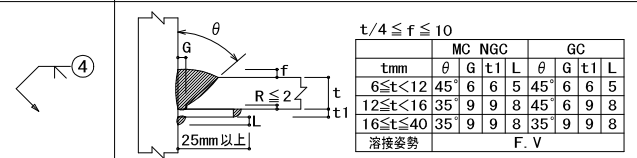
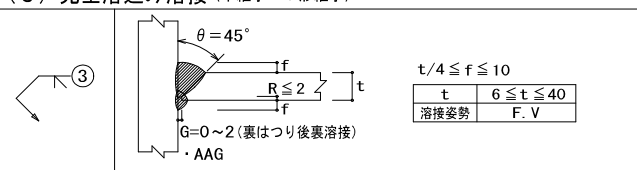
### (1) 隅肉溶接



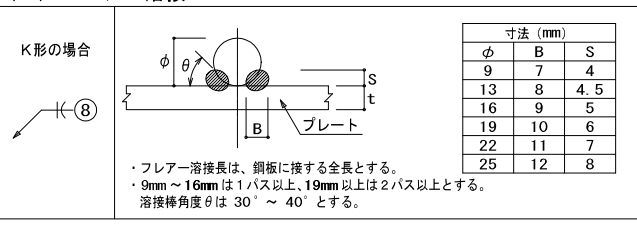
### (2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意到)



### (3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

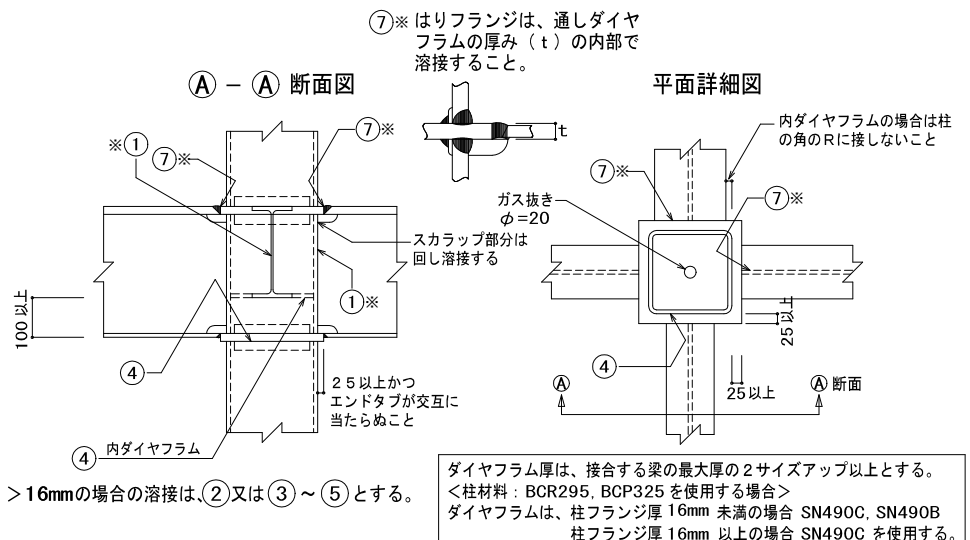
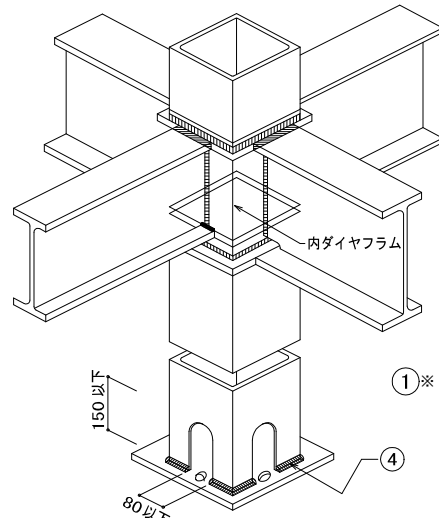


### (4) フレア溶接



○ 溶接記号番号を○中に記入のこと

## ● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

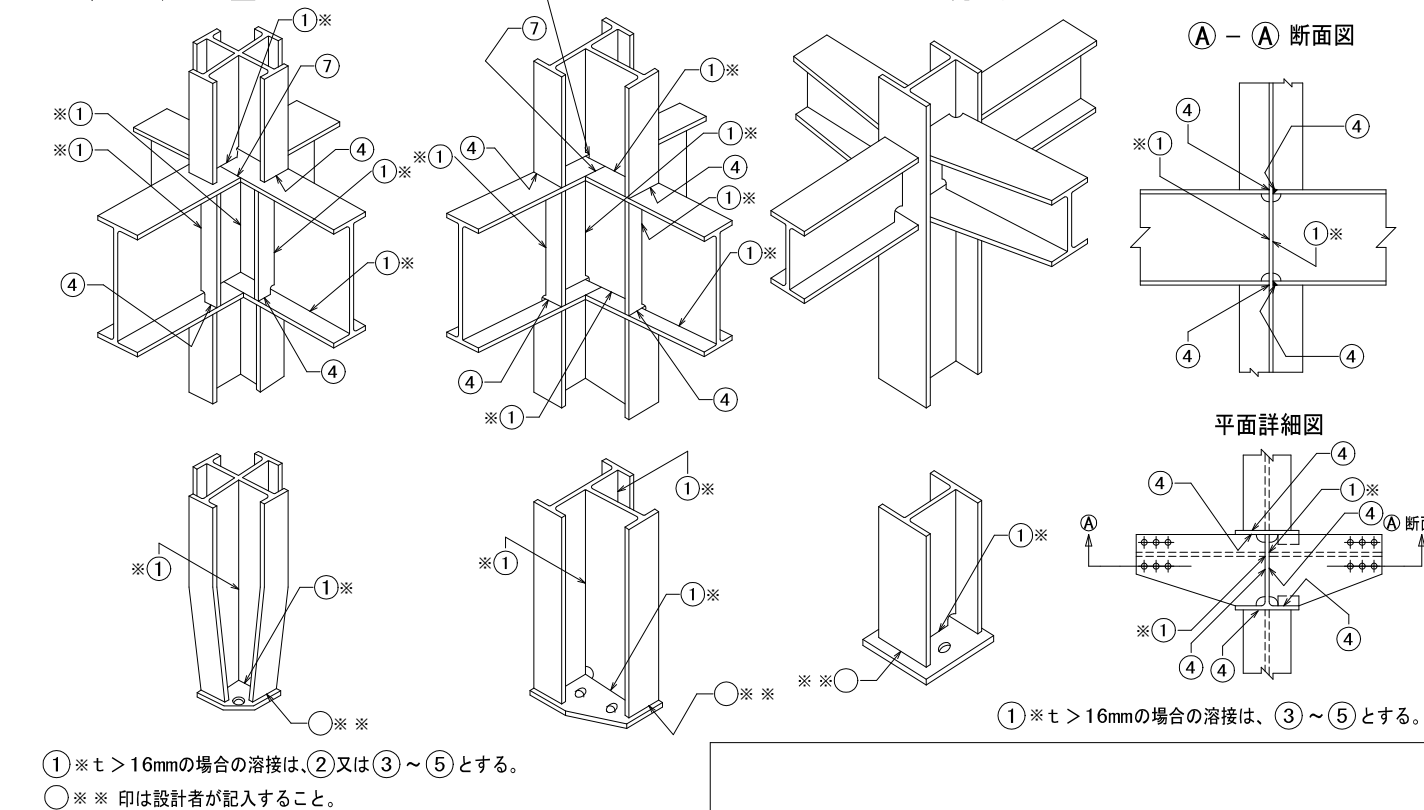


## ● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	溶接材料と入熱量・パス間温度	
		入熱(KJ/cm)	パス間温度(℃)
400N/mm <sup>2</sup> 級鋼	JIS Z 3312	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3315		
	YGA-50W, 50P		
490N/mm <sup>2</sup> 級鋼	JIS Z 3312	40 "	350 "
	YGW-11, 15	30 "	250 "
	YGW-18, 19	40 "	350 "
	JIS Z 3315	40 "	350 "
	YGA-50W, 50P	40 "	350 "

(注) STKR、BCR、BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可  
「新構造設計特記仕様その1 6. 鉄骨工事 (2) 口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

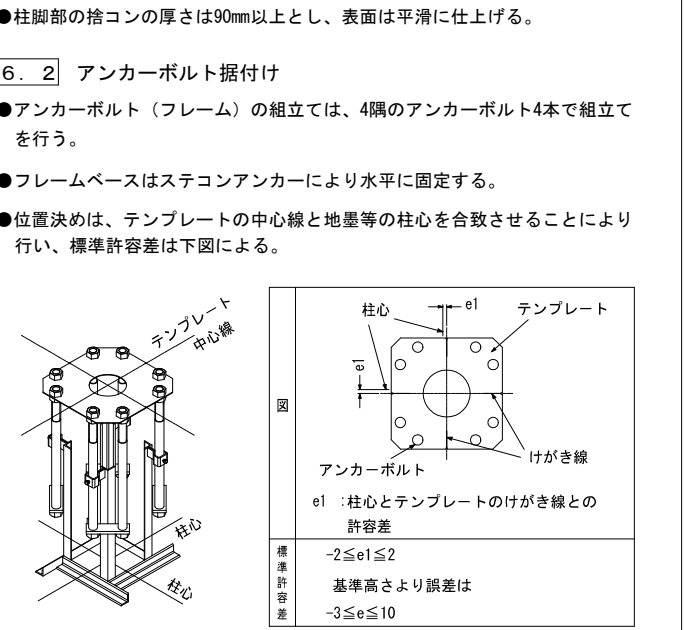
## ● 中、H、H型



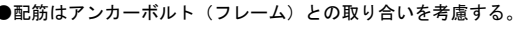


## 6. 工事場施工

## 6. 1 基礎工事



### 6. 3 配筋およびコンクリート打設



## 5. 工場製作（溶接）

ト ア ク 溶	ト ア ク 溶	6~	7	$-2, +\infty$ $(-3, +\infty)$	2
------------------	------------------	----	---	----------------------------------	---

※許容差・記号○は制限しを示す。  
 ※2段置きは「鉄骨精確検査基準」に規定する許容差(上段・管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が $5^{\circ}\text{C}$ 以上のベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)	
		t<32	32≤t≤50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50℃
CGシールドアーク溶接※	SN490B	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCGシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素被覆アーク溶接に準じる。

●検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

## 7. 本工法の施工及び施工管理

- 本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
- 本工法のうち 6. 2 アンカーボルト据付け及び 6. 6 ベースバックグラウトの注入は、ベースバック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースバック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
- ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

# QLデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社

## 耐火補強筋不要仕様 [耐火認定FP060FL-0099, 0100, 0101, 0102, 0126, FP120FL-0127用]

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

### 設計

材料／デッキプレート [ISO 9001認証取得]		
デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理
■QL99-50 □QL99-75	端部加工 □ミ加有り □無し	□1.0
		□面防錆処理(一次塗装) QLプライマー (P) <sup>+1</sup> ■珪鉛めっき [■Z12 □Z27] □その他( )
	■1.2 □1.6	□珪鉛めっき [■Z12 □Z27] □JFEエポキシ(高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他( ) □無し <sup>+2</sup>
		材 質 JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP2, SDP2G

材料／コンクリート		
種類	■普通コンクリート	
設計基準強度	□18	■21 □24 □( ) N/mm <sup>2</sup>
厚さ(QLデッキ上)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □( ) mm	

材料／溶接金網・異形鉄筋		
■溶接金網	JIS G 3551	□φ6-75×75 □φ6-150×150 ■φ6-70×100 □( ) <sup>+3</sup>
□異形鉄筋	JIS G 3112, 3117	□D10-150×150 □D10-200×200 □( )

接合	
梁との接合	□頭付きスタッド JIS S 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による <sup>+4</sup> )
	■焼抜き栓溶接 下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み板 接合面所は特記による
	□その他

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50	床1時間	単純/連続	普通	不要	□FP060FL-0126 ■FP060FL-0100 □FP060FL-0101 □FP060FL-0102 □FP060FL-0099 □FP120FL-0127
QL99-75					
その他	□指定なし □( ) □( ) □( )				

特記	
支保工有無	□無し □有
■無 □有	□無し □有

焼抜き栓溶接	
デッキプレート幅方向 QL99-50	QL99-75

## デッキプレートスパン方向

「QLデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$A_w = \frac{1.5Q_d}{Q_a} \times 100.0 \text{ mm} \text{ かつ } 600 \text{ mm 以下}$$

$A_w$ : 焼抜き栓溶接ピッチ

$Q_d$ : 設計最大せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$Q_a$ : 焼抜き栓溶接 1個当たりの長期許容せん断力 (N)

$$A_w = ( 600 ) \text{ mm}$$

(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

■施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)	
コンクリート厚(mm)	単位 (mm)
80	1.0 1.2 1.6 1.0 1.2 1.6 1.0 1.2 1.6 1.0 1.2 1.6 1.0 1.2 1.6
単純	2.28 (2.42) 2.64 (2.64) 2.26 (2.39) 2.61 (2.61) 2.24 (2.37) 2.59 (2.59) 2.22 (2.35) 2.57 (2.57) 2.20 (2.33) 2.54 (2.54) 2.18 (2.31) 2.51 (2.51) 2.16 (2.29) 2.48 (2.48) 2.14 (2.27) 2.45 (2.45)
2連続	3.06 (3.20) 3.54 (3.54) 3.03 (3.16) 3.51 (3.51) 3.01 (3.14) 3.48 (3.48) 2.98 (3.11) 3.44 (3.44) 2.96 (3.09) 3.41 (3.41) 2.94 (3.07) 3.39 (3.39) 2.92 (3.05) 3.36 (3.36) 2.90 (3.03) 3.33 (3.33)
3連続	2.82 (2.96) 3.26 (3.26) 2.80 (2.93) 3.23 (3.23) 2.77 (2.90) 3.20 (3.20) 2.75 (2.88) 3.17 (3.17) 2.72 (2.85) 3.14 (3.14) 2.70 (2.83) 3.11 (3.11) 2.68 (2.81) 3.08 (3.08) 2.66 (2.79) 3.05 (3.05)
単純	3.01 (3.15) 3.48 (3.48) 2.98 (3.11) 3.45 (3.45) 2.96 (3.09) 3.42 (3.42) 2.93 (3.06) 3.39 (3.39) 2.91 (3.04) 3.36 (3.36) 2.89 (3.02) 3.33 (3.33) 2.87 (3.00) 3.30 (3.30) 2.85 (2.98) 3.27 (3.27)
2連続	3.58 (3.72) 4.06 (4.06) 3.54 (3.67) 4.03 (4.03) 3.49 (3.62) 3.96 (3.96) 3.44 (3.57) 3.93 (3.93) 3.40 (3.53) 3.87 (3.87) 3.36 (3.49) 3.83 (3.83) 3.32 (3.45) 3.79 (3.79) 3.28 (3.41) 3.75 (3.75)
3連続	3.50 (3.64) 3.93 (3.93) 3.47 (3.60) 3.90 (3.90) 3.44 (3.57) 3.87 (3.87) 3.41 (3.54) 3.84 (3.84) 3.38 (3.51) 3.81 (3.81) 3.34 (3.47) 3.78 (3.78) 3.31 (3.44) 3.75 (3.75) 3.28 (3.41) 3.72 (3.72)

注1: 普通コンクリート(単位重量24.0kN/m<sup>3</sup>)、表面処理が珪鉛めっきの場合  
注2: ①数値は表面処理が珪鉛めっきまたは珪鉛めっきの許容スパンを示す。注3: 上表を超える場合、別途実測が必要である。

S造・施工時のスパンの取り方	
【単純支持】	【連続支持】

### 耐火仕様

○共通事項 支持梁: 鉄骨梁、コンクリート: 設計基準強度18~36 N/mm<sup>2</sup>の普通コンクリート  
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117] 寸法は下表参照  
耐火補強筋: 不要

【QL99-50】	
■認定番号 [FP060FL-0100 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-50-10	単純支持
QL99-50-12	連続支持
QL99-50-16	連続支持
支持スパン	2,700mm以下
コンクリート厚さ	80mm以上
許容積載荷重	5,400 N/m <sup>2</sup> 以下
溶接金網または異形鉄筋	縦筋6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み板(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)
□認定番号 [FP060FL-0101 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-50-10	単純支持
QL99-50-12	連続支持
QL99-50-16	連続支持
支持スパン	3,000mm以下
コンクリート厚さ	80mm以上
許容積載荷重	3,500 N/m <sup>2</sup> 以下
溶接金網または異形鉄筋	縦筋6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み板(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)
■認定番号 [FP060FL-0126 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-50-10	単純支持
QL99-50-12	連続支持
QL99-50-16	連続支持
支持スパン	2,700mm以下
コンクリート厚さ	80mm以上
許容積載荷重	7,000 N/m <sup>2</sup> 以下
溶接金網または異形鉄筋	縦筋6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	頭付きスタッド(φ16以上)

【QL99-75】	
□認定番号 [FP060FL-0102 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-75-10	単純支持
QL99-75-12	連続支持
QL99-75-16	連続支持
支持スパン	3,000mm以下
コンクリート厚さ	80mm以上
許容積載荷重	5,400 N/m <sup>2</sup> 以下
溶接金網または異形鉄筋	縦筋6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)
■認定番号 [FP060FL-0099 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-75-10	単純支持
QL99-75-12	連続支持
QL99-75-16	連続支持
支持スパン	3,400mm以下
コンクリート厚さ	80~100mm
許容積載荷重	3,500 N/m <sup>2</sup> 以下
溶接金網または異形鉄筋	縦筋6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	頭付きスタッド(φ16以上)
□認定番号 [FP120FL-0127 (床2時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-75-10	単純支持
QL99-75-12	連続支持
QL99-75-16	連続支持
支持スパン	2,500mm以下
コンクリート厚さ	90mm以上
許容積載荷重	6,000 N/m <sup>2</sup> 以下
溶接金網または異形鉄筋	縦筋6mm以上・100×100mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)

注1: 梁との接合箇所は、焼抜き栓溶接・打込み板・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は800mm以下とする。  
注2: 梁の耐火被覆 梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。(本認定仕様外)  
注3: 許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重を含む)から床荷重(デッキプレート+コンクリート+鉄筋)を差し引いた値を示す。

アクセサリ	
フラッシング	クローサー
ハンガー金具	

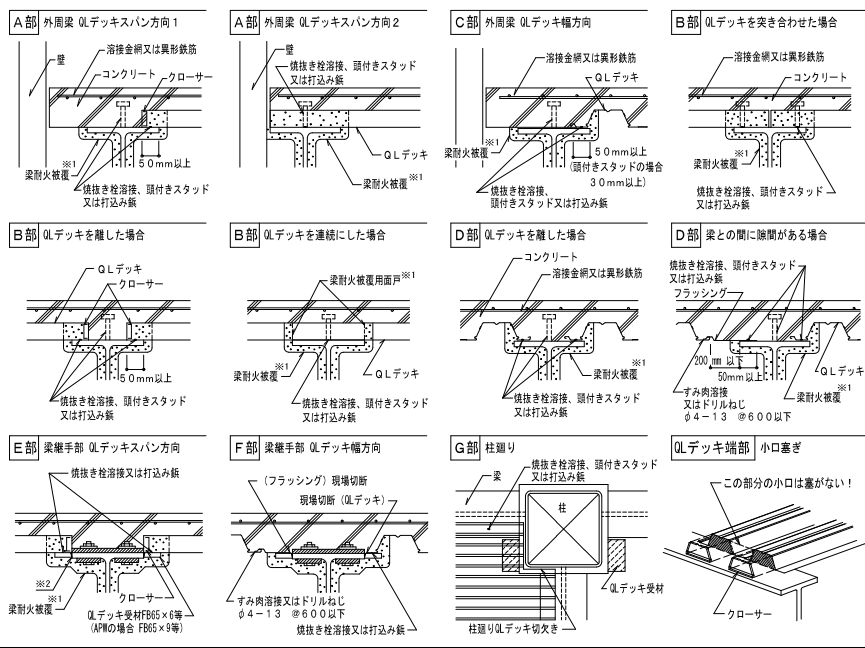
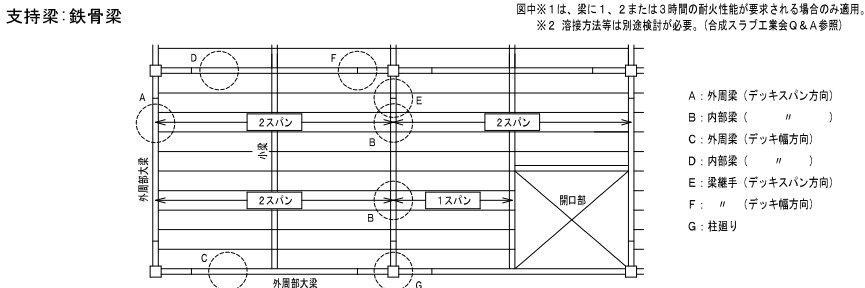
施工順序	
墨出し ↓ 敷込み板止め溶接 ↓ QLデッキと梁との接合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み板 3) 焼抜き栓溶接 ↓ ひび割れ防止筋敷込み ↓ 検査 ↓ コンクリート打設	鉄骨梁の場合 1) 墨出しに合わせた1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止め溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。  デッキプレート幅方向のかり代は、50mm以上あることを確認する。 (頭付きスタッドの場合は30mm以上) 3) デッキプレート長手方向の大梁のかり代は、50mm以上あることを確認する。

注1: 普通コンクリート(単位重量24.0kN/m<sup>3</sup>)、表面処理が珪鉛めっきの場合  
注2: ①数値は表面処理が珪鉛めっきまたは珪鉛めっきの許容スパンを示す。注3: 上表を超える場合、別途実測が必要である。

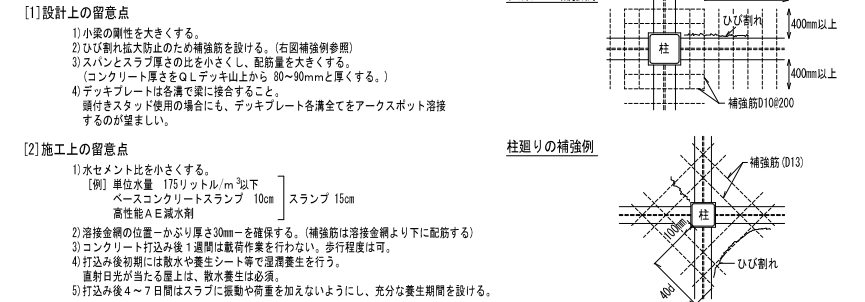
S造・施工時のスパンの取り方	
【単純支持】	【連続支持】

### 標準納まり

#### 支持梁: 鉄骨梁



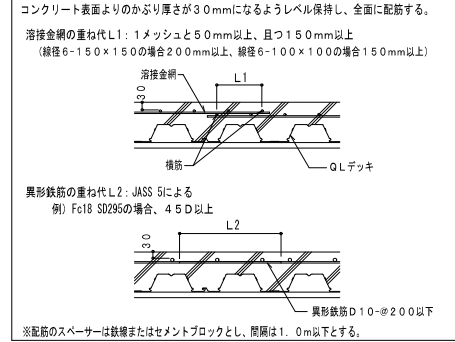
#### (参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項



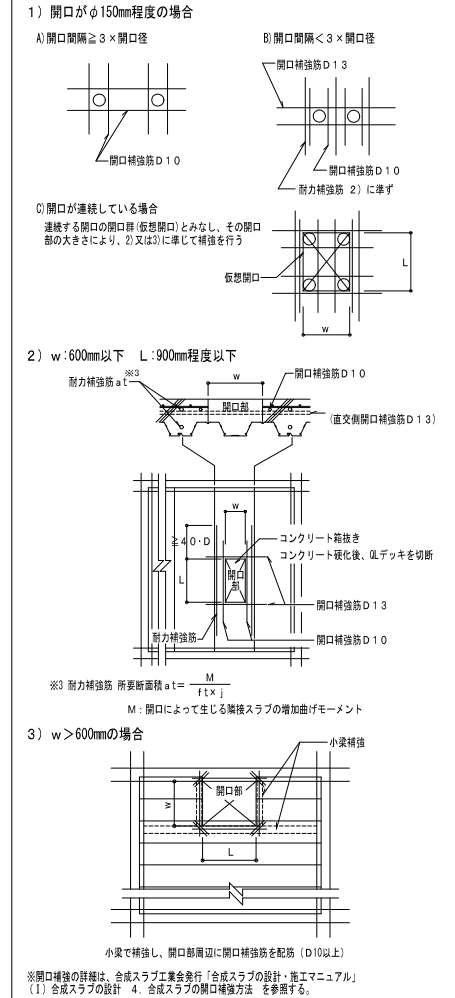
デッキプレートと梁との接合	
1) 頭付きスタッド 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	2) 打込み板 施工は打込み板製造業者の施工要領による。 施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。 日本ヒルティ(株)
3) 焼抜き栓溶接 国土交通省告示第326号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第606号(平成19年6月20日改正)の第2条第4号(4)焼抜き栓溶接に基づき下記仕様による。(梁フランジの表面処理条件: 黒皮または一般鋼材の塗装) 合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。	4) 焼抜き栓溶接 国土交通省告示第326号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第606号(平成19年6月20日改正)の第2条第4号(4)焼抜き栓溶接に基づき下記仕様による。(梁フランジの表面処理条件: 黒皮または一般鋼材の塗装) 合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。
焼抜き栓溶接 [SPW] — アーク手溶接 —	自動焼抜き栓溶接 [A.P.W.] — CO2アークスポット溶接 —
(1) 溶接機 交流アーク溶接機 AW250A以上 エンジン溶接機 230A以上 (2) 溶接棒 JIS Z 3211のE4316, E4916 に定める低水素系低炭素アーク溶接棒で 棒径4mmφのもの (3) 標準溶接条件: 溶接棒の位置・かり厚さを30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 溶接棒の位置・かり厚さを30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) (4) 溶接工の資格 JIS Z 3301, JIS Z 3341 における基本級の有資格者 (5) 手帳・要領 右の1~4の順に行う。	(1) 一次側電源の必要容量: 仮設電力の場合 18kVA以上 3相 200V 発電機の場合 35kVA以上 3相 200V (2) ワイヤの種類と直径: YGW 11, 12 φ1.2mm (3) 標準溶接条件: 下表
工 程	手 順 ・ 要 領
1 アーク発生	QLデッキを梁にのせ(隙間2mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2 QLデッキ溶接	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、 径10mmφでの手を握りてQLデッキを焼かく。
3 押し込み・溶接	溶接棒を梁上で押し込み、焼かすの内側をなぞるように円中央へ2~3回転しながら溶接。
4 整 形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。
5 手帳・要領	溶接時間の目安: 電流値210A(標準)の場合8秒程度

注1: デッキプレート 板厚1.0mm 表面条件: Z12, Z27, 表面塗装  
2. CO2ガス流量: 2.0ℓ/分以下

#### スラブの配筋



#### 開口部補強案



その他の納まり・参考例等については、QLデッキ施工マニュアルまたは別途「納まり図」(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

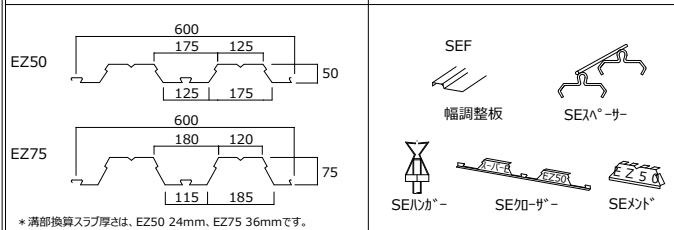
2021/11/01

1. 設 計

□ デッキプレート	品名	□EZ50 □EZ75			
	板厚および表面処理	板厚 (mm)	表面処理	仕様	種類の記号 *1
	(注) *1 JIS G3352 *2 デッキプレート裏面に一時防錆を目的とした塗装品	□ 1.2	□ なし		SDP1T
			□ 塗装	*2	
		□ 1.6	□ なし	□ Z12 □ Z27 □ [    ]	SDP2G
□ 塗装			*2		SDP2
□ コンクリート	種類	□普通	□軽量 1 種	□軽量 2 種	
	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	□18	□21	□24	
	デッキ山厚さ (mm)	□70	□80	□85	□90
		□95	□100	□[    ]	
	溶接金網または異形鉄筋	溶接金網 (JIS G3551)	□φ6-150	□φ6-100	□[    ]
異形鉄筋 (JIS G3112, G3117)	□D10-200	□[    ]			
□ スーパー E デッキ用システム部品		□SE/A <sup>+</sup> -サー	□SE/L/A <sup>+</sup> -		
□ デッキプレート端部仕様		□10ト「加」ズ	□小口「フ」サ		
□ 梁との接合形式	種 類	注 記			
	□ 頭付きスタッド	径、長さ、ピッチは構造図による。梁とデッキとの接合はアークスポット溶接等による。(焼抜き栓溶接は不要)			
	□ 焼抜き栓溶接	□SPW : 標準溶接径 18mm 以上 ※溶接位置等は特記による。			
	□ ひょう打ち	接合位置は特記による。構造認定を受けた発射打込みびょうを使用すること。			
□ e-works+開口緩和 (EZ50 EZ75) BCJ評定-ST0076-08 ※詳細は別紙 開口緩和標準仕様書を参照					

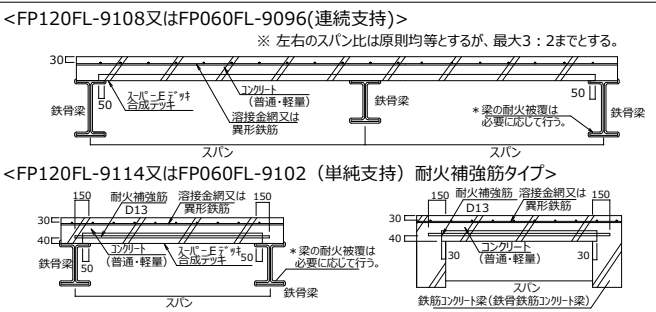
デッキプレート形状・寸法

システム部品

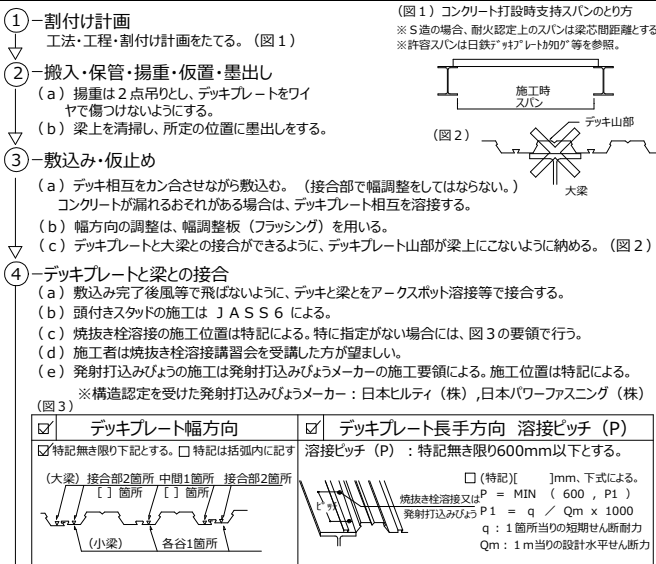


2. 耐 火 設 計

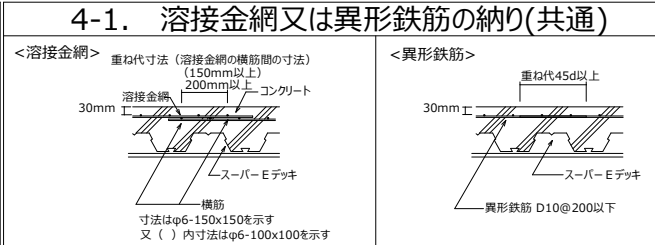
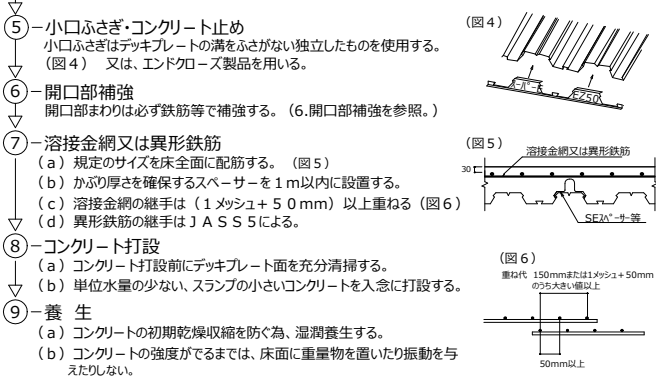
□ 耐火構造仕様(詳細は下記の通り)		□ 耐火要求なし							
		認定条件							
耐火区分	認定番号	使用条件		断面仕様		はり構造			
		支持条件	許容スパン <sup>*3</sup> (m)	許容荷重 <sup>*4</sup> (kN/m <sup>2</sup> )	品名	コンクリート 厚さ(mm)	ひび割れ 拡大防止筋 <sup>*5</sup>	S造	RC造 SRC造
□ 床 2 時間	FP120FL-9108	連続支持	2.7 以下	<式 1>	EZ50	普通95以上 軽量85以上	φ6- 100x100 または D10- 200x200	○	-
			3.4 以下	<式 2>	EZ75	普通90以上 軽量85以上	○	-	
			3.6 以下	5.4	普通95以上 軽量90以上	D10- 200x200	○	-	
							○	-	
	FP120FL-9114	単純支持	2.7 以下	<式 1>	EZ50	普通95以上 軽量85以上	φ6- 100x100 または D10- 200x200	○	○
			3.4 以下	<式 2>	EZ75	普通90以上 軽量85以上	○	-	
							○	-	
							○	-	
□ 床 1 時間	FP060FL-9096	連続支持	3.0 以下	<式 1>	EZ50	普通80以上 軽量80以上	φ6- 150x150 または D10- 200x200	○	-
			3.4 以下	<式 2>	EZ75	普通80以上 軽量80以上	○	-	
			3.6 以下	4.4	普通90以上	φ6- 100x100 または D10- 200x200	○	-	
							○	-	
	FP060FL-9102	単純支持	2.7 以下	<式 1>	EZ50	普通80以上 軽量80以上	φ6- 150x150 または D10- 200x200	○	○
			3.4 以下	<式 2>	EZ75	普通80以上 軽量80以上	○	-	
							○	-	
							○	-	
<式 1> W = 5.4×(2.7/L) <sup>3</sup>		(注) 式中の「W」は許容荷重(kN/m <sup>2</sup> ), 「L」は支持長さ(m)を表す。							
<式 2> W = 5.4×(3.4/L) <sup>2</sup>		また, W/9.8を超える場合は9.8とする。							
※ 注意 <sup>*3</sup> 許容スパンは、鉄骨梁で支持する場合はその芯間距離とし、RC梁で支持する場合は梁の内法寸法とする。本表の許容スパンは耐火認定の条件であるので、別途施工時の許容スパンを確認すること。									
<sup>*4</sup> 許容荷重は、全荷重(固定荷重+動荷重)からスラブ自重を差し引いた数値とする。									
<sup>*5</sup> 鉄筋比は0.2%以上としなければならないので、同時打てスラブ打ちをする場合は注意すること。									
<sup>*6</sup> ティンプレート梁のひびき防止は30mm以上とする。端部補強(D13以上、L=100mm)を梁への定着長さ150mmで配すること。									
ただし、耐火構造筋(φ6 4筋)を用い、S造の場合は端部補強を不要とする。									
<sup>*7</sup> S/ンが3.4mを超える場合は、梁の段高を調整した(径16mm以上、ピッチ300mm以上)を使用すること。									
<sup>*8</sup> 耐火補強筋(D13)をティンプレート梁の溝中央に50mmで配すること。									
<sup>*9</sup> この耐火条件に適合しない場合は、FP060FL-9128あるいはFP120FL-9129(吹付コンクリート被覆耐火構造)を適用すること。									



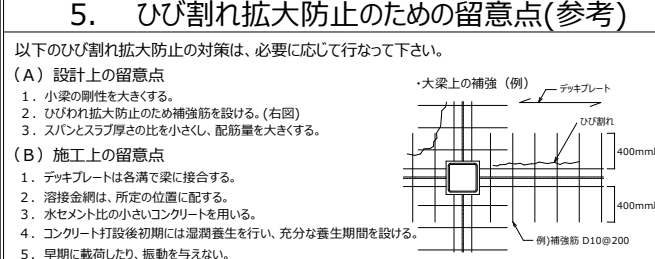
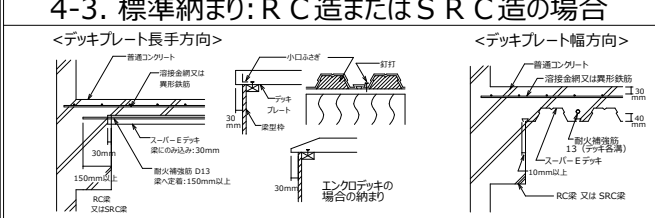
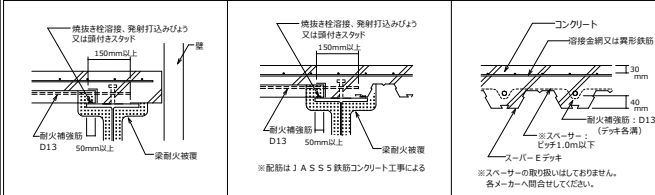
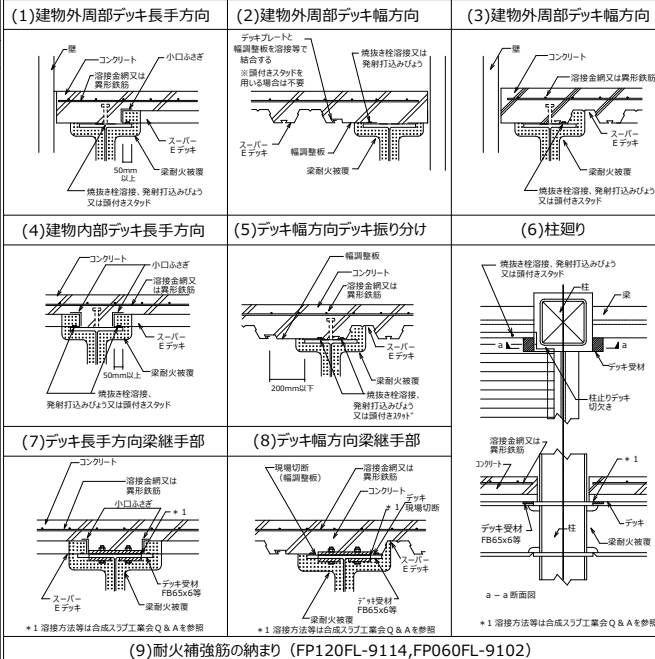
3. 施 工



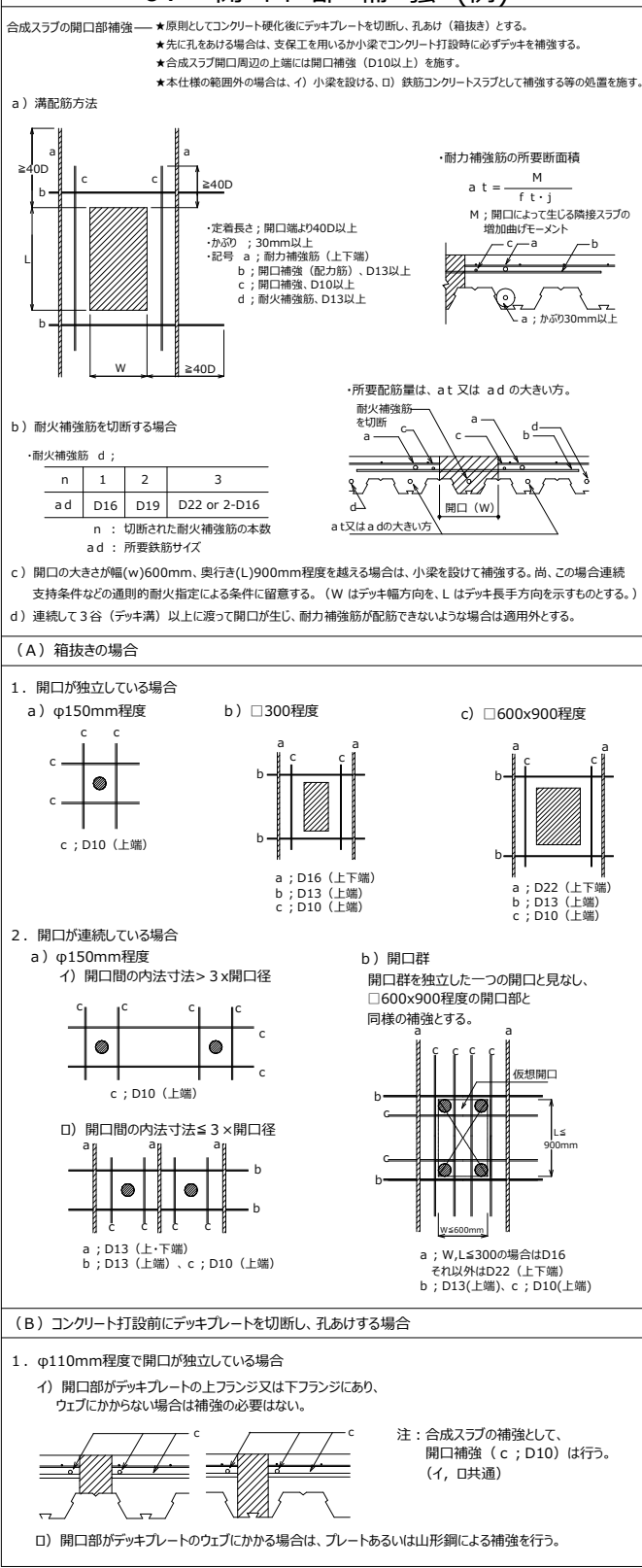
項目	溶接方法
溶接作業資格	JIS Z 3801基本級以上又は JIS Z 3841基本級以上
溶接棒及び溶接材料	低水素系溶接棒φ4mm
溶 接 機	交流アーク溶接機AW250A以上又はエンジン溶接機230A以上
標 準	溶接板厚 (mm) 1.2~1.6
溶 接	溶接 電流 (A) 190~230
接 合	溶接 電圧 (V) —
件	アークタイム (sec) 8~12
溶接径 (mm)	18 以上



4-2. 標準納まり:S造(鉄骨造)の場合



6. 開 口 部 補 強 (例)





# アイ.テックSデッキ 合成スラブ設計・施工標準仕様書（共通仕様）



株式会社 アイ.テック

本仕様書に定めなき事項は、下記に準じるものとする。  
(独) 建築研究所監修 「デッキプレート床構造設計・施工規準-2018」  
(社) 日本建築学会編 「各種合成構造設計指針・同解説」  
合成スラブ工業会編 「合成スラブの設計・施工マニュアル」  
アイ.テックSデッキ 「カタログ」「耐火認定書」

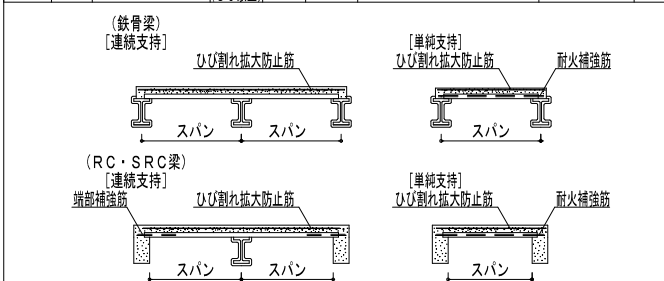
## 設 計

材 料	山高	● 50 □ 75
	板厚	● 1.2 □ 1.6
	表面処理	● 黒皮 □ カラー ● Z12 □ Z27 □ その他 ( )
コンクリート	種類	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP1T1にめっきを施したものの、SDP2、SDP2G
	種類	● 普通 □ 軽量1種 □ 軽量2種
	設計基準強度	● 18N/mm <sup>2</sup> ● 21N/mm <sup>2</sup> ● 24N/mm <sup>2</sup> □ その他 ( )
ひび割れ拡大防止筋	厚さ	□ 70 ● 80 □ 85 □ 90 □ 95 □ 100
	溶接金網	(JIS G 3551) □ φ6-150×150 ● φ6-100×100
	異形鉄筋	(JIS G 3112) □ D10-200×200 □ その他 ( )
接 合	● 焼抜き溶接	● SPW : 標準溶接径 18mm以上
	□ 頭付スタッド	□ PW、APW : 標準溶接径 25mm ※溶接位置等は特記による
	□ 発射打込み鉄	別途打込み鉄の仕様による
	□ その他	
中間支保工		□ 有 □ 無

## 耐 火 構 造

□ 床1時間耐火 □ 床2時間耐火 □ 指定なし

デッキプレート	耐火時間	名称および耐火認定番号	コンクリート山高等さ(mm)	梁との接合	スパン(m)	許容積載荷重算定式(N/m <sup>2</sup> )	ひび割れ拡大防止筋	耐火補強筋
S50	2時間	連続支持合成スラブ □FP120FL-9138	普通 (9.5以上)	打込新 発射打込み鉄	2.7以下	5400×(2.7/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
		単独支持合成スラブ □FP120FL-9137	軽量 (8.5以上)	打込新 発射打込み鉄	2.7以下	5400×(2.7/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	D13
	1時間	連続支持合成スラブ □FP060FL-9138	普通 (8.0以上)	打込新 発射打込み鉄	3.0以下	5400×(2.7/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要
		単独支持合成スラブ ■FP060FL-9139	軽量 (8.0以上)	打込新 発射打込み鉄	2.7以下	5400×(2.7/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	D13
S75	2時間	連続支持合成スラブ □FP120FL-9136	普通 (9.5以上)	打込新 発射打込み鉄	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
		単独支持合成スラブ □FP120FL-9137	軽量 (8.5以上)	打込新 発射打込み鉄	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	D13
	1時間	連続支持合成スラブ □FP060FL-9138	普通 (8.0以上)	打込新 発射打込み鉄	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要
		単独支持合成スラブ □FP060FL-9139	普通 (8.0以上)	打込新 発射打込み鉄	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>1</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	D13

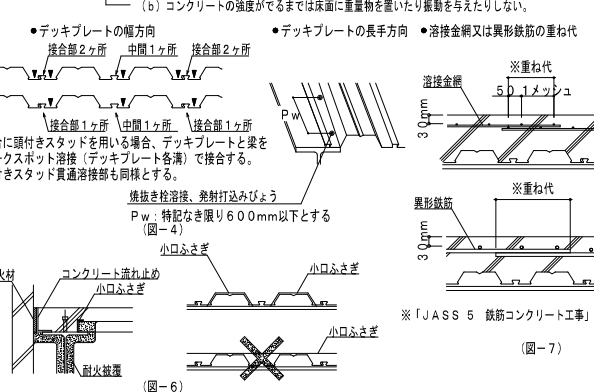


- ※1 : コンクリート厚さが表中の数値を超える場合、超えた分は積載荷重として算出する。  
※2 : 支持梁との接合を示す。中間梁との接合は耐火認定の仕様による。  
※3 : Lは図の支持スパン(m)を示す。  
※4 : ひび割れ拡大防止筋は表中の鉄筋量以上のものとし、鉄筋量はコンクリート厚さに対する鉄筋比0.2%以上とする。  
※5 : 耐火補強筋(D13以上)は各スパン中央部に1本ずつ、デッキプレート底面から40mmの位置に全スパンにわたって配筋する。

- 1) : 許容積載荷重が常温時の計算によって決まる場合があるため、耐火仕様と常温時の算定結果の小さい方を許容積載荷重とする。  
2) : 許容積載荷重とは建築基準法施行令第85条の積載荷重と床・天井などの仕上げ荷重を加えたものを示す。  
3) : 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上の連続的な小梁などによってほぼ等間隔に支持されたものとする。  
4) : ひび割れ拡大防止筋は原則としてスラブ上端から30mmのかぶり量を確保する。  
5) : 梁に1.2または3時間以上の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火被覆を要する。  
6) : スパンが大きい場合やコンクリートが薄い場合、コンクリート打設時に中間支保工が必要になるため、計算等により許容スパンを確認する。  
7) : 耐火認定条件に適合しない場合は、吹付ロックウール等の耐火認定に従う。

## 施 工

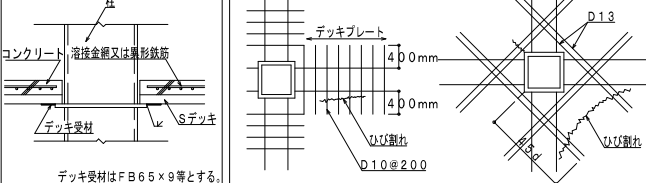
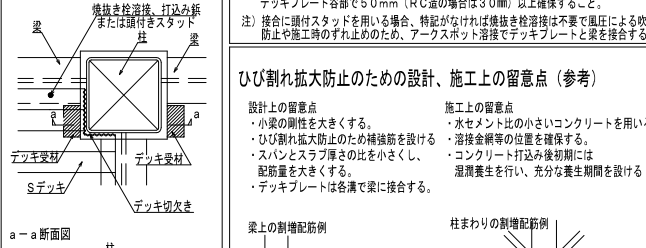
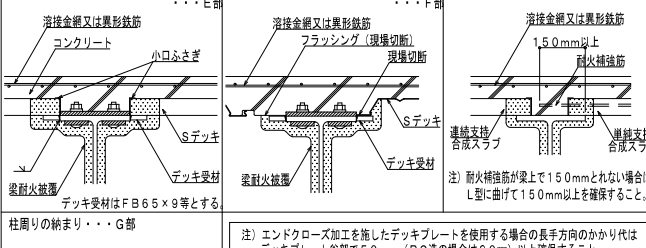
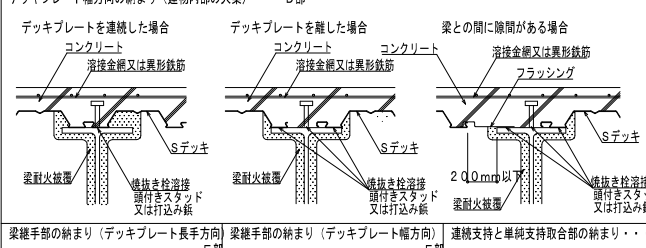
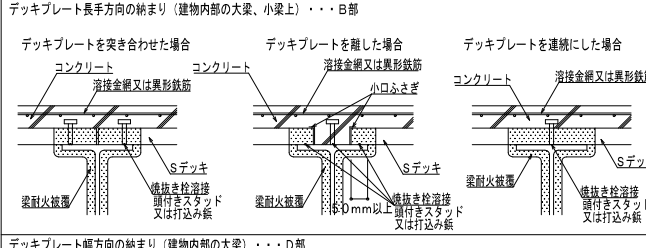
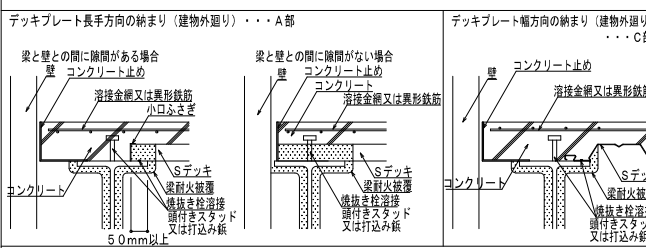
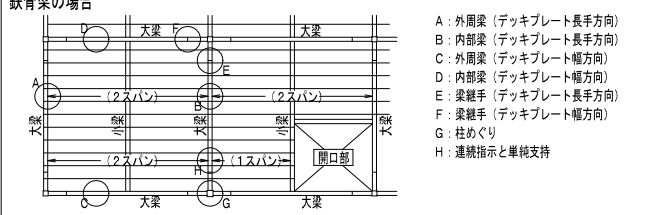
- (1) 割付計画 工法・工程・割付計画をたてる (図-1)  
(2) 搬入・保管 搬入・保管 (a) 搬入は2点吊りとし、デッキプレートをワイヤーで傷つけないようにする。(b) デッキプレートは梁上に安全な状態で置き、風などで飛ばされないように養生する。  
(3) 搬出し (a) 梁上を清掃し、所定の位置に搬出しする。(b) デッキプレートへの受け位置の有無を確認する。  
(4) 敷込み 仮止め (a) デッキ相互を嵌合させる。(図-1)  
(b) 幅方向の調整は、調整板を用いる。(図-8)  
(c) 梁上にデッキ山部がこないようにおさめる。(図-2)  
(d) 鉄筋コンクリート通に使用する場合には、型枠材に釘止める。(図-3)  
(5) 合成スラブ (a) 鋼付きスタッド (デッキプレートと梁とは、アークスポット溶接などで接合する。)(図-4) (図-3) (b) 焼抜き溶接 (図-4) (図-5) (表-1) ● 焼抜き溶接 (SPW-溶接による工法) 溶接電流値の確認: 検流計または溶接棒の消耗長さでチェックする。未使用の低水素系被覆アーク溶接棒4mmを用いて、アーク長さを約3mmに保持しながら、10秒間溶接したときの溶接棒の消耗長さが4.5〜5.3mmであることを確認する。 ● 自動焼抜き溶接 (APW-半自動溶接による従来工法) (c) 自動打込みびょう (発射打込みびょうの施工要領書による) (図-4) (図-3) 小口ふさぎはデッキプレートの谷 (溝) を塞がない独立したものを使用する。(図-6) または、エンドクローズ製品を用いる。  
(6) 小口ふさぎ コンクリート止め  
(7) インサート工事 配管・配線  
(8) 開口補強 (a) 開口部 (b) 配筋



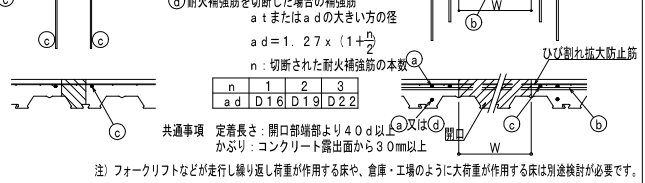
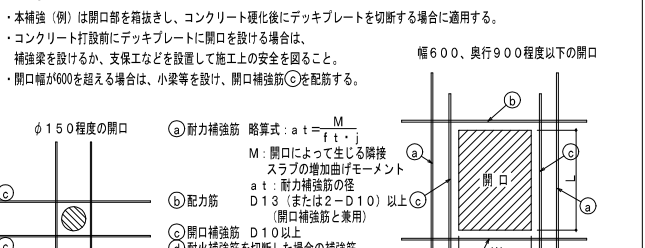
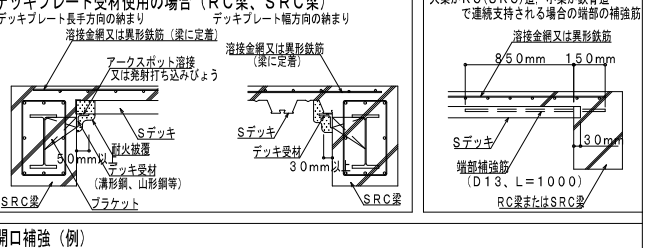
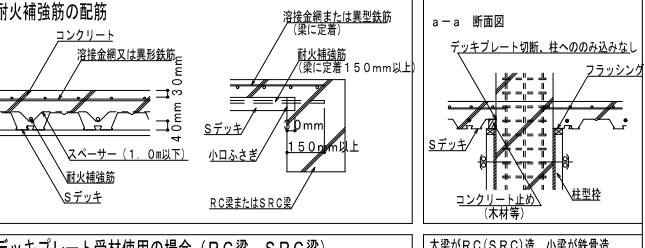
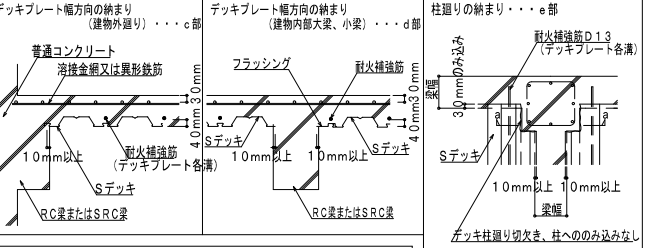
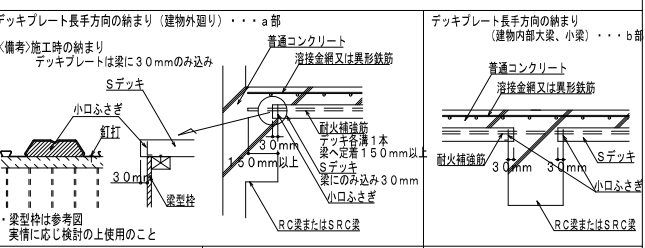
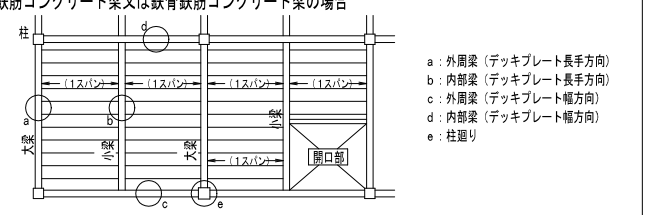
項目	溶接方法	焼抜き溶接 (SPW)
溶接工 資格	JIS Z 3801 基本級以上 JIS Z 3841 基本級以上	
材料 及び 設備	溶接棒及び溶接材料 低水素系溶接棒φ4mm 溶接機 交流アーク溶接機AW250A以上 エンジン溶接機230VA以上 電源容量 溶接機1台につき18KVA以上 デッキ板厚(mm) 1.2〜1.6 標準溶接条件 溶接電流(A) 190〜230A(標準210A) 溶接電圧(V) 6以上 溶接時間(秒) 8秒程度(標準210A) 余盛り径(mm) 18mm以上	
溶接時間(秒)	8秒程度(標準210A)	
余盛り径(mm)	18mm以上	

1. アーク発生 10mm  
2. デッキプレート焼抜き  
3. 押込み・溶着  
4. そっと引き上げる  
デッキプレートに梁になじませ (すき間: 2mm以下) 溶接棒を垂直にしてアークを発生させる。  
溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で「の」の字を描いてデッキプレートを焼抜き。  
溶接棒を梁上まで押込み、デッキプレート焼抜きの内側をなぞるように中央へ2〜3回転しながら溶着する。  
溶着金属を整え、中央部でせつと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認する。

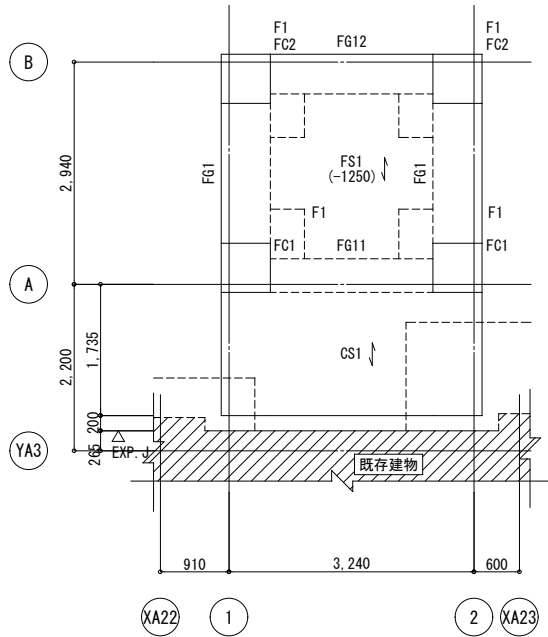
## 鉄骨梁の場合



## 標準納まり



改訂: R04.07.22

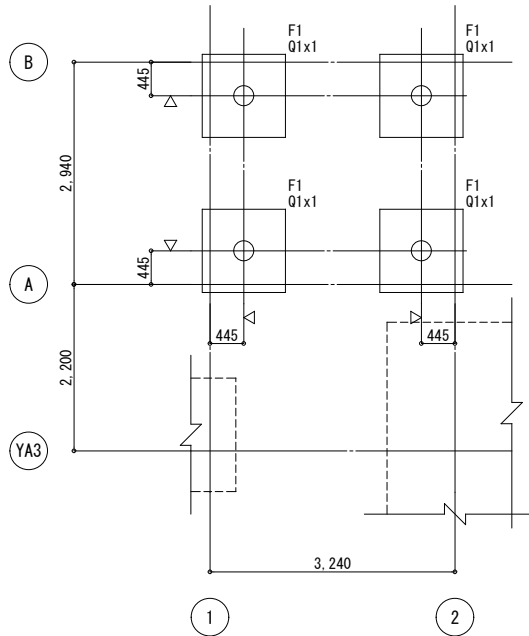


基礎地中梁伏図

A1 1: 50  
A3 1:100

[注記]特記なき限り下記による。

1. は、主筋方向を示す。
2. 1SLは、GL+470とする。
3. 1FLは、SL+30とする。
4. 地中梁天端は、GL-200とする。
5. ( ) 内寸法は、SLとの高低差を示す。
6. 構造図は、見下げ図とする。



杭伏図

A1 1: 50  
A3 1:100

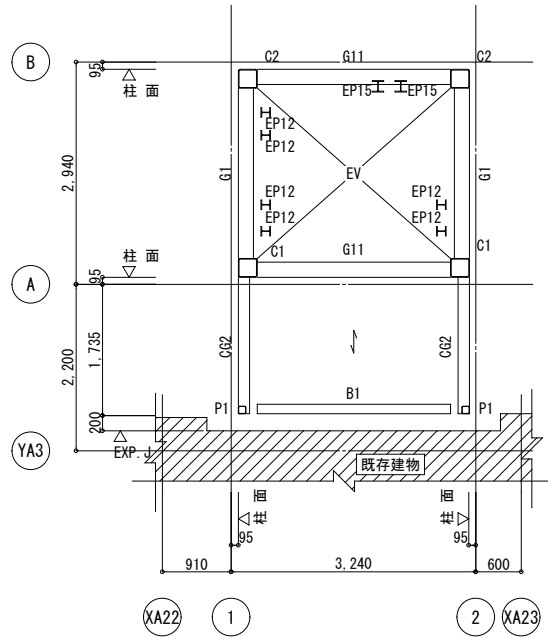
[注記]特記なき限り下記による。

1. △ は、杭芯を示す。
2. 特記なき杭天端は、GL-1,500とする。

杭仕様

工 法：杭リスト参照

・杭施工後、杭偏心距離の実測を行い、コンピューターにて再計算する。

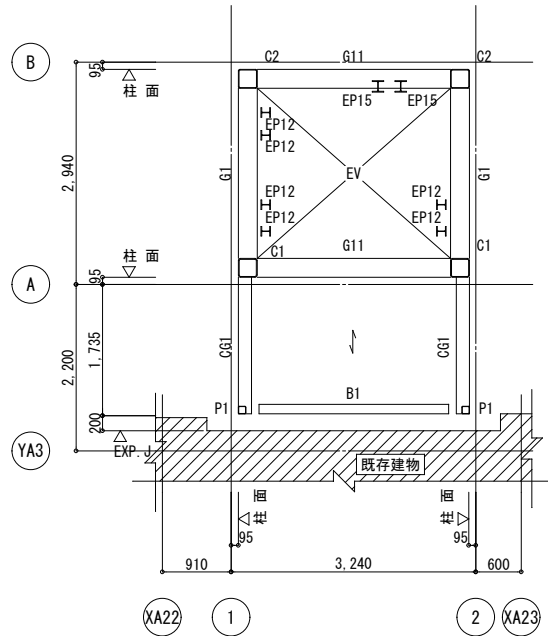


3階梁伏図

A1 1: 50  
A3 1:100

[注記]特記なき限り下記による。

1. は合成床スラブデッキプレート (H=50, t=1.2) 方向を示す。
2. 梁レベルは、STL±0 (3FL-160) とする。
3. ( ) 内寸法は、STLとの高低差を示す。
4. 構造図は、見上げ図とする。

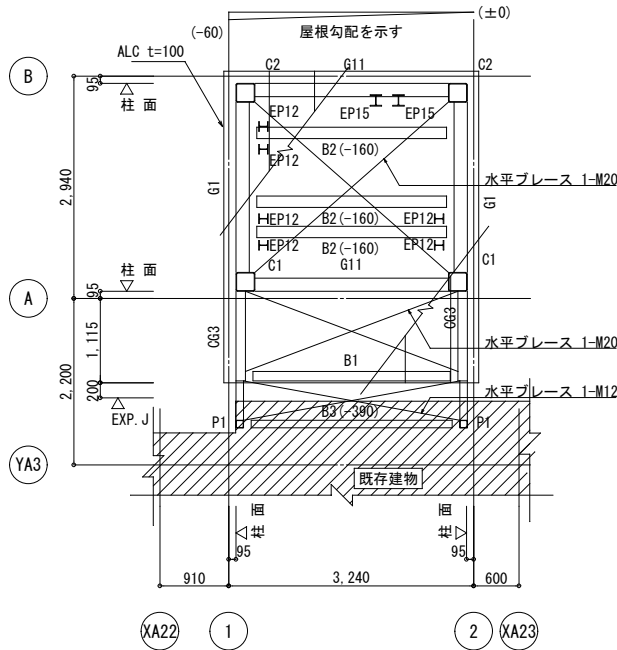


2階梁伏図

A1 1: 50  
A3 1:100

[注記]特記なき限り下記による。

1. は合成床スラブデッキプレート (H=50, t=1.2) 方向を示す。
2. 梁レベルは、STL±0 (2FL-160) とする。
3. ( ) 内寸法は、STLとの高低差を示す。
4. 構造図は、見上げ図とする。

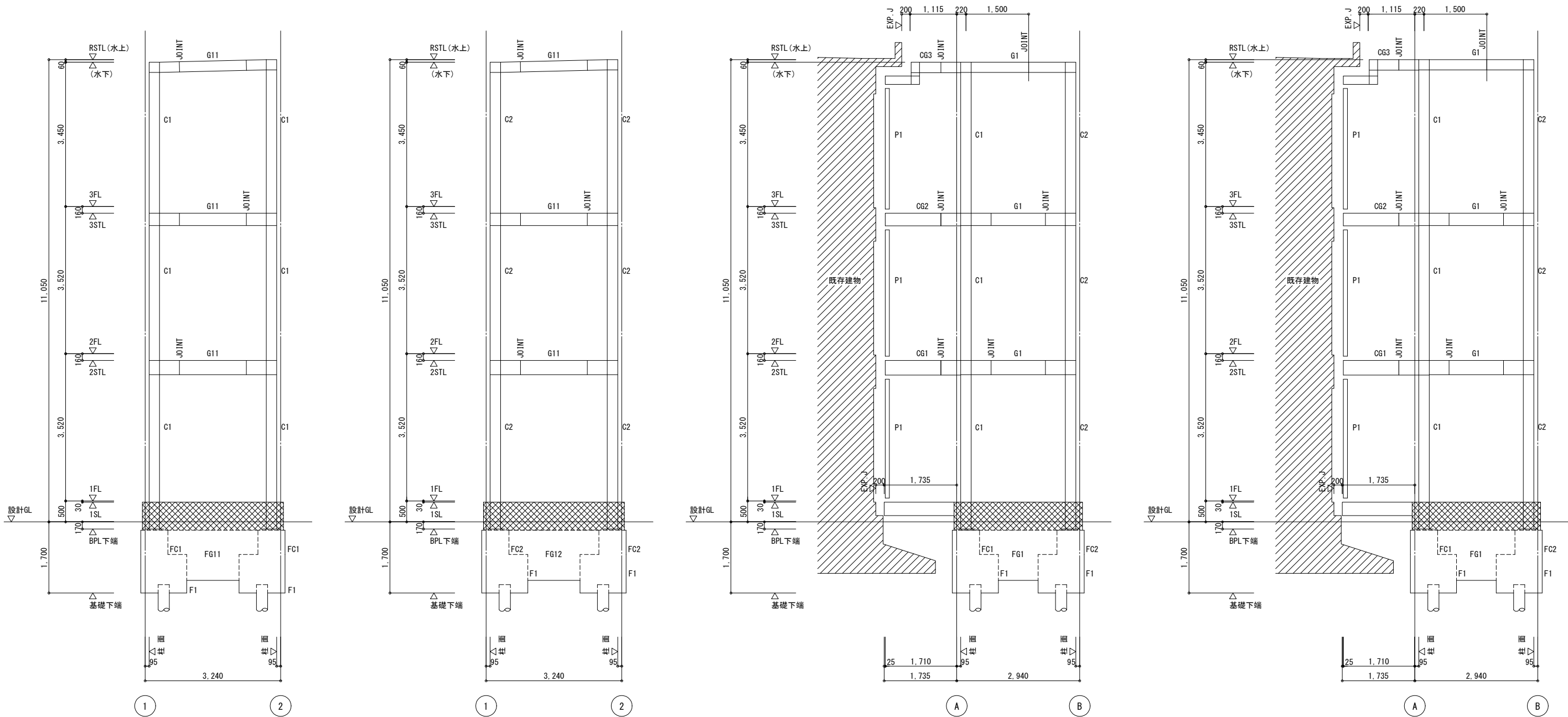


R階梁伏図

A1 1: 50  
A3 1:100

[注記]特記なき限り下記による。

1. 梁レベルは、STL±0とする。
2. ( ) 内寸法は、STLとの高低差を示す。
3. 構造図は、見上げ図とする。



A通り軸組図 A1 1:50 A3 1:100

[注記] 特記なき限り下記による。  
1. JOINTは、柱芯より600mmとする。  
2. [hatched box]は、コンクリート増し打ち範囲を示す。

B通り軸組図 A1 1:50 A3 1:100

[注記] 特記なき限り下記による。  
1. JOINTは、柱芯より600mmとする。  
2. [hatched box]は、コンクリート増し打ち範囲を示す。

1通り軸組図 A1 1:50 A3 1:100

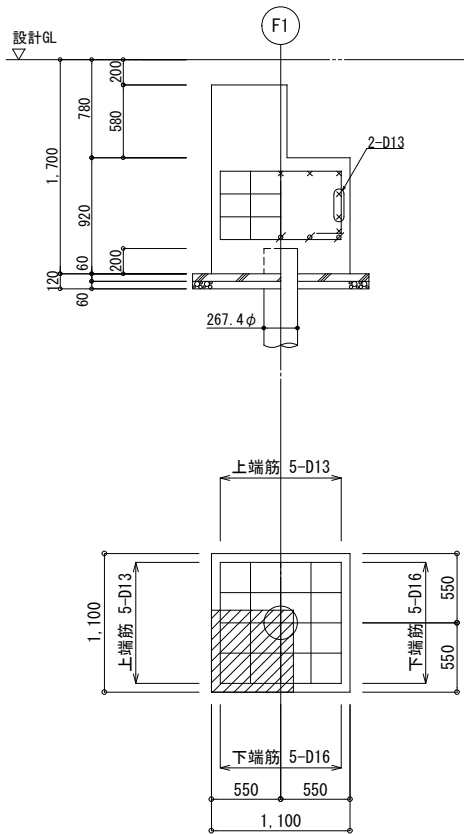
[注記] 特記なき限り下記による。  
1. JOINTは、柱芯より600mmとする。  
2. [hatched box]は、コンクリート増し打ち範囲を示す。

2通り軸組図 A1 1:50 A3 1:100

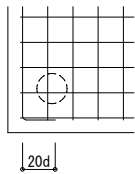
[注記] 特記なき限り下記による。  
1. JOINTは、柱芯より600mmとする。  
2. [hatched box]は、コンクリート増し打ち範囲を示す。



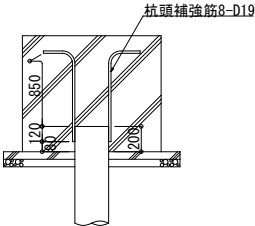
杭 リ ス ト					註：継手の溶接は現場自動溶接ロボット工法とする。		
杭仕様		先端羽根付き鋼管杭					
杭工法		EAZET工法	アルファフォースバイルⅡ工法	e-pile next工法			
符 号		Q1	Q1	Q1			
杭本体径(Dp)x厚さ	上杭 (mm)	267.4 x 12.7	267.4 x 12.7	267.4 x 12.7			
	下杭 (mm)	267.4 x 8.0	267.4 x 8.0(16.0)	267.4 x 8.0(12.7)			
杭本体鋼材規格 (mm)		STK490	STK490 ( )内は羽根部鋼管厚	STK490 ( )内は羽根部鋼管厚			
先端羽根部径(Dw)x厚さ (mm)		800 x 36	810 x 40	800 x 32			
翼部鋼材規格		SM490A	SM490A	SM490A			
杭長	上杭 (m)	6.0	6.0	6.0			
	下杭 (m)	6.0	6.0	6.0			
		全長 (m)	12.0	12.0			
長期支持力 (kN/本)		470	480	470			
短期許容引抜力 (kN/本)		150	270	290			
本 数		4	4	4			
認定番号		TACP-0635	TACP-0558	TACP-0641, 評FD540-02			



基礎詳細図  
A1 1:30  
A3 1:60



基礎筋端部おさまり詳細図  
A1 1:30  
A3 1:60



杭頭補強筋  
A1 1:30  
A3 1:60

地中梁リスト  
A1 1:30  
A3 1:60







符 号	FG1	FG11	FG12
位 置	全断面	全断面	全断面
設計GL ▽			
断面			
B x D	650x1200	445x1200	525x1200
上端筋	5-D22	4-D22	4-D22
下端筋	5-D22	4-D22	4-D22
スターラップ	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200
腹 筋	6-D13	6-D13	6-D13

柱型リスト  
A1 1:30  
A3 1:60

符 号	FC1	FC2
断面		
Dx x Dy	650x650	650x650
主 筋	12-D19	12-D19
HOOP	□-D13 @100	□-D13 @100
柱 脚	ベースバック 25-12V	ベースバック 25-09V







床リスト

符 号	厚 さ	位 置	短辺(主筋)方向配筋	長辺方向配筋
FS1	600	上	D16@200	D16@200
		下	D16@200	D16@200
CS1	200	上	D13@200	D10@200
		下	D13@200	D10@200

柱リスト		A1 1:30 A3 1:60	1. 材質は、BCR295とする。
階	符 号	C1	C2
3	断 面		
	鉄 骨	□ -250x250x9	□ -250x250x9
2	断 面		
	鉄 骨	□ -250x250x9	□ -250x250x9
1	断 面		
	鉄 骨	□ -250x250x12	□ -250x250x9
	柱 脚	ベースバック 25-12V	ベースバック 25-09V

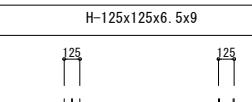

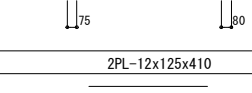
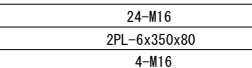

※ダイヤフラム厚は、下記による

1. 裏当て使用の場合、最大フランジ厚+6mm以上
2. 裏ハツリ溶接及び内ダイヤフラムの場合、柱に集まる大梁の最大フランジ厚+2mm以上
3. 通しダイヤフラムはSN490Cとする
4. 内ダイヤフラムはSN400Bとする

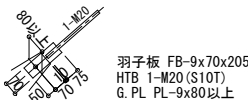
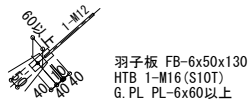
大梁リスト			
階		G1	G11
R	位置	全断面	全断面
	断面		
	鉄骨	H-244x175x7x11	H-244x175x7x11
3	位置	全断面	全断面
	断面		
	鉄骨	H-294x200x8x12	H-294x200x8x12
2	位置	全断面	全断面
	断面		
	鉄骨	H-340x250x9x14	H-340x250x9x14

部材リスト		1. 材質はSS400とする	3. 中ボルトは戻り止めの措置を行う事 (二重ナットまたは、スプリングワッシャーを用いる事とする。)
記 号	形状寸法	仕 口	備 考
B1	H-250x125x6x9	PL-9, 3-M16	
B2	H-150x150x7x10	PL-9, 2-M16	エレベーター設置用小梁
B3	H-200x100x5. 5x8	PL-6, 2-M16	
EP15	H-150x150x7x10	PL-9, 2-M20	
EP12	H-125x125x6. 5x9	PL-9, 2-M16	
CG1	H-350x175x7x11	剛接とする	
CG2	H-300x150x6. 5x9	剛接とする	
CG3	H-250x125x6x9	剛接とする	
P1	□-100x100x4. 5	CT-125x125x6x9, 2-M16	
デッキプレート	合成スラブ用 H=50, t=1. 2		山上・普通コンクリート80
水平ブレース	1-M20		(JIS A5540-5542)
水平ブレース	1-M12		(JIS A5540-5542)

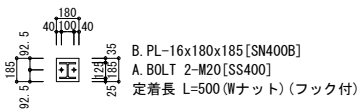
大梁継手リスト		A1 1:30 A3 1:60		1. 材質はSS400とする 2. 特記なきボルトは、HTB(S10T)とする
主 材		H-250x125x6x9	H-300x150x6. 5x9	H-350x175x7x11
断 面				
材 質		SS400	SS400	SS400
フランジ	SPL	2PL-12x125x410	2PL-9x150x290	2PL-9x175x290
	HTB	24-M16	4PL-9x60x290 16-M16	4PL-9x70x290 16-M20
ウェブ	SPL	2PL-6x170x290	2PL-6x200x170	2PL-6x260x170
	HTB	8-M16	6-M16	6-M20
主 材		H-244x175x7x11	H-294x200x8x12	H-340x250x9x14
断 面				
材 質		SS400	SS400	SS400
フランジ	SPL	2PL-9x175x290 4PL-9x70x290	2PL-9x200x410 4PL-9x80x410	2PL-12x250x530 4PL-12x100x530
	HTB	16-M20	24-M20	32-M20
ウェブ	SPL	2PL-9x140x170	2PL-9x200x170	2PL-9x200x290
	HTB	4-M20	6-M20	12-M20

柱継手リスト			材質はSS400とする A1 1:30 A3 1:60			材質はSS400とする A1 1:30 A3 1:60			小梁取付図			
主 材			H-125x125x6.5x9			—			B1			
断 面												
			75			80			10 80 40 40 40 60 40			
フランジ	SPL	2PL-12x125x410				—		PL-9				
	HTB	24-M16				—		3-M16				
ウェブ	SPL	2PL-6x350x80				—		EP12				
	HTB	4-M16				—		H-125x125x6.5x9				
断 面												
ウェブ			10 80 40 40 40 60 40			10 80 40 40 40 60 40			10 80 40 40 40 60 40			

小梁取付図		A1 1:30 A3 1:60	1. 材質はSS400と 2. 特記なきボルトは、HTB(S10T)とする	
符 号		A3	B1	B2
主 材		—	H-250x125x6x9	H-150x150x7x10
断 面	凡 例	<p>ボルト群の芯は、 小梁の中心と合わせる。</p>		
ウェブ	GPL	—	PL-9	PL-9
	HTB	—	3-M16	2-M16
符 号		B3	EP12	EP15
主 材		H-200x100x5. 5x8	H-125x125x6. 5x9	H-150x150x7x10
断 面				
ウェブ	GPL	PL-6	PL-9	PL-9
	HTB	2-M16	2-M16	2-M20

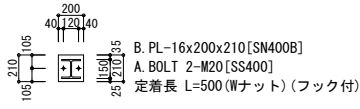


ブレース取付要領図 1:20

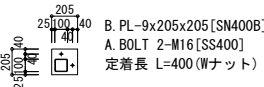
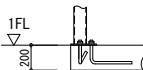


EP12柱脚詳細図 1:30

ブレース取付要領図 1:20

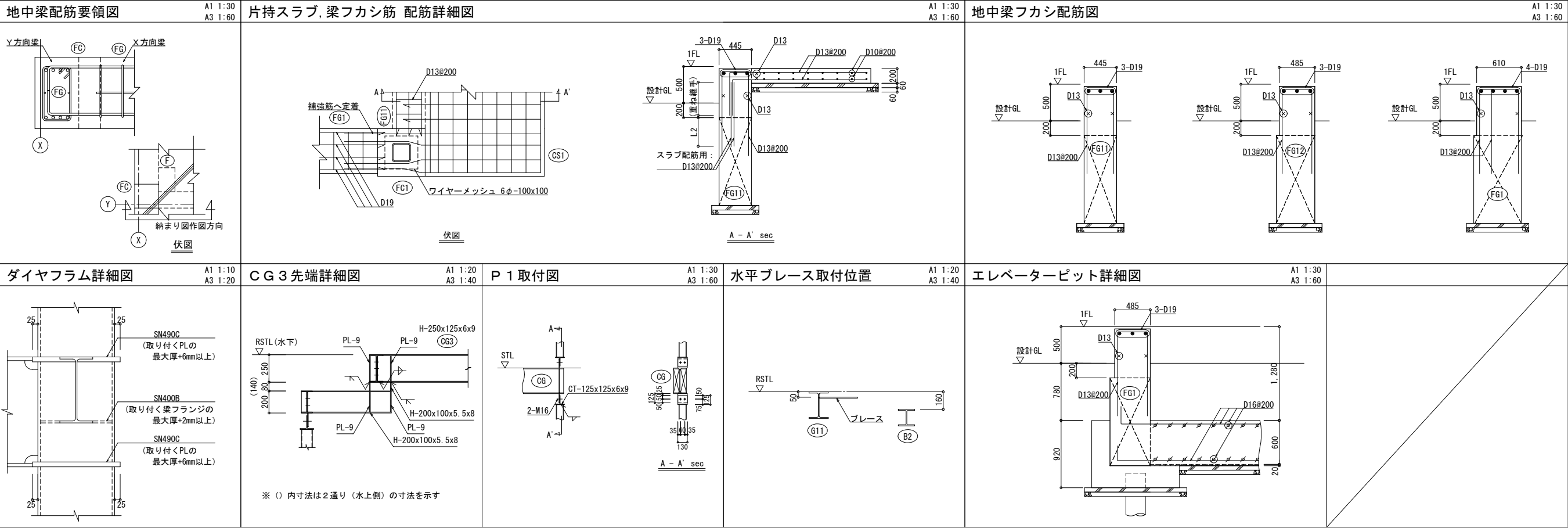


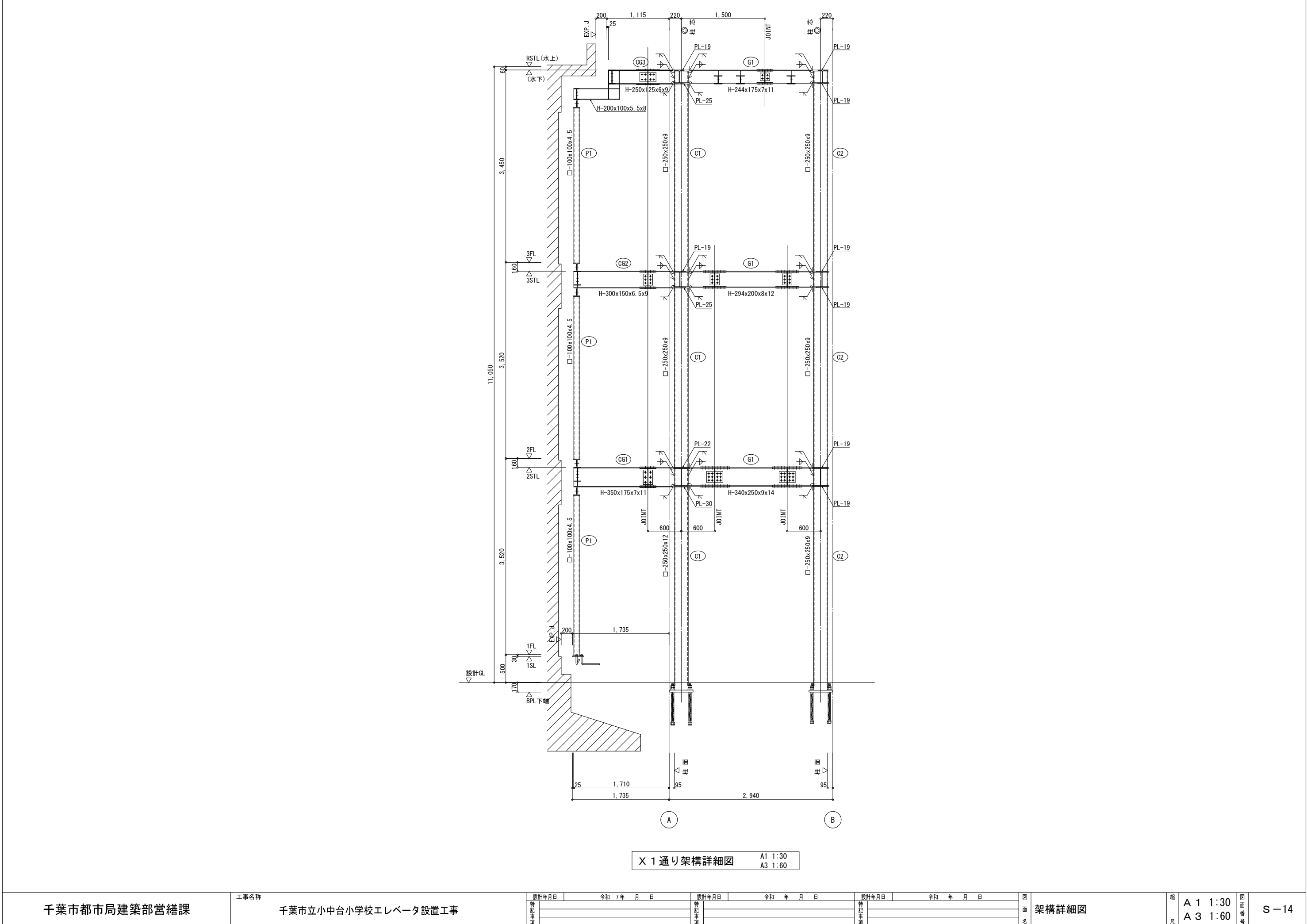
EP15柱脚詳細図 1:30



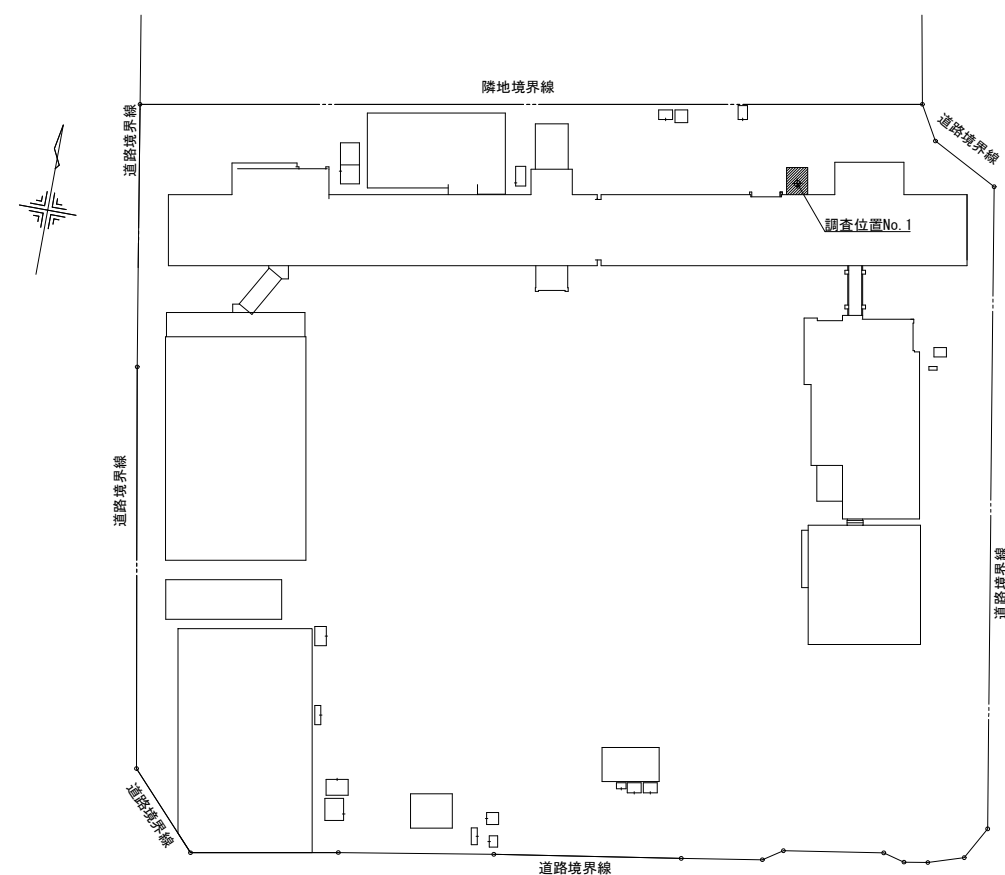
P 1 柱脚詳細図 1:30

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図 面 名 鉄骨部材リスト	縮 尺 A 1 1:30 A 3 1:60	図 面 番 号 S-12
		特記事項		特記事項		特記事項				

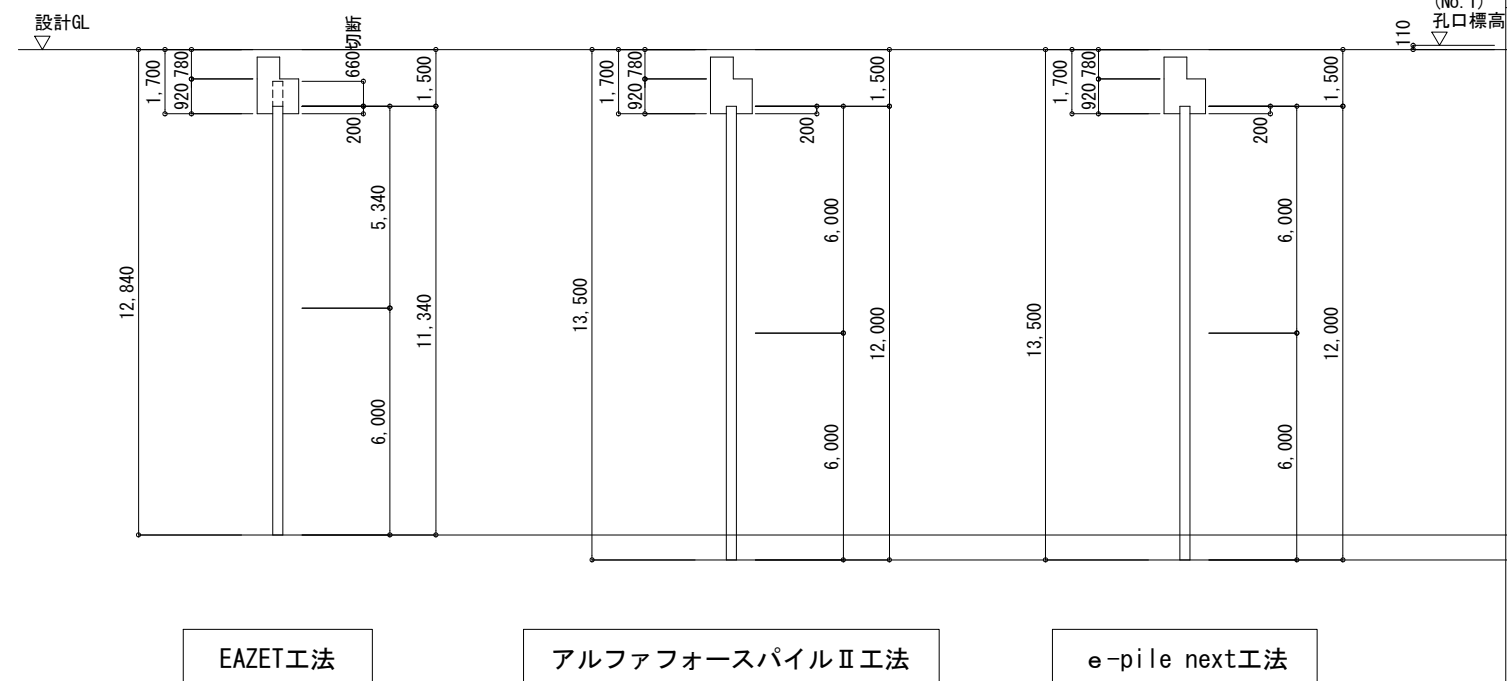




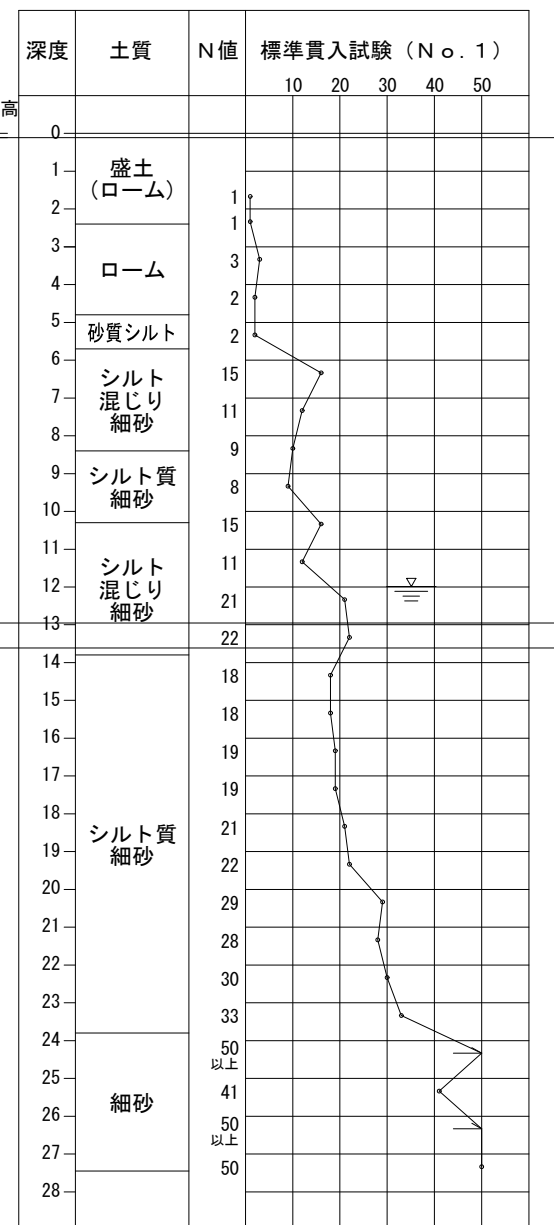
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図 面 名 架構詳細図	縮 尺 A 1 1:30 A 3 1:60	図 面 番 号 S-14
		特記事項		特記事項		特記事項				



調査位置図 NO SCALE



地盤断面図



スクリーパイルEAZET（イーゼット）設計施工標準（関東・甲信越地区・東北地区）

- ・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
- ・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
- ・本掲載内容及び仕様は、2025年7月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1. 件名

先端羽根付き鋼管杭 スクリューパイルE A Z E T

2. 本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1) 長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3} \{ \alpha \bar{N} Ap + (\beta \bar{N} s Ls + \gamma \overline{qu} Lc) \Psi \} \text{ (kN) } \cdots (i)$$

2) 短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3} \{ \alpha \bar{N} Ap + (\beta \bar{N} s Ls + \gamma \overline{qu} Lc) \Psi \} \text{ (kN) } \cdots (ii)$$

ここで、(i)、(ii) 式において、

$\alpha$  : 基礎ぐいの先端付近の地盤（地震時に液化化すおそれのある地盤を除く）におけるくい先端支持力係数（ $\alpha=300$ ）

$\beta$  : 基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液化化すおそれのある地盤を除く）のうち砂質地盤におけるくい周囲摩擦力係数（ $\beta \bar{N} s=15$ を満たす $\beta$ ）

$\gamma$  : 基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液化化すおそれのある地盤を除く）のうち粘土質地盤におけるくい周囲摩擦力係数（ $\gamma \overline{qu}=15$ を満たす $\gamma$ ）

$\bar{N}$  : 基礎ぐいの先端付近（くい先端位置より下方に1Dw（Dw：羽根の直径）、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数 の平均値（回）

ただし、基礎ぐいの先端地盤が砂質地盤（礫質地盤含む）の場合は  $15 \leq \bar{N}$  とし、60を超える場合は60を上限とする。

また、基礎ぐいの先端地盤が粘土質地盤の場合は  $12 \leq \bar{N}$  とし、60を超える場合は60を上限とする。

$Ap$  : 基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

$$Ap = Ad \cdot e$$

e : 有効面積率（e=0.5）

$Ad$  : くい先端平面積  $Ad = \pi \cdot Dw^2 / 4$ （㎡）

$\bar{N} s$  : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数 の平均値（回）

ただし、 $0 < \bar{N} s$  とし、30を超える場合は30とする。なお、 $N s$  値が0の場合、周囲摩擦力を考慮しない。

$\overline{qu}$  : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/㎡）

ただし、 $0 < \overline{qu}$  とし、200を超える場合は200を上限とする。なお、 $qu$  値が0の場合、周囲摩擦力を考慮しない。

$Ls$  : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

$Lc$  : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

$\Psi$  : 基礎ぐいの周囲の有効長さ（m）

$$\Psi = \pi \cdot Do$$

$Do$  : くい本体部径（m）

3. くい材から決まる許容鉛直支持力

$$Ra2 = fe \cdot Ae \times 10^{-3}$$

$Ra2$  : くい材から決まる長期許容鉛直支持力（kN）

$fe$  : くい材の長期許容応力度（=  $F \ast / 1.5$ ）

$F \ast$  : 設計基準強度（N/mm<sup>2</sup>）

$$F \ast = F \cdot (0.80 + 2.5te / r) \text{ かつ } F \ast \leq F$$

$F$  : くい材の許容応力度を決定する場合の基準値

（STK400→235N/mm<sup>2</sup>、STK490→325N/mm<sup>2</sup>、SEAH590[STKT590]→440N/mm<sup>2</sup>）

$te$  : 腐食しろを除いた鋼管の肉厚（mm）

$r$  : 鋼管の半径（mm）

$Ae$  : 腐食しろを考慮したくい材の有効断面積（mm<sup>2</sup>）

4. 適用範囲

1) 適用する地盤の種類

基礎ぐいの先端付近の地盤：

砂質地盤（礫質地盤含む）————— TACP-0635

粘土質地盤 ————— TACP-0636

基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤

2) 最大施工深さ（m）

杭本体部径	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4
先端砂質地盤（礫質地盤）	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.4	46.2	51.3
先端粘土質地盤	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.0	45.8	—

3) 適用する建築物の規模

床面積の合計が500,000㎡以下の建築物

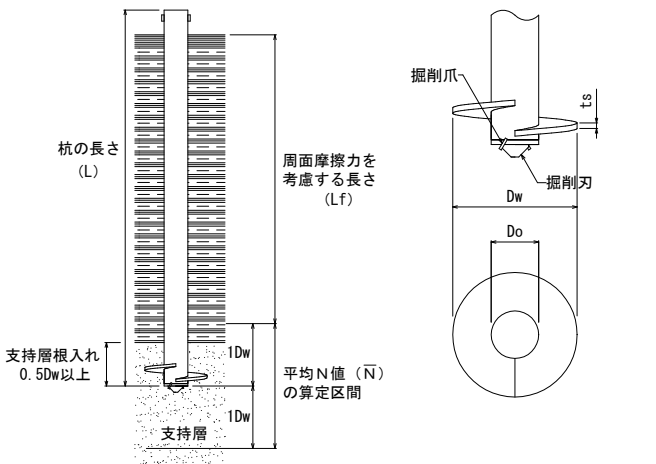
【EAZET（イーゼット）の構造・規格】

1. 関東・甲信越・東北地区向け杭材仕様

杭本体部				杭先端羽根部		材質
径 Do (mm)	STK400	STK490	SEAH590 [STKT590]	径 Dw (mm)	厚 ts (mm)	
114.3	<6.0>	—	—	300	16	SM490A
139.8	<6.6>	—	—	350	19	
165.2	—	7.1	—	350	16	
				450	22	
				400	19	
190.7	—	7.0	—	500	22	
				570	25	
				470	22	
216.3	—	8.2 12.7	—	550	25	
				600	28	
				650	28	SM490A
267.4	—	8.0 12.7	<8.0> <12.7>	580	28	
				650	28	
				700	28	
				750	32	
				800 ※1	36	
318.5	—	7.9 12.7	—	700	28	
				800	32	
355.6	—	7.9 12.7 <16.0>	—	750	28	
				800	32	
406.4	—	<7.9> <12.7> <19.0>	—	800	28	
				880	32	

※1：N値45まで限定。ただし、下杭の厚さをt=12.7mmとする場合は、N値50まで採用可能  
※＜＞の仕様は標準仕様です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

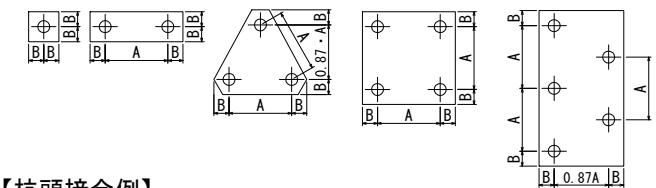
部材	規格
杭本体部	JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管 STK400、STK490 MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管 SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材 SM490A



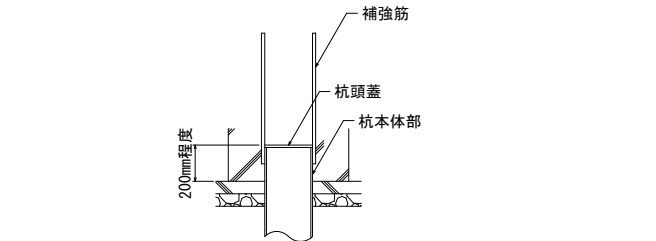
【基礎とフーチング形状例】

A：杭心間隔	B：へりあき
Dw + Do	1.25 × Do

※ Dw：杭先端羽根部径 Do：杭本体部径

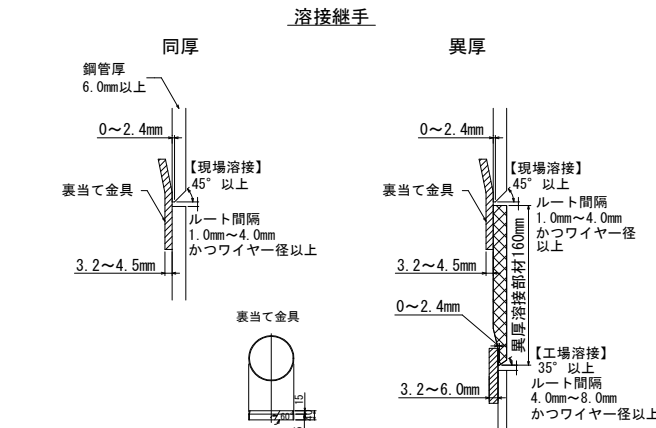
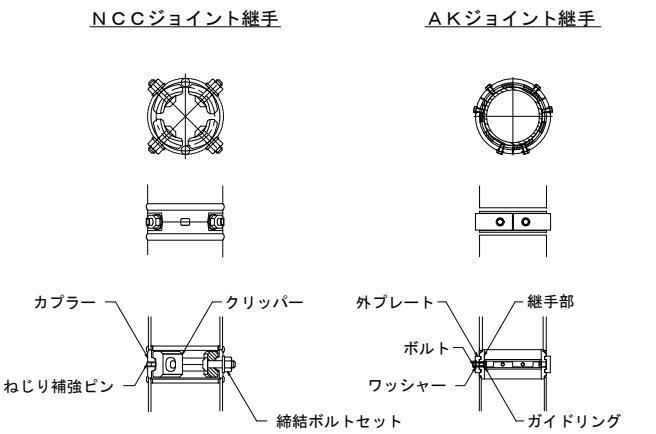


【杭頭接合例】



※杭頭接合部の設計は、認定書・評定書の中で規定されていないので、設計者の判断に委ねられています。

【継手接続例】



【施工管理項目一覧】

工 程	管理項目	管理方法	管 理 値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りが無いこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜 1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜 1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ピット、割れがないこと
NCCジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16→約100N・m ・ボルトM20→約150N・m
	本締め	・シャーレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山2山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
AKジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク 90N・m±10%
	本締めトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク 180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に0.5Dw以上 かつ設計時に設定された根入れ長さ以上
	回転貫入量	・専用用紙に記録する	・回転貫入量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

【EAZET（イーゼット）取得済認定、公的評価】

名称	認定番号	取得年月日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリーパイルEAZET） （先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む））	TACP-0635	令和4年2月7日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリーパイルEAZET） （先端地盤：粘土質地盤）	TACP-0636	令和4年2月7日

件名	番号	取得年月日
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-10	令和5年10月13日
鋼管杭に用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（AKジョイント）	BCJ評定-FD0509-04	令和6年4月12日

件名	認定区分	番号	取得年月日
スクリーパイルEAZET工法における 引抜き方向の許容支持力 （先端地盤：砂質地盤礫質地盤を含む）	一般評定	CBL FP001-24号	令和7年2月28日

件名	番号	取得年月日
スクリーパイルEAZET工法による 基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力 （先端地盤：粘土質地盤）	BCJ評定-FD0579-02	令和5年4月14日

旭化成建材株式会社

東京都千代田区神田神保町1-105（神保町三井ビルディング 8F）

T E L . 03-3296-3544 F A X . 03-3296-3545

宮城県仙台市青葉区一番町3-1-1（仙台ファーストタワー22F）

T E L . 022-223-5155 F A X . 022-211-9526



アルファフォースパイルⅡ工法設計施工標準仕様書No. 2

※無断転記を禁ず Ver. 2019/04/29

- ② 近隣住民に対する環境保全のための調査を行い、対策を検討する
- ③ 電線などの地上障害物、ガス管、地下ケーブルなどの地中埋設物の障害がある場合は事前に所轄の管理者と打合わせを行い、撤去、移設等の処置を行う
- ④ くい回転貫入場所の表土に障害物がある場合は、くい施工前に撤去する
- ⑤ 搬入されたい材の材質、くい軸部径、くい軸部厚、くい長、先端翼部径、先端翼部厚を施工計画書と照合する  
また、くい軸部と先端翼については変形が生じていないことを確認する
- ⑥ くいは製品検査に合格したものを運搬する  
くいの輸送と荷降し時に損傷が生じないように注意をする  
搬入されたいの保管は、作業に支障がないように仮置きする  
仮置きは3段以下の積み重ねとし、荷崩れなどによりくいの損傷が生じないように注意をする
- ⑦ 施工現場が軟弱な地盤や雨水により軟弱化する恐れのある地盤では、施工機械と地耐力を検討し、敷鉄板などによる地盤補強対策を行う
- ⑧ くい芯は管理者立ち会いのもとで位置の確認をおこない、くい施工前に逃げぐい(鉄筋棒)を打っておく

(2) くいの建て込み

- ① くい芯にくいをセットし、ズレを確認する
- ② くいの吊り込みは、くい先端翼部が損傷あるいは変形をしないように留意して行う
- ③ くいの建て込みについては、くい本体の垂直度を直角2方向から水平器等によって確認を行う 鉛直に対する傾斜は各方向とも1/100 以内とする

(3) くいの回転貫入

- ① くい芯にくいをセットした後に回転貫入を開始する  
くいの回転貫入中は、くい体の垂直度に注意し、直角2方向から水平器等によって確認する
- ② 油圧記録計または回転トルク計によって、油圧抵抗値または回転トルク値の計測、記録を行う
- \*地盤で中間層が貫入不能の場合、または地中内障害物等で必要と判断した場合には、先行掘削等を行う

(4) 打ち止め管理

① 試験ぐい

最初に施工するくいを試験ぐいとし、地盤調査実施地点近傍で施工し、油圧抵抗値または回転トルクを計測しながら回転貫入させ、設計支持層に10w以上貫入させて、打ち止めることを原則とする

設計深度までのN値の変化が少ない地盤や緩やかにN値が増加する地盤等、設計支持層が明確でない場合は、設計深度で打ち止める

打ち止め管理値は、設計深度到達時の油圧抵抗値または回転トルク値とする

設計深度付近で急激にN値が大きくなる地盤等、設計支持層が明確な場合は、N値に応じた油圧抵抗値または回転トルク値の変化を確認した上で、設計支持層へ10w以上貫入し打ち止める

打ち止め管理は、打ち止め深度の10w上部を設計支持層到達深度とし、その深度の油圧抵抗値または回転トルク値とする

油圧抵抗値または回転トルク値で適切に打ち止め管理が設定できず、回転貫入量が減少する場合は、PR値(1回転あたりの貫入値)で油圧抵抗値または回転トルク値を徐した値(以下、PR管理値と称す)を打ち止め管理値とし、その他の場合は、試験ぐいの追加、再地盤調査等、再検討を行う なお、試験ぐいの本数はくい径、施工機械種毎に少なくとも1本ずつ実施する  
その他不測の事態が生じた場合は、監理者と協議の上打ち止め管理値を決定する

② 本ぐい

本ぐいは、油圧抵抗値または回転トルク値を計測しながら設計深度まで回転貫入させ、設計支持層に10w以上貫入させて打ち止めることを原則とする

設計深度までのN値の変化が少ない地盤や緩やかにN値が増加する地盤等、設計支持層が明確でない場合は、設計深度、かつ打ち止め管理値以上で打ち止める

設計深度付近で急激にN値が大きくなる地盤等、設計支持層が明確な場合は、N値に応じた油圧抵抗値または回転トルク値の変化を確認した上で、設計支持層へ10w以上、かつ打ち止め管理値以上で打ち止める

設計支持層の不陸により、回転トルクがくい体の短期ねじり強さを超える恐れがあり設計深度まで貫入ができないときは、事前地盤調査等で30w以上安定した地盤が確認できている場合に限り、N値に応じた油圧抵抗値または回転トルク値の変化を確認した上で、設計支持層への貫入確認を行い、設計上問題が生じなければ、打ち止め管理値以上で打ち止める

設計支持層が強固で回転貫入量が減少する場合は、PR管理値で設定した打ち止め管理値以上で設計上問題が生じなければ設計支持層への貫入量が10w未満でも打ち止めとする

設計深度まで貫入しても、打ち止め管理値以上にならない場合は、近傍の別くい芯で施工

を行い、油圧抵抗値または回転トルク値、地盤調査データ、必要であればPR値も考慮に入れて、原因が設計支持層の不陸によるものかどうか判断し、打ち止め管理値を再設定して打ち止めるにするか、再度くいを継ぎ足すか決定する  
その他不測の事態が生じた場合は、監理者と協議の上くい芯変更や再地盤調査等、再検討を行う

(5) 継手の施工

- 1) 継ぐいの垂直度  
下ぐいの頭部を清掃して裏当リングを取り付ける  
上ぐいを下ぐいにセットした後、垂直度は水平器等により直角2方向から確認する
- 2) 鋼管の継手  
溶接継手または機械式継手で施工する  
継手の溶接方法は、JIS A5525-2014(鋼管ぐい)に準じた溶接継手を原則とする

① 溶接作業

- ・作業可能な位置で貫入を止め、裏当て金具を介して接続する側のくいの鉛直性と密着具合を確認し、全周アーク溶接を行う
- ・溶接部に付着したごみ、汚れ等は、ワイヤブラシ、グラインダ等で十分に除去し、水分がある場合は乾燥させる
- ・溶け込みが十分になるような溶接電流、溶接電圧および溶接速度を確認し、使用する溶接方法および条件に適した溶接棒によって欠陥のない溶接を行う
- ・降雨、降雪時や、10m/sec以上の強風が吹いている場合は、原則として溶接を行わない  
ただし、溶接部が天候の影響を受けないような処置を施す場合はこの限りでない
- ・気温が+5℃以下の時は溶接を行わない  
ただし、気温が+5℃から-10℃の場合で、溶接部から100mm以内の部分が、全て+38℃以上に余熱されている場合は、差し支えない

② 溶接材料

手溶接による溶接棒は、JIS Z3211(軟鋼用被覆アーク溶接棒)の合格品とする  
半自動溶接による溶接ワイヤは、JIS Z3312(軟鋼および高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ)または、JIS Z3313(軟鋼、高張力鋼および低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ)の合格品とする

③ 溶接工

溶接工は、JIS Z3801、JIS Z3841に定められた試験に合格した者、または、労働安全衛生法アーク溶接の特別教育を終了し、継続していくい溶接作業に従事している者とする

④ 溶接検査と対策

溶接部分に割れやアンダーカット等がないことを目視にて確認する  
重大な欠陥を発見した時は、その部分を完全に除去し、再溶接する

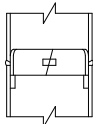
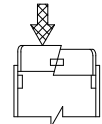
⑤ 裏当て金具

裏当て金具の一例を示す

斜めに切り離されている

たたき込み

とめ金具



⑥機械式継手

機械式継手を使用する場合は、第三者機関の証明を得たものとする  
継手の施工手順および管理基準は、その機械式継手において定められた内容に従うものとする

(6) くい頭処理

くい頭処理を行う場合は、くい頭レベルが所定レベルに対し0～+50mmとなるように切断等を行う

(7) 施工管理項目

施工管理項目と管理方法

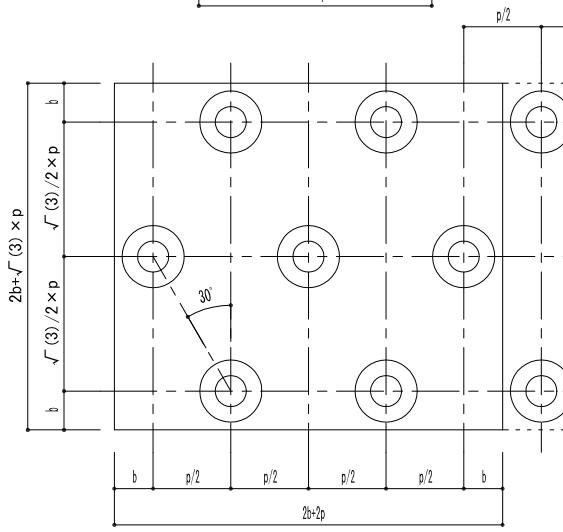
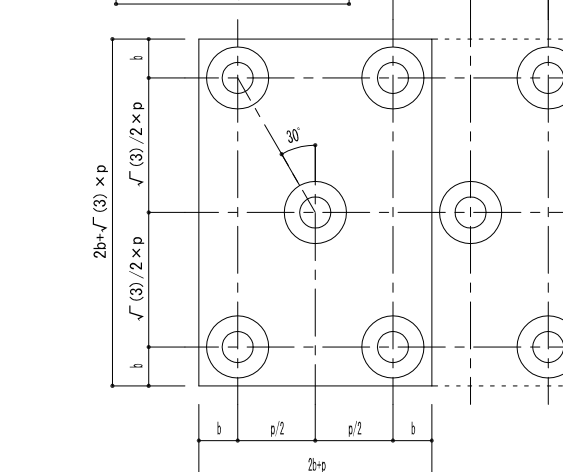
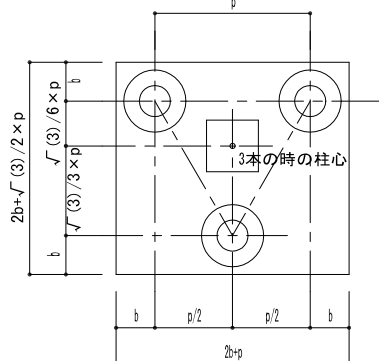
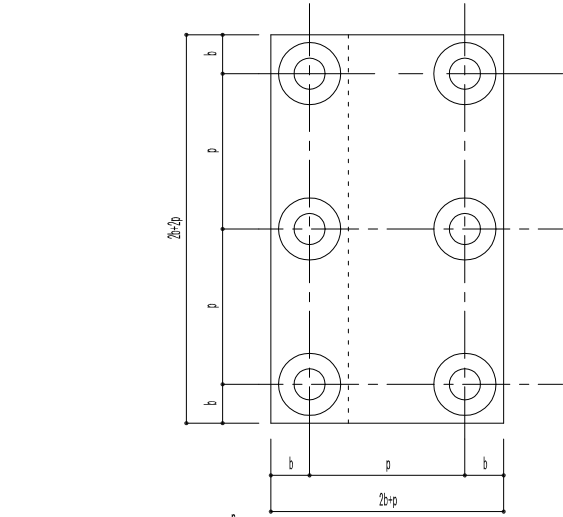
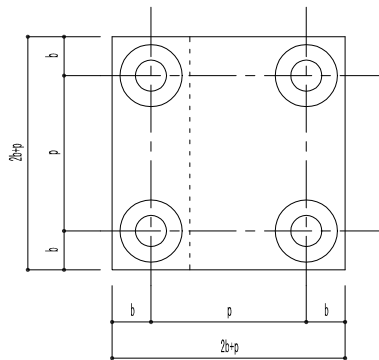
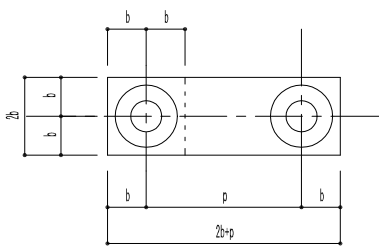
工 程	管理項目	管理方法	管理値
材料の受入れ	・仕様	・納品書確認、施工計画書確認 ・試験ぐいの寸法確認	・設計図書記載事項
準備工事	・施工機の搬入 ・据え付け地盤 ・先行掘削	・施工機確認 ・据え付け地盤の確認 ・先行掘削長の確認	・施工機は適正か? ・据え付け地盤は大丈夫か? ・最大掘削長以内
建て込み	・偏心量 ・垂直度 ・深度0の設定	・直角二方向の逃げ芯の設置等により確認 ・水平器等により直角二方向から確認 ・施工機で0設定	・くい芯偏心量±30mm以内 ・傾斜が $1/100$ 以内 ・先端が設計Qにきた時に管理装置の深度を0とする
回転貫入	・油圧抵抗値 ・回転トルク値	・油圧記録計 ・回転トルク計	・軸部の短期ねじり強さ以下
継手の施工	・継材の建込み精度	・水平器等により直角二方向から確認	・傾斜が $1/100$ 以内
	・ルート間隔	・ノギス等	・開先 30° ～40° 4mm以上 40° ～ 3mm以上
	・溶接状況	・資格証の確認 ・目視	・JIS Z3801等の資格もしくは特別教育終了者 ・異常なアンダーカット、割れ等がないこと
	・機械式継手	・施工手順 ・管理基準	・施工手順通りに施工できているか? ・管理基準通りに管理できているか?
打ち止め	・先端深度	・レベル等により確認	・設計深度に達していること ・所定くい頭レベル±50mm以内
	・油圧抵抗値 ・回転トルク値 ・PR管理値	・油圧記録計により確認 ・回転トルク計により確認 油圧抵抗値／PR値または回転トルク値／PR値	・試験ぐいの場合は打ち止め管理値の設定 ・本ぐいの場合は打ち止め管理値以上
	・偏心量	・直角二方向の逃げ芯の設置等により確認	・100mm以内

※ 先行掘削は必要場合のみ

5. 基礎のへりあきとくい芯間隔（参考例）

(1) 基礎のへりあきとくい芯間隔

基本のくい芯間隔  $p \geq$  くい翼径  $(D_w) \times 2.0$   
基礎のへりあき  $b \geq$  くい軸部径  $(D_o) \times 1.25$   
 $D_o$  : くい軸部径、 $D_w$  : くい翼径  
※ bは、施工誤差+100mmを考慮して決定する

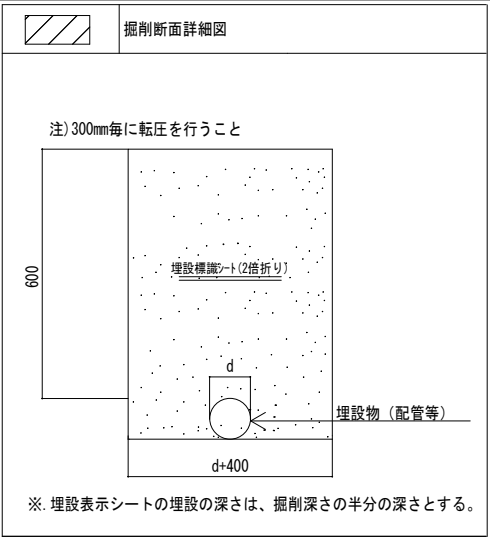








# 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

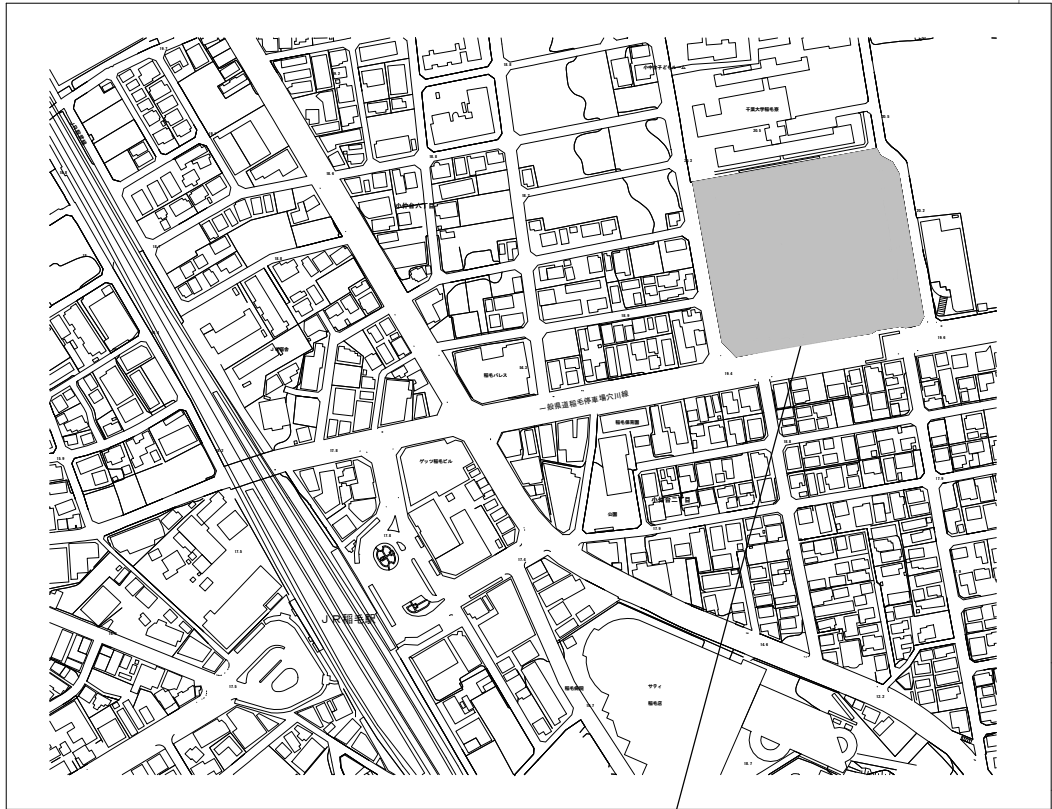
図番	図面名称	縮尺
E-00	図面リスト	N, S
E-01	案内図・配置図 構内配電線路図	(A1) 1:300 (A3) 1:600
E-02	系統図	N, S
E-03	電気室内キュービクル結線図 電灯分電盤結線図	N, S
E-04	動力設備 弱電設備 自動火災報知設備 1階平面図	(A1) 1: 50 (A3) 1:100 (A1) 1:200 (A3) 1:400
E-05	動力設備 弱電設備 2、3階平面図	(A1) 1: 50 (A3) 1:100 (A1) 1:200 (A3) 1:400
E-06	自動火災報知設備 2、3階平面図	(A1) 1:200 (A3) 1:400
E-07	電灯設備 1階平面図	(A1) 1: 50 (A3) 1:100 (A1) 1:200 (A3) 1:400
E-08	電灯設備 2、3階平面図	(A1) 1:200 (A3) 1:400
E-09	シャワー室・湯沸室 平面図	(A1) 1: 50 (A3) 1:100
E-10	給水ポンプ室詳細図（更新）	(A1) 1: 30 (A3) 1:60
E-11	給水ポンプ室詳細図（撤去）	(A1) 1: 30 (A3) 1:60
E-12	給水ポンプ室詳細図（仮設）	(A1) 1: 30 (A3) 1:60



外構工事特記事項
1. 特記無き埋設深さは GL-600 とする。
2.  は既設ブロックハンドホールとする。
3.  はケーブル埋設表示杭(コンクリート製)とする。
4. ケーブルには埋設シート(2倍折れ)を敷設する。

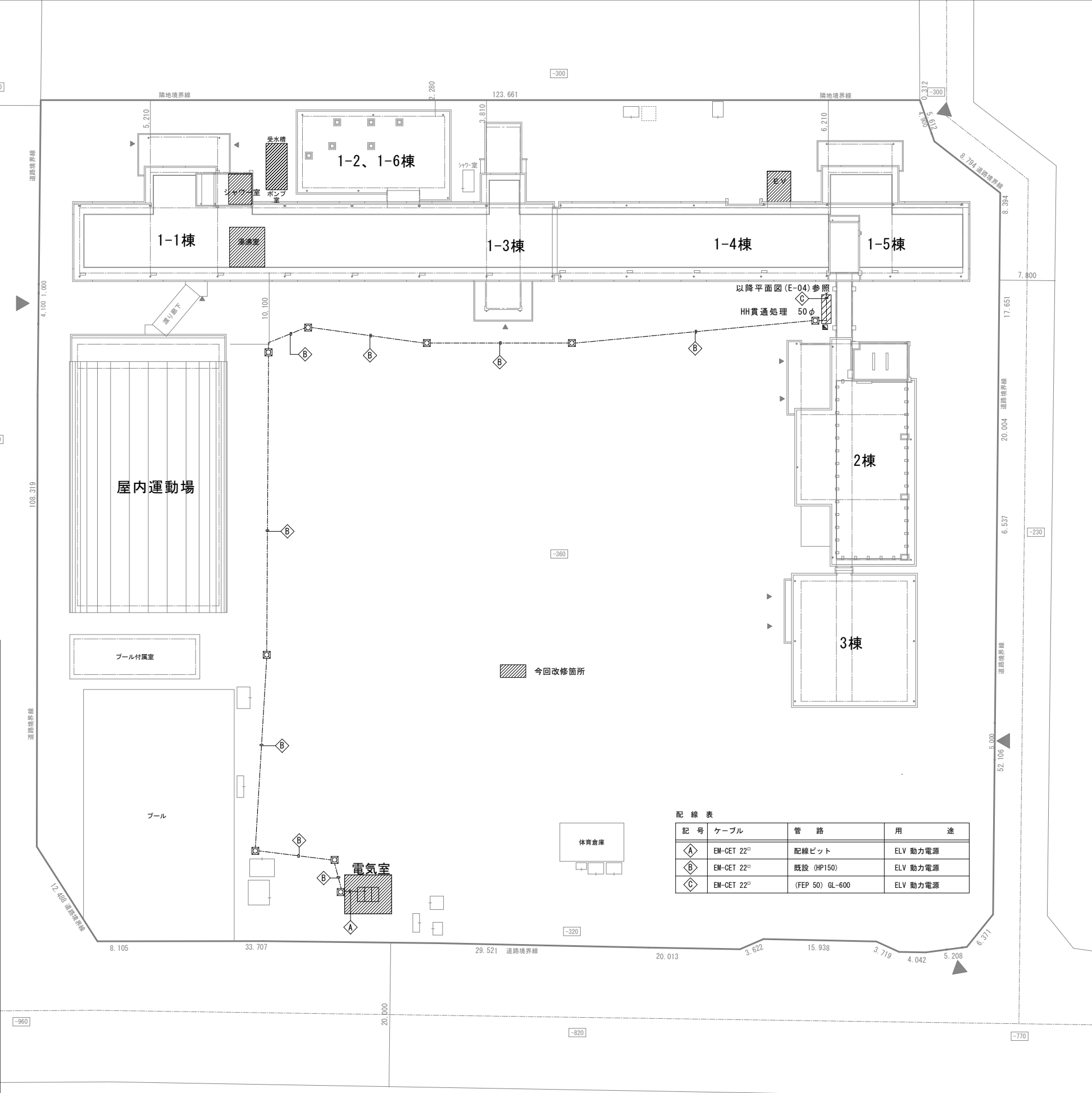
エレベータ工事特記事項

- エレベータシャフト内の制御盤取り付け位置、点検コンセントの  
取り付け位置や数量等のレイアウト、及び各種配線の仕様については参考とし、  
選定されたエレベータメーカーの仕様に基づいた最適な施工を行うこと。
- また、エレベータメーカーの仕様により、接地の打設工事が必要な場合には  
受注者の負担で打設を行うこと。



案内図

所在地：千葉市稲毛区小中台町6丁目34番1号



配置図 S=1:300

構内配電線路図 S=1:300

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日  
令和 7 年 1 0 月 日  
特記事項

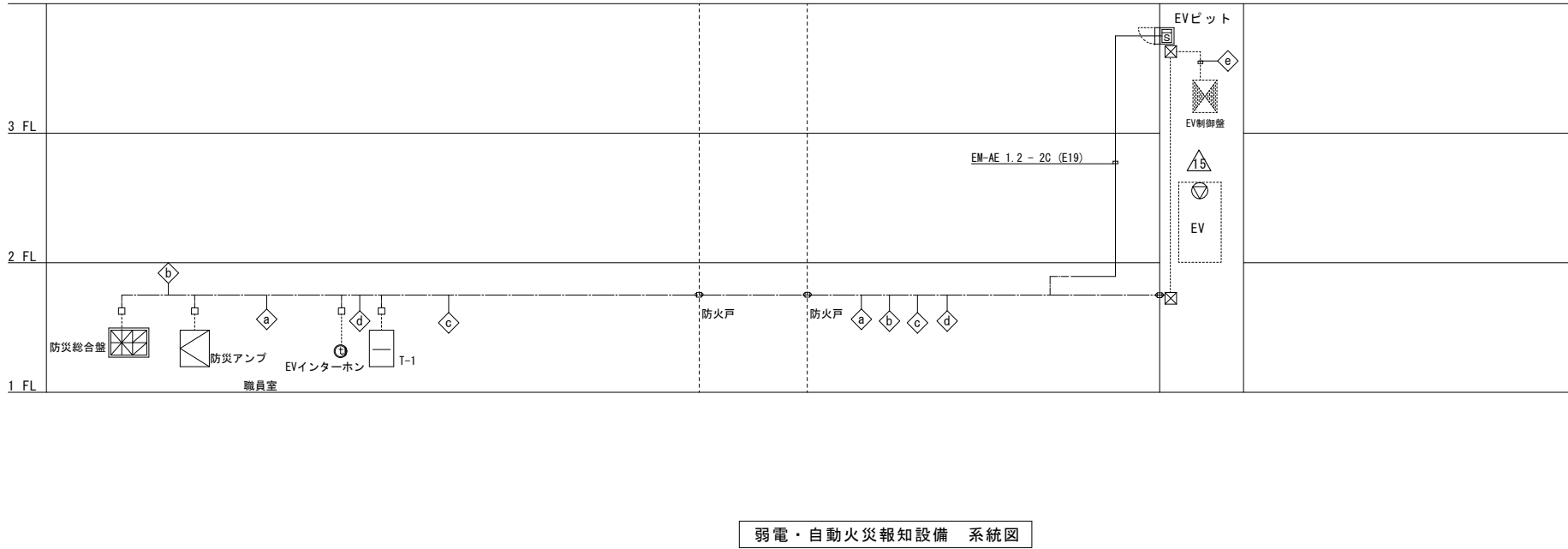
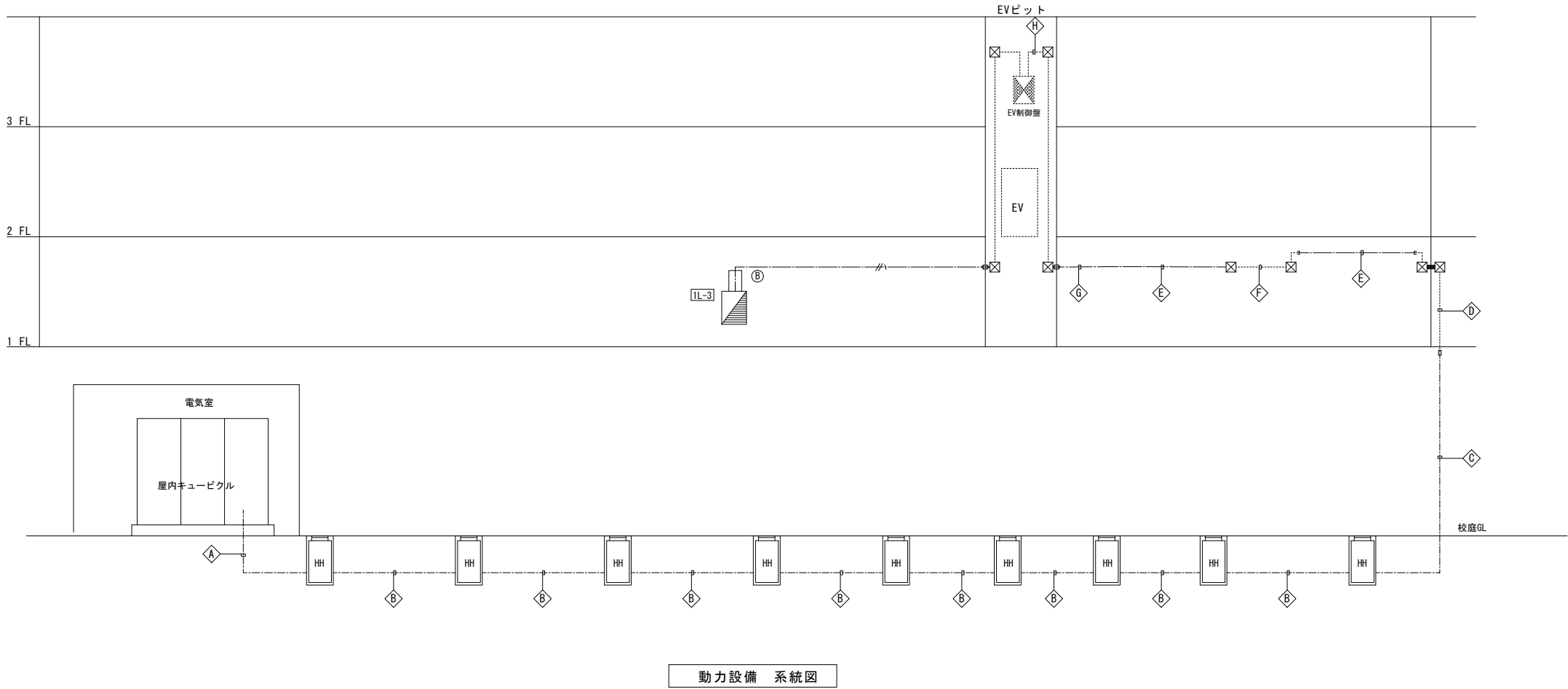
変更年月日  
令和 年 月 日  
特記事項

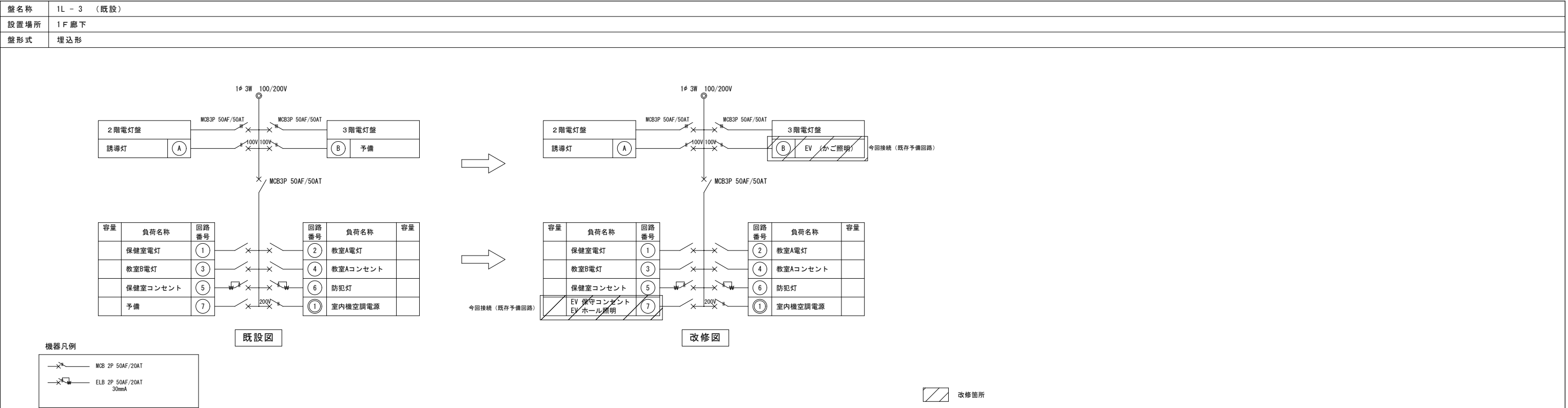
変更年月日  
令和 年 月 日  
特記事項

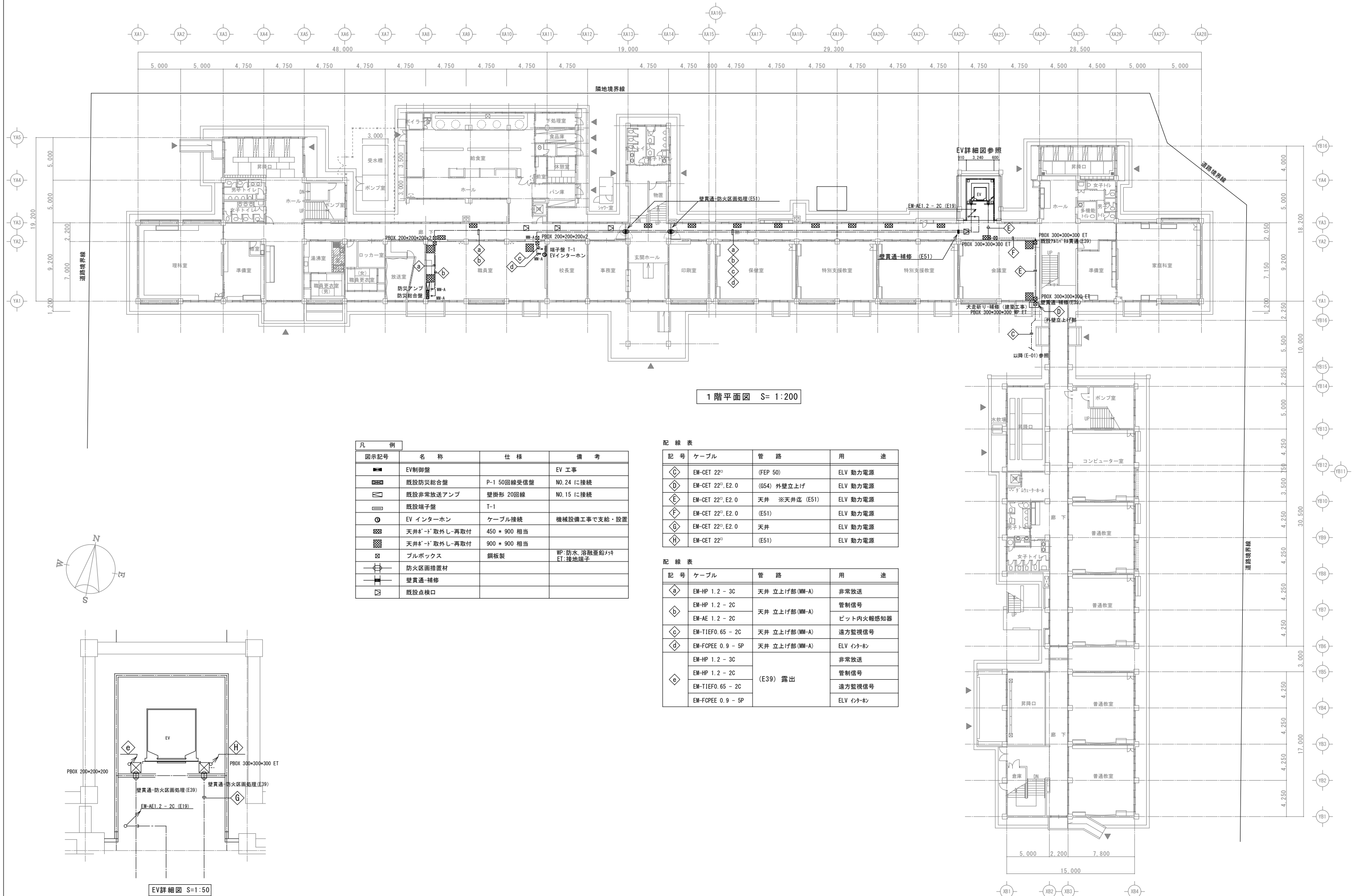
図面名  
案内図・配置図  
構内配電線路図

縮尺  
A 1 1:300  
A 3 1:600

図面番号  
E-01



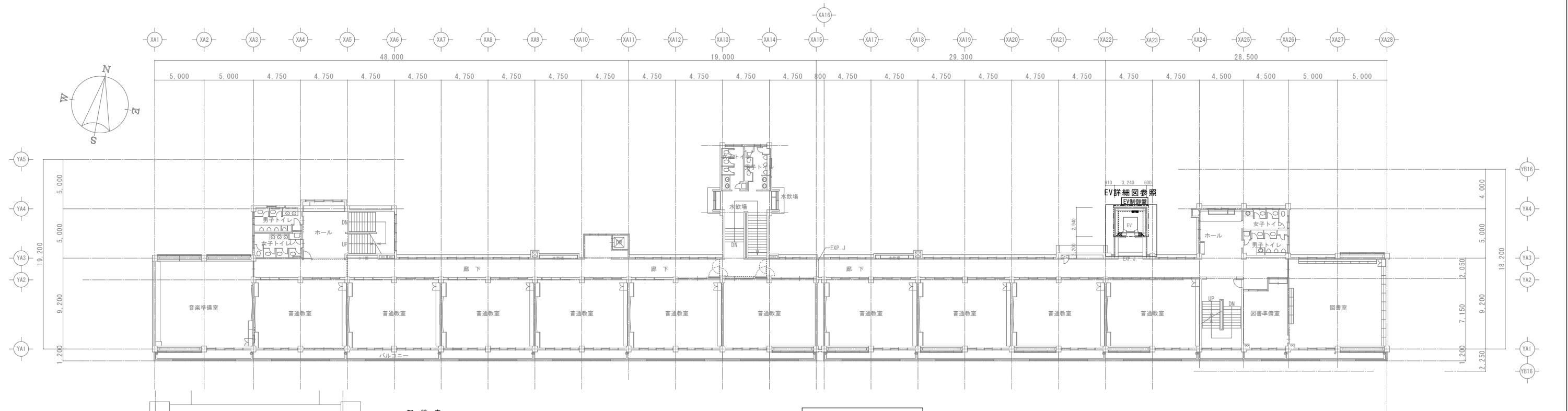




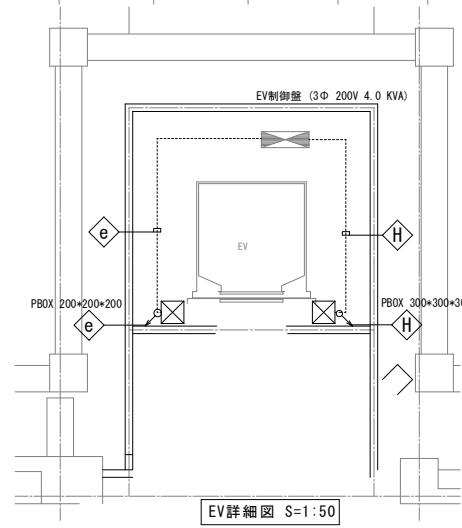
凡 例			
■	EV制御盤		EV 工事
■	既設防災総合盤	P-1 50回線受信盤	NO. 24 に接続
■	既設非常放送アンプ	壁掛形 20回線	NO. 15 に接続
■	既設端子盤	T-1	
○	EV インターホン	ケーブル接続	機械設備工事で支給・設置
■	天井が「D」取外し・再取付	450 * 900 相当	
■	天井が「E」取外し・再取付	900 * 900 相当	
■	ブルボックス	鋼板製	WP:防水・消融垂鉛ノック ET:接地端子
■	防火区画措置材		
■	壁貫通-補修		
■	既設点検口		

配 線 表			
記 号	ケーブル	管 路	用 途
◇C	EM-CET 22 <sup>2</sup>	(FEP 50)	ELV 動力電源
◇D	EM-CET 22 <sup>2</sup> , E2. 0	(G54) 外壁立上げ	ELV 動力電源
◇E	EM-CET 22 <sup>2</sup> , E2. 0	天井 ※天井迄 (E51)	ELV 動力電源
◇F	EM-CET 22 <sup>2</sup> , E2. 0	(E51)	ELV 動力電源
◇G	EM-CET 22 <sup>2</sup> , E2. 0	天井	ELV 動力電源
◇H	EM-CET 22 <sup>2</sup>	(E51)	ELV 動力電源

配 線 表			
記 号	ケーブル	管 路	用 途
◇a	EM-HP 1.2 - 3C	天井 立上げ部 (MM-A)	非常放送
◇b	EM-HP 1.2 - 2C	天井 立上げ部 (MM-A)	管制信号
◇c	EM-TIEF0. 65 - 2C	天井 立上げ部 (MM-A)	遠方監視信号
◇d	EM-FCPEE 0.9 - 5P	天井 立上げ部 (MM-A)	ELV インター
◇e	EM-HP 1.2 - 3C	(E39) 露出	非常放送
	EM-HP 1.2 - 2C		管制信号
	EM-TIEF0. 65 - 2C		遠方監視信号
	EM-FCPEE 0.9 - 5P		ELV インター



3階平面図 S= 1:200

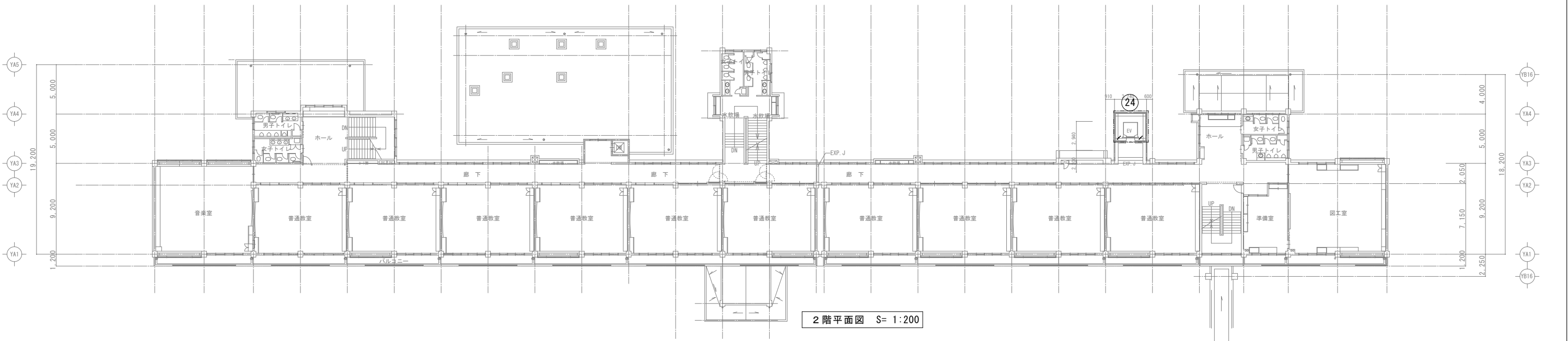


配線表

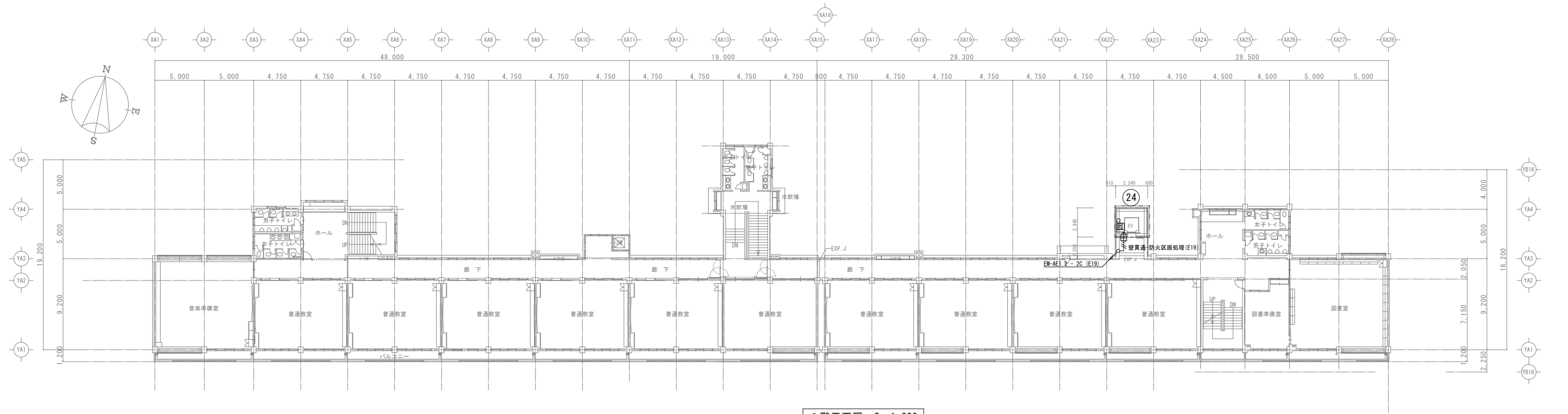
記号	ケーブル	管路	用途
◇H	EM-OET 22 <sup>2</sup>	(E51) 露出	ELV 動力電源

配線表

記号	ケーブル	管路	用途
◇e	EM-HP 1.2 - 3C	(E39) 露出	非常放送
	EM-HP 1.2 - 2C		管制信号
	EM-TIEF0.65 - 2C		遠方監視信号
	EM-FCPEE 0.9 - 5P		ELV インター

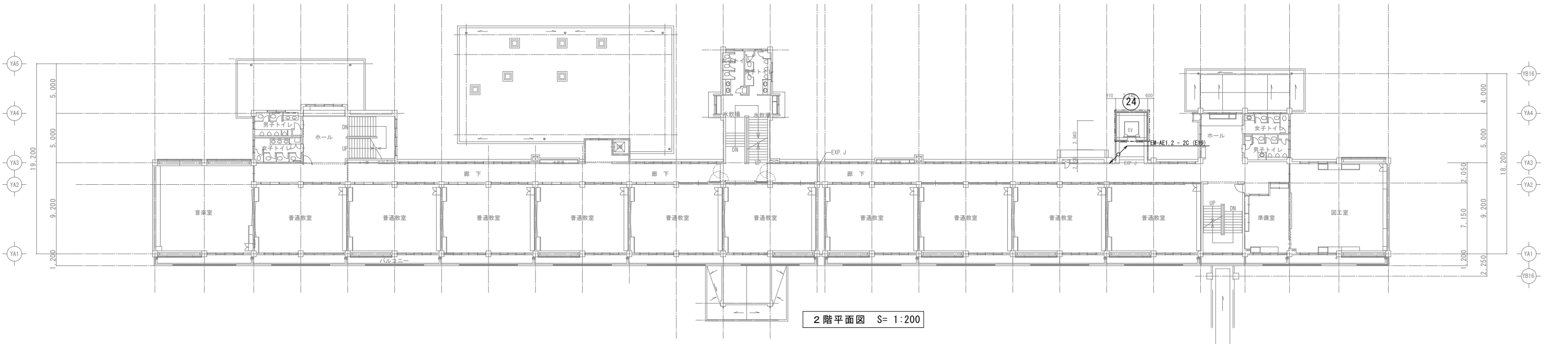


2階平面図 S= 1:200



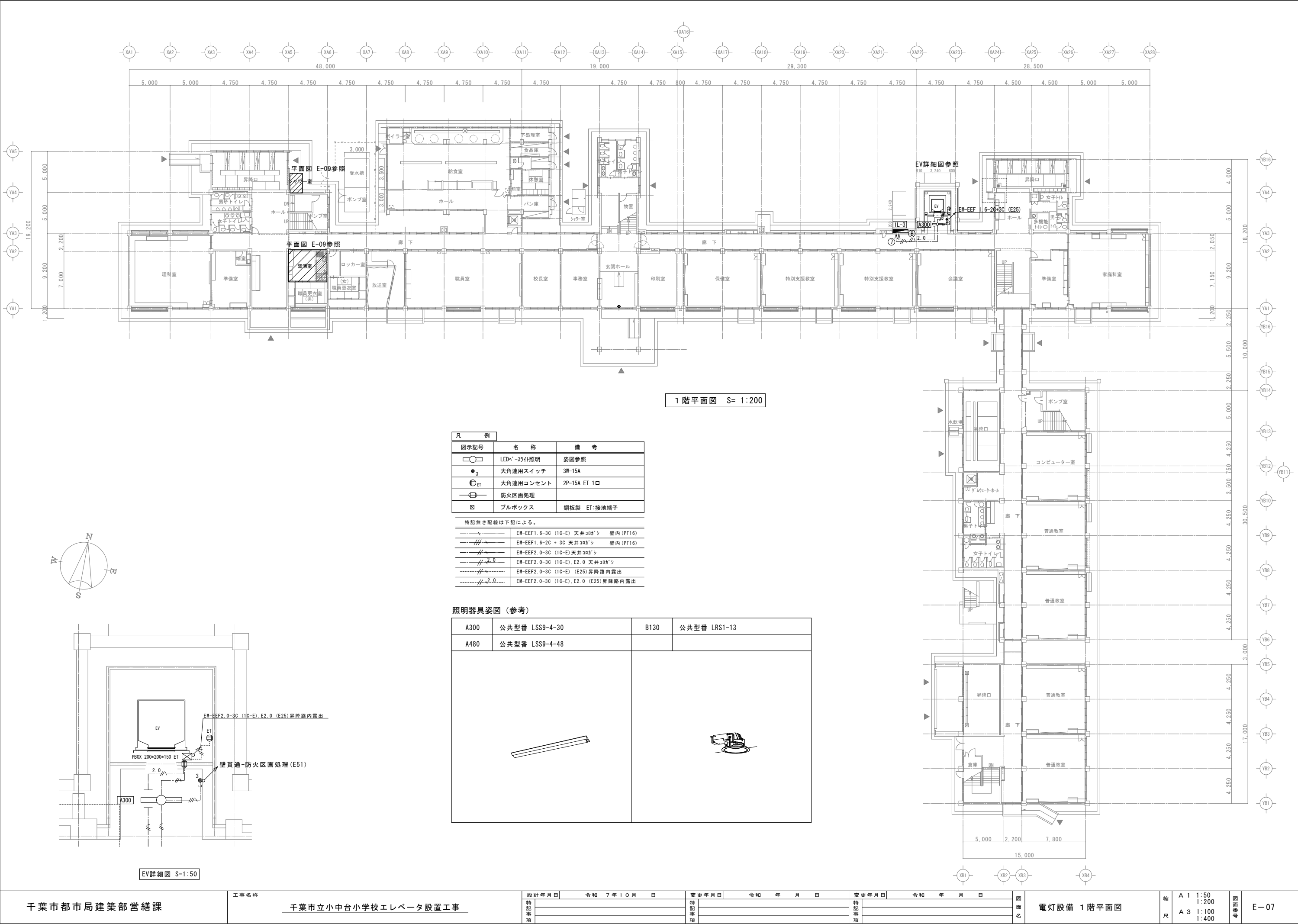
3階平面図 S= 1:200

凡 例			
図示記号	名 称	仕 様	備 考
	煙感知器	光電式 2種 点検口付	
	警戒区域番号		



2階平面図 S= 1:200



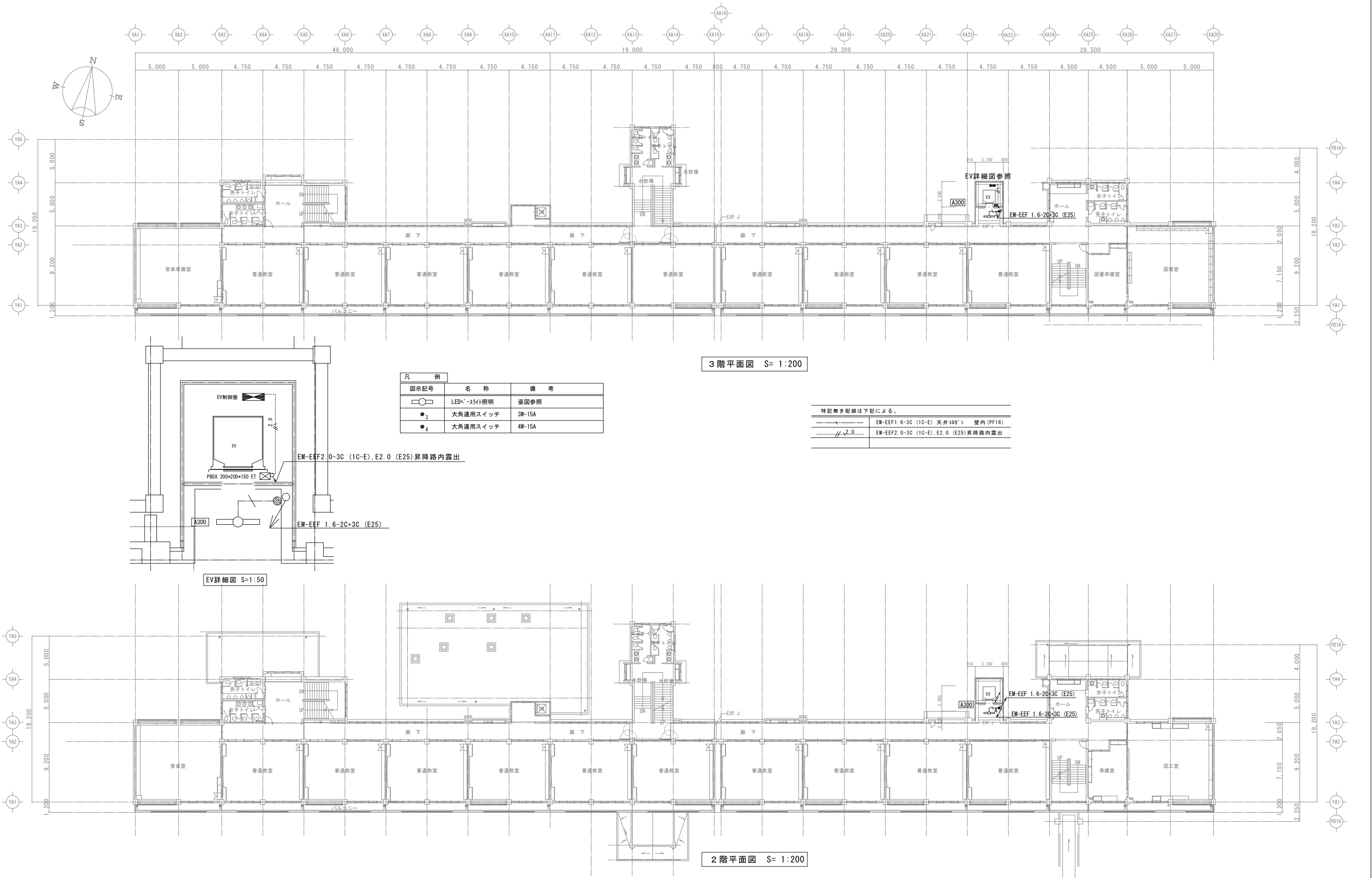


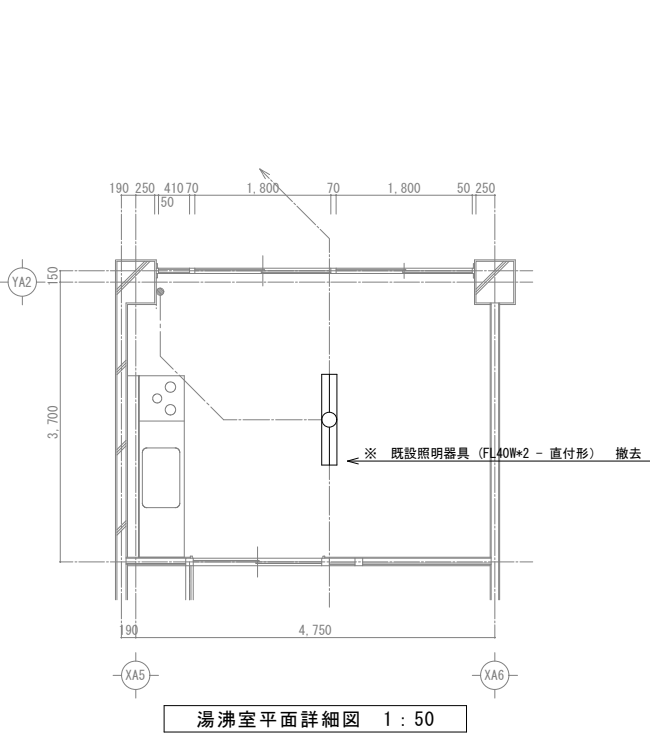
千葉市都市局建築部営繕課

工事名称  
千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

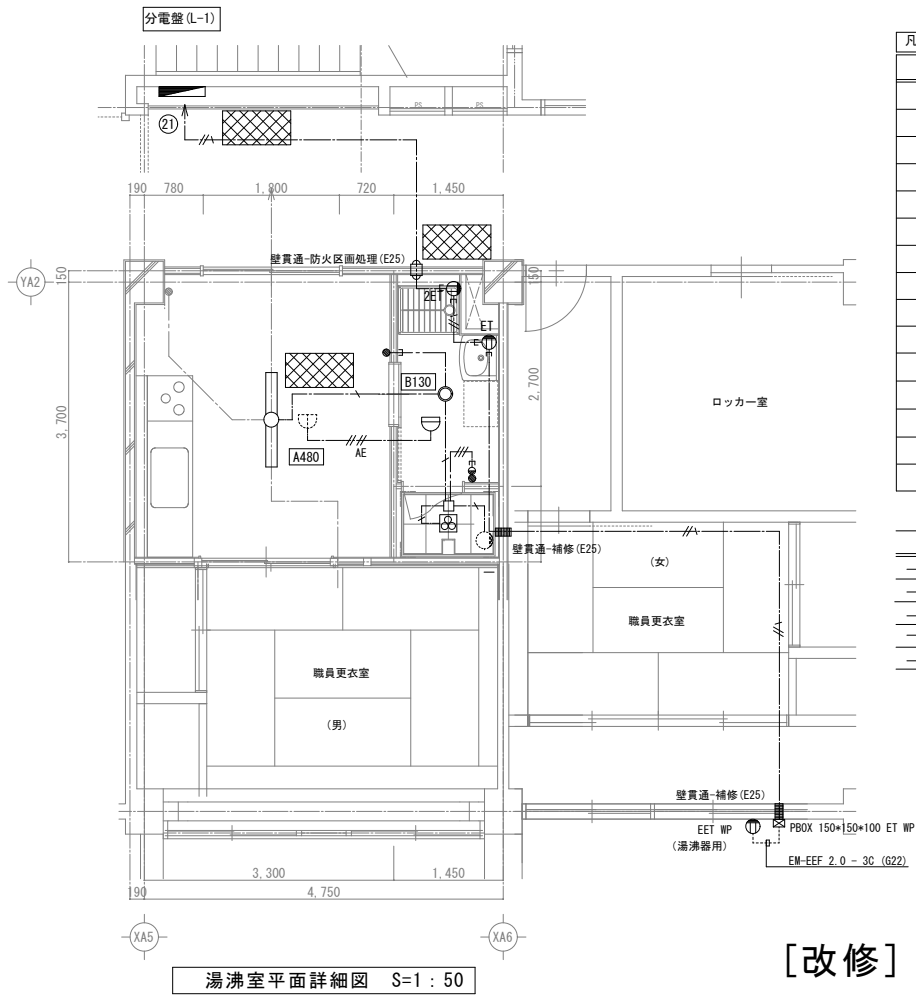
設計年月日	令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名	電灯設備 1階平面図	縮尺	A 1 1:50 A 3 1:200 1:400	図面番号	E-07
-----	------------	----	--------------------------------	------	------





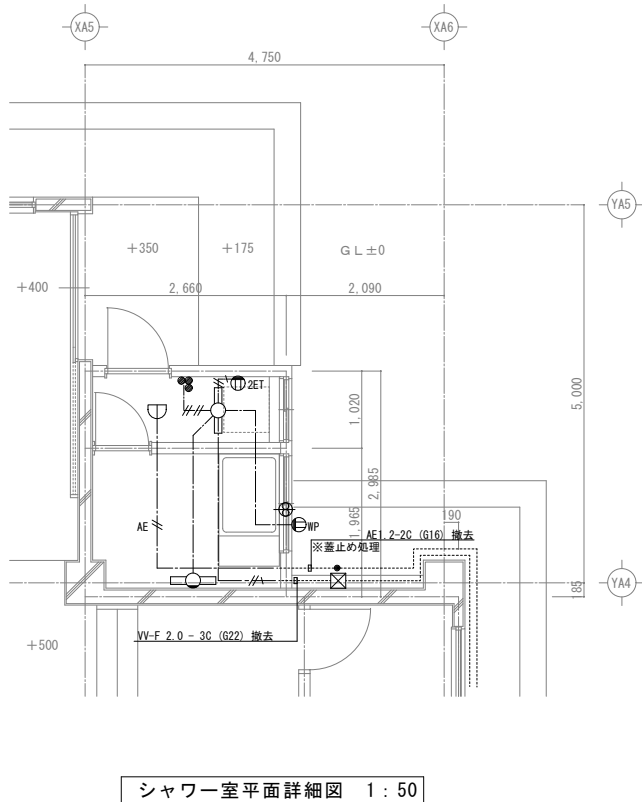
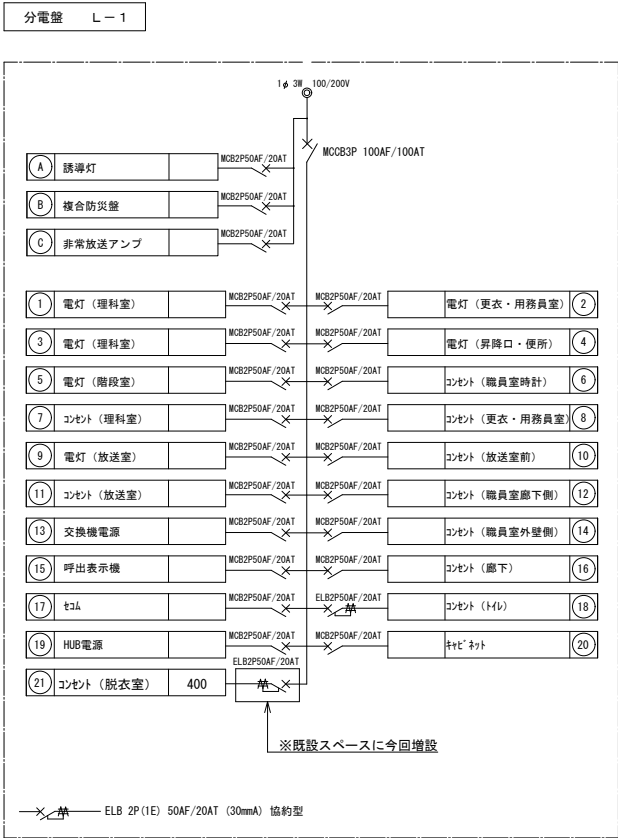
[撤去]



[改修]

凡 例		
図示記号	名 称	備 考
	LED*ストライク照明	照明器具姿図参照
	LED*クラウド照明	照明器具姿図参照
	別途照明器具	(機械設備工事)
	大角連用スイッチ	1P-15A
	大角連用スイッチ	1P-4A PL付
	大角連用コンセント	2P-15A ET 1口
	大角連用コンセント	2P-15A ET 2口
	大角連用コンセント	2P-15A EET 2口 防水
	アウトレットボックス	
	天井換気扇	(機械設備工事)
	定温感知器 (既設再利用)	1 種 (撤去・再取付)
	差動スポット感知器	2 種
	壁貫通	
	PBOX	WP:防水型 溶融垂鉛メッキ仕上げ
	天井* -ド 取外し-再取付	450*900 相当

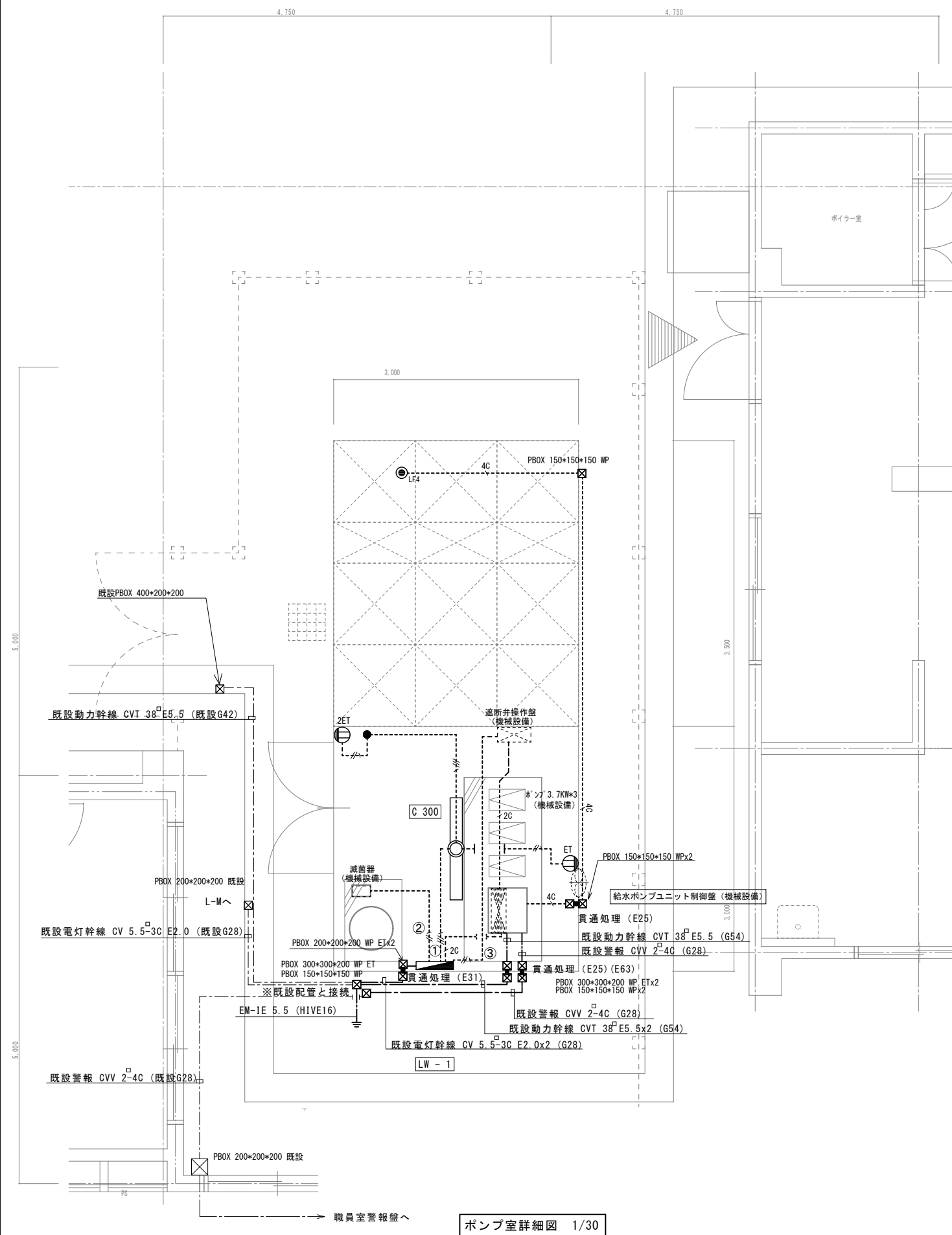
特記無き配線は下記による。		
	EM-EEF1.6-20 天井30*3	壁内 (PF16)
	EM-EEF1.6-30 (1C-E) 天井30*3	
	EM-EEF1.6-30 天井30*3	壁内 (PF16)
	EM-EEF2.0-30 (1C-E) 天井30*3	壁内 (PF22)
	EM-AE 1.2 - 40 天井30*3	



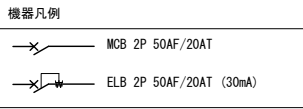
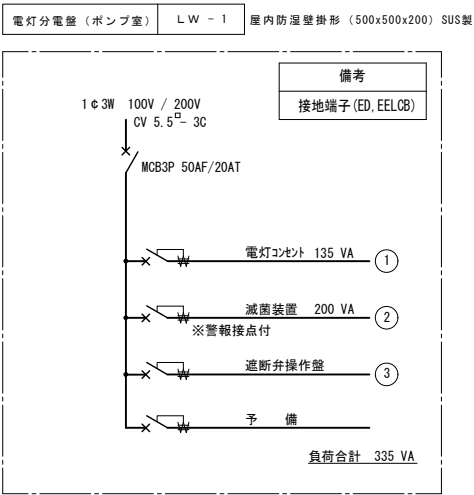
[撤去]

撤去 凡 例		
図示記号	名 称	備 考
	FL 201 直付形	
	FL 201 壁付形	
	大角連用スイッチ	1P-15A * 3
	大角連用コンセント	2P-15A ET 2口
	防雨コンセント	2P-15A ET 1口
	換気扇	機械設備工事
	定温感知器	1 種

特記無き撤去配線は下記による。		
	VV-F1.6-20 天井30*3	
	VV-F1.6-20 * 2 天井30*3	
	VV-F2.0-30 (1C-E) 天井30*3	
	AE 1.2 - 40 天井30*3	



ポンプ室詳細図 1/30

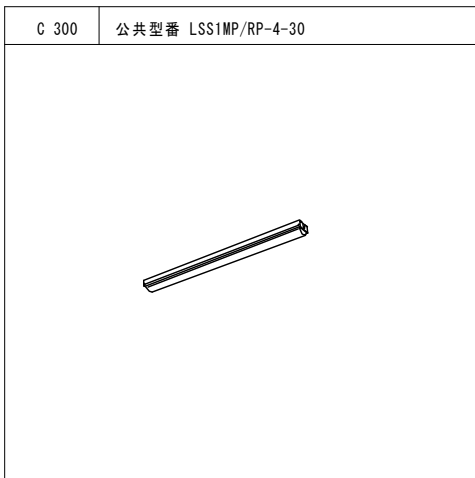


改 修 凡 例		
図示記号	名 称	備 考
	分電盤	結線図参照
	照明器具	姿図参照
	タンブラスイッチ 金属製露出ボックス	1P - 15A
	壁付きコンセント 金属製露出ボックス	2P -15A 接地端子付
	壁付きコンセント 金属製露出ボックス	2P -15Ax2 接地極付
	換気扇	機械設備
	ブルボックス 銅板製	WP: 防水 溶融重鉛メッキ ET: 接地端子
	電極 4P	
	接地極	埋設標共 (黄銅製)

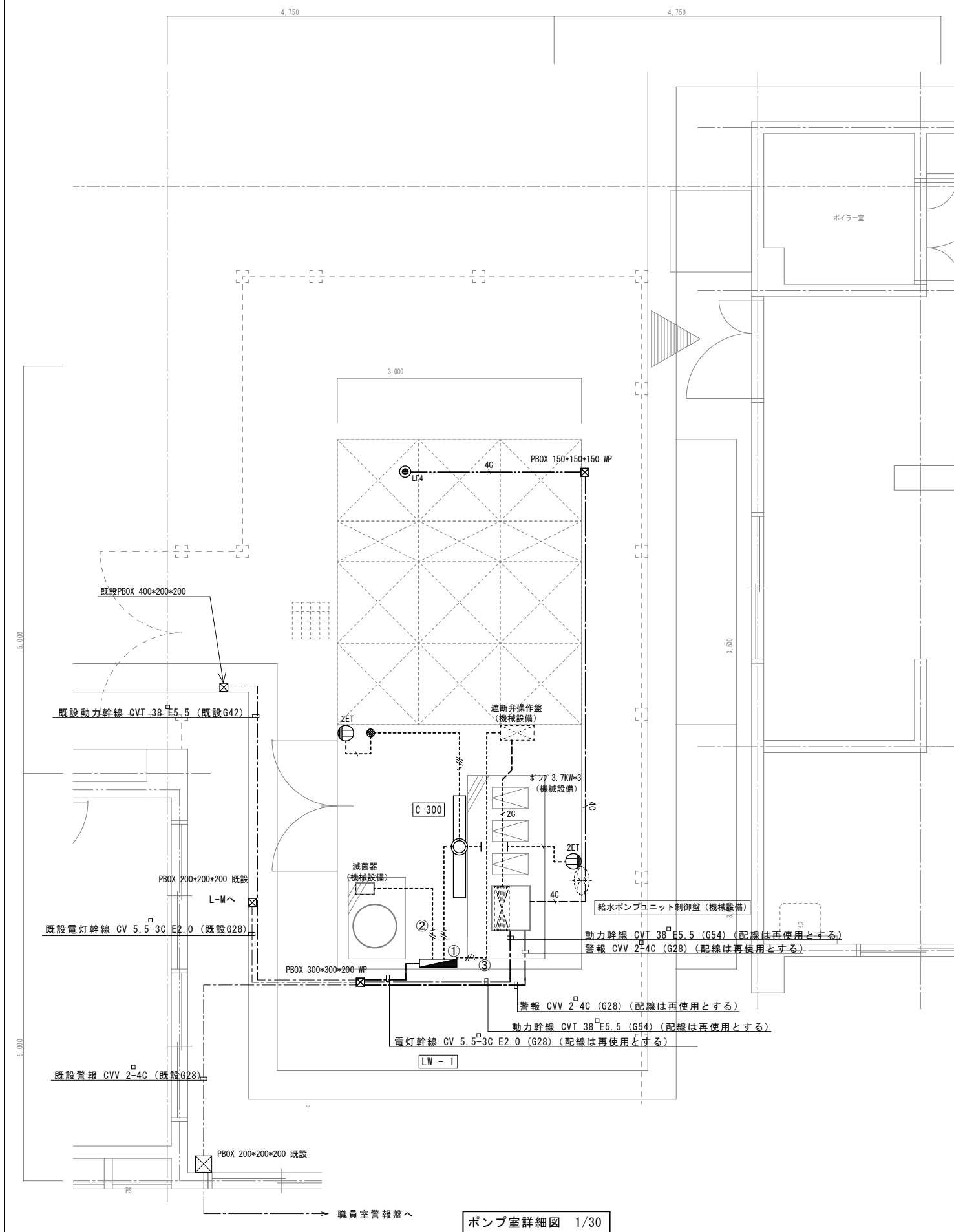
配 線 凡 例	
	EM-EFF 1.6 - 2C (G22)
	EM-EFF 2.0 - 3C
	EM-EFF 2.0 - 3C (G22)
	EM-CEE 2 <sup>D</sup> - 2C (G22)
	EM-CEE 2 <sup>D</sup> - 4C (G22)
	2C
	4C

・電灯幹線、動力幹線、職員室警報線は、給水工事時に更新する  
ものとし、減菌機の遮断信号も単独で出力できるようにすること。  
・太線は新設を示す。但し、下記の配線は既設再使用とする。

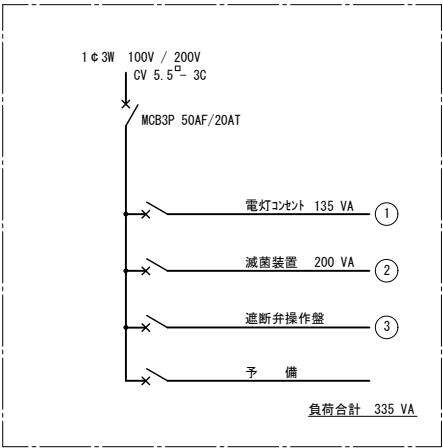
- ①CV 5.5<sup>D</sup>-3C E2.0 電灯幹線  
②CVT 38<sup>D</sup>E5.5 動力幹線  
③CVV 2-4C 職員室警報線



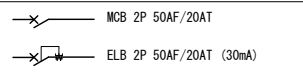
撤去図



電灯分電盤 (ポンプ室)    LW - 1    屋内防湿壁掛形 (500x500x200)



機器凡例



改修凡例

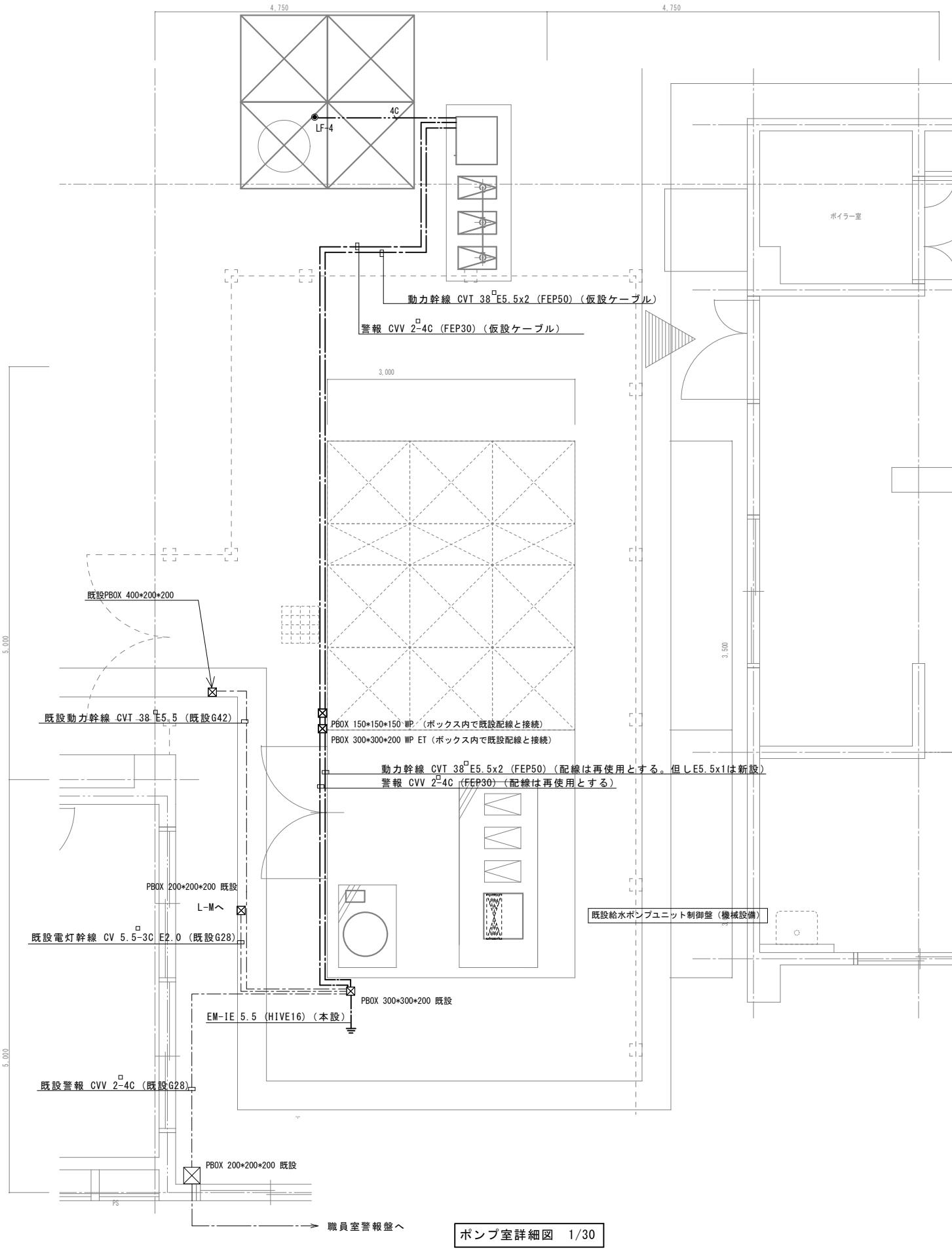
図示記号	名 称	備 考
	分電盤	結線図参照
	照明器具	蛍光灯 (FL40Wx1) 露出型
	タンブラスイッチ 金属製露出ボックス	1P - 15A
	壁付きコンセント 金属製露出ボックス	2P -15A 接地極付
	壁付きコンセント 金属製露出ボックス	2P -15Ax2 接地極付
	換気扇	機械設備
	ブルボックス 鋼板製	WP: 防水 溶融垂鉛メッキ
	電極 4 P	

配線 凡例

	1V 1.6 x 3 (G22)
	1V 1.6 x 3 x 2 (G22)
	1V 2.0 x 3 (G22)
	CVV2 - 2C (G22)
	CVV2 - 4C (G22)
	CVV2 - 4C (G22)

太線は撤去を示す。

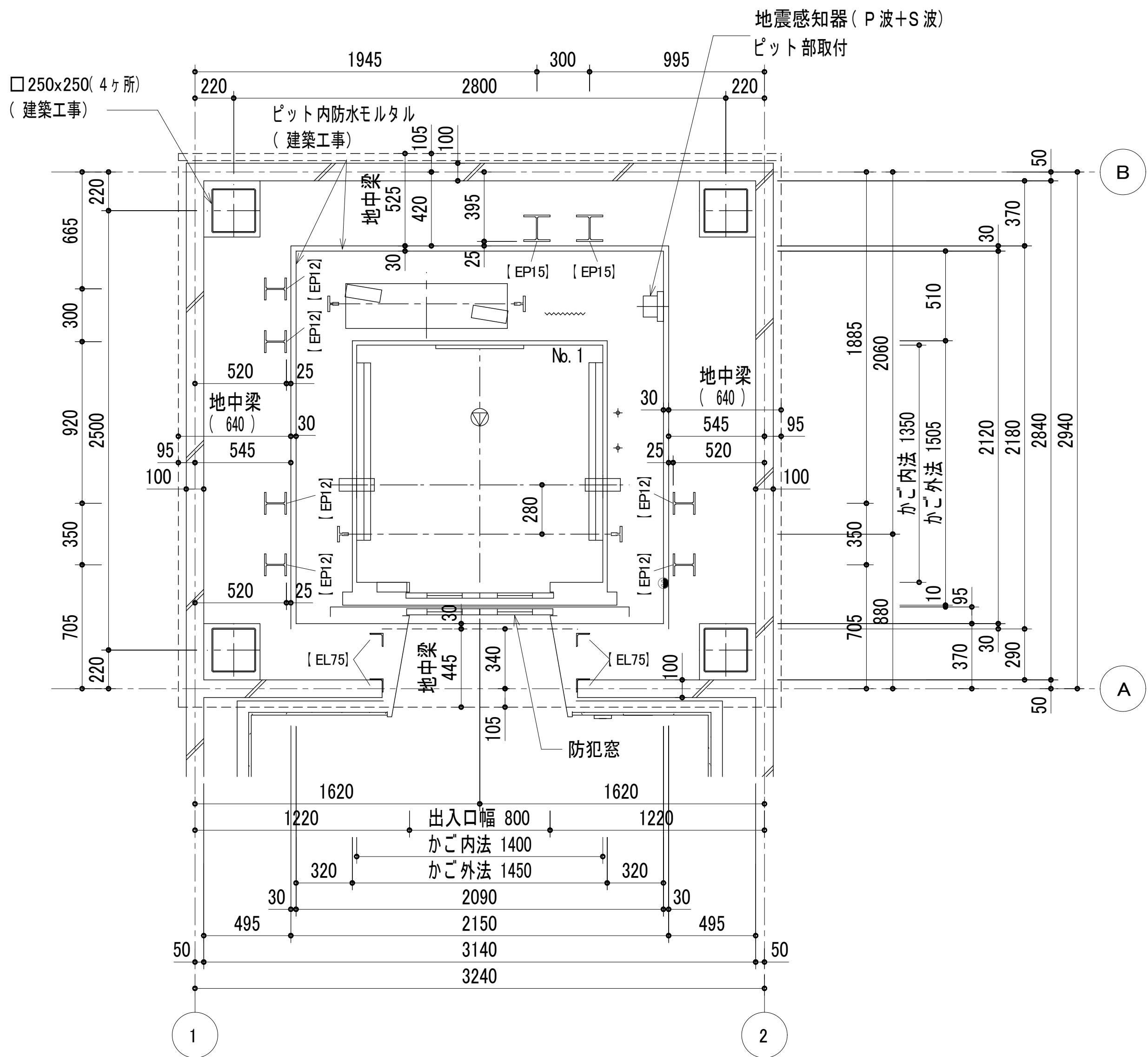
仮設図



改 修 凡 例		
図 示 記 号	名 称	備 考
☒	プルボックス 銅板製	WP：防水 溶融亜鉛メッキ
● LF4	電極 4 P	

配 線 凡 例	
4C	CVV2 <sup>□</sup> - 4C (G22)





昇降路平面図( 1 F L )

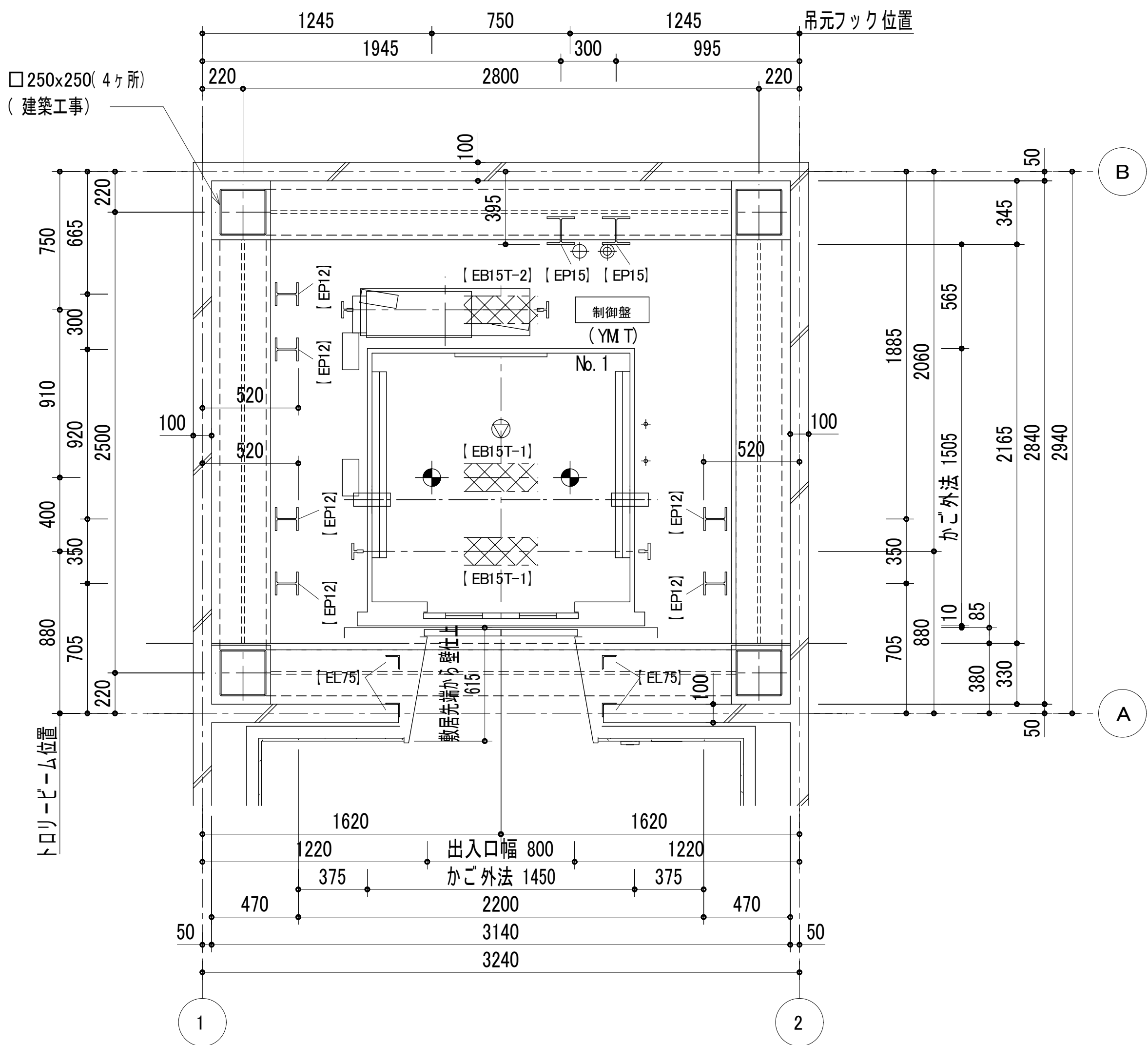
1 : 20

	ピット点検用コンセント	( 電気工事 )
	T . C 保護金網	( エレベーター工事 )

鉄骨部材記号表 ( 建築工事 )		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EH-ST9	吊元 ( 荷重9.8kN用 )	t12 ( φ75穴付 )
EB15T-2	トロリービーム ( 荷重9.8kN )	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム ( 荷重19.6kN )	H-150x150x7x10

レール反力リスト ( 地震時作用荷重 )		No. 1
	かご側	Px
	一般階	Py
	かご側	Px
	最上階	Py
	おもり側	Px
	一般階	Py
	おもり側	Px
	最上階	Py

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定すること。



※機器等は最上階を示す

昇降路平面図( 2 ～3 F L )

1 : 20

耐火被覆厚: 25mm

	吊元フック ・荷重: 9.8kN	( 建築工事 )
	電源引込み ( 受電盤への接続 ) ・動力・照明・接地線 最上停止階F L - 1350mm 引出長さ 3m	( 電気工事 )
	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階F L - 650mm 引出長さ 3m	( 電気工事 )
	非常放送スピーカー ( 消防認定品 )	( エレベーター工事 )



煙感知器詳細

施設装置付点検扉

1. 5mm以上の鋼板製（電気工事）

リミットスイッチ付（エレベーター工事）

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。

屋外の場合は、防水形点検扉とする。

点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品とすること。

- ・ホーチキ（KUS-1C W）
- ・能美防災（FXS J001A-HJ）
- ・ニッタン（ND-T-G）
- ・パナソニック（BV95351+BV95381H）

製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合がある。

吊元フック詳細【建築工事】

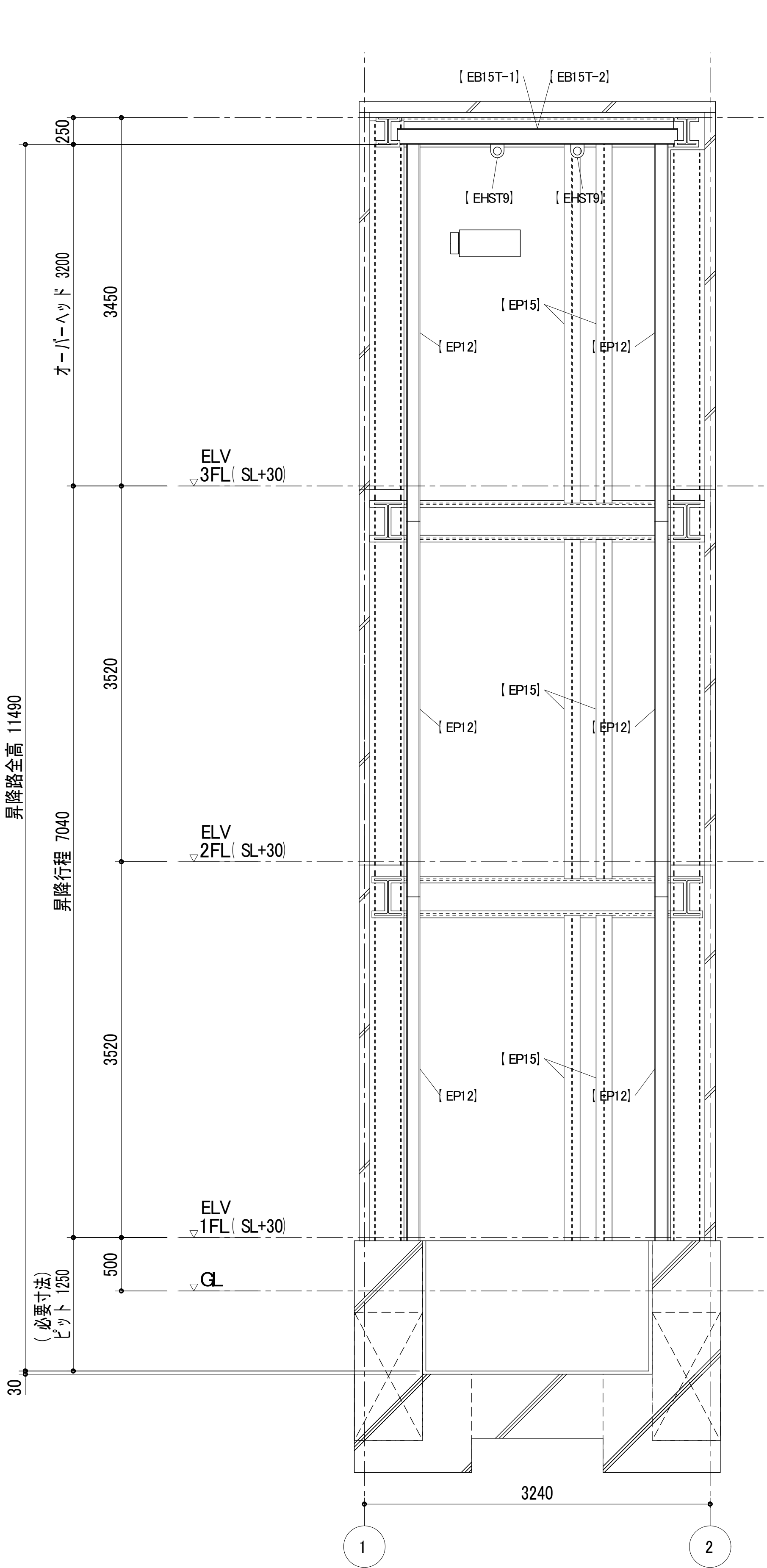
吊元フック荷重：9.8kN（EHST9）

※全周すみ肉溶接脚長8mm

地震動感知後、概ね10秒以内（加速時間含む）に停止できる最大距離	
定格速度（m/min）	出入口間隔（m）
45	6.0

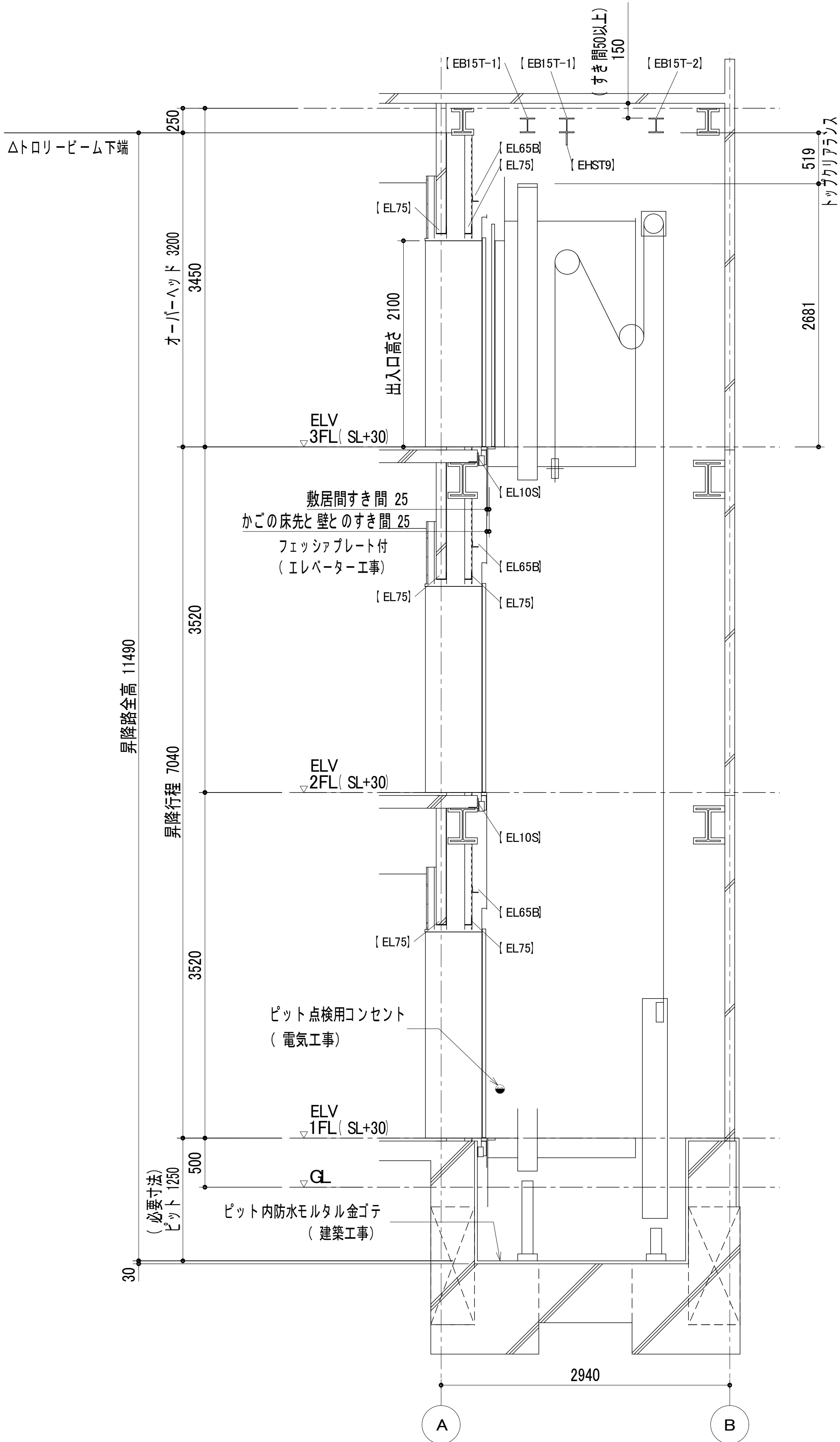
No. 1		
ピット反力		73.00 kN
ピット衝撃荷重	かご側	61.20 kN
	C/W側	48.10 kN

鉄骨部材記号表（建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB15T-2	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10



昇降路縦断面図（間口）

1：30



※点検用タラップはピットに保管  
昇降路縦断面図

1：30

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称

千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事

設計年月日  
特記事項

令和 7 年 1 0 月 日

変更年月日  
特記事項

変更年月日  
特記事項

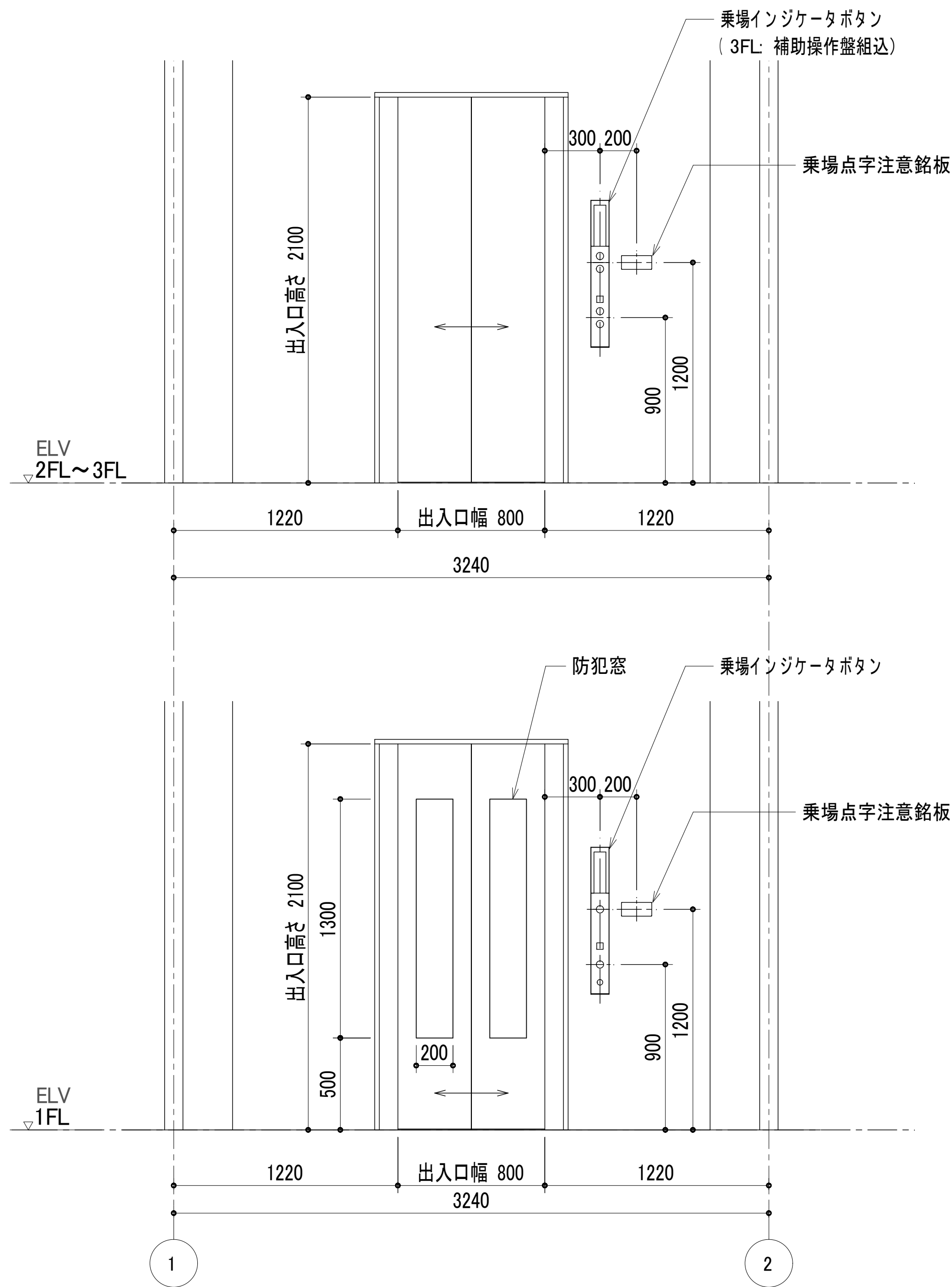
図面名

昇降機設備図（3）参考図

縮尺  
A 1 1:20  
A 3 1:40

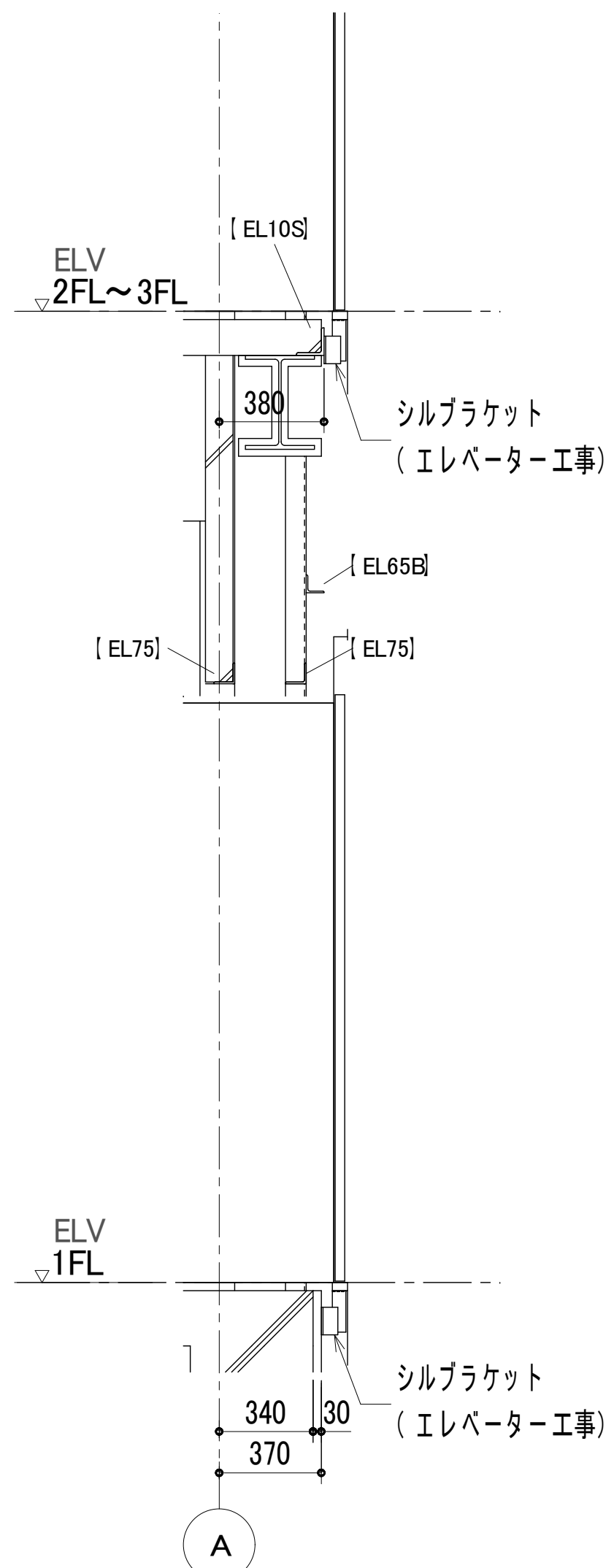
図番

EV-03



出入口正面図

1 : 20

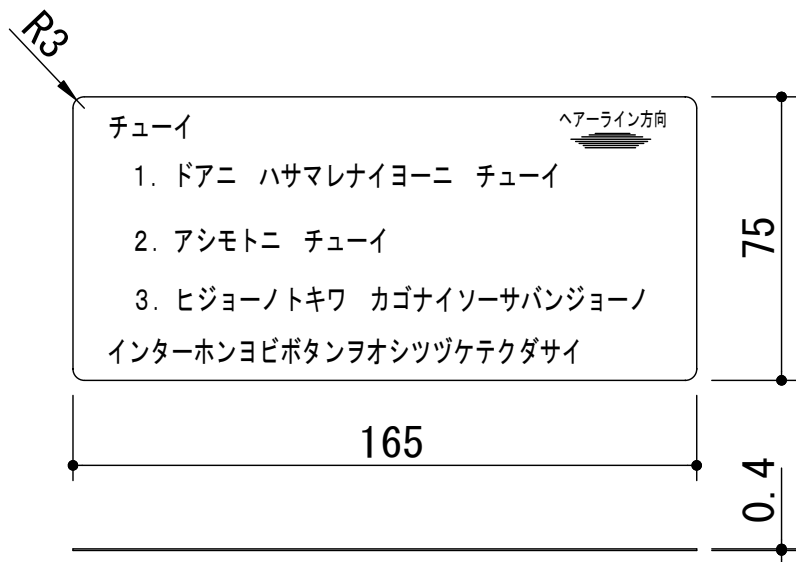
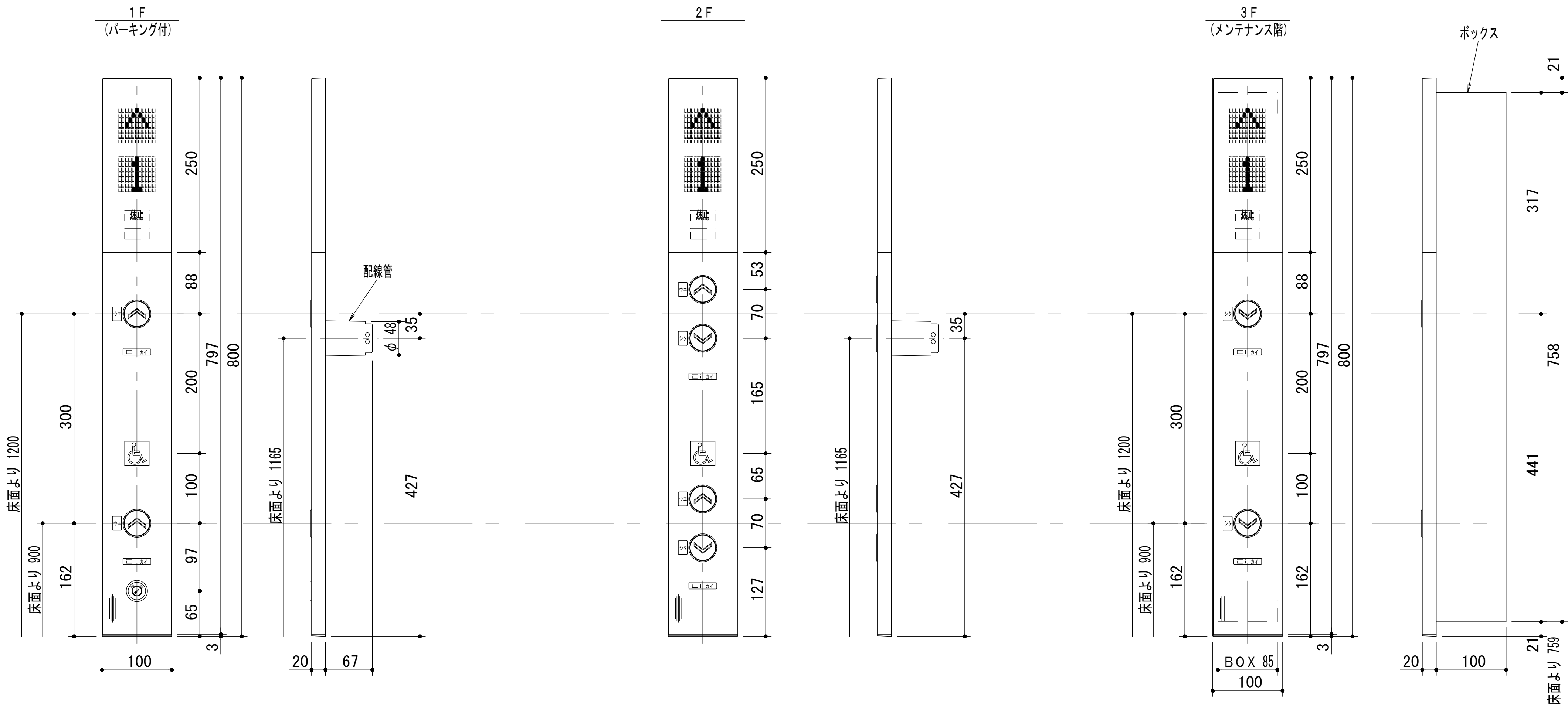


断面図

1 : 20

鉄骨部材記号表 ( 建築工事 )		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6. 5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元 ( 荷重9. 8kN用 )	t12 ( φ75穴付 )
EB15T-2	トロリービーム ( 荷重9. 8kN )	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム ( 荷重19. 6kN )	H-150x150x7x10

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 千葉市立小中台小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7 年 1 0 月 日	変更年月日	変更年月日	図面名 昇降機設備図 ( 4 ) 参考図	縮尺 A 1 1:20, 30 A 3 1:40, 60	図面番号 E V - O 4
		特記事項	特記事項	特記事項			



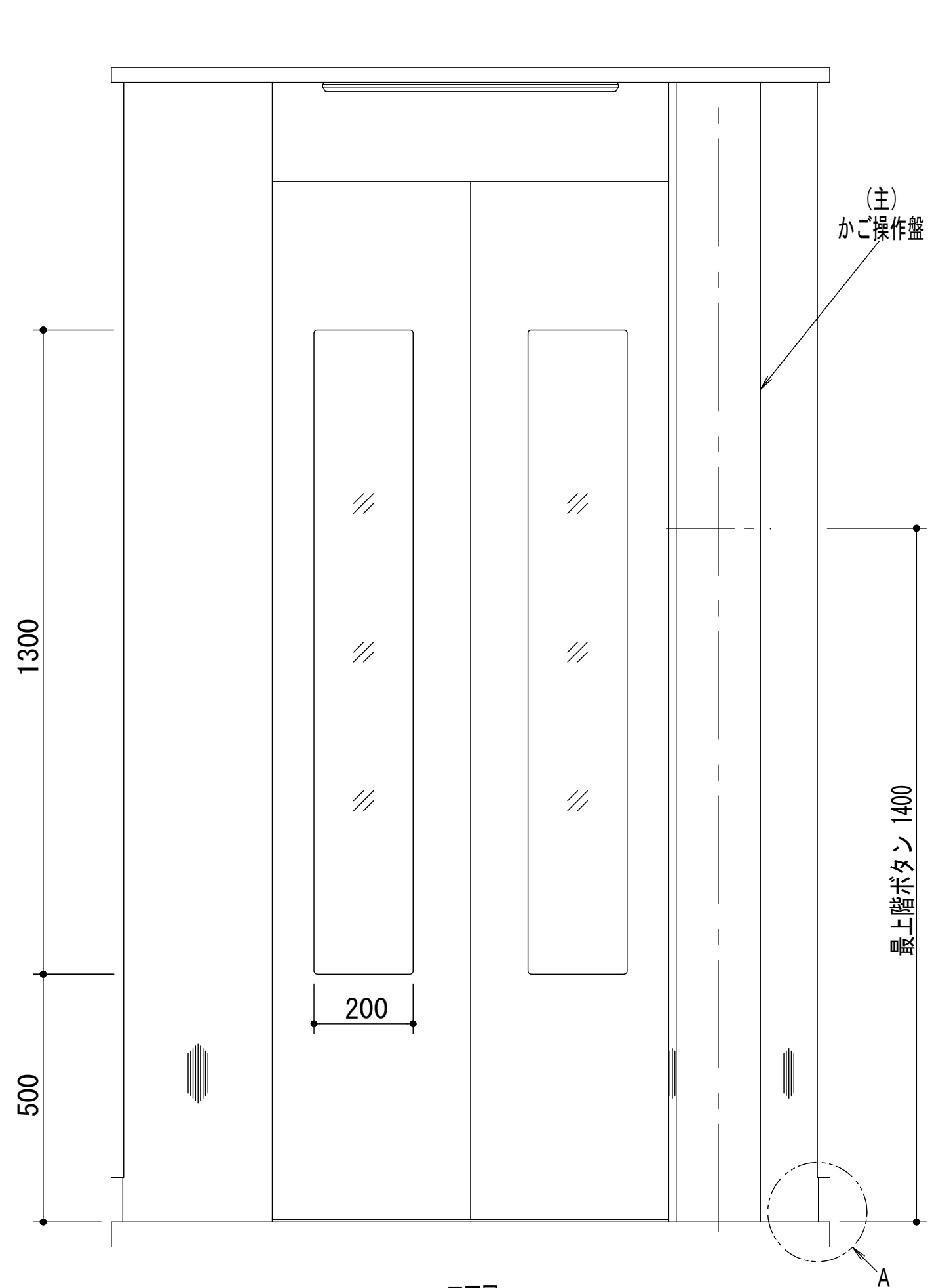
乗場点字注意銘板  
(1/2) [1/4]  
※上図のカタカナ表記は、点字文字を示す。

乗場点字注意銘板	
点字プレート	ステンレス製ヘアライン仕上 (t 0.4)
設置方法	両面接着テープ方式
1. 実際の版下文字とは、図形文字の若干異なる。 2. 文字詳細は、文字書体集での確認による。	

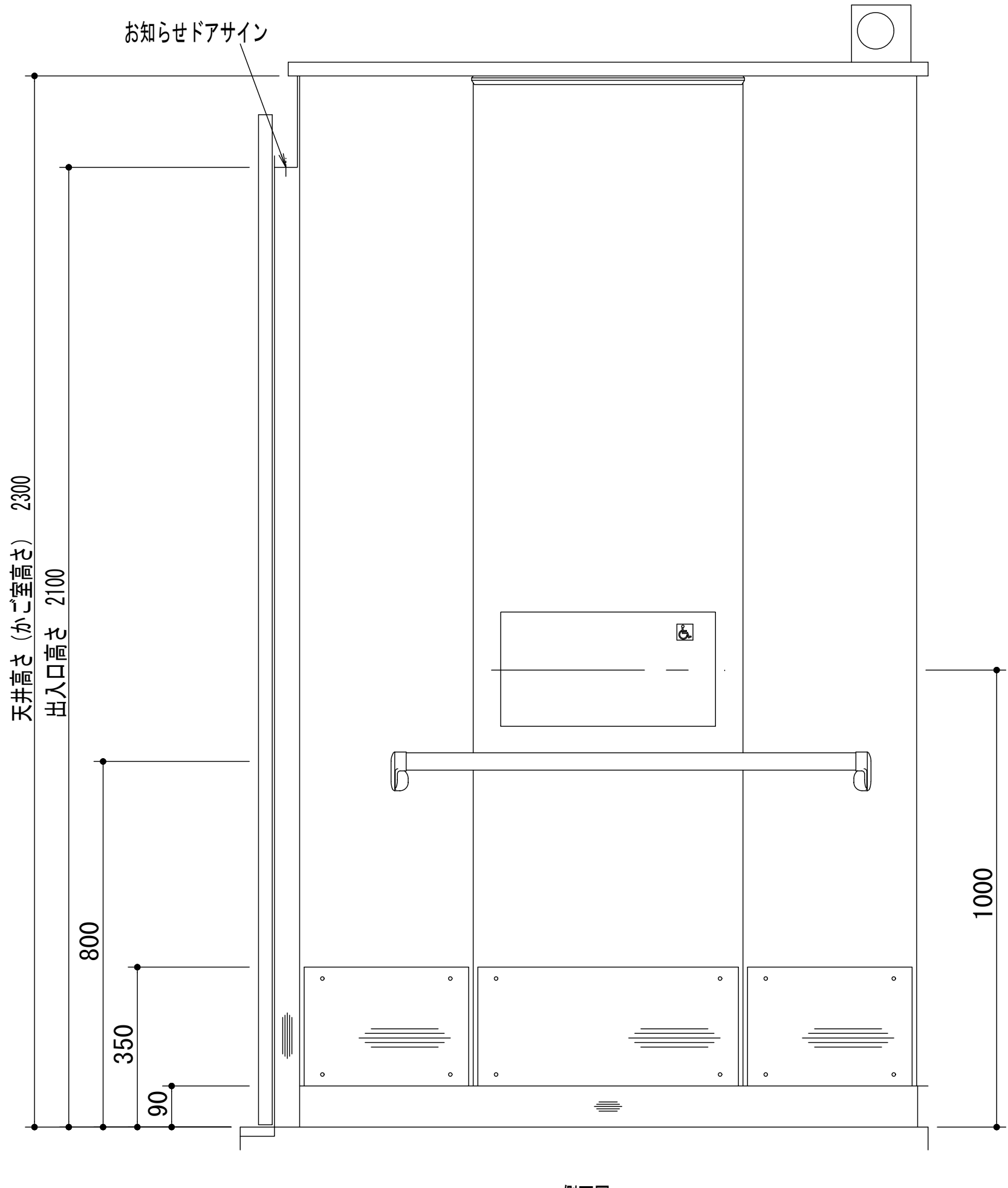
階床名	1 F
プレート	ステンレス製ヘアライン仕上 (長手方向ヘアライン)
下プレート	樹脂製 (黒色)
表示部	樹脂製 (スモーク)
方向灯	点灯時 [アンバー色], [LED、ドット式]
位置灯	点灯時 [アンバー色], [LEDデジタル、ドット式]
表示灯	点灯時 (赤色), [LED]
呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製 (黒色), 矢印 (乳白色), 枠 (白色) 応答時 [アンバー色、矢印点灯], [LED]
シンボルマーク	銘板貼付 地色 (青色), 絵文字 (銀色)
パーキング スイッチ	キースイッチ
点字銘板	ステンレス製

階床名	2 F
プレート	ステンレス製ヘアライン仕上 (長手方向ヘアライン)
下プレート	樹脂製 (黒色)
表示部	樹脂製 (スモーク)
方向灯	点灯時 [アンバー色], [LED、ドット式]
位置灯	点灯時 [アンバー色], [LEDデジタル、ドット式]
表示灯	点灯時 (赤色), [LED]
呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製 (黒色), 矢印 (乳白色), 枠 (白色) 応答時 [アンバー色、矢印点灯], [LED]
シンボルマーク	銘板貼付 地色 (青色), 絵文字 (銀色)
点字銘板	ステンレス製

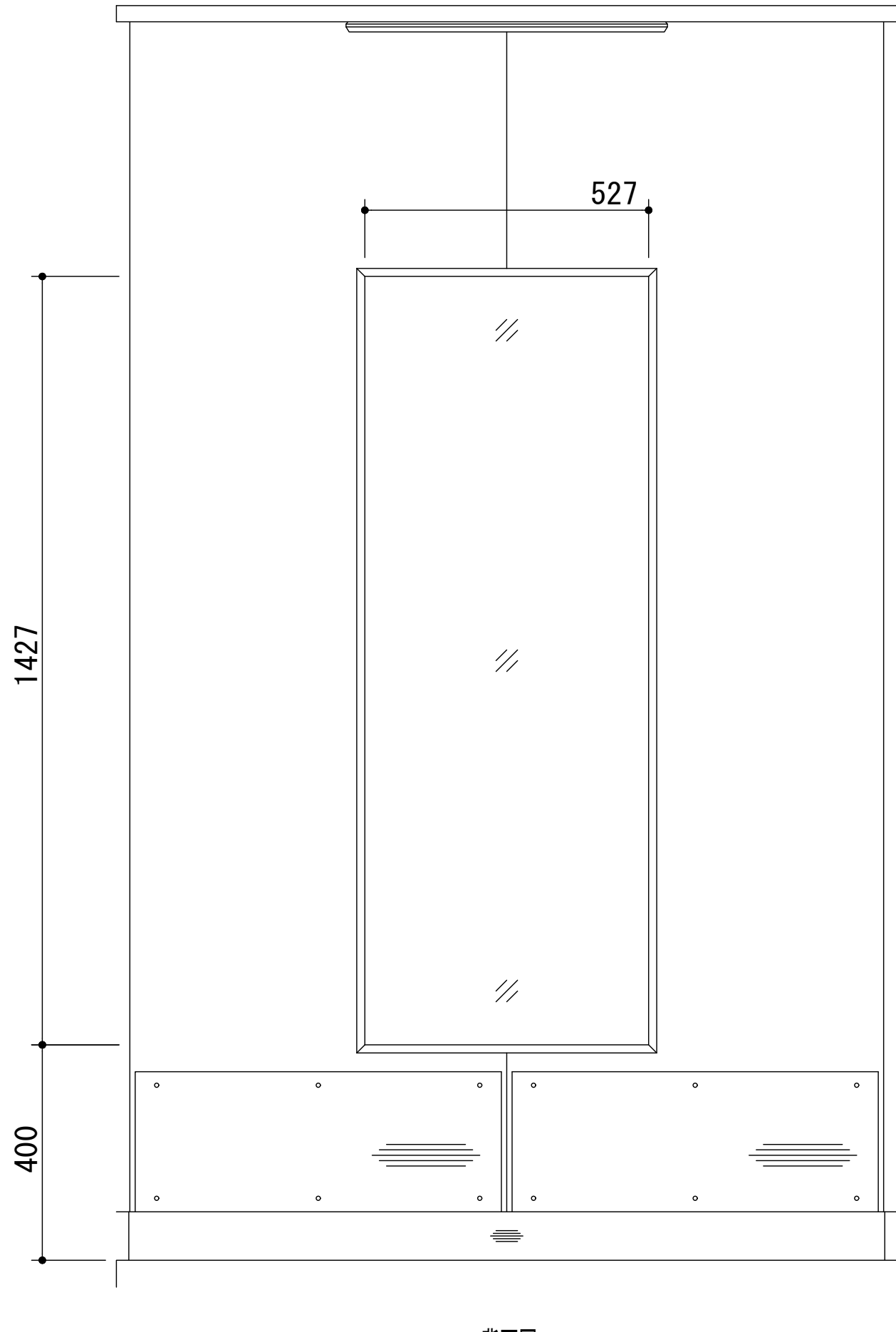
階床名	3 F
プレート	ステンレス製ヘアライン仕上 (長手方向ヘアライン)
下プレート	樹脂製 (黒色)
表示部	樹脂製 (スモーク)
方向灯	点灯時 [アンバー色], [LED、ドット式]
位置灯	点灯時 [アンバー色], [LEDデジタル、ドット式]
表示灯	点灯時 (赤色), [LED]
呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製 (黒色), 矢印 (乳白色), 枠 (白色) 応答時 [アンバー色、矢印点灯], [LED]
シンボルマーク	銘板貼付 地色 (青色), 絵文字 (銀色)
点字銘板	ステンレス製



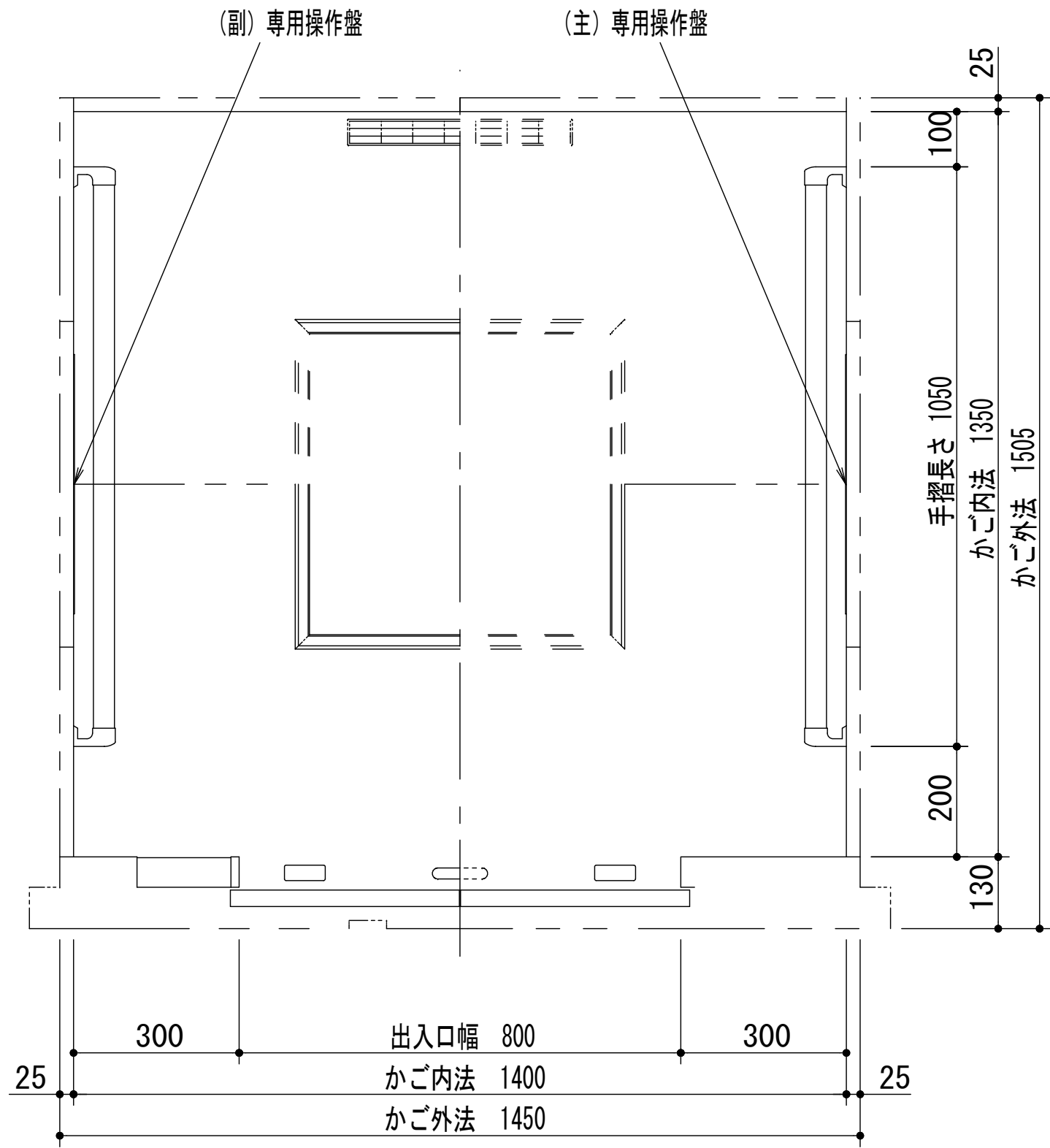
正面図



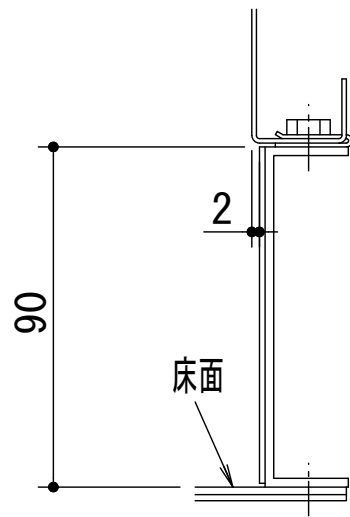
側面図



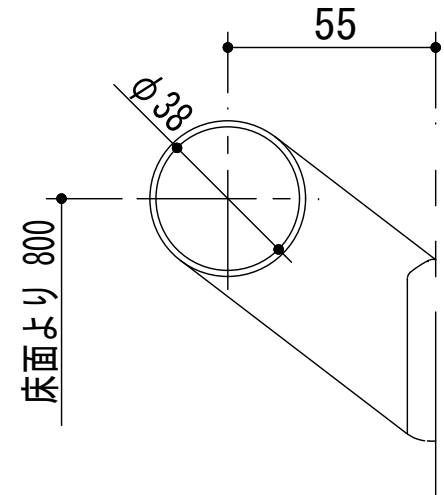
背面図



平面図



A部詳細  
(1/2) [1/4]



手摺詳細  
(1/2) [1/4]

天井	〔照明部〕 導光板LED昼光色照明 〔天井面〕 化粧鋼板
照明	LED
停電灯	LED (兼用)
出入口柱	ステンレス製ヘアライン仕上
リターンパネル	ステンレス製ヘアライン仕上
かが扉	化粧鋼板
防犯窓	網入ガラス (t6.8) (JIS R3204) とフロートガラス (t3.0) (JIS R3202) を合わせたもの・大窓 [ドア面と面ー]
側板	化粧鋼板
幕板	化粧鋼板
幅木	ステンレス製ヘアライン仕上
床	非塩ビ系タイル (t2)
敷居	硬質アルミ製
換気方式	横流ファン
鏡	ステンレス
手摺	ステンレス製 端部: 垂鉛ダイカストニッケルメッキサンドブラスト仕上
荷摺	ステンレス製ヘアライン仕上 (t1.5)
お知らせドアサイン	樹脂製 (乳白色), 点灯時 (赤色点滅)
備考	お知らせドアセンサー付 お知らせドアビーム付 イオン発生器付 2D多光軸ドアセフティ付 音声案内装置付 機械式ドアセフティ (両側) 付 BGMスピーカー付

NO.1  
かが室意匠図  
P11-C0 [STD-11 (スタンダード)]

